# 袖ケ浦市次期総合計画策定に係る 基礎調査報告書

平成30年5月 袖ケ浦市

# 目 次

序章	調査概要	. 4
1.	調査の趣旨	. 4
2.	調査の内容	. 4
第1章	<b>重 本市を取り巻く時代の潮流</b>	. 5
1.	人口構成の変化	. 5
2.	社会・経済情勢の変化	. 7
3.	人の意識の変化	. 9
4.	自治体運営	10
第2章	⋸ まちづくりアンケート調査	11
1.	調査概要	. 11
2.	調査結果(概要)	. 11
第3章	重 市民意見聴取	23
1,	まちづくりワークショップ	23
2.	年代別市民座談会	49
3.	地域のまちづくり懇談会	62
第 4 章	ಠ 市外WEBアンケート調査	73
1.	調査概要	73
2.	調査結果(概要)	73
第5章	□ 人口動向分析	95
1.	人口動向分析	95
第6章	5 産業動向・社会指標分析1	105
1.	経済・産業構造・財政の特性の整理	105
2.	社会指標分析	124
第7章	閻 現行計画の評価・検証1	136
1.	調査概要	136
	調査結果のまとめ	
	賃 職員アンケート1	
1.	調査概要	177
2.	調査結果(概要)	177
笋a滓	ਗ これまでの調査で抑握できた事項 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	124

# 序章 調査概要

# 1. 調査の趣旨

平成32年度(2020年度)からの12年間を計画期間とする本市次期総合計画の策定に際し、 市民の意見や各種データ等に基づき本市の現状や課題等について調査を行い、計画策定にあたっての基礎資料とする。

# 2. 調査の内容

本調査では、次の第1章~第8章の項目を実施している。

#### ●時代の潮流

第1章 本市を取り巻く時代の潮流

●市民及び市外住民の意識・意見の把握

第2章 まちづくりアンケート調査

第3章 市民意見聴取(まちづくりワークショップ、年代別座談会、地域のまちづくり懇談会)

第4章 市外WEBアンケート調査

●データ分析

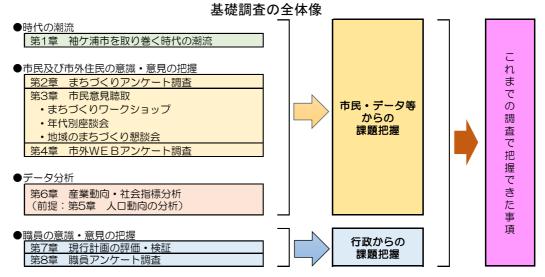
第5章 人口動向の分析と将来推計

第6章 産業動向・社会指標分析

●職員の意識・意見の把握

第7章 各課シート・ヒアリング調査

第8章 職員アンケート調査



#### ※ 報告書の活用について

- (1) 次期総合計画基本構想策定に向けて、時代の潮流や市民の意識・意見等の資料を基に、今後、人口の 見通しや土地利用の方針を加え、目指すべき将来像を検討する資料とする。
- (2) 次期総合計画基本計画及び実施計画策定に向けて、市民意見や現行施策の評価等を参考に、今後、財政状況の見通し、各施策における国・県の動向や個別計画等について庁内検討を図りながら、基本構想に掲げる目指すべき将来像の実現に向け、基本計画及び実施計画に掲げる事項を検討する資料とする。

# 第1章 本市を取り巻く時代の潮流

次期総合計画策定にあたっては、本市を取り巻く外部環境を踏まえ、適切な政策を講じることが求められる。

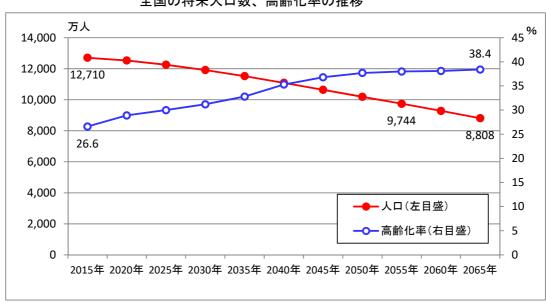
本項では、1.人口構成の変化、2.社会・経済情勢の変化、3.人の意識の変化、、4.自治体運営、の4つの観点から時代の潮流を整理し、これらが及ぼす影響と考えられる対応策をまとめている。

# 1. 人口構成の変化

我が国の人口は、少子化を背景に 2008 年をピークとして減少局面にある。2017 年 4 月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、全国人口は 2055 年に 1 億人を割り込み、2065 年には 8,808 万人まで減少する。また、未婚化、晩婚化などを背景とした少子化、及びそれに伴う人口構成上の高齢化も進展し、高齢化率は 2065 年には 38.4%に達すると推計されている。

人口の減少は、購買力(需要・消費)の低下、空き家・空き店舗の増加、地域コミュニティ の機能低下など、地域の活力を減退させる要因となる。少子化の進展は生産年齢人口の減少を 介して、労働供給力や担税力の低下という影響をもたらす。

また高齢化の進展により、医療・福祉・介護といった社会保障の負担増などの問題の深刻化が予想される。



全国の将来人口数、高齢化率の推移

(資料)「日本の将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

「潮流」「潮流がもたらす影響」「影響に対し考えられる対応策」の整理

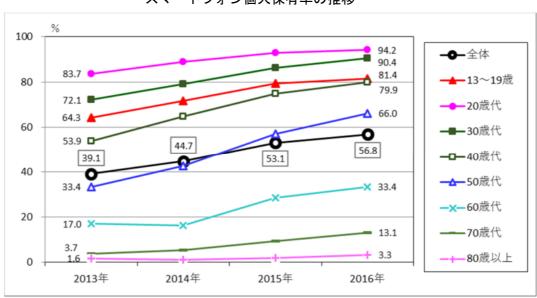
潮流	潮流がもたらす影響	影響に対し考えられる対応策
①少子化と人口減少	○総人口の減少 ⇒購買力(需要・消費)の低下 空き家・空き店舗等の増加 地域コミュニティ機能の低下	<ul><li>○出生率の上昇(←子育て環境の充実)</li><li>○転出の阻止、転入の促進</li><li>○交流人口の拡大</li></ul>
	○生産年齢人口の減少 ⇒労働供給力の低下 担税力の低下	○雇用機会の創出 (女性や高齢者, 障がい者など) ○労働力の確保 ○歳入の確保
②人口構成の高齢化	<ul><li>○医療・福祉・介護ニーズの高まり</li><li>○社会保障関連費用の増大</li><li>○独居高齢者,高齢者世帯の増加(孤独死,老老介護)</li><li>○地域活動の担い手不足</li></ul>	○医療体制の充実 ○高齢者福祉の充実 ○介護予防の推進 ○地域包括ケア体制の構築・充実 ○バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した まちづくり (子ども、外国人、高齢者、障がい者) ○公共交通の維持・確保(交通弱者対策) ○地域の支え合い体制の維持
	○高齢期の長期化に伴う高齢者の多 様化 (健康状態、就労意欲、生活スタイル)	〇高齢者向け就業機会の創出 〇高齢者の活動の場・機会の創出 〇生きがいづくり(生涯学習・スポーツ) 〇高齢者同士の支え合い

# 2. 社会・経済情勢の変化

スマートフォンの普及、IoT化の進行、ビッグデータの利活用など、情報通信分野における目まぐるしい技術の進歩は「第4次産業革命」とも称されており、新たな価値を創造し人々の生活にさまざまな豊かさを提供している。一方でこうした動きによってもたらされる個人データのセキュリティ対策問題、情報格差の発生といった課題も顕在化してきている。

環境問題では、地球温暖化対策への枠組みを取り決めたパリ協定が平成27年に採択され、温暖化対策は世界全体で取り組んでいく不可避な流れとなっている。また、新興国の高い経済成長、交通・通信手段の高度化などを背景に経済活動、日常生活でグローバル化が進展している。

このほか、近年の景気回復により大企業を中心に業績の好調さがみられるが、地場の商店街の衰退や駅前の百貨店の撤退がクローズアップされるなど、業種や企業規模の違いによる業績や景況感の格差も生じている。



スマートフォン個人保有率の推移

(資料)「通信利用動向調査」(総務省)

# 日的 ・世界共通の長期目標として、産業革命前からの平均気温の上昇を 2°Cより十分下方に保持。1.5°Cに抑える努力を追求 日標 ・今世紀後半に温室効果ガスの人為的な排出と吸収のバランスを達成できるよう、 排出ピークをできるだけ早期に抑え、最新の科学に従って急激に削減 各国の目標 ・各国は、貢献(削減目標)を作成・提出・維持する ・各国の貢献(削減目標)の目的を達成するための国内対策をとる 長期戦略 ・全ての国が長期の低排出発展戦略を策定・提出するよう努める 世界全体 での棚卸 ・5年ごとに全体進捗を評価するため、協定の実施状況を定期的に検討する ・世界全体としての実施状況の検討結果は、各国が行動及び支援を更新する際の情報とする

パリ協定の概要

(資料)「環境白書」(環境省)

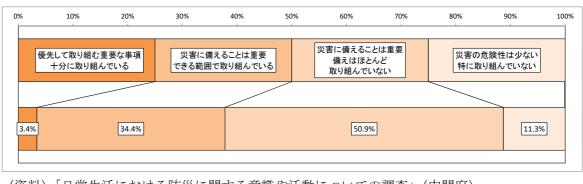
# 「潮流」「潮流がもたらす影響」「影響に対し考えられる対応策」の整理

潮流	潮流がもたらす影響	影響に対し考えられる対応策
	〇行政サービスへの迅速化・高度化 ニーズの高まり 〇情報端末の普及	○複数の手段を用いた情報提供体制の整備 ○受け手の利便性を重視した情報提供
①情報化の進展	○情報化の理解度における市民間・ 企業間の格差拡大 ○情報の氾濫による混乱	<ul><li>○住民への情報化教育の推進 (情報収集・発信能力の格差解消)</li></ul>
②環境問題の深刻化	<ul><li>○環境保全意識の高揚</li><li>○省エネ,新エネ等の具体的な行動の進捗</li></ul>	<ul><li>○情報提供による啓発</li><li>○具体的な取組への支援の拡充</li></ul>
③グローバル化	<ul><li>○外国人居住者・来訪者の増加</li><li>○経済・消費活動の国際化</li></ul>	<ul><li>○外国人が生活しやすい環境の整備</li><li>○外国人との交流機会の拡充</li><li>○多文化共生の推進</li></ul>
④景気動向の変化	〇業種·企業規模の違いによる景況 感の格差	<ul><li>○地場産業の強化</li><li>○中小企業向けの支援の充実</li><li>○起業支援</li></ul>

# 3. 人の意識の変化

近年、東日本大震災をはじめとした地震やそれに伴う津波、異常気象による集中豪雨など、 大規模な自然災害の発生が頻発している。内閣府のアンケート調査でも、約9割(実際の備え に取り組んでいない人も含め)が「災害に備えることは重要」と回答しており、防災意識が高 まっていることがうかがわれる。また、高齢者や一人暮らし世帯の増加、地域のコミュニケー ションの希薄化などを背景に個人の防犯意識が高まっているほか、食の安全確保を求める声も 増えている。

このほか、社会の成熟化に伴い人々の価値観やライフスタイルが変化し、ニーズが多様化するなか、仕事と生活の調和への支援、社会貢献活動への市民参加の促進などが求められている。



災害への備えの重要度(平成28年実施内閣府アンケート調査より)

(資料)「日常生活における防災に関する意識や活動についての調査」(内閣府)

「潮流」	「潮流がもたり	うす影響⊥	「影響に対し	、考えられ	れる対応策」	の整理
・ハナリルルコ	· /+// // U / _ '	ファ ホノロコ	・ホノョー・ハー	ノワルソ	しっひといいかコ	ひ正元

潮流	潮流がもたらす影響	影響に対し考えられる対応策
①安全・安心志向 (意識の高まり)	○防災意識の高まり ○防犯意識の高まり ○食の安全・安心志向の高まり	○危機管理体制の充実(消防・救急ほか) ○防災・減災対策の推進 ○事業継続計画(BCP)の策定 ○地域と連携した防災・防犯体制の確立 ○地産地消の推進 ○食育の充実 ○安全な農産物の生産促進・安定供給
②価値観・ライフスタイルの多様化       〇住民ニーズの多様化・高度化、価値観やライフスタイルの変化の物質的な豊かさより、精神的な豊かさんり、安らぎ)を重視		〇二一ズに対応できる自治体職員の能力向上 〇分野横断的な事業推進体制の整備 〇男女共同参画の推進 〇ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の 推進
	〇地域コミュニティ意識の希薄化 〇地域活動の担い手不足	<ul><li>○地域活動の活性化支援</li><li>○自治機能,集落機能の維持</li></ul>
③市民参加・協働意識 の高まり	〇まちづくり・地域活動に関心を持つ 住民の増加	〇活動のきっかけ・受け皿づくり 〇活動に対する支援の充実

#### 4. 自治体運営

人口減少・少子高齢化の進展等により地方の多くで経済が縮小傾向にある中で、こうした構造的な課題に正面から対処すべく、国は平成 26 年に「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、地方創生戦略をスタートさせた。各自治体は総合戦略を策定し、それをもとにして自らの特色を生かした魅力的なまちづくりに向けた施策の展開を図っている。

ただ自治体の実情をみると、税収の減少と扶助費の増加による財政状況のひっ迫化、老朽化が進む公共施設への対応など、多くの問題を抱えており、取り巻く環境は厳しい。その一方で地方分権の流れにより国から地方への権限移譲が進んでいる。各自治体による行財政運営の重要性がますます高まっており、その巧拙により当該地域の将来人口や財政力が変化し、自治体間に優劣が生じていくことが予想される。

これからの自治体では、それぞれの地域の実態に即した、より効果的な政策立案能力とそれを実行できる体制が求められる。

# 地方創生に向けた国による支援 「地方創生版・三本の矢」

# 1. 情報支援の矢

①地域経済分析システム (RESAS)の開発・普及促進 ②DMOへの情報支援

#### 2. 人材支援の矢

①地方創生リーダーの育成・普及 ②地方創生コンシェルジュ ③地方創生人材支援制度

#### 3. 財政支援の矢

①地方創生推進交付金等 ②地方財政措置 ③税制 (地方創生応援税制等)

&

(資料)「まち・ひと・しごと創生本部ホームページより作成

&

#### 「潮流」「潮流がもたらす影響」「影響に対し考えられる対応策」の整理

潮流	潮流がもたらす影響	影響に対し考えられる対応策
①地方創生(地方分権)	<ul><li>○自治体による経営責任の増大</li><li>○それぞれの行財政運営の巧拙による自治体間格差の拡大</li><li>⇒住民・企業の移動の増加</li></ul>	<ul> <li>○行政の経営力,政策立案力の向上</li> <li>○財源確保</li> <li>○公共施設の適正な配置・維持管理・更新</li> <li>○個性と創意工夫による「選ばれるまち」</li> <li>・地域資源・特性を活かした魅力向上</li> <li>・特色ある取組(独自性),地域ブランド 戦略</li> <li>○広域連携(近隣都市との機能分担)</li> </ul>

# 第2章 まちづくりアンケート調査

# 1. 調査概要

	平成32年度(2020年度)からスタートする次期総合計画の策定にあたり、ま			
調査目的	ちづくりに対する市民の方々の意見・考えを伺い、今後のまちづくりに役立てるこ			
	とを目的とする。			
調査期間	平成29年9月15日(金)~10月6日(金)			
調査対象	市内に居住する18歳以上の住民から住民基本台帳により無作為抽出			
同原外用	配布数:3,000件 回収数:1,320件(回収率44.0%)			
回収結果	有効回答数:1,291件(有効回答率:43.0%)			

# 2.調査結果(概要)

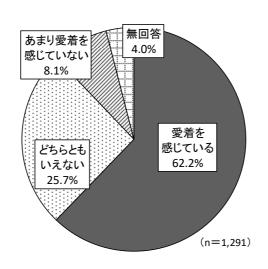
# (1) 本市の現状・愛着(問1)

本市の愛着は、「愛着を感じている」が 62.2%となっており、「あまり愛着を感じていない」 を大きく上回っている。

「愛着を感じている」は、「自営業主 (79.2%)」、「 $60\sim64$  歳 (71.2%)」、「居住年数 20 年以上 (69.9%)」、「昭和地区 (65.3%)」などで多くなっている。一方、「愛着を感じていない」は、「30 歳代 (15.9%)」、「根形地区 (14.6%)」、「学生 (11.2%)」などで多くなっている。

「愛着を感じている理由」では、「生活環境が自分に合っているから」が 45.3%で最も多く、次いで「生まれ育った場所だから(39.4%)」、「親戚・知人・友人がいるから(28.4%)」の順となっている。一方、「愛着を感じない理由」では、「生まれ育った場所ではない(56.2%)」、「通勤、通学、買い物などが不便だから(45.7%)」が多い。

愛着の有無の理由をみると、「生まれ育った場所」か否かに加え、「生活環境」や「通勤、通 学、買い物環境」における評価が愛着の有無につながっている。

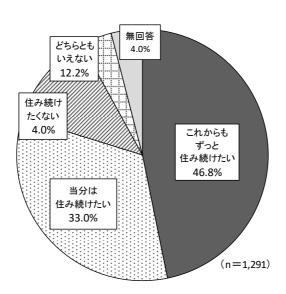


# (2) 居住意向(問3)

本市の居住意向は、「これからもずっと住み続けたい」が 46.8%と約半数を占めて最も多く、「当分は住み続けたい(33.0%)」と合わせて、約 8 割の市民が今後も住み続けたいとの意向となっている。

「住み続けたい」は「 $60\sim64$ 歳(85.6%)」、「給与所得者(83.5%)」、「昭和地区(82.5%)」、「長浦地区(81.4%)」、「居住年数 20年以上(81.7%)」などが多い。一方、「住み続けたくない」は「居住年数 3年未満(12.2%)」、「家族従業者(11.8%)」、「平岡地区(8.8%)」などが多くなっている。

居住意向の理由をみると、住み続けたい市民では「自然環境」への評価が高い。一方で、住み続けたくない市民では「買い物に不便だから(71.2%)」、「通勤・通学などの移動手段が不便だから(34.6%)」など生活利便性に対する理由が多くなっている。



# (3) 満足度と重要度(問4)

#### (満足度が高い項目:構成比)

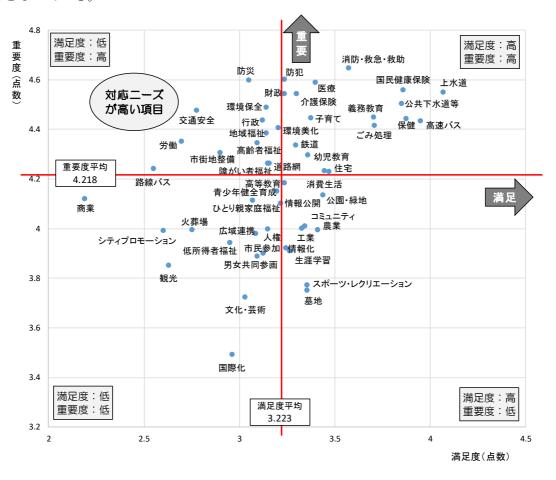
全 52 項目のうち、42 項目において満足している(「満足」と「やや満足」の合計)が不満である(「やや不満である」と「不満」の合計)を上回っている。満足度が最も多い項目は、「高速バス」の 73.7%であり、次いで「上水道(73.2%)」、「保健(64.7%)」、「ごみ処理(62.2%)」、「公共下水道(59.5%)」の順となっている。不満が多い項目は、「商業」の 53.9%が最も多く、次いで、「路線バス(43.7%)」、「観光(34.2%)」、「市街地整備(33.6%)」、「交通安全(31.8%)」の順となっている。

#### (重要度が高い項目:構成比)

全 52 項目すべてで、重要である(「重要である」と「やや重要」の合計)が重要ではない(「あまり重要ではない」と「重要ではない」の合計)を上回っている。重要であるが最も多い項目は、「消防・救急・救助」の 88.2%となっており、次いで「防犯(87.7%)」、「医療(87.2%)」、「上水道(85.1%)」、「環境美化(84.8%)」の順となっている。一方、重要ではないでは、「国際化」の 9.1%が最も多く、次いで「観光(6.1%)」、「墓地(5.8%)」、「文化・芸術(5.6%)」の順となっている。

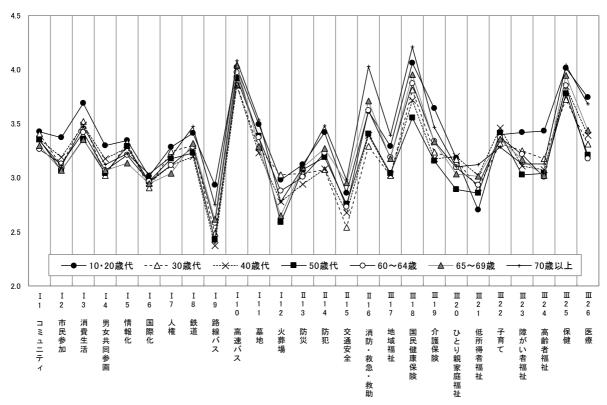
# (市政へのニーズ:点数化)

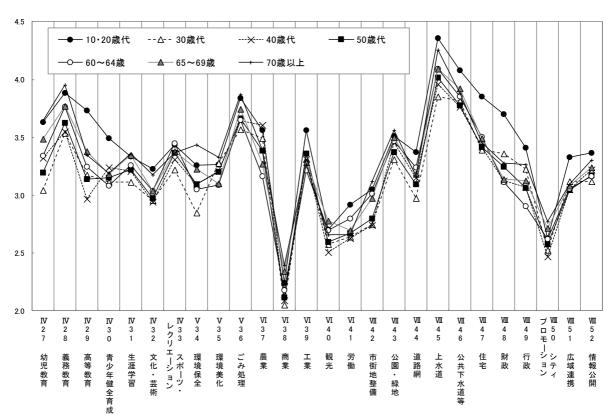
満足度と重要度を点数化し、その相関関係をみると、満足度が低く、重要度が高い項目(市 民の対応ニーズが高い項目)は、交通安全、路線バス、労働、防災、市街地整備、環境保全な どとなっている。



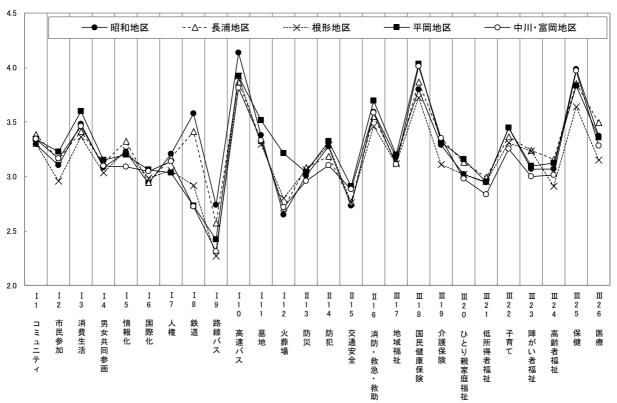
# (属性別の満足度:点数化)

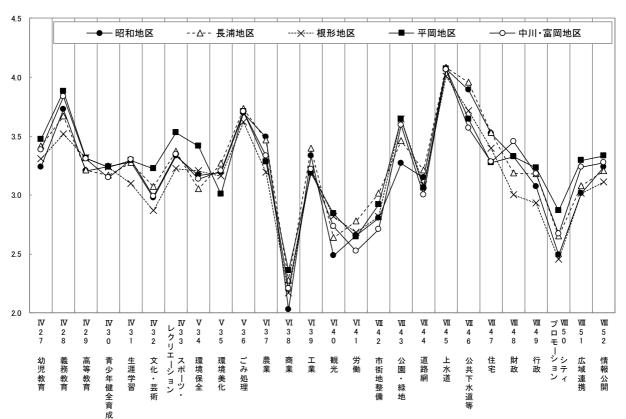
点数化した満足度を年齢別にみると、満足度の平均値では  $10 \cdot 20$  歳代(3.40)が最も高く、以下、70 歳以上(3.33)、 $65\sim69$  歳(3.25)の順となっている。分野別では、 $10\cdot20$  歳代における「VII都市形成・都市基盤」分野、「IV学校教育・生涯学習」分野、70 歳以上における「V環境」分野などが高くなっている。一方、 $60\sim64$  歳における「VI産業振興」分野、「VIIで財政」分野、30 歳代における「II 防犯・防災」分野などが低くなっている。





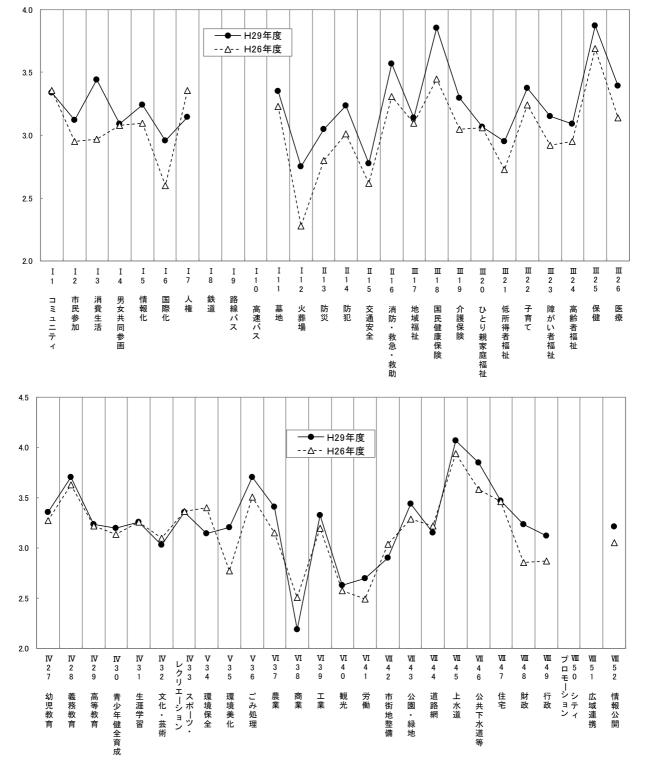
同様に居住地別にみると、満足度の平均値では平岡地区(3.27)が最も高く、以下、長浦地区(3.25)、昭和地区(3.22)、中川・富岡地区(3.19)となっており、根形地区(3.15)が最も低くなっている。分野別では、長浦地区における「VII都市形成・都市基盤」分野、「III保健・医療・福祉」分野、平岡地区における「IV学校教育」分野、「III防犯・防災」分野などが高くなっている。一方、昭和地区における「VII産業振興」分野、根形地区における「VIIで財政」分野、「II市民生活」分野、中川・富岡地区における「III防犯・防災」分野などが低くなっている。





満足度を経年比較(平成 26 年度袖ケ浦市政に関する市民意識調査)すると、比較可能な 47 項目のうち 39 項目で前回を上回っており、平均値は今回(平成 29 年度: 3.24)が前回(平成 26 年度: 3.10)を 0.14 ポイント上回っている。

分野別では、全8分野で前回を上回っており、「Ⅷ行財政」分野(平成29年度:3.19、平成26年度:2.93)、「Ⅲ防災・防犯」分野(同3.16、2.94)などで満足度が大きく上昇している。項目別では、前回に比べ「消費生活」、「火葬場」、「環境美化」、「国民健康保険」、「財政」などで満足度が上昇している。一方、「商業」、「環境保全」、「人権」などで前回から満足度が低下している。



# (満足度の経年比較:点数化・乖離降順)

	H29年度	H26年度	乖離 (H29-H26)
平均	3.24	3.10	0.14
I 1 コミュニティ	3.34	3.36	▲ 0.02
I 2 市民参加	3.12	2.95	0.17
I 3 消費生活	3.44	2.97	0.47
I 4 男女共同参画	3.09	3.08	0.01
I 5 情報化	3.24	3.10	0.14
I 6 国際化	2.96	2.60	0.36
I 7 人権	3.15	3.36	▲ 0.21
I 11 墓地	3.35	3.23	0.12
I 12 火葬場	2.75	2.28	0.47
Ⅱ13 防災	3.05	2.80	0.25
Ⅱ14 防犯	3.23	3.01	0.22
Ⅱ15 交通安全	2.78	2.62	0.16
Ⅱ16 消防・救急・救助	3.57	3.31	0.26
Ⅲ17 地域福祉	3.14	3.10	0.04
Ⅲ18 国民健康保険	3.86	3.45	0.41
Ⅲ19 介護保険	3.30	3.05	0.25
Ⅲ20 ひとり親家庭福祉	3.07	3.06	0.01
Ⅲ21 低所得者福祉	2.95	2.73	0.22
Ⅲ22 子育て	3.38	3.24	0.14
Ⅲ23 障がい者福祉	3.15	2.92	0.23
Ⅲ24 高齢者福祉	3.09	2.95	0.14
Ⅲ25 保健	3.87	3.69	0.18
Ⅲ26 医療	3.40	3.14	0.26

	H29年度	H26年度	乖離 (H29-H26)
Ⅳ27 幼児教育	3.36	3.27	0.09
Ⅳ28 義務教育	3.70	3.63	0.07
Ⅳ29 高等教育	3.23	3.22	0.01
Ⅳ30 青少年健全育成	3.20	3.14	0.06
Ⅳ31 生涯学習	3.26	3.26	0.00
Ⅳ32 文化•芸術	3.03	3.10	▲ 0.07
<b>IV</b> 33 スポーツ・ レクリエーション	3.35	3.36	▲ 0.01
▼34 環境保全	3.14	3.40	▲ 0.26
▼35 環境美化	3.20	2.77	0.43
▼36 ごみ処理	3.71	3.51	0.20
VI37 農業	3.41	3.15	0.26
VI38 商業	2.19	2.51	▲ 0.32
VI39 工業	3.32	3.20	0.12
VI 40 観光	2.63	2.58	0.05
VI41 労働	2.69	2.49	0.20
Ⅲ42 市街地整備	2.90	3.04	▲ 0.14
WI43 公園・緑地	3.44	3.29	0.15
Ⅷ44 道路網	3.15	3.22	▲ 0.07
Ⅷ45 上水道	4.07	3.94	0.13
Ⅷ46 公共下水道等	3.85	3.58	0.27
₩47 住宅	3.47	3.46	0.01
₩48 財政	3.23	2.86	0.37
₩149 行政	3.12	2.87	0.25
Ⅷ52 情報公開	3.21	3.05	0.16

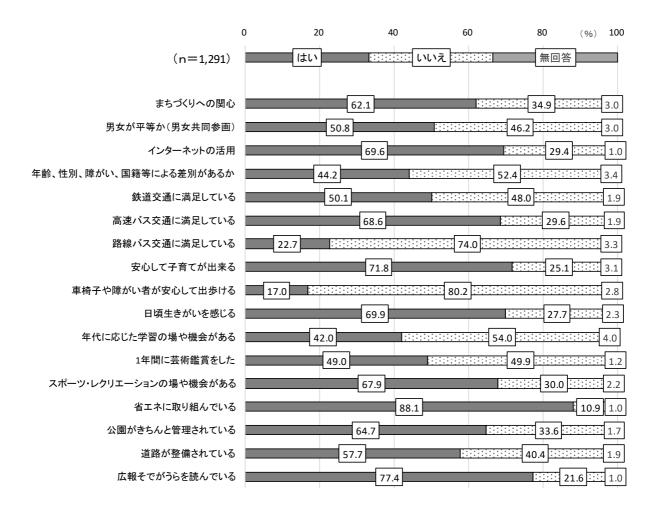
# (4) 普段の暮らしや感じていること(問5)

普段の暮らしや感じていることでは、「省エネへの取り組み(88.1%)」、「広報そでがうらを読んでいる(77.4%)」、「安心して子育てが出来る(71.8%)」、「日頃生きがいを感じる(69.9%)」、「高速バス交通に満足している(68.6%)」などで肯定的な意見が多くなっている。

一方、「車椅子や障がい者が安心して出歩ける(いいえ: 80.2%)」、「路線バス(同 74.0%)」、「年代に応じた学習機会や場がある(同 54.0%)」、「年齢、性別、障がい、国籍等による差別があるか(同 52.4%)」などで否定的な意見が多くなっている。

経年比較(平成 26 年度)では、比較可能な 18 項目のうち 12 項目で前回を上回っている。前回を上回った項目では「まちづくりへの関心(26 年度比+15.8%ポイント)」、「男女が平等(同+7.3%ポイント)」、「高速バス交通に満足している(同+6.4%ポイント)」、「安心して子育てが出来る(同+5.5%ポイント)」などとなっている。一方で、「年齢、性別、障がい、国籍等による差別があるか(同 $\triangle$ 12.5%ポイント)」、「年代に応じた学習の場や機会がある(同 $\triangle$ 6.2%ポイント)」、「路線バス交通に満足している( $\triangle$ 5.1%ポイント)」などが前回比で悪化している。

居住地別では、「鉄道交通に満足している」における平岡地区(29.2%、全体比 $\triangle$ 17.6%ポイント)、「インターネットの活用」における平岡地区(52.2%、同 $\triangle$ 17.6%ポイント)、「道路が整備されている」における中川・富岡地区(46.2%、同 $\triangle$ 11.6%ポイント)などが全体に比べ少なくなっている。



(普段の暮らしや感じていること・経年比較・乖離降順)

	「はい」	の割合	乖離
	H29年度	H26年度	(ホ°イント)
	(今回:%)	(前回:%)	H29-H26
まちづくりへの関心	62.5	46.7	15.8
男女が平等か(男女共同参画)	51.1	43.8	7.3
高速バス交通に満足している	69.0	62.6	6.4
安心して子育てが出来る	71.9	66.4	5.5
車椅子や障がい者が安心して出歩ける	17.2	11.8	5.4
外国人が暮らしやすいか	33.3	28.3	5.0
青少年が健やかに育っている	69.5	65.3	4.2
インターネットの活用	69.8	65.9	3.9
スポーツ・レクリエーションの場や機会がある	68.2	64.9	3.3
公園がきちんと管理されている	65.0	62.1	2.9
鉄道交通に満足している	50.4	47.9	2.5
省エネに取り組んでいる	88.3	87.1	1.2
1年間に芸術鑑賞をした	49.3	49.7	▲ 0.4
広報そでがうらを読んでいる	77.6	79.4	<b>▲</b> 1.8
道路が整備されている	57.8	61.2	▲ 3.4
路線バス交通に満足している	23.0	28.1	▲ 5.1
年代に応じた学習の場や機会がある	42.6	48.8	<b>▲</b> 6.2
年齢、性別、障がい、国籍等による差別があるか	44.2	31.7	▲ 12.5

<sup>※</sup>乖離は「年齢、性別、障がい、国籍等による差別があるか」のみ(H26年度)-(H29年度)で算出

# (普段の暮らしや感じていること・地区別)

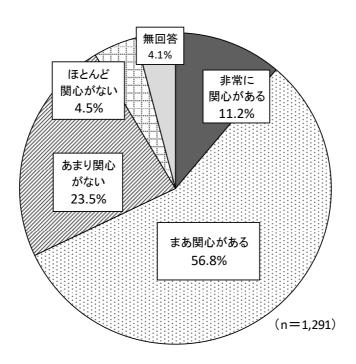
	「はい」の割合(%)					
			地区別			
	市全体	昭和	長浦	根形	平岡	中川• 富岡
まちづくりへの関心	62.5	65.6	61.1	57.7	64.6	63.5
男女が平等か(男女共同参画)	51.1	53.6	48.2	50.8	54.0	54.8
インターネットの活用	69.8	77.0	70.6	71.5	52.2	57.7
外国人が暮らしやすいか	33.3	32.5	39.3	22.3	22.1	32.7
年齢、性別、障がい、国籍等による差別があるか	44.2	41.0	43.6	50.8	45.1	50.0
鉄道交通に満足している	50.4	60.7	52.9	42.3	29.2	32.7
高速バス交通に満足している	69.0	77.9	65.4	70.8	62.8	60.6
路線バス交通に満足している	23.0	24.6	24.0	16.2	20.4	21.2
安心して子育てが出来る	71.9	73.0	73.7	66.9	65.5	73.1
車椅子や障がい者が安心して出歩ける	17.2	18.3	18.1	17.7	11.5	16.3
日頃生きがいを感じる	69.9	74.3	70.9	65.4	63.7	69.2
青少年が健やかに育っている	69.5	73.5	69.3	65.4	67.3	64.4
年代に応じた学習の場や機会がある	42.6	42.3	46.6	32.3	38.1	39.4
1年間に芸術鑑賞をした	49.3	52.2	50.5	43.1	41.6	47.1
スポーツ・レクリエーションの場や機会がある	68.2	63.7	71.3	68.5	66.4	71.2
省エネに取り組んでいる	88.3	89.6	88.6	90.0	82.3	87.5
公園がきちんと管理されている	65.0	59.0	68.9	71.5	54.9	67.3
道路が整備されている	57.8	58.5	63.9	49.2	48.7	46.2
広報そでがうらを読んでいる	77.6	75.1	76.5	82.3	77.9	84.6

# (5) 市政への関心(問16)

市政に関心がある市民(「非常に関心がある」+「まあ関心がある」の合計)は、68.0%となっており、関心がない市民(「あまり関心がない」+「ほとんど関心がない」の合計)の 28.0% を 40%ポイント上回っている。

「関心がある」は、「自営業主(81.3%)」、「 $60\sim64$ 歳(78.1%)」、「根形地区・平岡地区(ともに 70.8%)」、「居住年数 20 年以上」などで多くなっている。一方、「関心がない」は、「居住年数  $3\sim5$ 年未満(42.8%)」、「同 3年未満(39.2%)」、「 $10\cdot20$ 歳代(42.0%)」、「長浦地区(30.2%)」などで多くなっている。

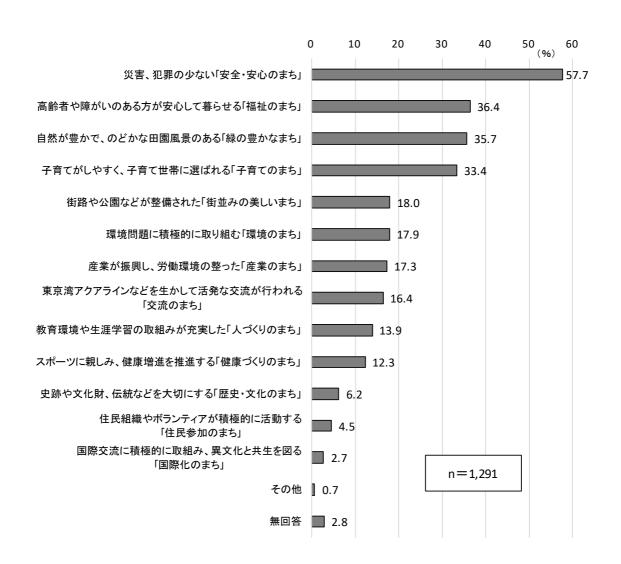
市政に関心がない市民における関心がない理由では、「個人の意見は市政に反映されにくいから」が 45.7%で最も多く、次いで、「市政は難しくてよくわからないから(32.1%)」、「自分の生活に直接関係がないから(25.2%)」の順となっている。



# (6) 本市の将来像(問19)

本市の将来都市像では、「災害、犯罪の少ない【安全・安心のまち】」が 57.7%で最も多く、 次いで、「高齢者や障がいのある方が安心して暮らせる【福祉のまち】(36.4%)」、「自然が豊か で、のどかな田園風景のある【緑の豊かなまち】(35.7%)」、「子育てがしやすく、子育て世帯に 選ばれる【子育てのまち】(33.4%)」の順となっている。

【子育てのまち】における「30歳代(66.2%)」、「居住年数3年未満(62.2%)」、「同3年~5年未満(53.1%)」、【安全・安心のまち】における「居住年数3~5年未満(73.5%)」、「家族従業者(70.6%)」、【緑の豊かなまち】における「70歳以上(48.1%)」、「平岡地区(46.0%)」、【交流のまち】における「学生(29.0%)」などが全体に比べ多くなっている。



# (本市の将来像・属性別)

_																	
		件数	「緑の豊かなまち」自然が豊かで、のどかな田園風景のある	『環境のまち』環境問題に積極的に取り組む	歴史・文化のまち 」史跡や文化財、伝統などを大切にする	「安全・安心のまち」災害、犯罪の少ない	住民組織やポランティアが積極的に活動する	一程康づくりのまち 」スポーツに親しみ、健康増進を推進する	<b>支流が行われる「交流のまち」</b> 東京湾アクアラインなどを生かして活発な	産業が振興し、労働環境の整った	子育てがしやすく、子育て世帯に選ばれる	「福祉のまち」 高齢者や障がいのある方が安心して暮らせる	表育環境や生涯学習の取組みが充実した	街並みの美しいまち」街路や公園などが整備された	異文化と共生を図る「国際化のまち」国際交流に積極的に取組み、	その他	無回答
	全体	1,291	35.7	17.9	6.2	57.7	4.5	12.3	16.4	17.3	33.4	36.4	13.9	18.0	2.7	0.7	2.8
性	男性	522	35.4	21.6	7.3	56.1	4.6	14.2	15.7	21.3	29.5	31.6	12.6	16.9	3.1	1.0	3.6
別	女性	721	35.5	15.1	5.7	60.2	4.4	11.2	17.2	15.1	36.6	39.4	15.1	19.4	2.5	0.6	1.1
	10・20歳代	100	30.0	10.0	10.0	63.0	3.0	13.0	20.0	18.0	43.0	27.0	15.0	20.0	5.0	2.0	-
	30歳代	157	31.8	10.8	5.7	60.5	3.2	8.9	21.0	15.3	66.2	17.8	15.3	24.8	2.5	1.3	-
	40歳代	239	29.3	13.4	5.4	62.3	5.0	9.6	20.9	19.7	40.2	29.7	17.2	14.6	1.7	1.3	0.8
年齢	50歳代	230	30.9	23.9	4.3	55.2	3.5	14.8	19.6	17.4	30.0	37.8	13.9	17.4	3.9	0.4	1.7
m l'	60~64歳	146	34.9	25.3	4.8	54.8	4.8	19.9	9.6	12.3	30.8	45.2	14.4	17.8	2.1	0.7	2.7
	65~69歳	195	44.6	15.9	6.7	55.9	6.7	11.3	11.8	25.6	19.0	42.6	10.3	23.6	4.1	-	3.1
	70歳以上	185	48.1	21.1	9.2	57.3	4.3	11.4	11.9	13.0	14.6	50.3	12.4	11.9	0.5	-	5.9
	自営業主	48	41.7	22.9	4.2	50.0	2.1	4.2	16.7	20.8	22.9	37.5	14.6	12.5	8.3	2.1	6.3
	家族従業者	17	41.2	11.8	ı	70.6	5.9	11.8	5.9	17.6	41.2	41.2	11.8	11.8	_	-	_
	会社·団体役員	335	31.9	14.9	5.1	57.9	5.1	10.7	20.0	17.3	43.3	31.6	15.2	18.2	3.6	1.2	1.5
	給与所得者	127	35.4	18.9	3.9	55.1	6.3	20.5	13.4	26.8	26.0	29.1	12.6	18.1	0.8	-	3.1
職業	アルバイト・パートタイム	259	34.0	17.8	5.4	57.9	3.9	11.2	17.4	17.8	37.1	37.8	14.3	19.3	1.5	0.8	1.9
	学生	31	38.7	3.2	19.4	58.1	-	19.4	29.0	12.9	25.8	19.4	16.1	16.1	6.5	_	_
	専業主婦·主夫	224	37.5	16.1	6.7	64.7	3.6	9.8	16.1	14.3	35.7	39.7	12.9	22.3	1.8	-	0.9
	その他	23	30.4	43.5	-	52.2	4.3	13.0	4.3	13.0	13.0	43.5	8.7	8.7	8.7	4.3	8.7
	無職	184	41.3	22.8	10.9	56.0	4.9	15.2	11.4	15.2	21.2	44.6	14.7	15.2	2.7	0.5	3.3
	3年未満	74	29.7	10.8	4.1	59.5	2.7	6.8	20.3	18.9	62.2	18.9	17.6	27.0	1.4	2.7	-
居	3年以上~5年未満	49	16.3	14.3	4.1	73.5	4.1	2.0	18.4	22.4	53.1	14.3	18.4	24.5	6.1	2.0	-
住年	5年以上~10年未満	90	30.0	16.7	12.2	57.8	5.6	7.8	21.1	14.4	44.4	30.0	14.4	21.1	3.3	-	-
	10年以上~20年未満	183	33.9	15.8	8.2	58.5	4.4	13.1	19.7	14.8	36.6	33.3	14.8	16.4	3.3	1.1	-
	20年以上	854	38.9	18.9	5.6	57.1	4.6	13.9	14.9	18.1	28.5	40.3	13.5	17.0	2.5	0.5	3.2
	昭和地区	366	31.1	16.7	3.8	57.4	4.4	8.7	22.1	19.7	35.0	35.5	16.1	20.5	3.0	0.8	2.5
	長浦地区	537	34.5	18.4	6.1	60.5	5.4	14.0	13.2	15.5	34.6	36.9	13.0	18.8	2.8	0.9	1.9
住地	根形地区	130	40.8	15.4	7.7	56.9	3.8	14.6	17.7	20.0	30.0	37.7	13.8	19.2	-	0.8	2.3
	平岡地区	113	46.0	17.7	7.1	56.6	1.8	10.6	12.4	17.7	27.4	43.4	11.5	12.4	2.7	_	3.5
	中川・富岡地区	104	43.3	20.2	11.5	52.9	3.8	17.3	17.3	17.3	35.6	26.9	16.3	10.6	4.8	-	1.0

# 第3章 市民意見聴取

# 1. まちづくりワークショップ

# (1) 開催目的

市を将来どのようなまちにしていきたいのか、市民参加により関心のある分野に分かれて、お互いの意見やアイデアを話し合っていただき、総合計画の策定に役立てていく。

分野1:子育て・教育・文化

分野2:産業・環境

分野3:保健・医療・福祉

分野4:都市形成・都市基盤・防犯・防災

分野5:地域コミュニティ・協働

# (2) 開催日時、場所及び参加者数

	開催日時	会場	参加者数
第1回	平成29年12月16日(土)	市民会館	37人
第2回	平成30年1月27日(土)	市民会館	36人
第3回	平成30年4月14日(土)	市民会館	24人

※参加者…市民アンケート対象者及び広報誌等による募集

# (3) テーマ

	テーマ
第1回	・本市の「課題・問題点」「魅力・良いところ」
第2回	・まちづくりの方向性
第3回	・目指すべき方向性実現のための具体的手法の検討
舟3凹	・本市が目指すべき将来の姿(将来像)についてのディスカッション

# (4) ワークショップ結果

# ① 第1回

# ②、本市の「魅力・良いところ」「課題・悪いところ」

本市の「魅力・良いところ」「課題・悪いところ」について、ワークショップ形式で検討された主な意見は以下のとおり。

- (注 1) 分野は現行総合計画における8つの施策分野とし、項目は当該分野における施 策名を参考に意見を整理した
- (注 2) 項目別の代表的な意見を集約し掲載しているため、主な意見における意見数と 項目における意見数が一致しない項目がある

# 本市の「魅力・良いところ」

	魅力・良いところ 【178件】					
分野	項目(意見数)	主な意見(意見数)				
	公共交通全般 (13)	都内へのアクセスが良い(7) 交通網が整備されている(3) JRの駅、高速道路のICが有り、市外へのアクセスが便利(1) 羽田空港、成田空港などへのアクセスが良好(1)				
市民生活	市民活動(10)	地域のイベントが多く、交流を図る機会が多い(1) 自治会が活発に活動している(1) 多様な経験を持った市民がいる(1) 地域間のつながりが強い(1) 地域交流できる場所が多い(1) 地域のお祭りが色々なエリアである(1) 都内に比べて人が優しく暮らしやすい(1)				
	高速バス (8) 墓地・火葬場 (1)	高速バスが便利 (東京・神奈川・羽田空港等) (8) 墓地が多い(1)				
	鉄道 (1)	駅等の交通が充実している(1)				
	防犯・交通安全 (4)	治安が良い(2) 子ども安全パトロールが心強い(1) 歩車分離式信号が充実(1)				
防犯・防災	災害・国民保護 (1)	災害が少ない(1)				
	保健・医療(3)	ガウランドがある(3)				
保健・医	児童福祉(3)	子育てがしやすい(1)				
療・福祉	高齢者福祉 (2)	福祉施設が多い(2)				
学校教育・	<u>教育(7)</u> 生涯学習(5)	各学校の取り組みが、生徒の意識向上に生きている(1) 図書館が多い(2) 図書館のサービスが充実している(1) 公民館が充実している(1) 公民館等でのイベントが多い(1)				
生涯学習	エーション・体育 (3)	スポーツができる施設がたくさんある(2) 臨海スポーツセンターの利便性が良い(1)				
		子どもがあいさつをする(1) わんぱくクエストという素敵なイベントが行われている(1) 歴史(弟橘媛の話)が魅力的である(1)				
環境	廃棄物・リサイク ル (2)	ゴミが出しやすい(1) ゴミ収集の回数が多く、便利である(1)				

		魅力・良いところ 【178件】
分野	項目(意見数)	主な意見(意見数)
		おしゃれなレストラン・カフェが多い(1)
		郊外に大型のショッピングモールがある(1)
		スーパーが多くなった(1)
	商工業(8)	物価が安い(1)
		工業地帯がある(1)
		椎の森工業団地へ企業が進出している(1) 大企業が多い(1)
		東京ドイツ村がある(7)
		大規模な音楽イベントが開かれる(2)
		袖ケ浦公園や椎の森がある(2)
	観光 (14)	ゴルフ場がある(1)
産業振興		袖ケ浦フォレストレースウェイがある(1)
		チーズケーキが美味しい牧場がある(1)
		千葉フォルニアがある(1)
		農業・酪農がさかん(6)
		新鮮な野菜が手に入る(3) 農畜産物直売所ゆりの里がある(2)
		農地(畑)の景色が良い(1)
	農林業 (23)	農畜産物の販売ルートが充実している(1)
		まんべんなく農産物が豊富(1)
		元気な高齢農家が多い(1)
		地元農畜産物を用いたごはんがおいしい(1)
	その他(1)	産業の多様性に恵まれている(1)
		アクアラインに近い(6)
		インターチェンジが近い(1)
	道路網(11)	高速道路による交通利便性が高い(1)
		アンダーパスができ、利便性が向上した(1)
都市形成・		道路が綺麗に整備されている (1) 駅の利用がしやすくなった(2)
都市基盤	市街地形成(7)	袖ケ浦駅北側の開発が進んでいる(2)
H4.14.573 III.		駅が綺麗(1)
		公園 (緑地) が多い(4)
	<b>○周・緑州 (10)</b>	袖ケ浦公園が良い(3)
	公園・緑地(10)	公園が綺麗に整備されている(1)
		公園の花の手入れがいき届いていてきれい(1)
(= H   -1	行政運営(1)	話し合いの場が設けられていて、考えを言うことができる(1)
行財政	財政運営(3)	税収が多く、財政が健全である(2)
		千葉県の中でもお金持ちである(1) 意外と子供がいる(1)
	人口・少子高齢化	人口が増えている(1)
	(3)	人口密度が低い(1)
	インフラ・公共施	図書館・公民館など、人口に対して公共施設が多い(2)
	設 (4)	ライフラインがよくできている(1)
	BA (2)	自然が豊かである(10)
		海に面している(3)
20 M	白粉 - 早細 (91)	富士山が綺麗に見える(2)
その他	自然・景観(21)	田園風景が良い(1)
		夜景が綺麗(1)
		雪が降らない(1)
	生活環境(2)	静かである(1)
		アウトレットが近い(1)
	地価 (2)	地価が安い(2)
	立地 (1)	位置的条件・地勢が良い(1)
	住民(1)	人が優しい(1)

# 本市の「課題・悪いところ」

課題・悪いところ 【192件】					
 分野	項目 (意見数)	主な意見(意見数)			
	公共交通全般 (19)	市内の交通の便が悪い(7) 車がないと生活しづらい(7) 高速バスの料金が高い(2) コミュニティバスを充実させるべき(1)			
市民生活	市民活動(12)	内房線の終電が早い(1) 近所同士のコミュニケーションが少ない(2) 高齢者が集う場所と種類を増やすべき(1) 子供と高齢者がふれ合う場が無い(1) 地域のイベントの告知(お知らせ)が不十分(1) 自治会入会者数が減少している(1) 市民の多様な能力をもっと生かすべき(1)			
	路線バス (6)	路線バスの本数が少ない(3) 路線バスの交通網を改善する必要がある(3)			
	細ゲ浦バスターミ ナル (5) 墓地・火葬場	袖ケ浦バスターミナルへのアクセスが悪い(3) 袖ケ浦バスターミナルの市の駐車場が小さすぎて使いにくい(1) 火葬場の建設がどうなっているか分からない(1)			
	(3)	火葬場が早くできると良い(1) 街灯が少ない(8)			
防犯・防災	防犯・交通安全 (20)	警察署がない(5) 路上駐車が多い(2) 不審者が多い(1) 防犯カメラが少ない(1) カーブミラーが不足している(1)			
	防災・国民保護 (4)	小櫃川の氾濫が不安(1) 袖ケ浦駅から長浦駅に向かう道路脇の斜面の土砂流出、木の張り出し等が不安(1) 防潮堤の経年劣化が進行しており、津波に耐えられるか不安(1)			
	保健・医療 (4)	ガウランドへ行きづらい <b>(2)</b> 大病院がない(1)			
保健・医 療・福祉	児童福祉(3)	親子で楽しめる憩の場が少ない(1) 小学生の子が雨の日も思いきり遊べる施設を整備すべき(1) 子供が自然と触れ合える場を整備すべき(1)			
	高齢者福祉(1)	お年寄の生活補助が必要(1)			
	教育 (5)	市内の各学校への支援が不足している(1) 蔵波小学校の児童数が多い(1) 子供の職業意識を育てる機会が少ない(1) 中高生が集まれる場所が無い(1) 大学がない(1)			
学校教育• 生涯学習	生涯学習 (3)	図書館に自習スペースがない(2) 図書館に専門書の類を増やしてほしい(1)			
		スポーツ施設の利用時間が短い(1) 大きい運動公園を建設してほしい(1) 市営プールが無くなった(1) 寺社・神社が沢山あるのにあまり知られていない(1)			
	文化・芸術 (2)	寺社等の整備が行きとどいていない(1)			
環境	環境保全・美化 (3)	カラスのゴミあらし(1)    ごみのポイ捨て(1) ネコにエサを与えている人がいる(1)			
<b></b>	廃棄物・リサイク ル(2)	市原市のように買物袋がゴミ出しに使えない(1) クリーンセンターを始動してほしい(1)			

課題・悪いところ 【192件】					
分野	項目(意見数)	主な意見(意見数)			
	商工業(23)	スーパーなどの商業施設が不足している(12) 娯楽施設やお金を使う所が少ない(3) 地元の商店が減少している(1) 長浦駅前にコンビニエンスストアがない(1) ビジネスホテルが少ない(1) 若者が集まる場所が少ない(1)			
産業振興	観光(13)	袖ケ浦海浜公園をもっと活用すべき(2) インパクトが強い施設が無い(1) 千葉フォルニアにカフェを作るべき(1) 観光名所のPR不足(1) 宿泊施設が少ない(1) イベント・レジャーにおいて県外から来たくなる要因が少ない(1)			
	農林業(6)	どのような農作物が盛んか分からない(1) 農業者への支援が足りない(1) 耕作放棄地が増えている(1) 鳥獣害が増えている(1)			
	労働 (2)	地元求人が少ない(1) 老人や主婦の再雇用先になるような事業所が必要(1)			
	道路網(17)	旧道(姉崎〜長浦間)の除草や歩道整備が必要(4) 道路が狭い場所が多い(3) 通学路が暗い(2) イルミネーション渋滞がひどい(1) 道路に水たまりが多い(1) 大型ダンプカー等の数が多く、道路が傷む(1) 住宅地のメイン道路にダンプカーが多く、事故が心配(1)			
都市形成· 都市基盤	市街地形成(5)	駅周辺に店が少なく寂しい(1) 大学、病院、ショッピングモールなど大型施設が少ない(1) 長浦駅の階段が長い(1)			
	公園・緑地(1)	車で行ける公園が少ない(1)			
	市のPR (5)	アピールする良さが無い(1) 広報活動に力を入れるべき(1) 「袖ケ浦市といえば」というものが思いつかない(1)			
	住宅(1)	平川地区に空き家が多い(1)			
行財政	行政運営(6)	新たな事業の取り組みが必要(1) 市役所からの情報発信が受け取りにくい(1) 投票率が低い(1) 市民が過去の栄光の記憶から脱しきれていない(1)			
	人口・少子高齢 化(8)	若い人(世帯)が少ない(3) 高齢化が進んでいる(1) ひとり暮らしの高齢者が多い(1) 他地域から引っ越してくる人が少ない(1) 平川地区で過疎化が進んでいる(1)			
その他	インフラ・公共 施設 (5)	Wi-Fiを充実させるべき(2) 市民会館のレストランスペースを有効活用すべき(1) 袖ケ浦港を開発すべき(1)			
	自然・景観(3)	工場地帯の運河に駐められている船が無秩序で、景観が悪い(1) 風が強い(1) 宅地開発と自然(田畑・森林)のバランスをとる必要がある(1)			
	格差 (2)	地域毎の格差が大きい(2)			

# b。将来像についてのキーワード

次期総合計画の将来像(どのようなまちになって欲しいか)として盛り込みたいキーワードを記入シートを用いて個別に記載いただいた。

多かったキーワードは「安心 (12件)」、「住みやすい・住みたい・住みよい (12件)」、「活 気・活気あふれる・活性化・活力 (9件)」などであった。

# 将来像についてのキーワードと件数

将来像キーワード (2個以上みられたもの)	件数
安心	12
住みやすい・住みたい・住みよい	12
活気・活気あふれる・活性化・活力	9
子育て	7
自然・自然を育む	7
安全	6
豊か・豊かな・豊かさ	6
明るい	5
交通・交通網	5
商業	5
農業・農地	5
笑顔	4
便利・利便性	4
環境	3
高齢者	3
子供	3
コンパクト	3
未来世代、未来に向け、未来につながる	3 2 2
おいしい	2
観光	
健康	2
健全	2
工業	2
自分で考え・自分の考え	2 2 2 2 2 2
充実	2
助け合う・助け合い	2
楽しい	2
緑・緑豊か	2 2 2 2
皆で・皆で協力	2
魅力・魅力あふれる	$\frac{2}{2}$
歴史 # #	$\frac{2}{2}$
若い・若者	2

# ② 第2回

# まちづくりの方向性

第2回まちづくりワークショップで検討された、各分野における今後のまちづくりの方向性は以下のとおり。

# (ア)子育て・教育・文化グループ

子育で・教育・文化の分野についての今後のまちづくりの方向性を検討した当該グループ においては、次の方向性と意見が出された。

今後のまちづくりの方向性と主な個別意見(子育て・教育・文化グループ)

方向性	意 見
	PTAの協力体制が良い
	PTA役員にメリットがほしい
\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	小学生からiPadを用いた授業を実施する
学校環境の充実・ 学校教育への理解	寺社が多いことを活かし、寺社のマップを作成する
	Wi-Fi環境を市の全施設で整備する
	学校で実施されている体力コンテストを広める
	職場体験学習を少し多くしてみた方が良い
	運動場をもっと活用する
	ドイツ村の遊具充実
施設の充実①	アスレチック(迷路)等のパークがあれば良い
(子どもも遊べる	映画館・ボーリング場が欲しい
商業施設)	本屋が欲しい
	千葉市の科学館、きぼーるのような場所があると良い
	古い施設を再利用する。お金をかけずに屋内施設を作る
	室内で遊べるところが欲しい
施設の充実②	自習スペースを多くして欲しい
(子育て関連施設)	子連れで図書館を利用しづらい
	子ども館の小学生バージョンがあると良い
	保育所の多さをアピールする
	農業のブランド化(品種だけではなく、作り方までアピールする)
地産地消 アピール(食育)	市民会館のレストランを再利用し(例えば、給食食堂など)、地域交流の場にする
	直売所のPRをする
自然の活用	自然が多いことを活かし、これを利用したイベントを開催する
日然の位用	椎の森を活用する。自然と触れ合える素晴らしい場所である
	バス等により児童館などの送迎があると良い
	高速バスで、袖ケ浦バスターミナルと木更津間のみの利用を可能にしてほしい い
交通の充実	平岡・中富地区と昭和・長浦地区の差を埋めるべき
	アクアライン鉄道の開通を目指して欲しい
	小学生が利用できるフリーバスを運行すべき
こびない袖ケ浦	外部に対応するのではなく、理解してもらう方向を重視する

# (イ)産業・環境グループ

産業・環境の分野についての今後のまちづくりの方向性を検討した当該グループにおいては、次の方向性と意見が出された。

今後のまちづくりの方向性と主な個別意見 (産業・環境グループ)

方向性	意見
	娯楽施設(カラオケ、ボーリング場等)を整備する
施設の充実① (コミュニティの	袖ケ浦駅にオープンPCルーム、カフェ、Wi-Fi等を整備する
場所作り)	市内に大型のスポーツ施設をつくる
	有名チェーン系のカフェやネコカフェをつくる
	公共のスポーツ施設に若い世代優先の日、時間を作ってほしい
施設の充実②	公園の遊具少ない
(スポーツ関連)	スポーツジム、スポーツイベントの不足
	公民館にスポーツ用品→貸し出し可能に
施設の充実③	蘇我や五井にあるような商業施設群(モール)を作る
(商業関連)	スーパーに袖ケ浦産の農作物を置いて販売してもらう
商業	宅配、出張販売事業を強化する
何未	大型店と地元商店が連携すべき
アクセス	袖ケ浦海浜公園へのアクセスを改善する
	袖ケ浦海浜公園でイベントを開催(誘致)する
イベントの充実	市内で各種イベント(音楽、落語、漫才、料理、スポーツ大会、歌等)を開催する
	クリーンセンターの見学会を行う
	袖ケ浦市も市原市と同じように、買物袋をゴミ袋として使えるようにする
ゴミ・環境保全	レジ袋を有料化し、ゴミ袋として使用できるようにする
	市内にゴミ箱を多く設置する(コンビニではなく市が設置) 例:カナダでは、300メートル間隔で家庭用ゴミ箱が設置されており、他人も 捨てられる
	民泊制度を普及させる
	高速バスの降り場付近にカーシェアリング用の施設を整備する
市外からの観光客 への対応	高速道路の出口に農産物直売所を作る
ママの 対応	農家レストランを開設する
	市内飲食店での地元食材を使用する
	地元での職場に特化した説明会を開催する
PR強化	観光協会に所属していない施設・場所もPRするガイドブックがほしい
	テレビ・ラジオへの露出を増やす
7. 10 like	里山整備体験を実施する
その他	種苗会社の農場を誘致する

# (ウ)保健・医療・福祉グループ

保健・医療・福祉の分野についての今後のまちづくりの方向性を検討した当該グループに おいては、次の方向性と意見が出された。

# 今後のまちづくりの方向性と主な個別意見 (保健・医療・福祉グループ)

方向性	意  見
	小学校内での学童保育の充実
	病院間の連携促進
市内のサービス (医療,福祉)	
( , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	巡回医療を充実させる
	待機児童ゼロを目指す
	世代間交流の機会を増やす
	子供会の活発化を促す
	ご近所とのコミュニケーションの重要性を感じている
	地域内での情報共有(「こういう施設がある」等)を促進させる
(ソフト面)	ファミリーサポートセンターを拡充させる
	公民館(特に屋内)をフレキシブルに開放する
	ボランティア活動の推進を大いに図って欲しい
	自治会活動の活性化を目指す
	子ども向けの広場を整備する
	シニア向けの交流センターをつくる。公民館の一室でも可
り (ハード面)	過疎化地域に広場的なグラウンドを整備する
	高齢者が楽しく運動ができる場所をたくさん作って欲しい
	運賃100円程度のバスを運行させる
	介護タクシーを活用する
交通アクセス	病院同士の移動用バスを運行する
	昭和地区と平川地区の格差をなくす
	各施設を利用しやすくするための交通手段(バス等)が必要
	市内に「こういう施設がある」ということを市民向けにPRする
to to as a second	子育てにかかる金額のモデルケースを提示する
市内サービス (アピール・案	子育てママや高齢者向けの移動スーパーを導入する
内)	市内の施設を周知するために、市民向けのツアーを組んだり、学校で連れていく
	健康でいるためのプランをつくる
	病院などの紹介資料を作成する

# (エ)都市形成・都市基盤・防犯・防災グループ

都市形成・都市基盤・防犯・防災の分野についての今後のまちづくりの方向性を検討した 当該グループにおいては、次の方向性と意見が出された。

# 今後のまちづくりの方向性と主な個別意見(都市形成・都市基盤・防犯・防災グループ)

方向性	意  見
	防犯カメラの設置
	防犯灯の増設
防犯対策の強化	袖ヶ浦高校の付近での不審者対策を強化する。暗い所等
が危が来りまし	暗い所が多いため、防犯灯を増やしてほしい
	交番に人が常駐していないため、防犯が不安である
	犯罪の温床となる空き家の対策を強化すべき
   公共交通の充実	路線バスの本数を時間帯に応じて変更する(昼は減便、朝・夕方・夜は増便)
公共文通の元夫	路線バスの本数や路線を増やす
	商業利便性を向上させる
商業環境の整備	商業施設を誘致する
何未來境の金매	買物が不便である。高齢者が歩いて行ける所が少ない
	袖ケ浦北側駅前の開発を進める
医療環境の充実	市内の産婦人科がなくなった
区原承境の九天	病院が歯医者だけである
	防災対策に大分力を入れているが、まだ不十分である
防災対策の強化	災害用持ち出し袋の常備を啓発する
	近助(近所での助け合い)活動を広げる
   道路整備の充実	旧道や歩道の整備を進める
追跖歪曲の九天	カーブミラーの整備(向きが合っていない所や、汚れにより見えない所がある)
公園の利活用	袖ケ浦海浜公園の活用
	市街地の集約化を進める
その他	地区格差を是正する
CVIE	施設の不足している地区への対応を進める
	長浦駅前の利便性を向上させる

# (才)地域コミュニティ・協働

地域コミュニティ・協働の分野についての今後のまちづくりの方向性を検討した当該グループにおいては、次の方向性と意見が出された。

今後のまちづくりの方向性と主な個別意見(地域コミュニティ・協働グループ)

	意見
方向性	意 見 行政と住民との話し合う場所をもっとオープンにする
市民参加 〜自立の実現〜	課題解決の入口でとまってしまっていて、後は行政頼みとなっている。市民が自立してい
	ない(※「自立」は現行総合計画の基本理念の一つ)
	多くの市民の意見があるが、それを活かして次のステップへ進める仕組み、仕掛けがない
	市民と行政とのスキ間を埋める仕組みが機能していない
<b>本宝したコミュニ</b>	市の強みである自然や食事を生かしたイベント、施設を増やす
	コミュニティを強くして行事を増やす
	公民館等で、色々なイベントを行っているが、もっと増やしてもらいたい
	住民に地区の祭り、盆踊り等に参加していただくよう促す
	中心になる人が上下関係にならないことが重要である
	区の老人会でいろんな行事等を企画し、年に2,3回行なってもらいたい
	自治会の班単位での小さな集会・行事(草取り、会議など)でつながりを深めるのが良い
	地区の課題を解決するリーダーがいない(少ない)。育てる仕組み・仕掛けがない
	コミュニティ内でのリーダーの「育成プログラム」のようなものを開催する
	ボランティアの活性化が重要である
	新しく袖ケ浦市に住む人を中心としたコミュニティをつくる
	各コミュニティ(サークル活動など)をつなげるイベントを開催する
	学校行事などのPRや参加などでつながりを増やす
	参加者が片寄らない基準を考える
	年齢関係なく参加できる内容にできれば良い
人をつなぐ	ピンポイントで人と人をつなぐ (人と人とが関わりやすい)
	市民を講師にした様々な分野のイベントを開催する
	趣味や得意なことを生かす機会を増やす
	個人や団体の得意分野を生かすイベントを行う
	子育ての仕方等、年配の方の知識を若者や若い母親、父親に伝えていく場を設ける
市外勤務者向け アプローチ	市外勤務者(サラリーマン)の意識を向けさせる
若者向け アプローチ	学生向けに、各職業に携わっている人とのコミュニケーションの場を設ける(未来をえがきやすい)
	学生の学んでいる分野を生かせる、学生が経験を積める場をつくる
	中学生、高校生の間に、地域に関わる機会が必要
	祭りに若者が出店を!
高齢者への配慮	高齢者が昔遊んだ内容を復元して子どもに伝える
	年配の1人暮らしの方への声がけ
PRの強化	コミュニティ参加へのPRを強化する(地域や年代に合わせる)
	地区の子供会でキャンプ等をやっているので、市外の方等も参加できるようにする
	ネットを使って、身近なニュース、情報、出来事などを軽いタッチで発信する
	行政運営の内容を公開する場所を設置してほしい
	駅前に働ける場を充実させてほしい
	みんなで助け合える、家族のような市になってほしい

# b. 本市の将来像・キーワード

第1回目にキーワードを検討した次期総合計画の将来像(どのようなまちになって欲しいか)をセンテンス、文章形式で記入シートを用いて個別に記載いただいた。

(注) 将来像は、グループの分野に関係なく、全分野について検討している

# 本市の将来像・キーワード

# ①子育て・教育・文化グループ

自然と触れ合う機会の多い子供時代を過ごせる街

生涯を通して安心安全なものを口にできる

自然が身近、でも大都市にも近い利便性の良い街

経済面でも環境面でも安心して子育てできる街

自然豊かな、明るい町

活気ある、住みたい、笑顔あふれる袖ケ浦

自然あふれる 安全で明るい袖ケ浦

地域ぐるみで子育てできる まち

子どもから高齢者まで 仲良くすめる まち

自然豊かで暮らしやすいまち

# ②産業・環境

住みやすく、明るい環境、笑顔あふれる袖ケ浦

育てる、作る、食べる、おいしい袖ケ浦

都心から近いので袖ケ浦の素敵なところをさがしに来て!!

緑と施設が共存する町 袖ケ浦

おはようからおやすみまで 住み良い町 袖ケ浦

みなぎる夢 あふれる自然

住みよいまち

自慢できるまちへ

袖ケ浦市→都会から来たくなる 田舎の雄

あふれる活力 安心生活 人と絆の袖ケ浦

緑豊かな ふれあえるまち

# ③保健・医療・福祉

豊かな施設

つながり

みんなやさしい

人とつながりたいなら 袖ケ浦

自然が豊かで子育てのしやすい町

福祉と安心のまち

共に助け合い 活気あふれる袖ケ浦市!!

赤ちゃんからお年寄りまで、障がいのある人もない人も、心と体が元気でいられる町に

人との繋がりがあたたかい町に

1人1人の個性や秘めた力が発揮できる町に

便利で住みやすい町に …そんな袖ケ浦になってほしいです

この街で育ち、住み、暮らし、世界に羽ばたく

安心して暮らせるまち

働きやすいまち

子育てしやすいまち

元気なまち

# ④都市形成·都市基盤·防犯·防災

「皆の街 袖ケ浦」 市民が協力し合い造る街

「I LOVE 袖ケ浦」 市民の皆が愛する街

「移住したくなる街づくり」

「活力・豊かさ・安心感のまち」

「未来につなげる街づくり」

「安心して暮らせる街・袖ケ浦」

公共交通機関の充実した袖ケ浦市

商業施設の利便性の良い袖ケ浦市

他に依存しない 独立・完結した市

実現不可能な発展をあきらめて、衰退をできるだけゆるやかにした市

無駄を減らして集約した市

企業と緑、交通利便の街 袖ケ浦

緑豊かで笑顔あふれる袖ケ浦

海と山(緑)と自然に囲まれた活力みなぎる袖ケ浦

頼れて楽しい袖ケ浦 ご近所さんと仲良く、協力ふれあいの和

住みやすいまち 面積は小さい、器はでかい

住み続けたい街 袖ケ浦 いつも子供達の笑い声や遊ぶ姿が見える 誰にでも優しい街

# ⑤地域コミュニティ・協働

住民が安心して生活できる町

明るく安全な町づくり

市政にたよらず 住民中心 コミュニティ環境づくり

明朗で楽しい政治と楽しい住民生活

正しい政治、正しい生活、正しい経済

行政、住民が理解し合える生活基盤

「風通しの良い街」

「自立と協働のまち PartⅡ」

地域の課題解決に向けて、市民・行政・企業一丸となって質を高め、取り組み、自ら が誇れる(誉れる)まちをつくる

地域で助け合う

自然を活用する

元気なまち

安心安全なまち

様々な世代間のコミュニティの活性化

自然豊かな袖ケ浦

緑豊かな袖ケ浦

優良な観光資源の袖ケ浦

元気飛びかう街 はばたく

共助から自助へ

開かれた行政、集い合う市民

年齢を気にせず 人と人とがつながっていける地域

愛着や関心を持って、住み続けられる袖ケ浦市へ

人々が輝ける場を

緑あふれる、人がつながる そでがうら

人と人がつながれる、あたたかいまち そでがうら

おもいやり たすけあい えがおあふれる そでがうら

#### ③ 第3回

- 『目指すべき方向性実現のための具体的手法の検討』
- (ア)「子育て・教育・文化」グループ
- ●今回選んだ「目指すべき方向性」(検討テーマ)

### 学校環境の充実・学校教育への理解

→上記「日相りへき	<u>「万问性」を実現するための具体的手法</u>
1.「目指すべき方 向性」の狙い (何のために? 誰のために?)	<ul><li>●ゆとりある子育ての実現</li><li>●教育環境の保護者への情報提供</li><li>●子どもの学習環境向上(自習しやすい環境づくり)</li><li>●子どもと地域住民との交流</li><li>●市外へのPR(教育環境の充実によるイメージ向上)</li></ul>
2.具体的な取組みの内容(何をする?)	<ul> <li>●市民の学校教育への参画促進・学校側と親とのお互いの情報提供・PTAの充実・学校行事等への積極参加</li> <li>●市民・市外へのPR・児童見守りボランティアの活動のPR・袖ケ浦の良さをPR(待機児童が少ない、寺社が多く文化を学ぶ機会が充実)</li> <li>●ハード面の整備・大学・専門学校の設置(生涯を通しての学校教育を目指す)・公共施設へのWi-Fiの設置・電子黒板等の利用</li> <li>●教育カリキュラムの充実・授業で使用する資料(副読本、参考資料等)の拡充・公民館サークル等と協働した社会学習の実施</li> </ul>
3.取組みの実現に向けた役割	【市民等】  ●行政への提案(実現すると魅力的であると思うこと、Wi-Fi 環境を整備すべき場所など)  ●学校教育のサポート(社会学習への協力、資料の提供)  ●イベントのサポート(イベント内容の提案、協力)  【行政】  ●親・学校・ボランティア同士の情報交換の場の提供  ●情報の発信(市民へ既存の制度を効果的に周知、市外へ子育て・教育環境をPR) ・広報誌の利用 ・HPの活用  ●イベントの開催・活用 ・袖ケ浦公園での社会学習 ・アクアラインマラソンの手伝いボランティア募集・活動による市民同士のマッチング  ●情報メディアの充実(Wi-Fiの増設、i Pad のレンタル)  ●大学等の設置にあたって、市民が学びたい内容の収集

## (イ)「産業・環境」グループ

### ●今回選んだ「目指すべき方向性」(検討テーマ)①

### 施設の充実

一工記「日相りへき方向住」を実現するための具体的手法				
1.「目指すべき方 向性」の狙い (何のために? 誰のために?)	<ul><li>●市民向け:若い世代のため</li><li>・健康志向をもつ市民</li><li>・子どもと親</li><li>●市外向け:観光・来訪につなげるため</li></ul>			
2.具体的な取組みの内容(何をする?)	<ul> <li>●道の駅・直売所の充実 ・バスターミナル、I C付近など ・情報発信の拠点とする</li> <li>●集まれる場所の確保 ・駅のオープンルーム(市) ・カフェ等(民間)</li> <li>●既存施設のリフォーム・活用 ・運動場、ガウランド、公民館など(市)</li> <li>●市民会館の建替 ・文化・防災・スポーツ・イベントに通じる</li> </ul>			
3.取組みの実現に 向けた役割	<ul> <li>【市民等】</li> <li>●生産者や飲食店の協力(出品など)</li> <li>●民間企業の適正な入札</li> <li>●意見・アンケート協力</li> <li>【行政】</li> <li>●会場,イベント施設等の建設</li> <li>●既存施設のリフォーム、利便性向上</li> <li>●地域団体等へのPR</li> </ul>			

# ●今回選んだ「目指すべき方向性」(検討テーマ) ②

### イベントの充実

1.「目指すべき方 向性」の狙い (何のために? 誰のために?)	<ul><li>●市民や市外住民のため</li><li>・市民や市外住民に楽しみを提供する</li><li>・地元がテレビに出る</li><li>●有名になりたい人(インディーズのバンドや芸人等)やオタクのため</li><li>・イベントに出演することで知名度が上がる</li><li>・アイドルに会える、聖地巡礼を楽しめる</li></ul>			
2.具体的な取組みの内容(何をする?)	<ul> <li>「○○サミットのまち」になる (=イベントを企画しやすい雰囲気) ・ご当地アイドル ・バイク (千葉フォルニア、袖ケ浦フォレストレースウェイを活用) ・アニメ (PRにも活用)</li> <li>●日帰りバスツアー ・農業体験を実施 ・都民をターゲット</li> <li>●フィルムコミッション ・市内で撮影があった際、市民にも周知する ⇒盛り上げに貢献、市民の楽しみにもなる</li> </ul>			
3.取組みの実現に 向けた役割	<ul> <li>【市民等】</li> <li>●ボランティアやエキストラとしての参加</li> <li>●農業体験での農家の協力</li> <li>●レストランなど食べる場所の提供</li> <li>●グッズを作って販売</li> <li>【行政】</li> <li>●イベントをする場所の整備</li> <li>●市内野菜(農産品)の活用促進、食育の実施</li> <li>●アイドル等の出演依頼、番組誘致</li> </ul>			

### (ウ)「保健・医療・福祉」グループ

### ●今回選んだ「目指すべき方向性」(検討テーマ)

市民向けサービスの充実(医療・福祉サービスの提供面、案内・PR面)

<u>⇒上記「目指すべき方向性」を実現するための具体的手法</u>				
1.「目指すべき 向性」の狙い (何のために 誰のために	<ul><li></li></ul>			
2 具体的な取組 の内容 (何をする?)	【医療・福祉サービスの提供面】 ●地域包括ケアセンターとの連携 ●巡回医療の担い手確保 ・巡回医療を、看護師等でなく、無資格者でも行えるようにする ●病院間の連携(特に小児科・外科) ・休診日が重ならない様にする(各地区ごと) ●現役世代の負担を減らす ・預けやすい学童作り(学校や職場に近い場所に設置) ・学童保育の待機者や、保育園の待機児童へのフォロー ⇒ファミリーサポートの案内 ●移動スーパーの実施 ●休眠施設の活用 ●施設利用者へのアンケート実施 ・利用者に利用施設の善悪(改善点)を記入してもらい、案内文に掲載 ・運転が出来なくなった時の生活への対応を検討 【案内・PR面】 ●行政サービスの情報を複数のメディア・施設から発信 ●施設の案内紹介資料の作成 ・内容は市民向け(大人から子供まで幅広く対象とする) ・施設の活動案内の提示			
3.取組みの実践	【市民等】  ●地域の問題に目を向ける ・近所にある休眠施設の情報提供、利用の方向性の提案  ●行政との問題共有			

# 3.取組みの実現に向けた役割

#### 【行政】

- ●市民の参加を得られやすい情報提供
- ●休眠施設の活用の方向性を決定

### (エ)「都市形成・都市基盤・防犯・防災」グループ

### ●今回選んだ「目指すべき方向性」(検討テーマ)①

### 防犯体制の強化

- 工能・自用グーでの同性」を入犯グーででの公共所引き入				
1.「目指すべき方 向性」の狙い (何のために? 誰のために?)	●犯罪防止・犯罪抑止 ⇒安心して暮らせる市民生活を守る ⇒人口増加にもつながる			
2 具体的な取組み の内容 (何をする?)	【ハード面】 ●街灯の増加 ・防犯灯、防犯灯の増設 ●防犯カメラの設置、ミラーの増加  【ソフト面】 ●警察機能の向上 ・交番への警察官常駐 ・交番の増設 ・警察官の増加 ・路上駐車対策の強化 ・パトロールの強化 ・グ通事故減少対策 ●市民と行政の連携 ・防犯協会との連携 ・防犯協会との連携 ・自治会等への働きかけ			
3.取組みの実現に 向けた役割	【市民等】 ●住民間の声掛け ●市民によるパトロール活動の実施 ●隣近所の空き家状況の確認  【行政】 ●ハード面 ・防犯灯、防犯カメラ、防犯ミラーの設置 ●ソフト面 ・警察官の増員 ・行政によるパトロールの強化(市民・行政、それぞれが行う)・空き家状況の確認(市民・行政、それぞれが行う)・ 防犯教育の推進 ・児童への防犯ブザーの必携と、実際に使えるような訓練の実施・防犯対策モデル地区の設定			

### ●今回選んだ「目指すべき方向性」(検討テーマ)②

### 公共交通の充実

1.「目指すべき方 向性」の狙い (何のために? 誰のために?)	<ul><li>●交通弱者(高齢者・学生・乳児をもつ親)の利便性向上</li><li>●それによる地方(市内の都市部ではない地域)の活性化</li></ul>			
2 具体的な取組みの内容(何をする?)	<ul> <li>●バス・タクシーの充実 ・バスではなくワゴン車での運用 ・乗り合いタクシー ・乗り合いバス ・タクシーとバスが合体したようなものをつくる (アニメで取り上げられたデマンドバスのイメージ)</li> <li>●路線バス ・路線バス ・路線バスの増便 ~運賃の値下げ→利用者増(交通事故減少の効果も) ・バスの時間帯による本数の増減(利用者数の調査を) ・ワンコインバスの導入 ・学生の下校時のバス便の充実</li> <li>●目的地の追加 ・バスルートの選考(利用状況の調査を)</li> <li>●バリアフリー化</li> </ul>			
3.取組みの実現に 向けた役割	【市民等】  ●公共交通の利用促進(企業の通勤も含めて)  →バス利用者増 →バス事業の安定化 〜好循環につなげる  ●民間人による公共交通の仕組みを考える  (例)民間人がタクシーを運転できるような規制緩和  【行政】  ●路線バス以外の公共交通手段の検討  ●バスルートの再検討  ●交通弱者対策としてのバリアフリー化の推進  (例)ノンステップバス導入の促進  ●路線バス会社への支援の拡充			

#### (オ)「地域コミュニティ・協働」グループ

#### ●今回選んだ「目指すべき方向性」(検討テーマ)

#### 人をつなぐ

#### ⇒上記「目指すべき方向性」を実現するための具体的手法

- 1.「目指すべき方 向性」の狙い (何のために? 誰のために?)
- 1.「目指すべき方 ●人とのつながりが幸福感、励みにつながる
  - ●住民による共通課題の解決、市の盛り上げ
  - ●災害時などの共助
  - ●地域の伝統・文化を維持する

#### ●コミュニティ活動の推進

- ・市民の意識・関心を高める(ともに学びながら高めていく仕組み)
- ・地域振興活動やイベントを人に知らせ(声かけし)、多世代の交流を 行う
- ・仲良しクラブを超えたサークル・グループを呼びかけ、作る
- ・公民館等の地域拠点を有効活用する

#### ●参加拡大・ひろげる

- ・市民が情報を取り入れるとともに仲間を誘い込む
- ・市民活動の合同 P R 会の開催 (意見交換の場、発表の場を設けることで活動内容の充実とともに、新たな参加者を集める)
- ・専門的な知識を不要にする (参加のハードルをさげる)

#### ┃●イベント内容の充実・仕組み改善

- ・多様な地区イベントの実施(多くのイベントを用意する、やりがいを持てるような多様なイベント、多くの人が積極的に参加する内容を考える)
- ・市民をひきつけるイベントの開催
- ・長続きする企画を目指す
- ・既存サークル活動の活性化
- ・多様性を持たせる(サークル・ボランティアなどの活動)
- ・おかれている立場別(性別、年齢、職業、居住地等)の集まる場を 設ける(曜日・休み・時間などを考慮)
- ・シニアクラブと子ども会とのコラボを地域で企画し世代間交流を図る

#### ●リーダー育成

- ・地域活動に参加したい(している)方にリーダーを紹介(他地域と の交流も含めリーダー育成やコミュニティ発展を図る)
- リーダーの育成
- ・リーダーの選出が一部の方に偏らない人選 (専門分野のリーダーを 依頼し、多様な方が自身のスキルを活かしたリーダーとなる)
- ・リーダーの養成の点でも市民の意識関心を高める

### 2 具体的な取組み の内容 (何をする?)

	● P R						
	・コミュニティ参加へのPR(ネットを活用した地域情報発信や、ポ						
	スター作成)						
	・事業者との協力(店舗など等での PR)						
	・市民への情報公開(結果だけではなくプロセスも含めて)						
	・PR 方法の検討(口コミでは限界があるため行政からの案内でも見						
	たくなるような多様な手段)						
	・世代に合った情報の公開をする(SNSの活用等)						
	【市民等】						
	●いろんな世代が参加できるようなイベントの開催						
	●声がけをする						
	●リーダー育成 (積極的な参加)						
3.取組みの実現に							
向けた役割	【行政】						
	●業種・世代にあわせた P R						
	●市民活動の合同PR会を開く (宣伝)						
	●市民がつながる市民大学の開催						
	● 11 12(1 2 1 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						

- ▶ 本市が目指すべき将来の姿(将来像)についてのディスカッション
- (ア)「子育て・教育・文化」&「保健・医療・福祉」グループ
  - ※将来像は、グループのテーマに関係なく全分野について検討

#### ●ディスカッションで寄せられた意見が多かったフレーズ

#### この土地で共に生きよう 袖ケ浦 「集え」「We ♡」

#### (フレーズに対する意見)

- ・呼びかけるフレーズがあると頭に残りやすい
- ・どの市も似たようなフレーズが多いので、インパクトがあるフレーズだと印象に残る

#### 産業と 自然が交わる 袖ケ浦

#### (フレーズに対する意見)

- ・自然と工業が両立している所は袖ケ浦の魅力の一つ
- バランスが取れていて良いフレーズ

#### 住めばわかる 子育てしやすい 袖ケ浦

#### (フレーズに対する意見)

・「住めばわかる」というフレーズは市の自信が感じられてとても良い

#### ●グループ内であげられたその他のフレーズ

安心・安全 未来に続け!! 袖ケ浦

助け合い 豊かな安心 袖ケ浦

地域で子どもを育てていく

住んでほしい 住みたい 住み続けたい

#### ●フレーズに対するその他の意見

多くのフレーズにある「住みやすいまち」というのは共通の魅力

#### (イ)「産業・環境」グループ

※将来像は、グループのテーマに関係なく全分野について検討

#### ●ディスカッションで寄せられた意見が多かったフレーズ

#### 「住みよい緑と生活 生活都市 そでがうら」

#### (フレーズに対する意見)

- ・都心からのアクセスが良い
- 緑が多い

#### みんな おいで 袖ケ浦

#### (フレーズに対する意見)

- みんなに来てもらいたい
- ・サミットの開催地を目指す
- ・全国のご当地アイドル大集合!!

#### 育てる 作る 食べる おいしい自慢のまち 袖ケ浦

#### (フレーズに対する意見)

- ・選り取り見取りの野菜がとれるので
- ・食育

#### ●グループ内であげられたその他のフレーズ

#### 良いまち 袖ケ浦

「都会から来たくなる地方都市」

人が繋がる 人が集う 地方都市 そでがうら

#### (ウ)「都市形成・都市基盤・防犯・防災」グループ

※将来像は、グループのテーマに関係なく全分野について検討

#### ●ディスカッションで寄せられた意見が多かったフレーズ

#### 皆で作る 楽しいまち 袖ケ浦

#### (フレーズに対する意見)

- 協働のまちづくりを推進する
- ずっとここにいたいと思わせるまちづくり

#### 行ってみたい 住みたいまち 袖ケ浦

#### (フレーズに対する意見)

- ・大型イベントが開催され、東京ドイツ村があり、自然も多い
- ⇒観光の魅力度が高い
- ⇒利便性が良いので移住も促進(交流人口の増加によって)
- ・定住人口の増加につながっているフレーズで良い

#### ●グループ内であげられたその他のフレーズ

企業と緑子育てのまち未来へつなぐ光輝くまち袖ケ浦(意見)

- ・本市は、企業が多いし緑も多い
- ・企業が多いと人が集まり、子育ても充実する ⇒ 未来へつながる
- ・「企業」というフレーズは画期的(本市の特徴でもある「袖ケ浦=「企業」を否定しない」

#### 移住したくなるまちづくり

(意見)

・袖ケ浦は人がまだ少ない。人口が増えると利便性も上がるので

頼れる 安心 楽しいまち 市民で協力・ふれあいの袖ケ浦

(意見)

- ・市が主体となることも、市民が主体となることも、どちらも行えることで良いまちが作ら れる
- ・市民が自発的にというキーワードが良い(協力)
- ・「楽しい」というキーワードは良い(ずっとここにいたいと思わせる)

#### (エ)「地域コミュニティ・協働」グループ

※将来像は、グループのテーマに関係なく全分野について検討

#### ●ディスカッションで寄せられた意見が多かったフレーズ

#### 私もあなたも輝く街 袖ケ浦

#### (フレーズの根拠・キーワードの意味)

・人とのつながりが幸福感ややりがい、達成感にもつながる

#### (フレーズに対する意見)

- ・「私も」が入っていると新鮮でわかりやすい
- ・「私も」が市民が当事者となっている点が良い

#### コラボレーション ~市政・行政・地域~

#### (フレーズの根拠・キーワードの意味)

・若い人に入ってきやすいフレーズ。市民間、市民と行政、他地域とのコラボレーション

#### (フレーズに対する意見)

・最近の言葉であるが説明せずにわかりやすい

### 人と絆で造る街 袖ケ浦

#### (フレーズの根拠・キーワードの意味)

・人と人をつなぐ、絆を考えてまちであって欲しい

#### (フレーズに対する意見)

- わかりやすい、人と絆は大事なワード
- ・フレーズとしてまとまっている

#### ●グループ内であげられたその他のフレーズ

安心・安全なまち

笑顔あふれるまち

活力あふれるまち

緑豊かな 住みやすいまち

緑あふれる 優しさあふれる 袖ケ浦

多様な市民の意見が合意形成により市政に反映できるまち

共生産(きょうせいさん)※

※協働という言葉のイメージがわかないため、一緒につくろうという意見をこめた造語

安全で生長(せいちょう)※する街 袖ケ浦

※長く生きる、成長するという意味

多様性と合意形成のまち

#### 2. 年代別市民座談会

#### (1) 開催目的

今後のまちづくりにあたり、年代別のテーマを設定し、それぞれの年代の立場から重要 と考えることをワールドカフェ方式で話し合っていただき、総合計画の策定に役立ててい く。

テーマ1:若年層の人口流出抑制(10・20歳代)

テーマ2:子育て世代が求めるまちづくり(30歳代)

テーマ3:住み続けたいまちづくり(40・50歳代)

テーマ4: 高齢者が元気に活躍できるまちの実現(60歳代以上)

#### (2) 開催日時、場所及び参加者数(まちづくりワークショップに引き続き開催)

	開催日時	会場	参加者数
第1回	平成29年12月16日(土)	市民会館	27人
第2回	平成30年1月27日(土)	市民会館	25人

※参加者…市民アンケート対象者及び広報等による募集

#### (3) 実施内容

第1回 年代別テーマの課題・問題点の議論と、他年代テーマの対応策検討

ア:年代別市民座談会の概要について説明

イ:参加者を年代別に分け、各年代に配置した進行役のもと、自身の年代に直結するテーマに沿った課題・問題点を討議

ウ:自身の年代以外のテーブルに移動し、それぞれの年代が掲げた課題・問題点に対する 対応案を議論

エ: すべての年代を回った後に、各年代が掲げた課題・問題点と、他の世代からの対応案 について、グループごとに発表

#### 第2回 年代別テーマの対応策を検討

ア:第1回のふりかえり

イ:第1回で掲げた課題・問題点に対し、他年代の対応策を参考に、自身の年代で対応策 を検討

ウ:課題・問題点と、その対応策について発表

# (4) 年代別市民座談会結果

テーマ 1: 若年層の人口流出抑制 (10・20 歳代)

第1回		第2回
10・20 歳代による	課題に対する	10・20 歳代による
課題・問題点の提起	他の年代からの対応案	課題に対する対応策の検討
家から通える範囲に大	工業系の学校を作る(30歳代)	● 大学も良いが、市外か
学がない (少ない)	▶ 企業の従業員が通うコースを作る	ら戻ってこられる方が
	(30 歳代)	良い
	▶ 市内に建てた大学に通うのではた。	1
	く、色々と市の外を見てきた多株	兼
	な人材に帰って来てもらう(60 点	支
	代以上)	
交通の便をより良くす	既にアクアラインが便利である。	る ● 「東京湾の中心」アク
べき。東京の西側に行	が、電車もあれば良い(40・50 点	大 アラインの真ん中であ
きにくい (通えない)	代)	る
	<ul><li>今でも便が良く、良さがわかる。</li></ul>	人 ● アクアラインを使えば
	はわかる。東京と同じインフラを	を 電車への乗りつぎも意
	求める必要はない(60歳代以上)	外と良い
		● 高速バスの料金が高い
		ため補助があると良い
		(通勤、通学)
若者目線でのまちづく	▶ 駅前に若者が集まれる環境がある	る (対応策の検討なし)
りができていない。ち	とよい(30 歳代)	
ょっと遊びに行けると		
ころがない		
人生が市の中で完結す	ここの良さに気付いてもらうこと	● アクアラインの活用、
るビジョンがない。住	が大事。その上で、同じ価値観る	き 高速バスに乗るまでを
み続けられない	持っている人に住み続けてもら	う
	(60 歳代以上)	● 両親は安全・防犯・子
		育ての面を重視(利便
		性を捨てた)
		● 親のビジョンを聞くの
		も良い

第1回		第2回
10・20 歳代による	課題に対する	10・20 歳代による
課題・問題点の提起	他の年代からの対応案	課題に対する対応策の検討
まちに特徴がない	▶ 若者が将来戻ってくる魅力	● 市に来るきっかけが大事
	や、親世代が自慢できるもの	<ul><li>大きな施設をわざわざ市に</li></ul>
	を一つでも二つでも作ってい	造らなくてもよい
	く(40・50 歳代)	● 袖ケ浦駅前で、ちょっと待
	▶ 魅力あるまちであれば、何も	てるような施設があると良
	なくても帰ってくる人はいる	い (カフェ)
	(60 歳代以上)	● 高速バスなどの利便性を売
	▶ 自分たちがここに住んでいる	れば良い
	思いを理解してもらう(60歳	● 駅は大きな存在。本市のイ
	代以上)	メージである
		● 房総に行くのに袖ケ浦は真
		ん中である立ち寄れるとよ
		い (高速バス)
		● 田舎と都会、両方の要素が
		あるし、房総や都内など、
		両方に行ける
		<ul><li>● 何もないわけではないし全</li></ul>
		て整っているわけでもない
		「ちょうど良い」が袖ケ浦

第		[10]		第2回
10・20 歳代による		課題に対する		10・20 歳代による
課題・問題点の提起		他の年代からの対応案		課題に対する対応策の検討
その他(テーマに対す	>	一度市外に出た後、プラスワ	•	市外に出て良いが、市内に
る全般的な意見)		ン(配偶者)を連れて戻って		戻ってきたくなる制度
		来てくれると良い。そのため	•	出ることで市内の良さがわ
		に、子育てできる環境を整備		かる
		すべき (30 歳代)	•	高速バス定期補助があると
	>	将来帰ってきた時に、商売な		良い
		どがしやすい環境を作ってお	•	他自治体と比べて良い制度
		く (30 歳代)		(子育て等)
	>	商業施設が進出しやすい環境	•	市外で経験した事を戻って
		を整備する (30 歳代)		きて活かせる環境(職場)
	>	市営施設は充実しているが、		があると良い
		民間施設が乏しい (ジム等)		
		(40・50 歳代)		
	>	出て行くのは悪いことではな		
		い。若者はやりたいことがあ		
		れば、勉強して色々経験する		
		ことも大事(40・50歳代)		

テーマ 2:子育て世代が求めるまちづくり (30歳代)

第1回		1 🛽		第2回
30 歳代による	課題に対する			30 歳代による
課題・問題点の提起		他の年代からの対応案		課題に対する対応策の検討
「子育て環境日本	~	子育て世帯の「移住幸福		(対応策の検討なし)
一」を目指すべき		度」(日本総合研究所)日		
		本一を獲得した福井県は、		
		物価が安く、自然環境に恵		
		まれている。本市も良いと		
		ころを倣うと良いのでは		
		ないか (40・50 歳代)		
	>	何も不安を抱かずに子育		
		てできる環境を整備すべ		
		き(40・50 歳代)		
交通安全や防犯面に	~	学校まで歩道や外灯がな	•	通学路のメイン道路だけで
おいて、子供達に安		いため、安心して通学でき		ももっと外灯がほしい
全・安心なまちづく		る環境を整備する(10・	•	不審者を見かけたら市役所
りを目指すべき		20 歳代)		に知らせるアプリなど
	>	公園の遊具の安全性が不	•	集団下校が少なくなったと
		安であるため、しっかり検		感じる、もっとあった方が良
		査していて安全であると		V
		いうことをわかるように		
		する(10・20 歳代)		
保育所など共働き世	>	学童の時間を延長する	•	働きたい女性、子育てに専念
帯が子育てできる環		(10・20 歳代、40・50 歳		したい女性、各家庭に応じた
境を充実させるべき		代)		支援
である	>	企業内保育所へ助成金を	•	小学校に入ったら仕事に復
		出してはどうか(40・50		帰したい女性もいるため復
		歳代)		帰しやすい支援
	>	保育所と学童の充実は、忙	•	時短勤務、託児あっせんがあ
		しい母親にとって必須		れば働きやすい
		(60 歳代)		

	第	1 🛽		第2回
30 歳代による		課題に対する		30 歳代による
課題・問題点の提起		他の年代からの対応案		課題に対する対応策の検討
市の子育てに関する	<b>A</b>	市の情報をすぐに受け取	•	生活安全メールがあるが知
制度がよく分からな		れるワンストップ窓口を		られていない、もっと制度の
V		整備する(10・20 歳代)		PR をするべき
	>	広報は見ないため、若年層	•	登録時の分類を子育て、30
		が見やすい媒体の活用が		歳代、60 歳代など詳細にす
		必要。希望者のメールアド		る(不要なものが多いと解除
		レスを市に登録して、必要		してしまう)
		な人にメールで配信して	•	広報をもっとおもしろく
		はどうか(10・20 歳代)		
	>	市は、やっていること(事		
		業) は良いので、もっと P		
		Rに力をいれるべき		
		(40・50 歳代)		
子育てにいくらかか	>	高校・大学に行きたい子へ	•	奨学金はみんなもらいたい。
るか良く分からず不		奨学金を出してはどうか		本市に就職することを条件
安である・幼稚園が		(10・20 歳代)		にしてはどうか (市原市の看
高い	>	市のホームページで、子育		護学校の例)
		てにかかる時期ごとの金	•	専業主婦でも入れられる保
		額をシミュレーションで		育園の整備を
		き (グラフ形式で表示)、		
		かつ各ライフステージに		
		おける市の支援制度が分		
		かるサイトを作ってはど		
		うか (30 歳代)		

		第1回	第2回
30 歳代による		課題に対する	30 歳代による
課題・問題点の提起		他の年代からの対応案	課題に対する対応策の検討
その他	>	子供同士で遊べる環境を整備	● 専業主婦でも共働きで
(テーマに対する全		すべきである(10・20 歳代)	もシングルでも、全て
般的な意見)	>	外から移ってきた人や、ママ友	の家庭が子育てしやす
		同士が交流できる場を整備す	い市を目指すべき
		べきである(10・20 歳代)	
	>	わんぱくクエストのように、本	
		市にしかできないイベントを	
		すると良い (10・20 歳代)	
	>	近隣に車で行ける公園を充実	
		させてほしい(30歳代)	
	>	挨拶のできる子供を育てる教	
		育を目指すべき(学校教育だけ	
		でなく家庭や地域での教育を	
		含めて) (30 歳代)	
	>	農業や地域の伝統などを子供	
		に体験させたい (30 歳代)	
	>	市全体での祭りや運動会を開	
		催して地域活性化・他世代交流	
		につなげてはどうか(30歳代)	
	>	市は「子育て環境日本一」を掲	
		げて本気で目指すべき。市民も	
		協力する (40・50 歳代)	
	>	自立性を身に付させるために、	
		もっと野放しにする教育環境	
		にしてはどうか。生きる力をつ	
		ける教育を (60 歳代)	
	>	小中学校は塾に行かなくて良	
		いくらい学校教育を充実させ	
		るべき (60 歳代)	

テーマ 3:住み続けたいまちづくり(40・50 歳代)

Ę	至1回			第2回
40・50 歳代による	誤	題に対する	4	40・50 歳代による
課題・問題点の提起	他の年	代からの対応案	課題	に対する対応策の検討
インフラ整備が高水準	▶ 税金	を下げるなど、定住		(対応策の検討なし)
で、財政も豊かである	を促	進するインセンティ		
	ブを	用意してはどうか		
	(30	歳代)		
商業施設の誘致により、	▶ 産業	広興のためにも、一	• ‡	他元商店街と連携
定住人口も増加するので	つは	大規模商業地を誘致	• =	大規模施設までは不要。
はないか	すべ	きである(30 歳代)	<u>1</u>	旦し生活に必要な規模の
	→袖	ケ浦駅の海側に商業	R	商業施設はあった方が良
	施設	ができれば、新たな	V	``
	施設	は不要ではないか	• 1	内陸部と海側との格差が
	(10	・20 歳代)	đ	あり是正が必要
	▶ 地元(	の商店を振興するた	<ul><li>馬</li></ul>	沢前にはコミュニティの
	めに	は、住民の意識改革	均	易があった方が良い
	も必	要である(低価格、		(WiFi、カフェ等)
	多商品	品の店へ行きがちで	• 1	内陸部は買い物も不便。
	ある	こめ)(60 歳代)	)	ベスも少ないので特性を
			<u> </u>	生かしたまちづくりをす
			~	べき
工業地の整備だけでな	▶ 工業	地までの交通手段を	• 7	入ってくれる人が住み続
く、誘致した企業の従業	便利	こする (10・20 歳代)	ľ	けたいしくみ
員の定住を促進しなくて	▶ 保育	の充実により、主婦	• )	人が住み続けるためには
はならない	も働い	けるようにする (30	履	雇用が必要
	歳代)		<ul><li>● 信</li></ul>	主み続けたいと思うため
	▶ 企業(	の選別も必要ではな	l	こは子どもの頃からの愛
	いか。	地元雇用が多い企	衤	<b></b>
	業を	誘致すべき (60 歳		
	代)			

5	第 1	回	第2回
40・50 歳代による		課題に対する	40・50 歳代による
課題・問題点の提起		他の年代からの対応案	課題に対する対応策の検討
地域コミュニティがしっ	>	地域コミュニティの情報	● 新たな参加者をコミュニ
かりできていないと、居		をインターネットを活用	ティに参加させるしくみ
心地が悪くなる。人との		し発信(10・20 歳代)	(PR、アピール力)
つながりを助ける仕組み	>	自治会組織をもっとわか	● 自治会のメリットを案内
が必要では		りやすく(10・20 歳代)	(災害対策など)
	>	同じ境遇の方が集まるコ	
		ミュニティを支援(10・	
		20 歳代)	
	>	地域で交流できる行事の	
		開催、サークル等のマッ	
		チング(30 歳代)	
	>	仕事、ボランティア情報	
		に、若い時から接する環	
		境を整備(30 歳代)	
	>	若い世代の時に PTA 等	
		の役を経験させるべき	
		(60 歳代)	
	>	好きなことが見つけられ	
		るような仕組みがあれば	
		良い (60 歳代)	
	>	ボランティア活動の活性	
		化による地域コミュニテ	
		ィの充実(60 歳代)	

Ę	第1回	第2回
40・50 歳代による	課題に対する	40・50 歳代による
課題・問題点の提起	他の年代からの対応案	課題に対する対応策の検討
その他(テーマに対する	アクアラインは強みであ	● 地元愛を育む環境作り
全般的な意見)	るため、高速バス定期へ	(転入した方も参加しや
	の補助は有効である(対	すい行事、地域との関わ
	岸への就職にも有利)	り、子供の時の良い思い
	(10・20 歳代)	出作り)
	▶ 市に愛着が持てる教育を	● 地域格差の是正(内陸部
	目指すと良い(30 歳代)	と駅周辺部)
	▶ 椎の森の開発により、イ	● 身近に生活に必要な施設
	ノシシの被害がでてい	がそろっていれば良い
	る。環境整備が必要では	(施設への交通手段を確
	(30 歳代)	保)
	▶ 小規模菜園などを活用	● 地域で何を強みとしどの
	し、定年後も農業に親し	ような方向性を目指すの
	んでもらうことで、定住	かを検討
	につなげるべき (30 歳	<ul><li>車がなくなったら住みづ</li></ul>
	代)	らいため二次交通、足の
		確保が課題
		● 良いところを見直す視点
		も重要
		<ul><li>外から呼ぶためには駅前</li></ul>
		を充実させる必要がある
		(外からの人を呼ぶの
		と、住み続けたいは別)
		● 40~50 歳代は住みやす
		いが、若い人が住みやす
		くするため教育、子育て、
		医療などの対応が必要

テーマ 4: 高齢者が元気に活躍できるまちの実現(60歳代以上)

	第	1 🗓		第2回
60歳代以上による		課題に対する		60 歳代以上による
課題・問題点の提起		他の年代からの対応案		課題に対する対応策の検討
将来も地域の自治会	>	自治会活動に若者を取り	•	自治会費が高齢者に取って
活動を継続していけ		込むべき(10・20 歳代)		は負担が大きいため最低限
る方策を考える必要	>	祭りをやると世代間交流		必要な費用で運営
がある		ができる(高齢者に教えて	•	自治会加入のメリットを伝
		もらう)(30 歳代)		えていく(災害時の共助は絶
	>	新興住宅地では、自治会活		対に必要)
		動が面倒になって引っ越	•	優しいまちづくり (共助)
		した方もいる (30歳代)	•	地元の学校との連携
	>	仲間や近所付き合いがな	•	コミュニティの場として自
		い退職者が地域に入れる		治会は必要(メリットを伝
		体制づくり(40・50 歳代)		え、若者を取り込む)
	>	既に出来上がっている地		
		域コミュニティに入るき		
		っかけづくり(40・50 歳		
		代)		
	>	自治会活動のメニューを		
		増やす (40・50 歳代)		
	>	自治会加入のメリットを		
		口頭で伝える(回覧板は見		
		ない人が多い)(60歳代以		
		上)		
40~50 代からまち	<b>A</b>	地域性から農業が有効。農	•	防災教育を充実させて共助
づくり活動に参加す		産物を活用したコミュニ		の意識を強くしていく
べき		ティをつくる。農畜産物直	•	多忙な年代で活動は困難
		売所ゆりの里を活用		
		(10・20 歳代)		
	>	農産物を利用した食イベ		
		ントを開催(30 歳代)		
	>	困っている人と助けたい		
		人のマッチング (シルバー		
		人材センターなど)(40・		
		50 歳代)		

	第	10		第2回
60歳代以上による		課題に対する		60 歳代以上による
課題・問題点の提起		他の年代からの対応案		課題に対する対応策の検討
世代交流の場がない	>	高齢者を講師にした小学	•	多世代が参加できるスポー
		校への出前授業(10・20		ツイベントの開催 (袖ケ浦と
		歳代)		いえば「このスポーツ」とい
	>	小学校で学校が企画した		うスポーツイベントをつく
		高齢者との交流の場があ		る)
		った(10・20 歳代)	•	個々に交流をつくるのは困
	>	市内一斉清掃がコミュニ		難であるため地域イベント
		ティ形成につながる		として交流
		(10・20 歳代)		
	>	貸し農園の実施(10・20		
		歳代)		
	>	通学時の見守り、プールの		
		見守り等での高齢者と子		
		供の交流(10・20 歳代)		
	>	健康をテーマにした教室		
		を開催によりコミュニテ		
		ィを構築(30 歳代)		
	>	自治会活動を市が支援し		
		高齢者の活躍の場を広げ		
		る(40・50 歳代)		
	>	ガウランドの利用客同士		
		での世代間のつながり		
		(60 歳代以上)		
高齢者のモチベーシ	>	退職者が入りやすい地域	•	高齢者が交流を図れる場所
ョンを高める必要が		づくり(10・20 歳代)		をつくる (公共交通による移
ある	>	新規就農者への指導・技術		動手段を確保)
		継承(10・20 歳代)	•	高齢者が行きたくなる場所
	>	高齢者の知恵を若者に伝		をつくり (娯楽施設など)
		える場を設ける (30 歳代)	•	安価で利用できる施設運営
	>	旧住民が新住民を受け入		
		れる体制づくり (30 歳代)		
	1		·	

	第	10	第2回
60歳代以上による		課題に対する	60 歳代以上による
課題・問題点の提起		他の年代からの対応案	課題に対する対応策の検討
その他	>	退職後に農業従事で活躍	● 有害鳥類対策が必要
(テーマに対する全		を目指す(10・20 歳代)	
般的な意見)	>	本市に道の駅を整備する	
		(10・20 歳代)	
	>	百目木はグラウンドゴル	
		フ大会など高齢者参加の	
		多いイベントも開催でき	
		ている (30歳代)	
	>	イノシシ (ジビエ) を食す	
		イベントを椎の森で高齢	
		者が運営している(30歳	
		代)	
	>	有害鳥類を駆除する免許	
		取得を市が援助できない	
		か(高齢者が教える)(30	
		歳代)	
	>	病院が指導して健康寿命	
		を延ばす取組みを市が主	
		体で実施(30歳代)	
	>	プライベートの仲間(コミ	
		ュニティ) づくりが弱い男	
		性が多い(40・50歳代)	
	>	高齢者の力をうまく利用	
		していくべき (60 歳代以	
		上)	
	>	体調を崩した時、地域の助	
		けが必要になる。困ってか	
		らでは遅い (60 歳代以上)	

#### 3, 地域のまちづくり懇談会

#### (1) 開催目的

グループごとにテーマに沿って、皆様から多様な意見をいただくことを通じて、地域課題の 洗い出し、ニーズの把握、土地利用など、まちづくりの方向性についてアイディアをいただき、 総合計画や都市計画マスタープランの策定につなげる。

#### (2) 実施方法

テーマを設定したグループディスカッションを実施。グループごとにファシリテーターを配置し、ファシリテーターの進行・サポートのもとで自由に意見を検討した。

#### (3) 開催概要

#### ※開催順

地区	開催日時	会場	参加 者数
中川・富岡	平成29年12月8日(金)午後6時30分~	平川公民館	29人
根形	平成29年12月9日(土)午後1時30分~	根形公民館	24人
平岡	平成29年12月11日(月)午後6時30分~	平岡公民館	23人
昭和	平成29年12月14日(木)午後6時30分~	市民会館	28人
長浦	平成29年12月17日(日)午前10時~	長浦公民館	24人

広報等を通じて参加を呼びかけるとともに、各地区の自治会役員の方々にご参加いただいた。

#### 次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 配布資料の説明
  - (1)総合計画について
  - (2)都市計画マスタープランについて
  - (3) まちづくりアンケート・市外WEBアンケート結果概要について
- 4 グループディスカッション
  - (1) 内容説明
  - (2) 意見交換〔45分間〕
    - ・テーマ1 地域の魅力と課題 [地域の魅力や改善したい点について]
    - ・テーマ2 地域の将来像

[今後どのような地域にしていきたいか、どうなっていきたいか]

- (3) グループの意見発表
- (4)質疑応答
- 5 閉会

### (4) 地域のまちづくり懇談会結果

# ① 中川・富岡地区

中川・富岡地区において出された地域の魅力と課題、将来像等についての意見は以下のとおり。

#### 地域の魅力と課題及び将来像等に関する意見(中川・富岡地区)

	魅力・良いところ (12件)				
分野	項目(意見数)	主な意見			
環境	環境保全(3)	40年前と変わらない自然が残されている 緑が豊かで自然景観が魅力			
	観光・シティプロモー ション(1)	下喜田の紅葉、百目木公園など素晴らしい地域資源がある			
産業振興	工業 (1)	有名種苗会社の事業所が立地しており、国内大企業や海外から視察 に来ている			
	その他 (1)	物価が安い			
都市形成•	立地環境(3)	土地が安い 木更津市の商業地が近く買い物に行きやすい			
都市基盤	道路網 (2)	アクアラインを通じて都内に行きやすい			

	課題・悪いところ (27件)				
分野	項目(意見数)	主な意見			
	公共交通(5)	自家用車がないと生活が成り立たない 高齢者や自身が将来運転できなくなった際に不安			
	路線バス (2)	路線バスの本数が少ない。コミュニティバスで地域外に出られない			
<b>本日</b>	鉄道 (1)	将来的に久留里線が維持されるのか心配			
市民生活	コミュニティ (2)	近所づきあいが希薄。新旧住民で価値観に違いがある			
		少子高齢化が進行			
	少子高齢化(4)	子どもが減少し同級生が少なく遊び相手がいない			
		市内でも市街地に若い人が出て行ってしまう			
環境	鳥獣被害 (2)	山林が荒れ、イノシシなど鳥獣被害が発生している			
	商業 (3)	個人経営の店舗が徹底している			
	向未(9)	地域内で買い物出来る場所が少ない			
産業振興	農業 (2)	耕作放棄地の増加			
<b>生未派共</b>		農業後継者がいない			
	宇働 (2)	地元に若い人の働き口が必要			
		高齢者が働ける場所が必要			
都市形成•		高齢化に伴い空き家が増加している			
	住宅 (2)	空き家の増加が景観を崩しており、移住したいと思わなくなってし			
都市基盤		まう 			
HI. 17 212 IIII.	道路網 (2)	国道409号にダンプカーが多く、歩行者が危険			
	,	東京ドイツ村の交通渋滞			

		提案事項(16件)
分野	項目(意見数)	主な意見
	公共交通•	買い物難民対策として移動スーパーなどで行政と民間が連携
市民生活	高齢者福祉 (2)	高齢者のタクシー利用補助
11,12(11)	移住・定住 (2)	高速バス24時間化、地価の安さ、自然環境のPR等により都内から
	19 12 12 (2)	の移住を促進
防犯・防災	防犯 (1)	街灯が少なく暗いため、防犯対策としてLED化を促進
産業振興	農業 (2)	農業の法人化、集約化
生未1次共	労働 (1)	福祉施設や働く場所を確保する
		住宅地が必要
	住宅 (4)	学校、幼稚園、保育園の周辺に住宅を整備し拠点化する
都市形成•		谷津田など未利用地の宅地化
都市基盤		横田の市街地の拡大
	道路網 (2)	かずさICが出来れば学校や雇用の場が創出できる
	坦	バイパスの整備で地域環境を変えるべき
行財政	行政運営(2)	人口増加、総合計画、都市マスタープランでは君津4市など広域的 な視点が必要

地域の将来像 (5件)	○元気に活躍できる人づくり(福祉、人づくり) ○安全・安心なまちづくり(地域交流、コミュニティ形成) ○環境のまち(住環境、買い物環境)
	<ul><li>○緑の豊かなまち</li><li>○人づくり・交流のまち</li></ul>

### ② 根形地区

根形地区において出された地域の魅力と課題、将来像等についての意見は以下のとおり。

#### 地域の魅力と課題及び将来像等に関する意見(根形地区)

魅力・良いところ(18件)		
分野	項目(意見数)	主な意見
市民生活	高速バス (1)	高速バスが便利(駐車場も豊富)パークアンドライド方式が便利
中氏生活	コミュニティ (1)	地域住民のつながりが強い
防犯・防災	胜((( ( 9 )	道幅広い、静か、災害がない、防災で強い
的泥。的灰		浸水がない高台に住める
	環境保全(7)	緑が多く子育て環境は良い
		春の田植え、秋の稲刈りなど田んぼの景観は素晴らしい
環境		自然が多い 空気がキレイ 子供のアレルギーが治った
		田圃、畑、緑、風景が良いふるさとを感じる
		住みやすい、住むには良い場所
安柴垣邸	商業 (2)	買い物をできる店舗が増えた
産業振興		ネットでも買い物ができる時代になってきた
	公園、観光(2)	袖ケ浦公園は市外から観光客が来るほどの観光地
都市形成 · 都市基盤		ガウランドなどの観光資源
	立地環境(3)	地価が安い 東京に近い 物価も安い
		のぞみ野から長浦、アクアライン接続など道路網は良好
		土地が安い、広い、家が大きい、駐車場がある(若年層の誘致も
		可能)

課題・悪いところ (43件)		
分野	項目(意見数)	主な意見
	少子高齢化(4)	高齢化が進んでいくので、対策を考えていかないといけない のぞみ野は人口が減っている 親世代が子どもの元へ流出しており、地域の人口が更に減少して いる
市民生活	路線バス (3)	路線バスが少ない(本数・運行時間) 利用者を増やす工夫が必要
	公共交通(5)	交通の便が悪いため、車がないと生活出来ず、高齢者は困ってし まう
	市民活動(2)	少子高齢化などにより自治会の存続が課題 自治会加入へのメリットがなく特に若い人は入らない
防犯・防災	防犯 (3)	防犯灯がなく、道が暗いため防犯上良くない 道路整備が進んで便利になったが、旧道が使われなくなって住環 境が悪化している
保健・医療 ・福祉	医療 (3)	総合病院がなく、病院が診察科目ごとに点在している 子育て支援と言いながら産婦人科がない
環境	環境美化(1)	大型ダンプ通行量が多く、道路沿いのポイ捨てがある
本来任御	商業 (5)	買い物の場所が少なく、長浦地区などに出て行ってしまう スーパー (品揃えが良い・営業時間が長い)、書店、DIYショッ プなどがない
	農業 (1)	後継者不足により耕作地が荒れてきている
	観光 (1)	目玉となる施設がなく、観光の魅力が弱い
	労働 (2)	働き口が少なく、若い世代が流出してしまっている

課題・悪いところ (43件)		
分野	項目(意見数)	主な意見
	立地環境(3)	のぞみ野では当初は病院や学校などの計画があったが、ドラッグスト アもない
		地域にスーパー、病院ないと不便、生活していけない
	住宅 (3)	空き家が増加している
dett. Lamed D	住七(5)	調整区域で宅地に出来ず家が建てられない
都市形成・	道路網 (3)	県道に歩道がない
都市基盤		物理的なバリアなどがなく、通学路が危ない
		道が狭い道路が多い
	立地環境(2)	長浦は歩いてスーパーにも病院にも行けるなど地区格差がある
	市街地整備(1)	駅の送迎用ロータリーが狭い
	公園・緑地(1)	袖ケ浦公園のネコが多い

提案事項(33件)		
分野	項目(意見数)	主な意見
	移住・定住 (2)	子どもが住みたくなる地域(しごと、魅力、自然、交通) 外から人が入って来られる、人を増やす方法を考える
市民生活	公共交通(2)	ガウランドへのアクセス改善 学校の送迎など集約化できないか
	市民活動(1)	自治会活動のメリットを示す
	路線バス (1)	路線バスは行政による助成が必要
防災·防犯	交通安全(1)	通学路の交通安全対策
環境	環境美化(1)	広域農道はメイン道路であるため美化してほしい
	医療 (2)	病院の集約化・市中心部への誘致
保健・医療・福祉	健康づくり (3)	ガウランドはとても良い施設であり、若い人が活用できるように した方が良い ガウランド内の食堂、直売所の設置 ガウランドにテニスなどスポーツできる場を一体的に整備
	高齢者福祉 (2) 子育て (1)	高齢者も活動できる施策が必要 高齢者の流出を防止するための見守り制度の充実 子育て福祉の充実
産業振興	観光 (5)	広大な田園風景を観光に活用する 東京ドイツ村ではなく、袖ケ浦ドイツ村にした方が良い 道の駅をつくってはどうか ガウランドや袖ケ浦公園など駐車場を増やすべき 人が集まれるレジャー施設を作れないか
	商業 (2)	商業施設、書店の誘致
都市形成· 都市基盤	農業 (1)	農地保全のため耕作者に対する支援・施策が必要
	労働 (2)	働き口の確保、労働環境の整備
	市街地整備(2)	駅直結(周辺)の商業施設、保育施設の誘致
	道路網 (4)	歩道整備 通学道路の拡幅(通学時が危険) 木更津(金田地区)への道路整備
行財政	情報発信(1)	広域農道の植栽を広報やHPで紹介してほしい

	○自然が残ったまちづくり
	○交通が便利なまちづくり
地域の将来像	○多世代がつながっていくまちづくり (隣近所)
(6件)	○今のままで良い
	○満足度の低いものを克服していくまちづくり
	○農業で稼げるまちづくり

### ② 平岡地区

平岡地区において出された地域の魅力と課題、将来像等についての意見は以下のとおり。

#### 地域の魅力と課題及び将来像等に関する意見(平岡地区)

魅力・良いところ (12件)		
分野	項目(意見数)	主な意見
市民生活	商業 (1)	日常の買い物は車で可能、スーパーも地域にあるので不便ではない
		高齢者への声かけなど地域コミュニティが形成されている
保健・医療 ・福祉	子育て支援(1)	子育て支援が充実している
環境	環境保全(3)	松川の親水環境、豊かな緑など自然が豊か
<b></b>	廃棄物(1)	ゴミ処理が他市より良い
産業振興	観光 (3)	東京ドイツ村の集客力、イルミネーション
都市形成· 都市基盤	立地環境(2)	地価が安く活用しやすい 公園が充実している

	課題・悪いところ(26件)		
分野	項目(意見数)	主な意見	
市民生活	公共交通(5)	路線バスが不便、本数が少ない 公共交通の利便性が低い。買い物も行きにくいし、終電も早い 交通の便が悪く高齢者が外出しにくい	
	コミュニティ (2)	自分の地区以外の事を知らない人が多い 子どもを通じた近所づきあいがなくなっている	
防犯・防災	防災 (1)	大雨時に松川の護岸が崩れた	
M196 - M196	防犯 (1)	警察署がない	
保健・医療 ・福祉	高齢者福祉(1)	高齢者の一人暮しが増加し、孤独死など将来に不安がある	
学校教育	教育 (2)	子どもが少なく地域の学校がなくなってしまう 歩いて通学する姿が少なくなっている(不審者情報などで送迎して いるため)	
環境	鳥獣被害 (2)	イノシシが良く出ており通学路などでは危ない	
垛况	廃棄物(1)	水洗のPR化が進んでいない	
	農業 (3)	PR不足でおいしい農産物が活かしきれていない 離農者の増加、後継者不足で耕作放棄地が広がっている	
産業振興	観光 (1)	ドイツ村に来ても地域に寄らずに帰ってしまう	
	工業 (1)	外国人が経営するスクラップ工場の周辺環境(河川、農産物)への 悪影響が懸念される	
*** ** **	住宅 (3)	高齢化に伴う空き家の増加している (鹿島区など)	
都市形成・ 都市基盤	道路網 (2)	歩道が整備されているが切れているところがある 歩道の整備、林道の整備 (木が伸び放題で荒れている)	
行財政	シティプロモーション (1)	市の知名度が低い	

分野	項目(意見数)	主な意見
	公共交通 (3)	コミュニティバスなど高齢者の移動手段確保 支援タクシー、サポートカーを運用し、買い物等見守りも兼ねた助 け合いの方法を検討
市民生活	移住・定住 (3)	特に都会からの居住を促進すべき 若者の流出を防止する施策が必要
	コミュニティ (2)	全世代における地域コミュニティーの形成が必要地域でいきいきサポートを活用するなどして交流を盛んにする
保健・医療 ・福祉		老人の将来人口は予測できるので先手を打って施策を実施するべき
学校教育	子育て支援(1) 教育(1)	3人目には補助を多く実施する等の金銭的な子育て支援が必要 PTAとの連携が必要
子仪教 F 環境	環境保全(1)	体耕地などの太陽光として活用
-		自然(親水)を活かした散策路づくり・公園づくり
産業振興	観光 (8)	イベント時の交通渋滞対策 東京ドイツ村への来訪者を地域に周遊させる ドイツ村駐車場を市が整備し拡張 東京ドイツ村を袖ケ浦ドイツ村などに改名 ドイツ村の後背地にある山林を有効活用する 地域特産物の販売所を整備 農産物のブランド化、高付加価値化、注目されるネーミング 稼げる農業の確立(稲作など) 行政支援による農業の大規模化 未利用農地を活用した新規就農支援
		農地の周囲にイメージダウンの施設ができないような指導 子供の時に農業体験をさせる取組み(Uターンを増やす) 貸し農園による観光振興 子どもや若い人が近くに住めるような就業環境を目指す
	情報発信(1)	観光・魅力の発信強化
	道路網 (2)	交通渋滞を緩和する駐車場整備や道路整備
都市形成 · 都市基盤	市街地整備(1)	袖ケ浦を訪問しやすい周辺のインフラ整備
	住宅 (3)	空き家リフォームの補助制度 空き家バンクによる居住者増
	公園 (1)	ドイツ村周辺の空き地を活用した公園整備による交流拡大

	○工業団地を活かしたまちづくり
地域の将来像	○子ども ・子育てにやさしいまちにして欲しい
(4件)	○国際化のまちは文化の違いもあり不安もある
	○未利用地など新たな魅力を活かしたまちづくり

### ④ 昭和地区

昭和地区において出された地域の魅力と課題、将来像等についての意見は以下のとおり。

#### 地域の魅力と課題及び将来像等に関する意見(昭和地区)

魅力・良いところ(17件)		
分野	項目(意見数)	主な意見
防犯・防災	防災 (1)	自然災害少ない、温暖
保健・医療 ・福祉	ひとり親家庭福祉(1)	母子家庭への保護が手厚くが住みやすいまち
環境	環境保全(2)	安全・安心で住みやすい自然環境
教育	文化・芸術 (2)	水戸黄門が立ち寄った記録がある(歴史をもっとPRすべき)
秋月	文化 安州 (2)	福王台神社の名前がよい、昔からの史跡などがある
産業振興	観光 (1)	若者を呼び込む大型音楽イベントが開かれている
	公園・緑地(1)	袖ケ浦公園、臨海スポーツセンターは子育てに良い
	道路網 (2)	高規格道路が整備されている
		アンダーパスができて便利になった
	立地環境(6)	平坦で住みやすい(バリアフリー)
都市形成•		市民会館や図書館など、公共施設が集まっている
都市基盤		買物に出かけるのも不便はなく、バスターミナルにより東京に
		行きやすい
		区画整理で若い人が増えている、子どもが学校に通いやすい
		アクアライン開通で知名度上がった
		袖ケ浦ICができ都心への高速道路でのアクセスが良くなった
行財政	行政(1)	広く開かれた行政なので住みやすい

課題・悪いところ(29件)		
分野	項目(意見数)	主な意見
市民生活	公共交通(4)	若い人が出て行ってしまい高齢者が買い物できない 路線バスなど交通が不便で買い物、病院などに行くために車が 必要 袖ケ浦駅でタクシーの台数が少なくつかまらない
	コミュニティ (4)	地区によって子ども・若者がいない、ボランティアの担い手がいない 若い人たちが自治会に加入しない 地域交流の場がない 若い人が増えているが地域の交流が少ない
	少子高齢化(1)	昭和地区の中でも人が増えている地区と少子高齢化の著しい地 区がある 住むには良いが遊ぶところがないため木更津に人口が流出して
17+ VII	交通安全(1)	いる 飛行機が上空を飛んでいることが不安
防犯・防災	防犯 (1)	警察がない、外国人も多くなったので不安
	医療 (1)	総合病院が近くにない
保健・医療 ・福祉	高齢者福祉(1)	独居老人増えている、自治会としてどういう形で解決していく か考える必要がある
	子育て (1)	若い人が少ない
教育	文化・芸術(1)	文化、娯楽施設が不足している
秋 月	生涯学習(1)	市民三学より高校との連携などの視点が欠けている
産業振興	観光 (2)	アクアラインなるほど館・郷土博物館の利用者が少なくもった いない 海浜公園など既存施設を活用
	商業 (2)	商業地がないため木更津市に流出している

課題・悪いところ(29件)		
分野	項目(意見数)	主な意見
都市基盤	由 往	駅前に一杯飲む場所もない、未利用地もある
		新たな市街地整備だけでなく、旧集落も整備して欲しい
	道路網 (4)	道路が狭い、歩道整備やバリアフリーがなされていない
行財政	行政 (2)	総合計画の策定にあたり現状評価と行政としての方向性の明示 が必要 意見を出しても解決が遅い、どんどん対応してもらいたい

提案事項(39件)		
分野	項目(意見数)	主な意見
+01.7	公共交通(1)	コミュニティバスなど年寄りでも動きやすく安心して外出できる環境を整備
	高速バス(1)	現状通勤が中心のバスターミナルを活用し袖ケ浦市へ惹きつけ る方策を検討
市民生活	コミュニティ(1)	自治会への加入を促進し地域コミュニティを確立
	移住・定住(1)	どのようなまちづくりをするにしてもまず人を増やす(商店も マーケットが小さく出店できない)
	少子高齢化(1)	人口は増やし方(誘導策)が大事
	子育て (3)	子育て世帯、若者を呼び込む具体的な施策を示すべき
保健・医療	高齢者福祉 (2)	高齢者施設の充実 高齢者の一人暮らしを見守る体制づくり
• 福祉	医療 (1)	市で総合病院を誘致
	健康づくり (1)	スポーツ振興による扶助費を削減する
環境	環境保全(1)	神納の山林を保護してほしい (ミニ開発をさせない)
産業振興	観光 (4)	道の駅をつくる 大型音楽イベントを活かす(地産品の販売、情報発信・PR、芸能に強いまち) ボーリング場などの娯楽施設を誘致
	工業 (2)	先端企業、新産業を誘致し、女性就業者も増やす
	農業 (1)	坂戸市場の休耕田など未利用農地の有効活用(他用途も含む)
	公園・緑地(1)	県所有である海浜公園の譲渡を受け魅力を創出する
	市街地整備(2)	袖ケ浦駅北口の開発 海側商業施設の早期誘致
	住宅(3)	小規模の開発等を規制する(将来、道路、上下水道等の負担が 増加する) 空き家の更地化
都市形成· 都市基盤	道路網 (4)	交通安全、歩道整備、道路拡張 アンダーパスだけでなく面的なまちづくりをしてほしい アクアラインの通行止めが減る対策(橋部分の風よけなど)
	都市計画(6)	市が各地区をどう考え(位置づけ)ているかはっきりさせた方が良い コンパクトシティも良いが駅前開発を進めていくべき 農振地域も重要であるが、その地域に本当に必要なのか考える べき
行財政	行政 (2)	大更津市との連携強化 民間とタイアップして取組める体制づくり
17 則 以	シティプロモーション (1)	袖ケ浦市の魅力創出、知名度向上

	○若い人たちが安心して住める街づくり(移住先に選んでも
	らう)
地域の将来像	○女性が働きやすいまち(女性議員50%、女性管理職30%など
(4件)	女性の声を引き出す)
	○災害、犯罪に強いまちづくり
	○福祉のまち (高齢者と子どもの交流)

### ⑤ 長浦地区

長浦地区において出された地域の魅力と課題、将来像等についての意見は以下のとおり。

#### 地域の魅力と課題及び将来像等に関する意見(長浦地区)

	魅力・良いところ(19件)		
分野	項目(意見数)	主な意見	
市民生活	立地環境 (7)	工場夜景がきれい 工場と農業がありメリハリがある地域(バランスが良い) 昔から空気がきれい、エアコンもあまり使わなくてよい 都内まで通勤圏内にありながら里山が近接している 臨海スポーツセンターは夏は良い(冬は寒い)	
	コミュニティ (1)	通学児童の見守りなど地域コミュニティが良好で暮らしやすい	
防犯・防災	防災 (1)	大きな災害も無く安心感は高い	
教育	学校教育(1)	子育て特に教育分野は他市よりも良い	
環境	環境保全(4)	小高い丘から見た田園風景は素晴らしい景観 豊かな自然、バランスの取れた街 自然豊か、気候が良い、安定している(大雪、大雨が少ない)	
	観光 (1)	ドイツ村は優良な観光資源(都内にもPRをしている)	
	商業 (1)	他地域に比べ商業施設は多い	
	農業 (1)	農業に適した土壌	
都市形成· 都市基盤	道路網(2)	アクアライン・館山道による交通利便性の高さ 交通網は市内でも恵まれている	

課題・悪いところ(25件)		
分野	項目(意見数)	主な意見
市民生活	路線バス (2)	高速バスに比べ路線バスが少ない
	市民参加(1)	自治会に加入しない世帯が増えた
	移住・定住(1)	蔵波小学校付近など若い人たちが急激に増え市の将来のまちづくりはどうなっていくのか不安
	火葬場(1)	火葬場が市内にない
	少子高齢化(1)	少子高齢化が進んでいる
防犯・防災	防犯 (2)	駐在所に常駐何人いるのか(すぐ対応してもらえない不安がある) 防犯灯が少ない
保健・医療 ・福祉	福祉 (1)	財政力指数が高いのに福祉サービスが遅い
教育	高等教育(1)	専門学校や大学があれば教育的にさらに魅力が増す
	環境美化(1)	公衆トイレが少ない
環境	環境保全(1)	管理不全な山林が増えてきた (市が整備して欲しい)
外先	鳥獣被害(2)	有害鳥獣により、家庭菜園が荒らされている カラスが多くなったように思う
	商業 (3)	住宅開発が進んでも商業施設が少なく買い物に困る
産業振興	観光 (1)	宿泊施設がない (観光目的)
	農業 (1)	耕作放棄地が増えている
都市形成· 都市基盤	駅前整備(2)	駅整備は良いが周囲に駐車場が少ないため使い勝手が悪い
		長浦駅前渋滞が常態化している
	住宅(1)	土地のミニ開発が多くインフラを維持するコストが増大
	道路網 (3)	内陸部と臨海部との接続が悪い
		国道16号・旧道が汚い(草刈、ゴミ)、管理が縦割りな点も問題
		歩道がない
	バリアフリー(1)	道路整備は進んでいるがバリアフリーが進んでいない

提案事項(39件)		
分野	項目(意見数)	主な意見
市民生活	コミュニティ (1)	あいさつ、声かけが地域コミュニティの第一歩
		市内5地区で実施されているスポーツ・イベント・サークル等の活
	市民参加(2)	動を1つに集中して大きくする
		市のイベントに参加しない人を取込む工夫を市で考えて欲しい
		高齢化社会を踏まえ路線バス、コミュニティバスを充実させて欲
11174211	公共交通(4)	しい
		コミュニティバス、大型タクシー等の確立(交通弱者、コンパクトレシティーへの対応)
		長浦駅発で高速バスがあっても良い
	高速バス (2)	高速バスターミナルまでの足が欲しい
		防災意識を向上させる取組みを市で行ってほしい
防犯・防災	防災 (2)	蔵波川などの河川整備(大雨が降ると不安)
		医療機関の整備をすべき(産婦人科がないため子育てに不安があ
	医療 (1)	(A)
保健・医療		高齢者を見守るまちづくり、体制づくり
<ul> <li>福祉</li> </ul>	高齢者福祉(3)	高齢者が外に出て楽しめる施策が必要
		高齢者福祉施設に早く楽に入所できる仕組みを作る
	子育て (1)	子育てしながら働ける保育園の確保(公共で)
教育	高等教育(1)	専門学校や大学の誘致
環境	ごみ処理 (1)	ゴミステーションの整備
		山野貝塚を活用したまちづくり
		「袖ケ浦市といえばここ」というような施設を誘致
	観光 (4)	袖ケ浦公園を中心とした道路整備
구는 시상 1년 1년1		百目木公園、新堰公園もからめたサイクリングロード整備で回遊
産業振興		性を向上させる
	商業 (4)	商業の元気がない、商業増を目指す仕組みが必要(イオンの増床な ど)
		配達してもらいたい
	労働 (1)	外に出てしまう子どもたちが戻ってこられる「しごと」づくり
	) J [3] (1)	長浦駅を生かした地域全体のまちづくりが必要(駅周辺に人集め
	駅前整備(3)	が必要)
		駅を中心としたまちづくり
		少しずつの工事ではなく長浦駅前整備の抜本的計画を立てるべき
	住宅 (3)	新たな住宅団地を作らないと若い人が来ない
都市形成•		計画的な住宅地や太陽光パネルの整備(地形による排水への影響
都市基盤		を考慮)
		空き家が今後課題となる
	鉄道(1)	JRの横断は断面が狭いので対応すべき
	道路網 (4)	道路整備、特に幹線道路整備は利便性向上のために必要
		狭い道路が多い、歩道整備
		地域間道路の更なる整備
行財政	行政 (1)	地域からの要望書がまちづくりに望むニーズだと思って対応して
		ほしい

地域の将来像 (6件)	<ul> <li>○女性・高齢者が安心して暮らせるまちづくり(若者が外に出て行かない取組みが大切)</li> <li>○子育てのまち、人づくりのまち(教育)、福祉のまち</li> <li>○若い人が住んでいただけるようなまちづくり(世代交代を促進する施策)</li> <li>○工業地帯があるが住環境を悪化させない公害のない安心なまちづくり</li> <li>○医療と福祉の充実(教育、子育ての充実)</li> <li>○安全・安心、自然を残す(健康的に年を重ねていきたい)</li> </ul>
----------------	--

# 第4章 市外WEBアンケート調査

#### 1. 調査概要

	本市の移住・定住促進や観光振興の施策を検討するにあたり、一都三県における
調査目的	本市以外の住民にとっての、本市の認知度や来訪経験、移住意向、観光地への興
前往日印	味などを探り、定住人口・交流人口の増加に向けた取組みを検討する上での基礎
	資料とすることを目的として実施するもの。
調査期間	平成29年10月20日(金)~10月23日(月)
調査対象	一都三県(千葉県<本市以外>、東京都、神奈川、埼玉県)の住民
	3,000サンプル
	【内訳】
	千葉県:1,300(木更津市、君津市、市原市:300/左記の3市及び
回収結果	本市以外の市町村:1,000)
	東京都:750 (うち東京都大田区:250/左記以外:500)
	神奈川県:750(うち神奈川県川崎市:250/左記以外:500)
	埼玉県:200

### 2.調査結果(概要)

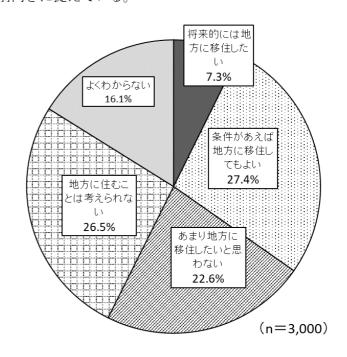
#### (1) 地方移住のニーズ

#### ① 地方移住についての考え(問3)

地方移住についての考えは、「条件があえば地方に移住してもよい」が 27.4%で最も多く、 次いで、「地方に住むことは考えられない (26.5%)」、「あまり地方に移住したいと思わない (22.6%)」の順となっている。

「将来的には地方に移住したい」と「条件があえば地方に移住してもよい」を合わせると 34.7% と、3 分の 1 以上が地方移住を前向きに捉えている。

※この調査でいう「地方」とは、 都心から電車(各駅停車)で概 ね1時間以上かかる地域を指す。 現在1時間以上かかる地域に住 んでいる回答者は、同様に1時 間以上かかる地域への転居を想 定して回答している。以下同様



### (平成27年との比較く東京都大田区、神奈川県川崎市>)

平成 27 年と比較すると、東京都大田区では、『地方移住意向あり(「将来的には地方に移住したい」+「条件があえば地方に移住してもよい」)』が 5.6 ポイント増加している一方、神奈川県川崎市では、『地方移住意向あり(同)』が  $\Delta 5.6$  ポイント減少している。

### (東京都大田区)

(単位:%・ポイント)

	回答数	地方移住意向あり	移住したい将来的には地方に	移住してもよい条件があえば地方に	地方移住意向なし	したいと思わないあまり地方に移住	考えられない地方に住むことは	よくわからない
平成29年	250	37.6	7.6	30.0	47.2	18.4	28.8	15.2
平成27年	250	32.0	6.8	25.2	56.8	25.2	31.6	11.2
差異 (平成29年-平成27年)	-	5.6	0.8	4.8	▲ 9.6	<b>▲</b> 6.8	▲ 2.8	4.0

### (神奈川県川崎市)

(単位:%・ポイント)

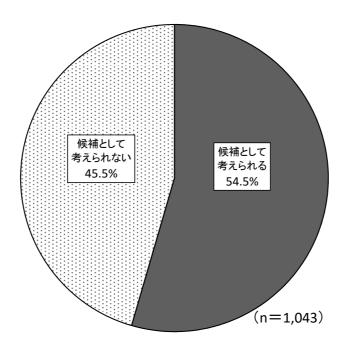
	回答数	地方移住意向あり	移住したい将来的には地方に	移住してもよい条件があえば地方に	地方移住意向なし	したいと思わないあまり地方に移住	考えられない地方に住むことは	よくわからない
平成29年	250	33.2	6.4	26.8	54.8	24.0	30.8	12.0
平成27年	250	38.8	8.8	30.0	50.0	21.2	28.8	11.2
差異 (平成29年-平成27年)	_	▲ 5.6	▲ 2.4	▲ 3.2	4.8	2.8	2.0	0.8

# ②「地方移住」の対象先として袖ケ浦市は候補となるか(問6)

「地方移住」の対象先として袖ケ浦市は候補となるか」は、「候補として考えられる」が 54.5%と、肯定的な回答が半数以上を占める。

「候補として考えられる」の割合を居住地別にみると、「木更津市、君津市、市原市」が 70.2% と最も多いが、県外を含めた他の地域でも  $4\sim5$  割台を占めている。

※問3で「将来的には地方に移住したい」「条件があえば地方に移住してもよい」と回答した 方が対象



(単位:%)

				· · · · ·
		件数	候補として 考えられる	候補として 考えられない
	千葉県	467	58.7	41.3
居	木更津市,君津市,市原市	121	70.2	29.8
住	上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県	346	54.6	45.4
地	東京都	281	52.3	47.7
域	神奈川県	234	47.9	52.1
	埼玉県	61	57.4	42.6

# (平成 27 年との比較〈東京都大田区、神奈川県川崎市〉)

平成 27 年と比較すると、「候補として考えられる」は、東京都大田区で 7.1 ポイント、神奈川県川崎市でも、11.6 ポイント増加している。

### (東京都大田区)

(単位:%・ポイント)

	一 回 答 数	考えられる	考えられない
平成29年	94	52.1	47.9
平成27年	80	45.0	55.0
差異 (平成29年-平成27年)	-	7.1	▲ 7.1

# (神奈川県川崎市)

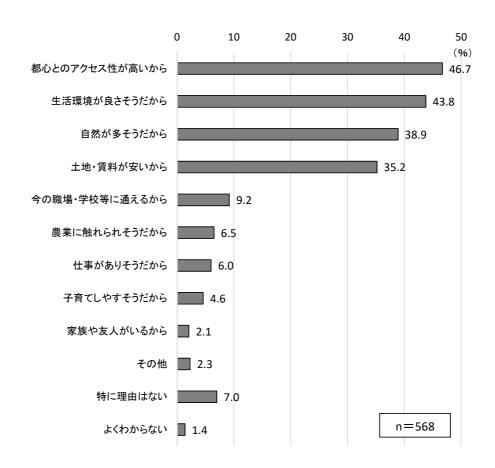
(単位:%・ポイント)

	回 答 数	考えられる	考えられない
平成29年	83	59.0	41.0
平成27年	97	47.4	52.6
差異 (平成29年-平成27年)	_	11.6	▲ 11.6

# ③ 袖ケ浦市を移住先の「候補として考えられる」理由(問7)

袖ケ浦市を移住先の「候補として考えられる」理由は、「都心とのアクセス性が高いから」が 46.7%で最も多く、次いで、「生活環境が良さそうだから (43.8%)」、「自然が多そうだから (38.9%)」、「土地・賃料が安いから (35.2%)」が上位となっており、都心とのアクセス、周辺環境、土地・賃料の安さなどが移住検討において重要なポイントとなっていることがうかがわれる。

※問6で「候補として考えられる」と回答した方が対象



### (平成27年との比較く東京都大田区、神奈川県川崎市>)

※回答数が少ないため参考

平成27年と比較すると、東京都大田区では、「土地・賃料が安いから(18.6 ポイント)」、「自然が多そうだから(14.9 ポイント)」の順に増加幅が大きくなっている。

神奈川県川崎市では、「土地・賃料が安いから(12.3 ポイント)」、「今の職場・学校等に通えるから(3.7 ポイント)」の順に増加幅が大きくなっている。

# (東京都大田区)

(単位:%・ポイント)

	回 答 数	<b>私性が高いから</b>	良さそうだから 生活環境が	自然が多そう	土地・賃料が	等に通えるから今の職場・学校	<b>農業に触れられ</b>	仕事がありそう	子育てしやすそ	家族や友人が	その他	特に理由はない	よくわからない
平成29年	49	61.2	28.6	51.0	40.8	14.3	4.1	8.2	4.1	0.0	0.0	4.1	0.0
平成27年	36	75.0	38.9	36.1	22.2	5.6	11.1	5.6	13.9	0.0	2.8	2.8	0.0
差異 (平成29年-平成27年)	-	▲ 13.8	▲ 10.3	14.9	18.6	8.7	<b>▲</b> 7.0	2.6	▲ 9.8	0.0	▲ 2.8	1.3	0.0

### (神奈川県川崎市)

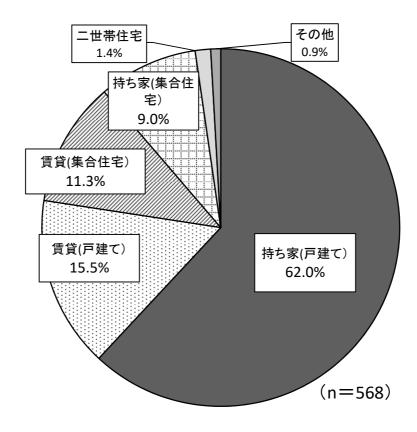
(単位:%・ポイント)

												<u>ユ・/0 ・1</u>	
	回答数	<b>私性が高いから</b>	良さそうだから	自然が多そう	土地・賃料が	等に通えるから今の職場・学校	<b>そうだから</b> 農業に触れられ	仕事がありそう	子育てしやすそ	家族や友人が	その他	特に理由はない	よくわからない
平成29年	49	51.0	49.0	34.7	44.9	10.2	4.1	6.1	4.1	2.0	0.0	8.2	0.0
平成27年	46	50.0	58.7	50.0	32.6	6.5	6.5	6.5	8.7	8.7	0.0	4.3	0.0
差異 (平成29年-平成27年)	-	1.0	▲ 9.7	▲ 15.3	12.3	3.7	▲ 2.4	▲ 0.4	<b>▲</b> 4.6	▲ 6.7	0.0	3.9	0.0

# ④ 転居後に希望する住居の形態(問8)

転居後に希望する住居の形態は、「持ち家(戸建て)」が 62.0%と、「持ち家(戸建て)」を 希望する向きが多い。

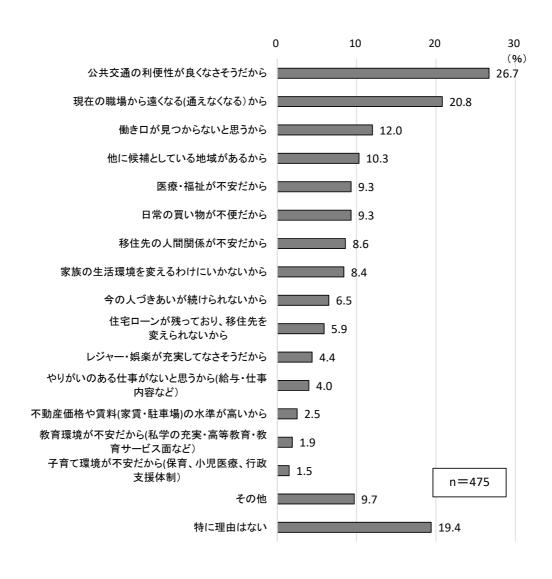
※問6で「候補として考えられる」と回答した方が対象



# ⑤ 袖ケ浦市を移住先の「候補として考えられない」理由(問9)

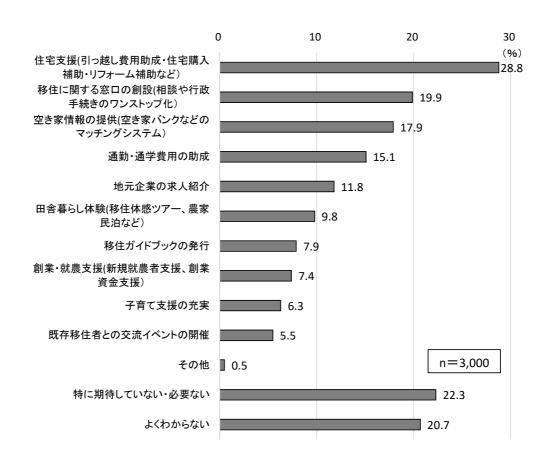
袖ケ浦市を移住先の「候補として考えられない」理由は、「公共交通の利便性が良くなさそうだから(26.7%)」、「現在の職場から遠くなる(通えなくなる)から(20.8%)」、「働き口が見つからないと思うから(12.0%)」など、交通利便性に加え、職場・働き口など仕事に関して不安を持つ向きが多い。

※問6で「候補として考えられない」と回答した方が対象



# ⑩地方移住に関して自治体に期待する支援策(問10)

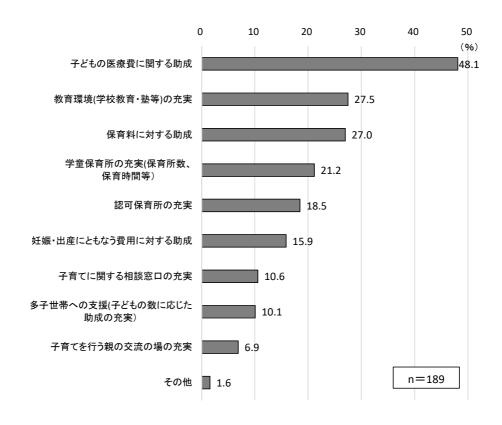
地方移住に関して自治体に期待する支援策は、「住宅支援(引っ越し費用助成・住宅購入補助・リフォーム補助など・28.8%)」、「移住に関する窓口の創設(相談や行政手続きのワンストップ化・19.9%)」、「空き家情報の提供(空き家バンクなどのマッチングシステム・17.9%)」などが上位となっており、移住促進にあたっては住宅取得関連の支援やワンストップ窓口の創設・周知が有効と考えられる。



# ②子育で支援に関して自治体に期待する支援策(問 11)

子育て支援に関して自治体に期待する支援策は、「子どもの医療費に関する助成」が 48.1% で最も多く、次いで、「教育環境(学校教育・塾等)の充実(27.5%)」、「保育料に対する助成(27.0%)」の順となっており、医療費の助成を求める声が特に多い。

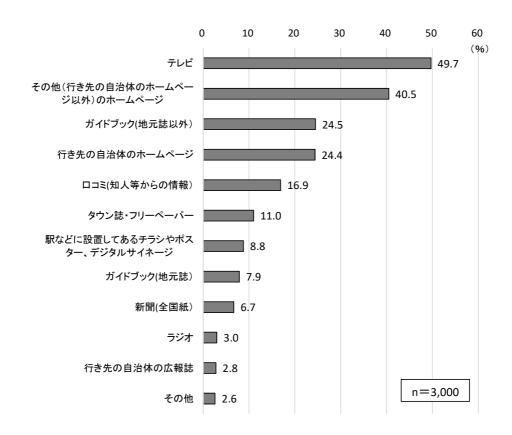
※問10で「子育て支援の充実」と回答した方が対象



# (2) 観光に関する認知度・訪問経験

### ① 観光・レジャーに出かける際の情報源(問 12)

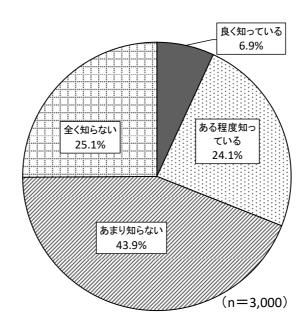
観光・レジャーに出かける際の情報源は、「テレビ」が 49.7%で最も多く、次いで、「その他 (行先の自治体のホームページ以外) のホームページ (40.5%)」、「ガイドブック (地元誌以外・24.5%)」 の順となっている。



### ② 袖ケ浦市の認知度(問 13)

袖ケ浦市の認知度は、「あまり知らない」が 43.9%と最も多く、「全く知らない」の 25.1% を加えると、7割近くが知らないと回答しているため、引き続き市外に向けた知名度・観光資源のPRに取り組むことが求められる。

「良く知っている」と「ある程度知っている」の合計を居住地別にみると、「木更津市、君津市、市原市(77.3%)」では8割近くを占めるが、「上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県」では35.7%、「東京都(21.7%)」、「神奈川県(18.9%)」、「埼玉県(18.5%)」では2割前後となっている。



		件数	良く 知っている	ある程度 知っている	あまり 知らない	全く 知らない
	千葉県	1300	11.6	33.7	40.2	14.5
居	木更津市, 君津市, 市原市	300	31.3	46.0	17.3	5.3
住	上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県	1000	5.7	30.0	47.1	17.2
地	東京都	750	4.8	16.9	46.3	32.0
域	神奈川県	750	2.0	16.9	47.3	33.7
	埼玉県	200	2.5	16.0	45.5	36.0

# (平成 27 年との比較〈東京都大田区、神奈川県川崎市〉)

平成 27 年と比較すると、『知っている(「良く知っている」+「ある程度知っている」)』は、東京都大田区では $\triangle 4.0$  ポイント減少しているが、神奈川県川崎市では 0.4 ポイント増加している。

### (東京都大田区)

(単位:%・ポイント)

						12.70 7	1 1 2 1 7
	回 答 数	知っている	知っている	知っている	知らない	知らない	知 ら全 な い
平成29年	250	20.4	4.4	16.0	79.6	48.0	31.6
平成27年	250	24.4	2.4	22.0	75.6	45.2	30.4
差異 (平成29年-平成27年)	-	<b>4</b> .0	2.0	<b>▲</b> 6.0	4.0	2.8	1.2

# (神奈川県川崎市)

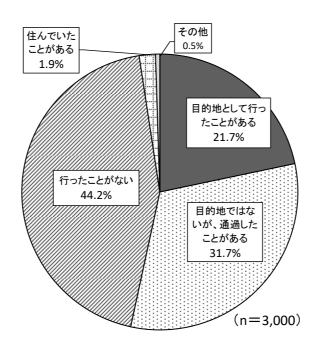
(単位:%・ポイント)

						14.70 7	<u> </u>
	回 答 数	知っている	知っている	知っている	知らない	知らない	知 ら全 なく い
平成29年	250	22.8	1.2	21.6	77.2	43.6	33.6
平成27年	250	22.4	1.6	20.8	77.6	50.0	27.6
差異 (平成29年-平成27年)	_	0.4	▲ 0.4	0.8	▲ 0.4	▲ 6.4	6.0

### ③ 袖ケ浦市への来訪経験(問14)

袖ケ浦市への来訪経験は、「行ったことがない」が 44.2%と最も多いが、「目的地として行ったことがある」も 21.7%に上る。

「目的地として行ったことがある」を居住地別にみると、「木更津市、君津市、市原市(68.7%)」では7割近くを占めるが、「上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県」では23.1%、「東京都(16.0%)」、「神奈川県 (10.9%)」、「埼玉県 (6.5%)」では2割未満となっており、交流人口の獲得は近隣市からが主となっている。



(単位:%)

							(単位:%)
		件数	目的地と して行っ たことが ある	目的地で はない が、通過 したこと がある	行ったこ とがない	住んでい たことが ある	その他
	千葉県	1300	33.6	34.9	28.5	2.3	0.6
居	木更津市,君津市,市原市	300	68.7	20.7	4.3	5.0	1.3
住	上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県	1000	23.1	39.2	35.8	1.5	0.4
地	東京都	750	16.0	29.5	52.7	1.5	0.4
域	神奈川県	750	10.9	28.9	58.0	1.7	0.4
	埼玉県	200	6.5	29.5	63.0	1.0	0.0

### (平成27年との比較く東京都大田区、神奈川県川崎市>)

平成 27 年と比較すると、東京都大田区では、「行ったことがない」の増加幅が 4.2 ポイント と最も大きいが、「目的として行ったことがある」も 3.3 ポイント増加している。

神奈川県川崎市では、「行ったことがない」が10.8 ポイント増加している。

### (東京都大田区)

(単位:%・ポイント)

	回答数	行ったことがある目的地として	通過したことがある目的地ではないが、	行ったことがない	住んでいた
平成29年	250	18.1	28.1	52.2	1.6
平成27年	250	14.8	36.8	48.0	0.4
差異 (平成29年-平成27年)	_	3.3	▲ 8.7	4.2	1.2

(注) 平成29年の数値は、「その他」を除いた集計結果

#### (神奈川県川崎市)

(単位:%・ポイント)

	回答数	行ったことがある目的地として	通過したことがある目的地ではないが、	行ったことがない	住んでいた
平成29年	250	14.4	29.6	53.6	1.6
平成27年	250	17.6	38.4	42.8	1.2
差異 (平成29年-平成27年)	-	▲ 3.2	▲ 8.8	10.8	0.4

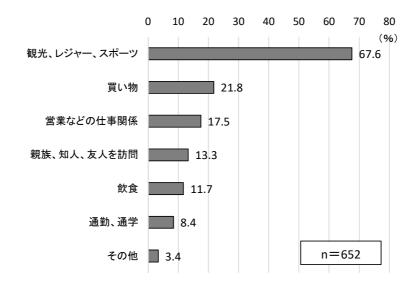
(注) 平成29年の数値は、「その他」を除いた集計結果

# ④ 袖ケ浦市への来訪目的(問 15)

「目的地として行ったことがある」場合の来訪目的は、「観光、レジャー、スポーツ」が 67.6% と突出しており、交流人口の獲得にあたって買い物や仕事関係よりも観光、レジャー、スポーツが強みになっていることが分かる。

居住地別にみると、「観光、レジャー、スポーツ」はいずれの地域も6割以上と最も高い割合を占めるが、2番目は、「木更津市、君津市、市原市」では「買い物(39.3%)」である一方、「上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県(22.1%)」、「東京都(18.3%)」、「神奈川県(22.0%)」では「営業などの仕事関係」となっており、京葉臨海部等の仕事関係で来訪している層が一定数いるものと推察される。

※問14で「目的地として行ったことがある」と回答した方が対象



(単位:%)

									(十四.70)
		件数	観光、レ ジャー、 スポーツ	買い物	営業など の仕事 関係	親族、知 人、友人 を訪問	飲食	通勤、 通学	その他
	千葉県	437	64.8	27.2	16.5	16.2	15.3	10.8	3.9
居	木更津市, 君津市, 市原市	206	63.6	39.3	10.2	22.3	24.8	17.0	4.9
住	上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県	231	65.8	16.5	22.1	10.8	6.9	5.2	3.0
地	東京都	120	75.8	10.8	18.3	6.7	3.3	3.3	2.5
域	神奈川県	82	72.0	9.8	22.0	6.1	4.9	3.7	2.4
	埼玉県	13	61.5	15.4	15.4	23.1	7.7	7.7	0.0

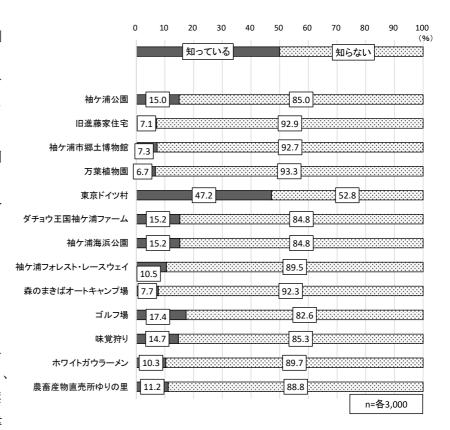
#### ⑤ 袖ケ浦市の観光資源の認知度(問 16・前段)

調査で挙げた 13 の観光資源のうち、「知っている」の割合は「東京ドイツ村 (47.2%)」が突出しており、次いで「ゴルフ場 (17.4%)」、「ダチョウ王国袖ケ浦ファーム

(15.2%)」、「袖ケ浦海浜公園 (同)」の順となっている。

一方、「知っている」の割合 が低いものは、「万葉植物園 (6.7%)」、「旧進藤家住宅 (7.1%)」、「袖ケ浦市郷土博 物館 (7.3%)」の順となって いる。

「知っている」の割合が上 位の施設を居住地別にみると、 「東京ドイツ村」では「千葉 県」が 64.8% (うち「木更津



市、君津市、市原市」では 88.0%)、「東京都 (34.8%)」、「神奈川県 (33.2%)」、「埼玉県 (32.5%)」 でも 3割台となっているが、「ダチョウ王国袖ケ浦ファーム」、「袖ケ浦海浜公園」、「ゴルフ場」は、「千葉県」で 2割台、「東京都」、「神奈川県」、「埼玉県」では概ね 1割未満(「東京都」の「ゴルフ場」のみ 13.7%)となっている。

(単位:%)

						(+12.70)
		件数	東京ド	イツ村	ダチョウ王 ファ・	
		計数	知って いる	知らない	知って いる	知らない
	千葉県	1300	64.8	35.2	24.5	75.5
居	木更津市,君津市,市原市	300	88.0	12.0	53.3	46.7
住	上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県	1000	57.8	42.2	15.8	84.2
地	東京都	750	34.8	65.2	9.7	90.3
域	神奈川県	750	33.2	66.8	6.5	93.5
	埼玉県	200	32.5	67.5	8.0	92.0

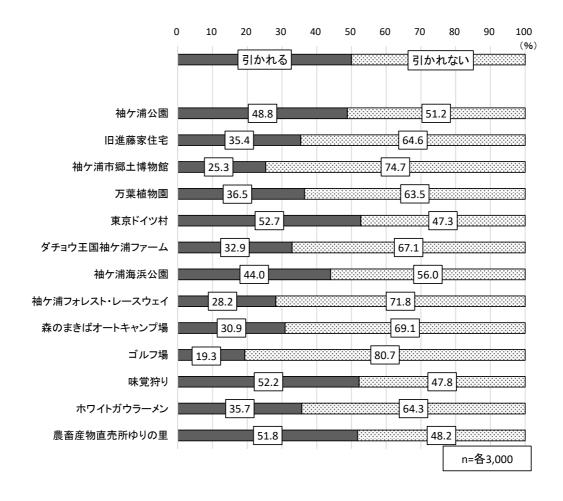
(単位:%)

						(十四: /0/
		/st. 465-	袖ケ浦淮	<b>東浜公園</b>	ゴル	フ場
		件数	知って いる	知らない	知って いる	知らない
	千葉県	1300	24.1	75.9	25.5	74.5
居	木更津市, 君津市, 市原市	300	54.0	46.0	47.7	52.3
住	上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県	1000	15.1	84.9	18.8	81.2
地	東京都	750	9.6	90.4	13.7	86.3
域	神奈川県	750	6.9	93.1	9.6	90.4
	埼玉県	200	9.0	91.0	8.0	92.0

#### ⑩ 袖ケ浦市の観光資源への興味(問 16・後段)

調査で挙げた 13 の観光資源のうち、「(興味を) 引かれる」の割合が最も高いものは、「東京ドイツ村 (52.7%)」であるが、「味覚狩り (52.2%)」、「農畜産物直売所ゆりの里 (51.8%)」なども半数以上が興味を引かれており、訴求力を有する観光資源であると言える。

「(興味を) 引かれる」の割合が上位の施設を居住地別にみると、「東京ドイツ村」、「味覚狩り」、「農畜産物直売所ゆりの里」は、いずれの地域においても4割以上が「(興味を)引かれる」と回答しており、これらの観光資源は遠隔地に対しても一定の訴求力を有していることが分かる。



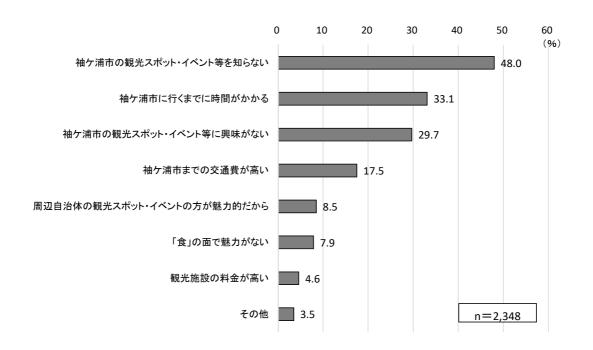
(単位:%)

								(辛四.70)
		件数	東京ド	イツ村	味覚	狩り	農畜産物 ゆり	加直売所 の里
		什蚁	引かれる	引かれ ない	引かれる	引かれ ない	引かれる	引かれ ない
	千葉県	1300	60.8	39.2	53.6	46.4	53.7	46.3
尼	木更津市, 君津市, 市原市	300	68.7	31.3	57.3	42.7	61.0	39.0
自	上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県	1000	58.4	41.6	52.5	47.5	51.5	48.5
坩	東京都	750	46.5	53.5	51.6	48.4	54.3	45.7
垣	神奈川県	750	46.0	54.0	50.8	49.2	47.6	52.4
	埼玉県	200	48.5	51.5	51.0	49.0	46.5	53.5

# ②油ケ浦市へ目的地として訪れたことがない理由(問17)

袖ケ浦市へ目的地として訪れたことがない理由は、「袖ケ浦市の観光スポット・イベント等を知らない」が 48.0%で最も多く、次いで、「袖ケ浦市に行くまでに時間がかかる (33.1%)」、「袖ケ浦市の観光スポット・イベント等に興味が無い (29.7%)」の順となっている。

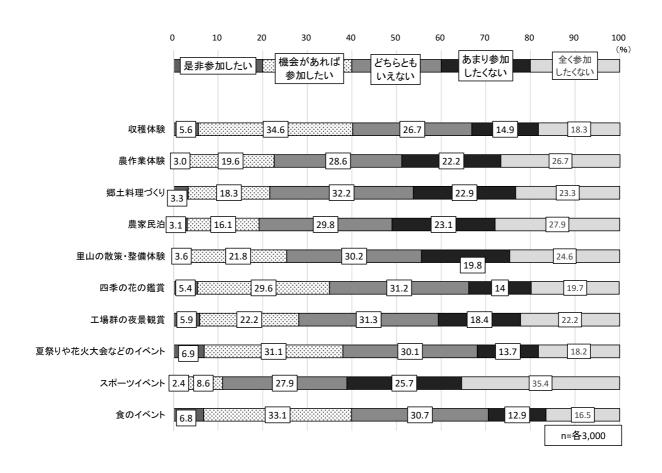
※問14で「目的地ではないが、通過したことがある」、「行ったことがない」、「(目的地として来訪したことはないが)住んでいたことがある」、「その他」と回答した方が対象



#### (製) 袖ケ浦市でのイベント等の参加意向(問 18)

調査で挙げた 10 項目のうち、『参加したい・取組みたい(「ぜひ参加したい」+「機会があれば参加したい」)』の割合は、「収穫体験(40.2%)」、「食のイベント(計 39.9%)」、「夏祭りや花火大会などのイベント(計 38.0%)」の順となっており、季節や食に関するイベントの人気が高い。

『参加したい・取り組みたい』の割合が上位の施設を居住地別にみると、「収穫体験」、「夏祭りや花火大会などのイベント」、「食のイベント」とも、「千葉県」で4割台、「東京都」、「神奈川県」、「埼玉県」で3割台となっており、地域毎の差は比較的小さい。



(『参加したい・取り組みたい(「是非参加したい」+「機会があれば参加したい」)』が上位の イベント・居住地域別)

(単位:%)

					収穫体験				あまり参
		件数	是非参加 したい	機会があ れば参加 したい	どちらとも いえない	あまり参 加したく ない	全く参加 したく ない	是非参加 したい+ 機会があ れば参加 したい	加したく ない+ 全く参加
	千葉県	1300	5.8	36.8	25.4	15.4	16.7	42.6	32.1
居	木更津市, 君津市, 市原市	300	8.3	43.7	22.0	12.3	13.7	52.0	26.0
住	上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県	1000	5.0	34.7	26.4	16.3	17.6	39.7	33.9
地	東京都	750	7.1	32.5	28.7	13.9	17.9	39.6	31.8
域	神奈川県	750	4.1	33.6	25.7	15.6	20.9	37.7	36.5
	埼玉県	200	5.0	31.5	31.0	12.5	20.0	36.5	32.5

(単位:%)

						A - A A . I			(十四:707
		件数	是非参加したい	夏祭りや花 機会があ れば参加 したい	どちらとも	さのイベント あまり参 加したく ない	・ 全く参加 したく ない	是非参加 したい+ 機会があ れば参加 したい	かい+
	千葉県	1300	7.8	34.5	28.4	14	15.4	42.3	29.4
居	木更津市, 君津市, 市原市	300	12.7	41.0	24.3	10.0	12.0	53.7	22.0
住	上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県	1000	6.3	32.5	29.6	15.2	16.4	38.8	31.6
地	東京都	750	7.3	28.8	32.3	12.1	19.5	36.1	31.6
域	神奈川県	750	5.3	28.4	30.3	14.8	21.2	33.7	36.0
	埼玉県	200	6.0	28.5	32.0	13.0	20.5	34.5	33.5

(単位:%)

				1	食のイベン	,			あまり参
			是非参加したい	機会があ れば参加 したい	どちらとも	あまり参 加したく ない	全く参加	是非参加 したい+ 機会があ れば参加 したい	加したく ない+ 全く参加
	千葉県	1300	8.2	37.1	28.8	12.8	13.2	45.3	26.0
居	木更津市, 君津市, 市原市	300	12.0	45.0	22.7	10.7	9.7	57.0	20.3
住	上記3市と袖ケ浦市以外の千葉県	1000	7.0	34.7	30.7	13.4	14.2	41.7	27.6
地	東京都	750	5.9	31.3	33.1	12.7	17.1	37.2	29.8
域	神奈川県	750	4.9	29.7	31.5	13.1	20.8	34.6	33.9
	埼玉県	200	8.0	27.0	31.5	14.0	19.5	35.0	33.5

### (平成27年との比較く東京都大田区、神奈川県川崎市>)

平成 27 年と比較すると、『参加したい・取組みたい』の割合は、東京都大田区では、「里山の散策・整備体験  $(0.8\$ ポイント)」、「農作業体験  $(0.4\$ ポイント)」でやや増加しているが、「郷土料理づくり  $(▲10.0\$ ポイント)」、「夏祭りや花火大会などのイベント  $(▲9.2\$ ポイント)」などで減少幅が大きくなっている。

神奈川県川崎市では、「収穫体験  $(0.8 \, \text{ポイント})$ 」でやや増加しているが、「食のイベント  $(-8.4 \, \text{ポイント})$ 、「里山の散策・整備体験  $(\triangle 7.6 \, \text{ポイント})$ 」などで減少幅が大きくなっている。

#### (東京都大田区)

(単位:%・ポイント)

	回答数	収穫体験	農作業体験	郷土料理づくり	農家民泊	里山の散策・	四季の花の鑑賞	工場群の夜景観賞	などのイベント夏祭りや花火大会	スポーツイベント	食のイベント
平成29年	250	40.4	24.4	18.4	18.0	29.2	30.0	25.2	32.0	11.2	34.0
平成27年	250	41.2	24.0	28.4	22.0	28.4	38.8	29.2	41.2	11.2	41.2
差異 (平成29年-平成27年)	-	▲ 0.8	0.4	▲ 10.0	<b>4</b> .0	0.8	▲ 8.8	<b>4</b> .0	▲ 9.2	0.0	▲ 7.2

#### (神奈川県川崎市)

(単位:%・ポイント)

	回答数	収穫体験	農作業体験	郷土料理づくり	農家民泊	里山 備体 験・	四季の花の鑑賞	工場群の夜景観賞	などのイベント夏祭りや花火大会	スポーツイベント	食のイベント
平成29年	250	42.4	24.8	24.0	20.0	20.8	28.8	24.0	36.8	9.2	36.4
平成27年	250	41.6	26.8	30.8	20.4	28.4	36.0	27.2	42.8	10.4	44.8
差異 (平成29年-平成27年)	-	0.8	▲ 2.0	<b>▲</b> 6.8	▲ 0.4	▲ 7.6	▲ 7.2	▲ 3.2	<b>▲</b> 6.0	▲ 1.2	▲ 8.4

# 第5章 人口動向分析

- 1. 人口動向分析
- (1) 調査の概要
- ① 趣旨

本市のこれまでの総人口、年齢階層別人口の動向を整理し、その背景に関する分析を行うことで、次期総合計画策定にあたっての基礎資料とする。

# ② 分析手法·内容

総務省「国勢調査」、住民基本台帳データ、「まち・ひと・しごと創生本部」が公表している「RESAS(Regional Economy Society Analyzing System:地域経済分析システム)」のデータを使用し、下記の項目を分析

- ●現在までの人口動向の整理
  - -総人口・年齢3区分別人口の推移
  - -直近の人口推移
- ●人口の動態
  - -近年の自然増減・社会増減
  - -人口移動状況

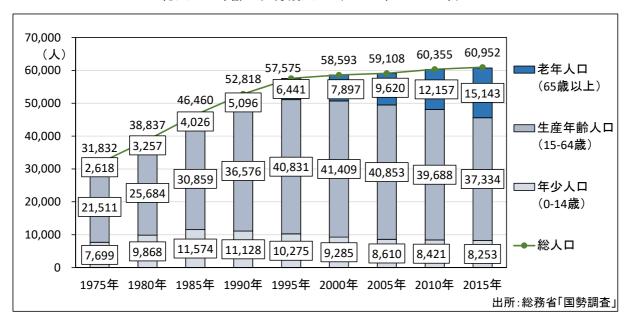
- (2) 現在までの人口動向の整理
- ① 総人口・年齢3区分別人口の推移
- 3. 長期的な推移(1975年~2015年)
- ✓ 本市の総人口は、京葉臨海コンビナート形成や宅地造成等を背景に増加を続けてきたが、1995年以降、人口増加の勢いは弱まっている
- ✓ 老年人口比率は、1985年の8.7%から2015年に24.9%へ上昇しており、急速な高齢化が進んでいる(この間、年少人口比率、生産年齢人口比率は減少傾向となっている)

本市の総人口は、京葉臨海コンビナート形成や宅地造成等を背景に増加を続けてきたが、1995年以降、人口増加の勢いは弱まっている (1975年:31,832人  $\rightarrow$  1995年:57,575人  $\rightarrow$  2015年:60,952人)。

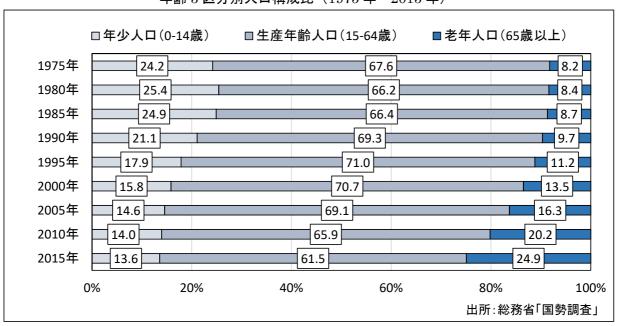
年齢3区分別にみると、年少人口は、1985年の11,574人をピークに一貫して減少している。 生産年齢人口は、2000年まで増加(41,409人)していたが、その後横ばいから減少基調で推移している。背景に、若年層が高校や専門学校を卒業後、市外の大学や企業へ進学・就職していることがあるとみられる。(年齢区分別の純移動数は、20歳前後の若年層のマイナス幅が大きい。後述)

老年人口は一貫して増加基調を辿っており、老年人口比率は、1975年の8.2%から、2015年には24.9%と、急激に上昇している。この間、年少人口比率は一貫して減少し、生産年齢人口比率も1995年の71.0%をピークに減少傾向となっている。

総人口・年齢 3 区分別人口(1975 年~2015 年)



年齡 3 区分別人口構成比(1975 年~2015 年)

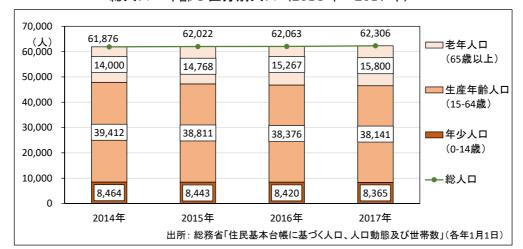


### ② 直近の人口推移

- ✓ 2015 年以降も、本市の総人口は増加基調にあるが、年少人口、生産年齢人口 は減少しており、老年人口が増加している
- ✓ 2015 年から 2017 年にかけて、老年人口比率が 23.8%から 25.4%へ増加して おり、高齢化が進んでいる

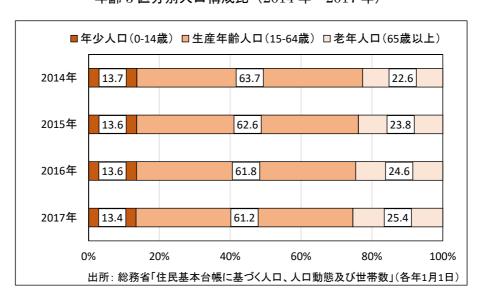
2015 年以降も、本市の総人口は増加基調にある(2015 年: 62,022 人→2017 年: 62,306 人・住民基本台帳に基づく人口)。

2015 年から 2017 年にかけて、年少人口、生産年齢人口とも減少し(年少人口:▲78 人、生産年齢人口:▲670 人)、老年人口は 1,032 人増加した(老年人口比率 23.8%→25.4%)。



総人口・年齢 3 区分別人口 (2014 年~2017 年)

(注) 住民基本台帳に基づく人口は、住民票の届け出に基づき算定されているため、実際の居住に基づき算定される国勢調査の数値とは一致しない



年齢 3 区分別人口構成比(2014 年~2017 年)

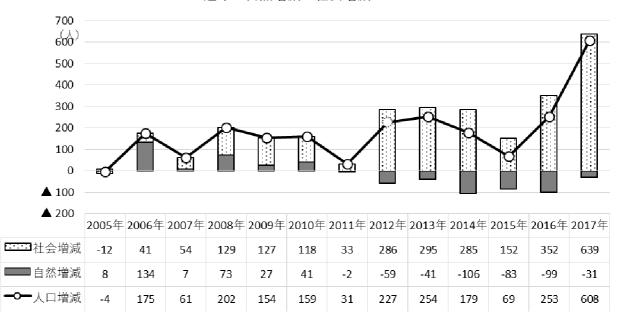
### (3) 人口の動態

#### ① 近年の自然増減・社会増減

- ✓ 本市の自然増減は、2010年まで増加していたが、2011年以降は減少が続いている
- ✓ 社会増減は、区画整理をはじめとした住宅開発やアクアライン通行料金 800 円 化の継続等を背景に、近年増加幅が拡大している

2005年以降の本市の自然増減・社会増減をみると、自然増減は、2010年まで増加していたが、 2011年以降は減少が続いている。2012年以降、年によって差はあるものの、毎年40人以上の 自然減となっている。

社会増減は、2006年以降一貫して増加しており、近年は区画整理をはじめとした住宅開発やアクアライン通行料金800円化の継続等を背景に、さらに増加幅が拡大している(2012年以降、毎年150人以上の増加)。



近年の自然増減・社会増減

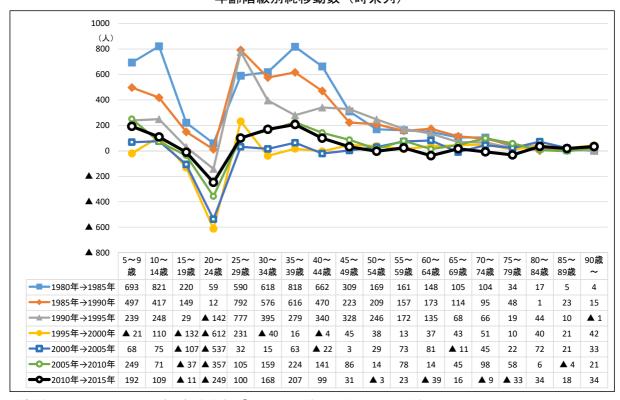
- (注1) 社会増減における「その他」(職権による記載・消除等) 分は除く
- (注2) 2017年は8月末までを年率換算した参考数値

#### ② 人口移動状況

- ✓ 本市の年齢階級別の純移動数は、1990年以降、15~19歳から20~24歳となる20歳前後の若年層が転出超過となっている(ただし、転出超過幅は近年縮小傾向)
- ✓ 子育てを行う中心的な年代となる 30~40 歳代は、概ね転入超過が続いている。 1995 年→2000 年、2000 年→2005 年に転入超過幅が大幅に縮小した後、2005 年→2010 年に拡大している

本市の年齢階級別純移動数を時系列でみると、1990 年以降、20 歳前後の若年層である 15~19 歳→20~24 歳が転出超過となっており、市外の大学や企業への進学・就職に伴う転出が影響していると考えられる。ただし、この年代の転出超過数は、1995 年→2000 年の $\blacktriangle$ 612 人をピークに、近年は縮小傾向となっている(2000 年→2005 年: $\blacktriangle$ 537 人、2005 年→2010 年: $\blacktriangle$ 357 人、2010 年→2015 年: $\blacktriangle$ 249 人)。

子育てを行う中心的な年代となる 30~40 歳代は、概ね転入超過が続いている。1995 年→2000 年、2000 年→2005 年に転入超過幅が大幅に縮小したが、2005 年→2010 年は拡大に転じ、2010 年→2015 年は横ばい圏内で推移している(30~34 歳→35~39 歳をみると、1990 年→1995 年の 279 人から、1995 年→2000 年は 16 人、2000 年→2005 年は 63 人と低水準となっているが、2005 年→2010 年は 224 人~拡大し、2010 年→2015 年も 207 人を維持している)。



年齡階級別純移動数 (時系列)

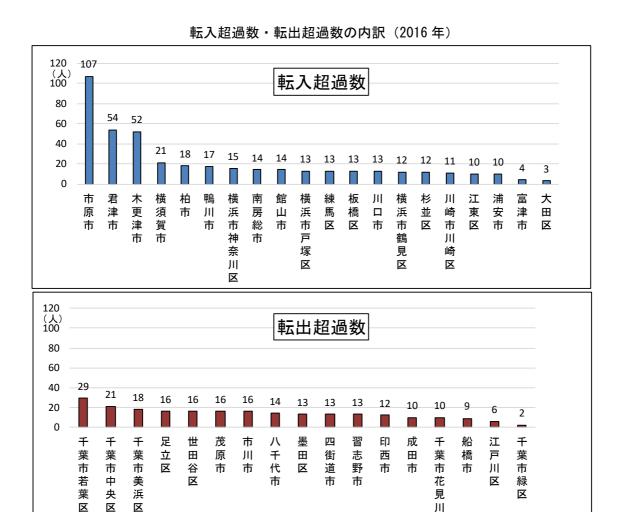
資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」(1980 年~2010 年)

2010年→2015年は㈱ちばぎん総合研究所が推計

- ✓ 本市への転入超過数が多い地域をみると、市原市、君津市、木更津市など近隣市が多く、県外では、神奈川県や東京都の自治体が上位となっている
- ✓ 本市からの転出超過数が多い地域をみると、千葉市や県内北西部の自治体のほか、東京都足立区・世田谷区・墨田区・江戸川区など都内の自治体も上位にあり、進学や就職が転出数に影響していると考えられる

2016年における本市の転入超過数 (581人) の内訳 (転入超過数が多い地域) をみると、市原市 (107人)、君津市 (54人)、木更津市 (52人) など、近隣市が上位に並んでいる。県外では、神奈川県横須賀市 (21人)、神奈川県横浜市神奈川区 (15人)、神奈川県横浜市戸塚区 (13人)、東京都練馬区 (13人)、東京都板橋区 (13人) など、東京都や神奈川県の自治体が上位となっている。

同年の転出超過数 (348 人) の内訳 (転出超過数が多い地域) をみると、千葉市若葉区 (29 人)、 千葉市中央区 (21 人)、千葉市美浜区 (18 人)、市川市 (16 人)、八千代市 (14 人) など、千葉 市や県内北西部地域の自治体のほか、東京都足立区 (16 人)、東京都世田谷区 (16 人) など都内 の自治体も上位にあり、進学や就職が転出数に影響していると考えられる。



資料:まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

#### (参考) 本市への転入数が多い自治体

- ✓ 本市への転入数(2015年)をみると、県内自治体からの転入が67.0%と約3 分の2を占め、このうち木更津市、君津市、市原市の近隣3市の合計が、県内 自治体からの転入数のうち、さらに3分の2を占める
- ✓ 同様の傾向が、子育て世帯にあたる 25~49 歳にもあてはまる。
- ✓ 移住・定住施策の検討にあたっては、こうした近隣市の住民をターゲットに設定したうえで、これら自治体と比較した強み・弱みを明らかにすることが有効と考えられる

本市への転入数 (2015 年) をみると、全体の 6,153 人中、県内自治体が 4,121 人 (67.0%) と 約 3 分の 2 を占める。このうち、木更津市、君津市、市原市の合計が 2,717 人と、県内自治体からの転入数のうち、さらに 3 分の 2 を近隣 3 市が占めている。

同様の傾向が、子育て世帯にあたる  $25\sim49$  歳にもあてはまり、全体の 3,483 人中、県内自治体が 2,360 人 (64.2%)、うち木更津市、君津市、市原市の合計が 1,552 人 (県内自治体に占める割合 65.8%) となっている。

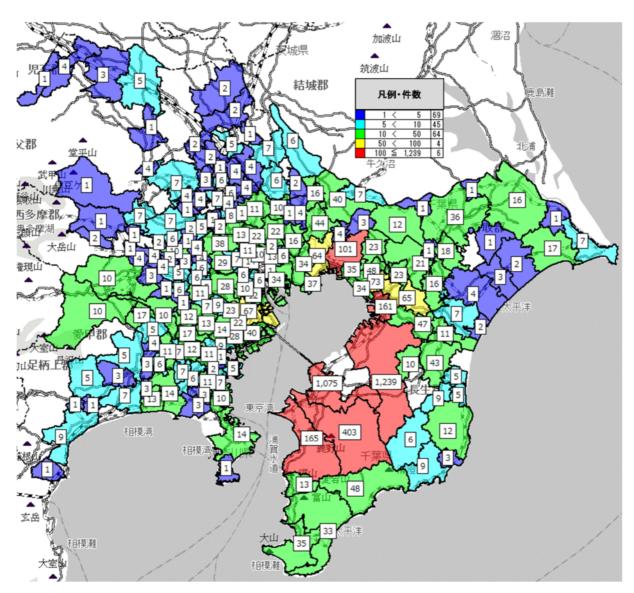
本市への転入数 (2010→2015年)

転入元	転入数 全年齢
埼玉県	160
千葉県	4,121
うち木更津・君津・市原市	2,717
東京都	505
神奈川県	424
その他道府県	943
転入者数	6,153

資料: 2015 年国勢調査

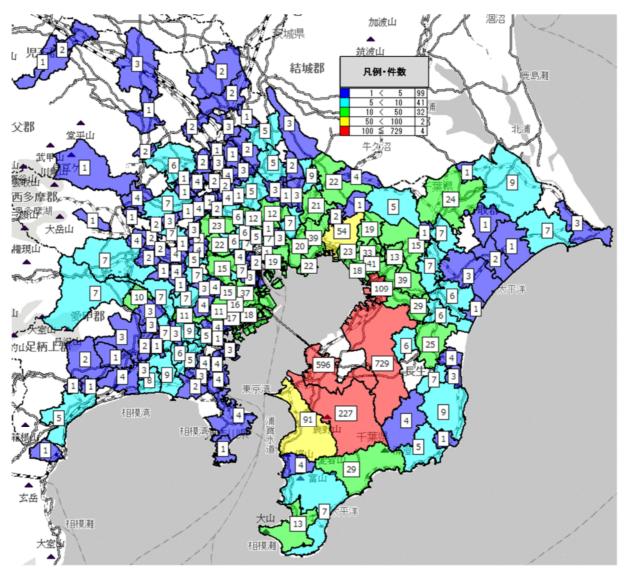
転入元	転入数
	25~49歳
埼玉県	99
千葉県	2,360
うち木更津・君津・市原市	1,552
東京都	288
神奈川県	243
その他道府県	493
転入者数	3,483

# 一都三県の自治体の本市への転入数 (2010→2015 年・全年齢)



資料:2015年国勢調査

# 一都三県の自治体の本市への転入数 (2010→2015 年・25~49 歳)



資料:2015年国勢調査

# 第6章 産業動向·社会指標分析

1. 経済・産業構造・財政の特性の整理

#### ●趣旨

今後の本市の産業について検討していく材料として、市の現在の経済・産業構造・財政の特性を整理する。

#### ●分析手法·内容

「まち・ひと・しごと創生本部」が公表している「RESAS (Regional Economy Society Analyzing System:地域経済分析システム)」を使用し、下記の項目を分析

- ①地域経済循環率と生産・分配・支出のフロー
- ②産業構造(事業者数、従業者数、付加価値額)
- ③観光(目的地検索数、滞在人口)

#### ※RESAS による主な参照統計

- · 環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」
- ・ 総務省「経済センサスー基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」
- ・ 株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」
- ・ 株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」
- ・総務省「平成27年国勢調査」

### (1) 地域経済循環率と生産・分配・支出のフロー

- ✓ 地域経済循環率(注)は367.4%と県内首位の高さとなっている
- ✓ 第2次産業が生産(付加価値額)の85.2%を占める
- ✓ 生産(付加価値額)に対し、分配(所得)は市外への流出が目立つ

本市の地域経済循環率は 367.4%と 100%を大幅に超過しており、県内で最も経済自立度 (= 市内の生産額で市内の所得を賄えている) が高い。

生産(付加価値額)は、第2次産業が8,356億円(85.2%)と最も多く、次いで第3次産業の1,419億円(14.5%)、第1次産業34億円(0.3%)となっている。

分配(所得)は、生産(付加価値額)9,809億円に対し、雇用者所得(1,685億円)とその他所得(985億円)を合わせた地域内所得が2,670億円となっており、差額の7,139億円が市外(企業・雇用者等)への流出となっている。

支出は、市内所得 2,670 億円に対し、民間消費額において市外へ 391 億円が流出しているものの、設備投資等を示す民間投資額は 1,489 億円が市外から流入している。

(注)地域循環率:生産(付加価値額・下図の9,809億円)を分配(所得・下図の2,670億円)で除した値であり、地域経済の自立度を示す指標(値が高いほど他地域から流入する所得に対する依存度が低い)。

#### 地域経済循環図 地域経済循環率 2013年 367.4% 指定地域:千葉県袖ケ浦市 分配 (所得) 所得への分配 地域外への流出 所得からの支出 (億円) 9,809 2,670 8,000 -7,000 -6,000 5,000 地域外への流出 4.000 6,938 3,000 201 🔷 生産(付加価値額) 支出 2,000 1.000 1.685 地域外からの 流入 (億円) (億円) 雇用者所得 その他所得 9,000 = 詳細を見る 8.000 1,489 7,000 -6,000 地域外への流出 8,356 4,000 9,053 3,000 -支出による生産への還流 391 2.000 1,000-9,809 1.419 第1次產業第2次產業第3次產業 民間消費額 民間投資額 その と支出 詳細を見る 詳細を見る

本市の地域経済循環図(2013年)

資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」

#### (2) 産業構造·企業活動

- ✓ 市内の事業所数は、「卸売業、小売業」が最も多く、千葉県・全国も同様
- ✓ 従業者数は、市全体の 25.4%が「製造業」であり、多くの雇用が支えられている
- ✓ 付加価値額も「製造業」が 36.7%と最も多い。「製造業」、「学術研究、専門・技術サービス業 (12.8%)」、「電気・ガス・熱供給・水道業 (8.8%)」などの産業構成比が千葉県・全国における産業構成比を上回っている
- ✓ 本市の創業比率は2012~14年期で千葉県平均・全国平均を下回っている

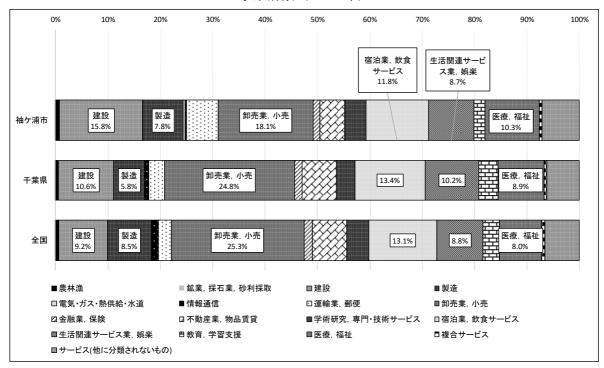
事業所数(計 1,916 事業所)をみると、「卸売業、小売業」が347 事業所で最も多く、次いで「建設業(303 事業所)」、「宿泊業、飲食サービス業(227 事業所)」となっている。千葉県・全国と比較すると、「卸売業、小売業(18.1%)」が千葉県(24.8%)、全国(25.3%)と比べて低く、「建設業(15.8%)」が千葉県(10.6%)、全国(9.2%)が高くなっている。

従業者数 (計 25,313 人) をみると、「製造業」が 6,417 人 (25.4%) と約 4 人に 1 人が「製造業」となっている。次いで、「医療・福祉 (3,498 人、13.8%)」、「卸売業、小売業 (3,045 人、12.0%)」となっている。千葉県では、「卸売業・小売業 (21.0%)」が最も高く、次いで「医療、福祉 (13.7%)」、「製造業 (11.5%)」となっている。

付加価値額(計 1,279 億円:事業所集計)をみると、「製造業」が 469 億円(36.7%)と最も多く、次いで「学術研究、専門・技術サービス業(163 億円、12.8%)」、「電気・ガス・熱供給・水道業(112 億円、8.8%)」の順となっている。千葉県・全国と比較すると、「卸売業、小売業(7.2%)」が千葉県(20.7%)、全国(21.0%)と比べて低く、「製造業(36.7%)」が千葉県(15.3%)、全国(19.9%)より高くなっている。

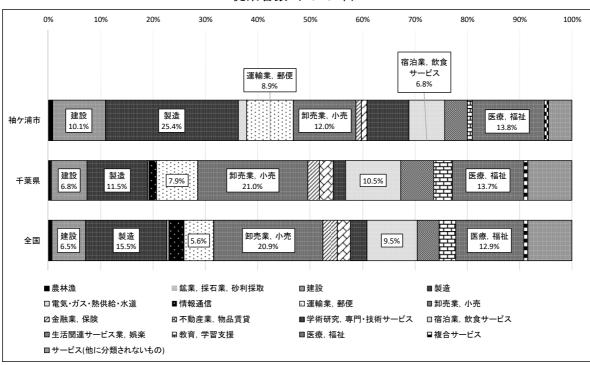
本市の創業比率(= 「期間内の新設事業所数の年平均」÷「期首に存在していた事業所数」)をみると、 $2012\sim14$ 年期は 4.8%となっており、同期間の千葉県平均(6.6%)や全国平均(6.3%)を下回っている。

#### 事業所数 (2016年)



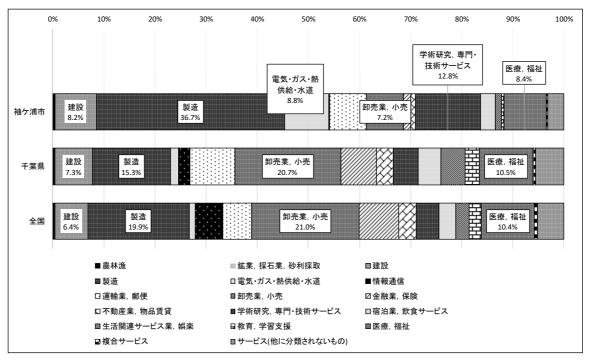
資料:平成28年経済センサス活動調査(速報)

### 従業者数 (2016年)



資料:平成28年経済センサス活動調査(速報)

# 付加価値額 (2012年)



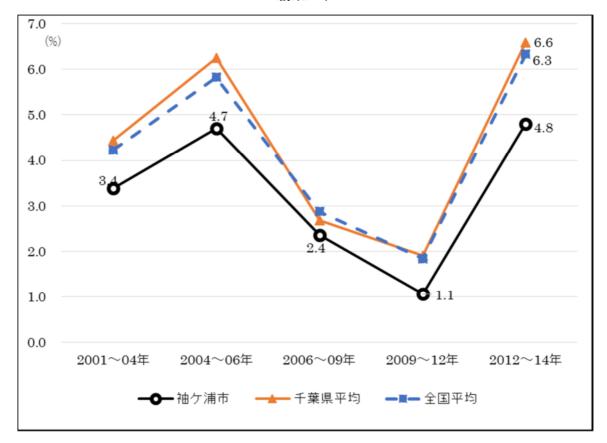
資料: 平成 24 年経済センサス活動調査 (事業所に関する産業横断的集計)

事業所数・従業者数・付加価値額(産業別)

	袖ケ浦市								
産業分類	事業	所数	従業	者数	付加価値額				
12 17 70	2016年	(速報)	2016年(速報)		201	2年			
	(事業所)	(構成比)	(人)	(構成比)	(百万円)	(構成比)			
農林漁	15	0.8%	206	0.8%	551	0.4%			
鉱業,採石業,砂利採取	-	-	ı	-	_	-			
建設	303	15.8%	2,563	10.1%	10,461	8.2%			
製造	149	7.8%	6,417	25.4%	46,918	36.7%			
電気・ガス・熱供給・水道	7	0.4%	385	1.5%	11,193	8.8%			
情報通信	6	0.3%	20	0.1%	169	0.1%			
運輸業,郵便	116	6.1%	2,246	8.9%	9,237	7.2%			
卸売業, 小売	347	18.1%	3,045	12.0%	9,229	7.2%			
金融業,保険	23	1.2%	245	1.0%	1,737	1.4%			
不動産業, 物品賃貸	92	4.8%	272	1.1%	1,163	0.9%			
学術研究,専門・技術サービス	78	4.1%	2,014	8.0%	16,343	12.8%			
宿泊業、飲食サービス	227	11.8%	1,726	6.8%	3,756	2.9%			
生活関連サービス業、娯楽	166	8.7%	1,109	4.4%	1,464	1.1%			
教育, 学習支援	42	2.2%	218	0.9%	578	0.5%			
医療, 福祉	198	10.3%	3,498	13.8%	10,685	8.4%			
複合サービス	9	0.5%	201	0.8%	218	0.2%			
サービス(他に分類されないもの)	138	7.2%	1,148	4.5%	4,173	3.3%			

資料:平成24年経済センサス活動調査、平成28年経済センサス活動調査(速報)

# 創業比率



資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

注:1.創業比率=「期間内の新設事業所数の年平均」÷「期首に存在していた事業所数」 2.新設事業所の定義変更により、「2006~2009年」、「2009~2012年」、「2012~2014年」の 創業比率は、前後の数字と単純には比較できない

### (3) 農業

- ✓ 本市の農業産出額は「野菜」が最も多く、次いで「鶏卵」、「米」となっている
- ✓ 耕作放棄地率は、全国平均を上回るが、千葉県平均を下回る
- ✓ 農地流動化率が高く、千葉県や全国に比べ農地の貸借が進んでいる
- ✓ 経営耕地面積の広い経営体の割合が多い
- ✓ 農業経営者の高齢化が進んでいる

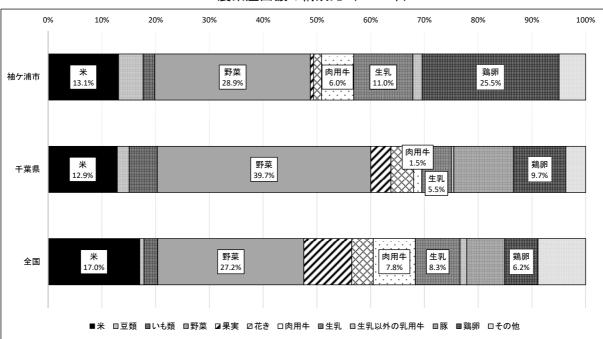
本市の農業産出額(2015 年)は87.1 億円と、県内で19番目に位置し、県内シェアの2.0%を占める。内訳は、「野菜(25.2 億円、28.9%)」が最も多く、次いで「鶏卵(22.2 億円、25.5%)」、「米(11.4 億円、13.1%)」となっており、3部門のシェアは67.5%となっている。

2015 年の「耕作放棄地率」は 16.5%であり、「全国平均(12.1%)」を上回るものの、「千葉県(19.1%)を下回っている。

農地流動化率(借入耕地面積:経営耕地面積)は上昇傾向にあり、2015年に38.7%と千葉県平均(34.9%)や全国平均(33.7%)と比べて農地の貸借が進んでいる。

また、経営耕地面積規模別の経営体の割合(2015年)は、「1ha 以上 10ha 未満」が 59.3% と最も多く、千葉県平均や全国平均と比べて、経営耕地面積の広い経営体の割合が多いことも 特徴である。

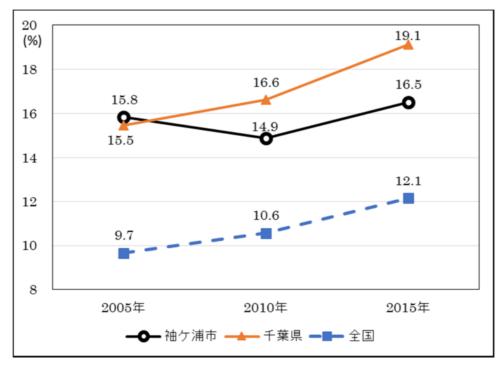
一方、農業経営者の平均年齢は、2005 年:60 歳 → 2010 年:64 歳 → 2015 年 66 歳と、高齢 化が進んでいる。



農業産出額の構成比(2015年)

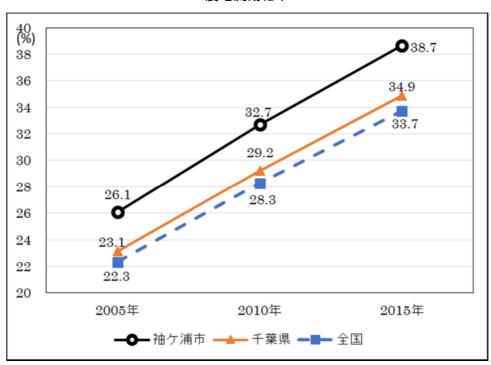
資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

# 耕作放棄地率



資料:まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

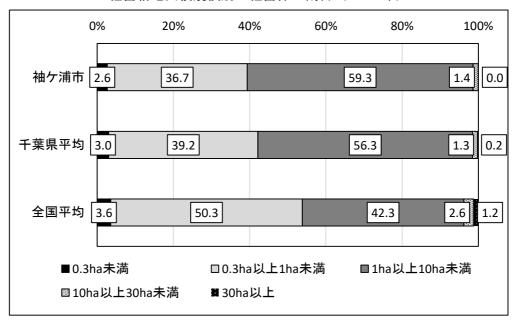
# 農地流動化率



資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

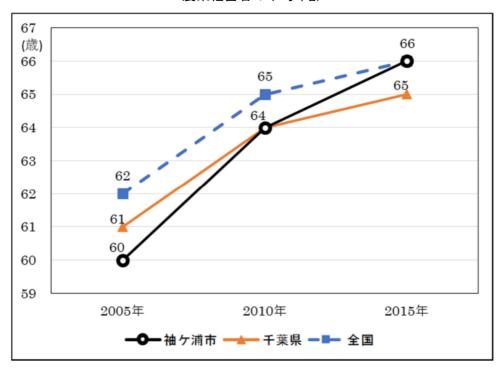
(注) 農地流動化率=借入耕地面積:経営耕地面積

#### 経営耕地面積規模別の経営体の割合(2015年)



資料:まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

#### 農業経営者の平均年齢



資料:まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

# (4) 観光

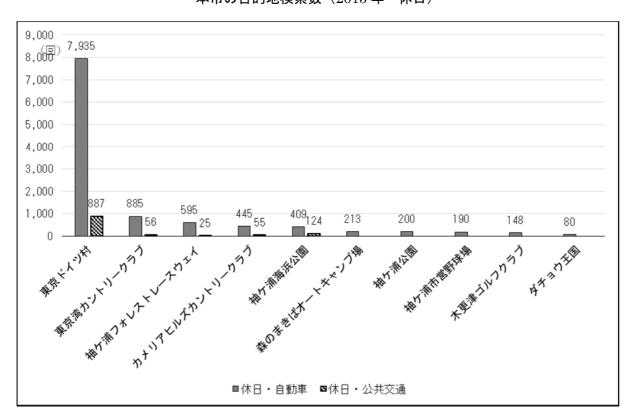
### ① 目的地検索数

- ✓ 本市の目的地検索数は、自動車、公共交通とも「東京ドイツ村」が最も多くなっている
- ✓ 自動車で東京ドイツ村を検索した人の出発地をみると、県内の周辺地域や、アクアライン対岸地域が多くなっている
- ✓ 検索数上位の施設は月ごとに波があるため、増減に応じた施策(周辺での連携 イベントの開催、渋滞緩和など)の検討を要する

本市の目的地検索数 (2015 年・休日、以下同じ)) をみると、自動車では、「東京ドイツ村 (7,935件)」が突出して多く、次いで「東京湾カントリークラブ (885件)」、「袖ケ浦フォレストレースウェイ (595件)」となっている。同様に、「公共交通」では「東京ドイツ村 (887件)」が最も多く、次いで「袖ケ浦海浜公園 (124件)」、「東京湾カントリークラブ (56件)」となっている。

「東京ドイツ村」を検索した人の出発地(休日・自動車)をみると、「木更津市(579 件)」が最も多く、「千葉市(550回)」、「横浜市(487回)」と続いており、周辺地域とアクアライン対岸地域からの検索が多くなっている。

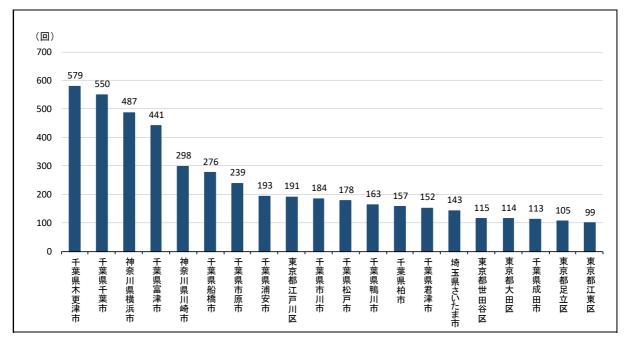
検索上位 5 施設について、年月別にみると、「東京ドイツ村」では、冬~春にあたる 11 月~5 月が多く、「袖ケ浦海浜公園」では、大型イベントが開催される 9 月が多くなっている。



本市の目的地検索数 (2015年・休日)

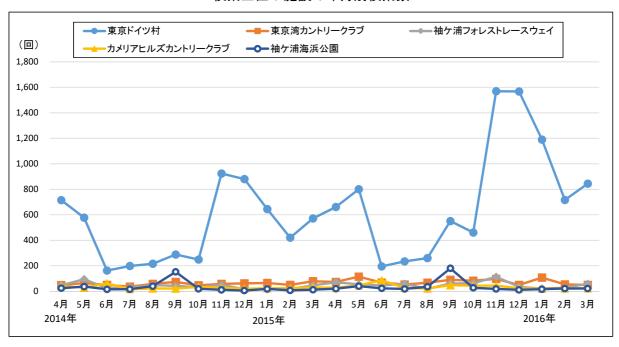
資料:まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

「東京ドイツ村」を検索した人の出発地(2015年・休日・自動車)



資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

検索上位 5 施設の年月別検索数



資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

# ② 宿泊状況

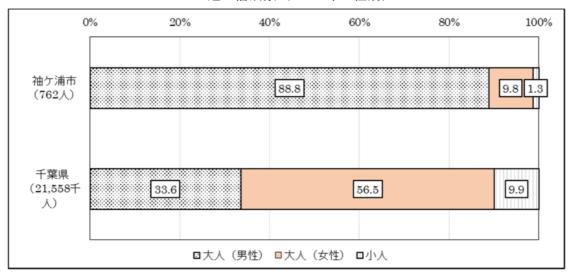
- ✓ 本市の宿泊客は、千葉県全体と比べ、男性・一人が多く、家族連れやグループ の割合が少ない
- ✓ 現時点での市内宿泊者はビジネスやゴルフ等での訪問者に限定されている可能性があるため、東京ドイツ村などと連携した家族連れ・グループの観光・レジャー需要の取り込みが期待される

宿泊者の性別をみると、本市は「大人(男性)」が 88.8%を占め、千葉県の 33.6%を大幅に上回っている。その分、「大人(女性)」(本市: 9.8%、千葉県: 56.5%) の差異が大きい。

宿泊者の宿泊数をみると、本市は「1 泊 (38.2%)」、「2-3 泊 (34.5%)」、「4 泊以上 (27.4%)」のいずれもみられるが、千葉県は「2-3 泊 (71.0%)」が多くの割合を占める。

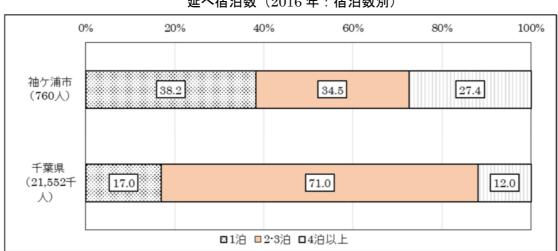
宿泊者の参加形態をみると、本市は「一人(60.2%)」が最も多く、2番目に多い「男女グループ(13.9%)」との差が大きい。千葉県で最も多い「家族」(本市:5.4%、千葉県:27.5%)の割合は、本市では低位にとどまる。

延べ宿泊数 (2016年:性別)



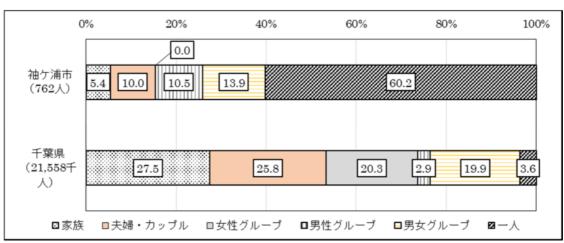
資料:まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成(不明を除いて算出)

延べ宿泊数(2016年:宿泊数別)



資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

延べ宿泊数(2016年:参加形態)



資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

### ③ 滞在人口

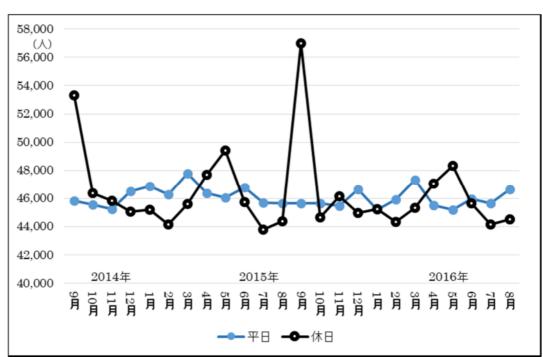
- ✓ 休日の滞在人口は、行楽シーズンの 4~5 月と、気志團万博が開催される 9 月 に多い
- ✓ 本市の滞在人口率(滞在人口/居住人口)は、平日 0.95 倍、休日 0.93 倍と 1.00 倍を下回っており、就業や観光・買い物にあたって人が流出している(特に、 平日より休日の流出が多い)
- ✓ 滞在人口の市外からの出発地をみると、近隣市のほか、東京都東部や神奈川県 の自治体がみられる

本市の滞在人口を月別にみると、2015 年・2016 年とも  $4\sim5$  月の行楽シーズンと、気志團万博が開催される 9 月に休日の滞在人口の増加がみられる。

2016年8月の滞在人口は、平日46,651人(滞在人口率0.95倍)、休日44,517人(同0.93倍) と、平日の方がやや上回っている。

滞在人口の市外からの出発地をみると、県内では、市原市、木更津市、君津市など近隣市からの流入が多く、県外では東京都江戸川区、大田区、世田谷区など東京都東部や、アクアラインを通じてアクセスが良好な神奈川県の自治体が流入の上位となっている。

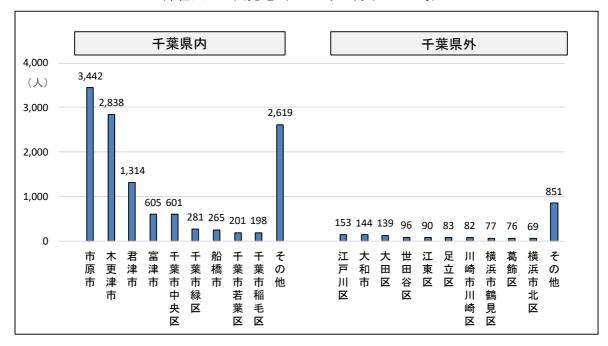
滞在人口率は、平日が 0.95 倍で県内 33 位、休日が 0.93 倍で同 39 位と、県内 59 市区町村(千葉市内 6 区<中央区、花見川区、稲毛区、若葉区、緑区、美浜区>及び他の 53 市町村)中で中位となっている。



月別滞在人口

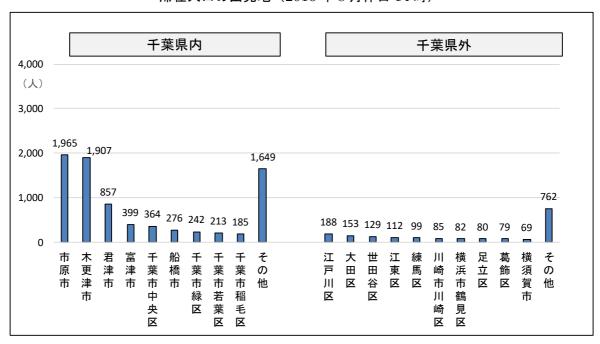
資料:まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

滞在人口の出発地(2016年8月平日14時)



資料:まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

滞在人口の出発地(2016年8月休日14時)



資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

滞在人口率の県内自治体間比較(2016 年 8 月 14 時) 平日 休日

順位	市区町村	滞在 人口率 (倍)
1	芝山町	2.05
2	浦安市	1.43
3	鴨川市	1.35
4	成田市	1.33
5	御宿町	1.31
6	千葉市中央区	1.27
7	千葉市美浜区	1.27
8	館山市	1.25
9	勝浦市	1.23
10	白子町	1.22
:	:	:
33	袖ケ浦市	0.95
:	:	:
50	四街道市	0.80
51	市川市	0.79
52	松戸市	0.79
53	鎌ケ谷市	0.79
54	千葉市緑区	0.78
55	大網白里市	0.78
56	流山市	0.76
57	我孫子市	0.74
58	千葉市花見川区	0.72
50	栄町	0.71

順位	市区町村	滞在 人口率 (倍)
1	御宿町	1.88
2	勝浦市	1.62
3	芝山町	1.60
4	浦安市	1.55
5	鴨川市	1.50
6	千葉市美浜区	1.42
7	館山市	1.42
8	鋸南町	1.42
9	大多喜町	1.36
10	南房総市	1.33
:	:	
39	袖ケ浦市	0.93
÷	:	:
50	八街市	0.87
51	千葉市若葉区	0.86
52	鎌ケ谷市	0.86
53	四街道市	0.86
54	千葉市緑区	0.85
55	松戸市	0.85
56	流山市	0.85
57	我孫子市	0.82
58	千葉市花見川区	0.79
59	栄町	0.78

資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

注:千葉市内6区(中央区、花見川区、稲毛区、若葉区、緑区、美浜区)

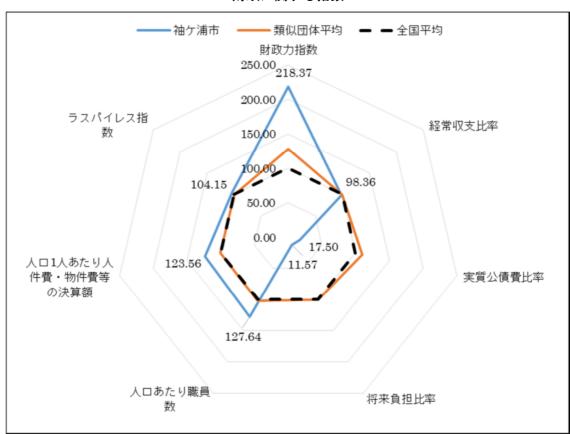
及び他の県内 53 市町村の計 59 市区町村での比較

# (6) 財政

- ✓ 本市の財政力指数・実質公債費比率・将来負担比率は、全国平均及び類似団体 平均と比べて良好であり、現状の財政は比較的健全である
- ✓ 一人あたり地方税(県内3位)、一人当たり市町村民税法人分(同5位)、一人 あたり固定資産税(同3位)は県内で上位にある

本市の財政に関する指標をみると、全国平均を 100 とした場合、「財政力指数(218.37)」、「実質公債費比率(17.50)」、「将来負担比率(11.57)」のいずれも全国平均及び類似団体平均(都市  $\Pi-1$ 型)と比べて望ましい水準となっている。一方、「人口あたり職員数(127.64)」や「人口 1 人あたり人件費・物件費等の決算額(123.56)」などは、全国平均及び類似団体平均と比して高くなっている。

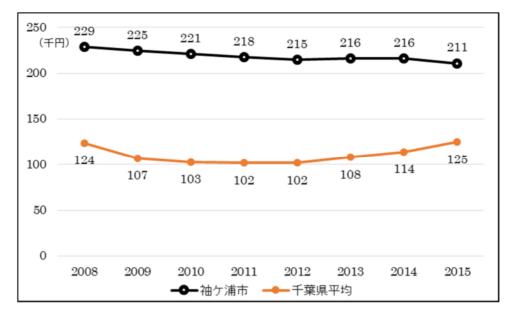
- 一人あたり地方税は、2015 年度に 211 千円となっており、千葉県平均 125 千円を上回って県内 3 位となっている。
  - 一人あたり固定資産税は、2015年度に121千円となっており、県内3位となっている。
  - 一人あたり市町村民税法人分は、2015年度に18千円となっており、県内5位となっている。



財政に関する指数

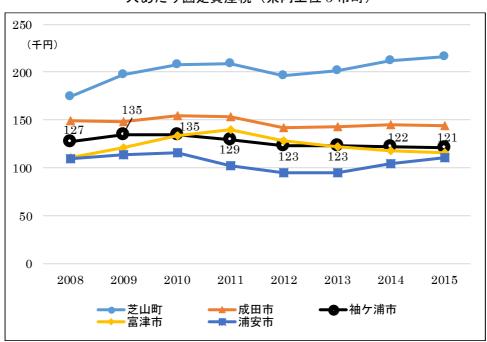
資料:まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成注:財政力指数は高い方が望ましく、その他は低い方が望ましい

# 一人あたり地方税



資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

一人あたり固定資産税(県内上位5市町)

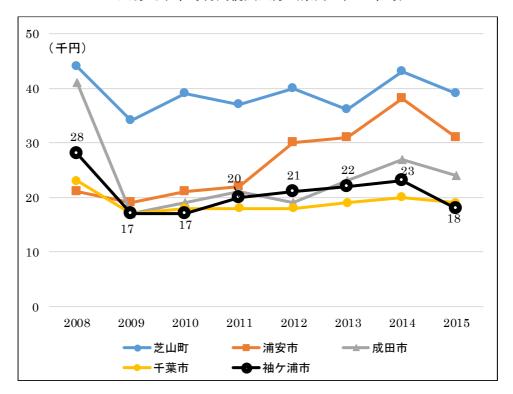


資料:まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

(注1) 比較対象は、2015年度の県内上位5市

(注2) 表中の数値は袖ケ浦市のデータ

# 一人あたり市町村民税法人分(県内上位5市町)



資料: まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」データより作成

(注1) 比較対象は、2015年度の県内上位5市

(注2) 表中の数値は袖ケ浦市のデータ

# 2. 社会指標分析

#### ●趣旨

各種統計データから、本市の現状を千葉県全体や周辺自治体と比較し、市の現状を把握する。

#### ●分析手法·内容

就業者数や公共施設数など、市町村別に公表されている社会指標等の各種統計データを使用し、 64項目を分析。人口あたりの計数化や偏差値化など、各指標データを加工し、その結果を一覧表 にして掲載する。

(注) 偏差値の基となる原データは本項の末尾に一括して掲載している。

#### ●比較対象

①県内 54 自治体での比較

県内 54 自治体で比較することで、本市の特性(強み、弱み)を明らかにする。 <手法>各指標の千葉県平均を 50.0 として偏差値化する。

②近隣4市との比較(市原市、木更津市、君津市、富津市)

移住・定住を検討する際に特に比較対象になりうる近隣市との比較を行うことで、競合自治体との相対的な強み・弱みを明らかにする。

<手法>各指標の5市(近隣4市+本市)平均を50.0として偏差値化する。

#### ●比較対象指標

以下の4つの切り口で指標を分析する。

- ①出産・子育て・教育に関連する指標
- ②医療・高齢者福祉に関連する指標
- ③生活(住環境、安全・安心、余暇・文化、都市基盤・環境)に関する指標
- ④産業・財政に関連する指標

- (1) 県内54自治体での比較
  - ①出産・子育て・教育に関連する指標
  - ✓ 合計特殊出生率、15-49歳女性人口あたり出生数、自然増減率、年少人口比率が高い(多い)ほか、認可保育所待機児童率が低い
  - ✓ 25-39歳女性労働力率、小学校児童あたり教員数が低い(少ない)

		単位	注	袖ケ浦市	県内市 町村平 均		差値 0 70
	合計特殊出生率	-		1.44	1.24		61.5
	15-49歳女性人口1千人あたり 出生数	人/千人		39.46	32.35		62.7
出	自然増減率	%		-0.5%	-2.1%		57.9
<b>産</b>	人口1千人あたり認可保育所 定員	人/千人		17.29	18.98	47.4	
子育	認可保育所待機児童率	%	0	0.1%	1.0%		55.0
て	25-39歳女性労働力率	%		68.0%	71.9%	43.5	
	15-49歳人口1千人あたり婚姻 件数	件/千人		10.31	10.04		51.3
	年少人口比率	%		13.6%	11.2%		61.7
	小学校児童1百人あたり教員数	人/百人		6.05	7.78	43.5	
教	中学校生徒1百人あたり教員数	人/百人		7.33	8.44	45.4	
育	高校等進学率	%		98.8%	98.9%	49.7	
	大学等進学率	%		42.8%	34.3%		53.5

# ② 医療・高齢者福祉に関連する指標

- ✓ 人口あたり一般診療所数、同一般診療所病床数が多いほか、老年人口比率、 老年人口指数、高齢単身世帯数比率、要介護(要支援)認定率が低い
- ✓ 人口あたり病院数、65歳以上人口あたり有料老人ホーム定員が少ない

		単位	注	袖ケ浦市	県内市 町村平 均		差値 0 70
	人口1万人あたり病院数	所/万人		0.16	0.57	42.2	, ,
	人口1万人あたり病院病床数	床/万人		67.10	105.93	46.2	
	人口1万人あたり一般診療所数	所/万人		6.73	5.61		58.2
医	人口1万人あたり一般診療所病床 数	床/万人		8.37	4.96		55.4
療	人口1万人あたり医師数	人/万人		9.68	15.71	46.5	
	人口1万人あたり歯科医師数	人/万人		6.23	6.86	47.3	
	人口1万人あたり看護師数	人/万人		49.55	51.85	49.4	
	人口1万人あたり薬剤師数	人/万人		17.06	16.50		50.8
	老年人口比率	%	0	24.9%	30.4%		58.6
	老年人口指数	-	0	0.406	0.533		58.0
高	高齢夫婦世帯数比率	%	0	12.2%	13.4%		54.5
齢者	高齢単身世帯数比率	%	0	7.8%	11.0%		60.7
福祉	要介護(要支援)認定率	%	0	13.1%	15.1%		61.2
Ш	65歳以上人口1万人あたり介護 老人保健施設定員	人/万人		125.47	107.72		51.8
	65歳以上人口1万人あたり介護 老人福祉施設定員	人/万人		141.98	164.72	46.5	
	65歳以上人口1万人あたり有料 老人ホーム定員	人/万人		25.75	104.93	44.3	

- ③ 生活(住環境、安全・安心、余暇・文化、都市基盤・環境)に関連する指標
- ✓ 人口あたり新設住宅着工戸数、同図書館数、同都市公園数が多いほか、同交 通事故件数、同交通事故死傷者数が少ない。また、水道普及率、下水道普及 率、リサイクル率が高い
- ✓ 人口あたり小売事業所数、同小売事業売場面積が少ない

		単位	注	袖ケ浦市	県内市 町村平 均		差値 50 70
	人口1千人あたり新設住宅着エ 戸数	戸/千人		13.13	6.06		70.4
住環	持ち家比率	%		75.1%	77.9%	47.6	
境	人口1千人あたり小売事業所数	所/千人		3.81	6.14	40.8	
	人口1千人あたり小売事業売場 面積	㎡/千人		648.94	1108.28	38.7	
安	人口1千人あたり交通事故発生件 数	件/千人	0	2.58	3.26		58.5
<b>全</b>	人口1千人あたり交通事故死傷 者数	人/千人	0	3.43	4.25		56.8
安心	人口1千人あたり出火件数	件/千人	0	0.64	0.51	46.1	
,U	人口1千人あたり刑法犯認知件数	件/千人	0	8.93	9.11		50.9
余暇	人口1万人あたり公立社会体育施 設数	所/万人		4.102	4.744	48.4	
· 文	人口1万人あたり公民館数	所/万人		0.984	0.823		52.2
化	人口1万人あたり図書館数	所/万人		0.492	0.237		60.6
都	人口1千人あたり都市公園数	所/千人		2.89	1.36		78.9
市基	水道普及率	%		99.1%	92.0%		55.6
盤	下水道普及率	%		66.8%	41.1%		56.9
環境	人口1千人あたり年間ごみ総排出 量	t/千人	0	356.28	346.03	48.2	
境	リサイクル率	%		28.9%	19.7%		66.2

# ④ 産業・就業環境・財政に関連する指標

- ✓ 製造業事業所あたり製品出荷額等が多いほか、生産年齢人口比率、労働力率、 就業者率、第2次産業就業者比率が高い。また、財政力指数が高く、実質公 債費比率、将来負担比率が低い
- ✓ 人口あたり事業所数が少ない。また、経常収支比率が高い

		単位	注	袖ケ浦市	県内市 町村平 均		差値 0 70
	人口1千人あたり事業所数	所/千人		33.338	39.958	44.6	
	第1次産業事業所比率	%		0.8%	1.0%	48.2	
	第2次産業事業所比率	%		22.7%	19.9%		54.9
産	第3次産業事業所比率	%		76.4%	79.1%	45.7	
業	販売農家数あたり農業産出額	千万円/戸		0.973	0.854		52.1
	製造業事業所あたり製造品 出荷額等	百万円/所		11,222	1,686		86.3
	卸売業事業所あたり年間商品 販売額	百万円/所		309	404	46.9	
	小売業事業所あたり年間商品 販売額	百万円/所		148	151	49.6	
	生産年齢人口比率	%		61.3%	58.0%		57.3
	労働力率	%		58.5%	56.3%		57.1
	就業者率	%		56.3%	53.9%		57.9
就業	第1次産業就業者比率	%		4.4%	7.1%	45.4	
環 境	第2次産業就業者比率	%		27.4%	21.3%		62.9
	第3次産業就業者比率	%		64.8%	67.8%	45.7	
	女性就業者比率	%		46.8%	45.4%		54.7
	高齢者就業者比率	%		24.1%	23.9%		50.4
	財政力指数	-		1.09	0.72		64.6
財	経常収支比率	%	0	91.9%	90.9%	47.6	
政	実質公債費比率	%	0	0.6%	5.9%		64.5
	将来負担比率	%	0	4.5%	57.8%		62.7

(注) に○がある項目は、数値の低い方が偏差値が高くなるもの

- (2) 近隣5市(市原市、木更津市、君津市、富津市、本市)での比較
- ① 出産・子育て・教育に関連する指標
  - ✓ 15-49 歳女性人口あたり出生数が多く、自然増減率、年少人口比率が高い。 また、人口あたり認可保育所定員が多く、認可保育所待機児童率が低い
  - ✓ 小学校児童あたり教員数、中学校生徒あたり教員数が少ない

		単位	注	袖ケ浦市	5市平均		差値 70
	合計特殊出生率	-		1.44	1.39		53.6
	15-49歳女性人口1千人あたり 出生数	人/千人		39.46	36.34		57.1
出	自然増減率	%		-0.5%	-1.4%		56.9
産・	人口1千人あたり認可保育所 定員	人/千人		17.29	15.50		55.4
子育	認可保育所待機児童率	%	0	0.1%	1.5%		58.4
て	25-39歳女性労働力率	%		68.0%	68.8%	47.8	
	15-49歳人口1千人あたり婚姻 件数	件/千人		10.31	11.37	38.1	
	年少人口比率	%		13.6%	12.0%		60.7
	小学校児童1百人あたり教員数	人/百人		6.05	7.11	40.6	
教	中学校生徒1百人あたり教員数	人/百人		7.33	8.78	38.6	
育	高校等進学率	%		98.8%	98.7%		54.2
	大学等進学率	%		42.8%	41.4%		51.1

# ② 医療・高齢者福祉に関連する指標

- ✓ 人口あたり一般診療所数、同一般診療所病床数が多い。また、老年人口比率、 老年人口指数、高齢夫婦世帯数比率、高齢単身世帯数比率、要介護(要支援) 認定率が低く、65歳以上人口あたり介護老人保健施設定員が多い
- ✓ 人口あたり病院数、同医師数、65歳以上人口あたり介護老人福祉施設定員、 同有料老人ホーム定員が少ない

		単位	注	袖ケ浦 市 5市平均		偏差値		
						30 5	0 70	
	人口1万人あたり病院数	所/万人		0.16	0.50	33.1		
	人口1万人あたり病院病床数	床/万人		67.10	76.50	47.5		
	人口1万人あたり一般診療所数	所/万人		6.73	6.19		64.5	
医	人口1万人あたり一般診療所病床 数	床/万人		8.37	5.04		60.3	
療	人口1万人あたり医師数	人/万人		9.68	13.39	43.1		
	人口1万人あたり歯科医師数	人/万人		6.23	6.35	48.0		
	人口1万人あたり看護師数	人/万人		49.55	50.20	49.7		
	人口1万人あたり薬剤師数	人/万人		17.06	16.06		52.2	
	老年人口比率	%	0	24.9%	28.0%		59.0	
	老年人口指数	-	0	0.406	0.469		58.4	
高	高齢夫婦世帯数比率	%	0	12.2%	12.6%		55.5	
齢者	高齢単身世帯数比率	%	0	7.8%	9.8%		63.7	
福祉	要介護(要支援)認定率	%	0	13.1%	15.4%		67.4	
TIL	65歳以上人口1万人あたり介護 老人保健施設定員	人/万人		125.47	110.71		59.0	
	65歳以上人口1万人あたり介護 老人福祉施設定員	人/万人		141.98	155.64	44.7		
	65歳以上人口1万人あたり有料 老人ホーム定員	人/万人		25.75	143.85	43.1		

(注) に○がある項目は、数値の低い方が偏差値が高くなるもの

- ③ 生活(住環境、安全・安心、余暇・文化、都市基盤)に関連する指標
- ✓ 人口あたりの新設住宅着工戸数が多く、同交通事故件数、同交通事故死傷者数が少ない。また、同公立社会体育施設数、同図書館数、同都市公園数が多い。 さらに、水道普及率、下水道普及率、リサイクル率が高く、人口あたり年間ご み総排出量が少ない
- ✓ 人口あたり小売事業所数、同小売事業売場面積が少ない。また、同出火件数が 多い

		単位	注	袖ケ浦市	5市平均		差値 50 70
	人口1千人あたり新設住宅着エ 戸数	戸/千人		13.13	9.21		66.1
住環	持ち家比率	%		75.1%	72.7%		53.9
境	人口1千人あたり小売事業所数	所/千人		3.81	5.22	37.6	
	人口1千人あたり小売事業売場 面積	㎡/千人		648.94	1038.14	34.4	
安	人口1千人あたり交通事故件数	件/千人	0	2.58	3.25		64.2
全	人口1千人あたり交通事故死傷 者数	人/千人	0	3.43	4.34		63.9
安心	人口1千人あたり出火件数	件/千人	0	0.64	0.41	31.8	
٠٠.	人口1千人あたり刑法犯認知件数	件/千人	0	8.93	9.65		55.5
余暇	人口1万人あたり公立社会体育 施設数	所/万人		4.102	3.059		59.1
	人口1万人あたり公民館数	所/万人		0.984	0.962		50.7
文化	人口1万人あたり図書館数	所/万人		0.492	0.144		69.5
都	人口1千人あたり都市公園数	所/千人		2.89	1.36		67.9
市基	水道普及率	%		99.1%	97.5%		55.7
盤	下水道普及率	%		66.8%	50.6%		59.2
環境	人口1千人あたり年間ごみ総排出 量	t/千人	0	356.28	380.73		59.6
境	リサイクル率	%		28.9%	24.9%		62.2

(注) に○がある項目は、数値の低い方が偏差値が高くなるもの

# ④ 産業・就業環境・財政に関連する指標

- ✓ 第2次産業事業所比率、販売農家数あたり農業産出額、製造業事業所あたり 製造品出荷額等が多く、生産年齢人口比率、労働力率、就業者率、女性就業 者比率、高齢者就業者比率が高い。また、財政力指数が高く、実質公債費比 率、将来負担比率が低い
- ✓ 人口あたり事業所数が少ないほか、第3次産業事業所比率が低い

		単位	注	袖ケ浦市	5市平均		差値 70
	人口1千人あたり事業所数	所/千人		33.338	38.171	39.5	
	第1次産業事業所比率	%		0.8%	0.8%		52.2
	第2次産業事業所比率	%		22.7%	20.0%		59.7
産	第3次産業事業所比率	%		76.4%	79.2%	40.5	
業	販売農家数あたり農業産出額	千万円/戸		0.973	0.594		69.0
	製造業事業所あたり製造品 出荷額等	百万円/所		9,909	5,235		61.1
	卸売業事業所あたり年間商品 販売額	百万円/所		309	383	45.0	
	小売業事業所あたり年間商品 販売額	百万円/所		148	164	45.9	
	生産年齢人口比率	%		61.3%	59.6%		57.3
	労働力率	%		58.5%	57.5%		57.1
	就業者率	%		56.3%	55.2%		57.9
就業	第1次産業就業者比率	%		4.4%	4.1%		51.8
環境	第2次産業就業者比率	%		27.4%	27.2%		51.5
	第3次産業就業者比率	%		64.8%	64.8%		50.2
	女性就業者比率	%		46.8%	45.2%		63.5
	高齢者就業者比率	%		24.1%	23.3%		55.9
	財政力指数	-		1.09	0.97		64.2
財	経常収支比率	%	0	91.9%	92.9%		56.8
政	実質公債費比率	%	0	0.6%	5.1%		63.2
	将来負担比率	%	0	4.5%	43.1%		62.3

(注) に○がある項目は、数値の低い方が偏差値が高くなるもの

#### (3) 総評

#### (1) 出産・子育て・教育

- ・ 合計特殊出生率、15·49歳女性人口あたり出生数、自然増減率、年少人口比率が高水準であ り、子育て世帯に選ばれているまちだと言える
- ・ この傾向は、県内 54 市町村との比較及び近隣 5 市との比較の両方でみられ、どちらにおいても優位性がある

### ② 医療·高齢者福祉

- ・ 人口あたりの病院数が少ないが、一般診療所の数と病床数は多く、身近な医療が充実している
- ・ 老年人口比率、老年人口指数、高齢夫婦・単身世帯数比率が低く、県内 54 市町村および近隣 5 市と比較して相対的に高齢化が抑えられている(ただし、時系列で比較すると本市でも高齢化が進行している)
- ・ 要介護 (要支援) 認定率が低く、自立して生活できる高齢者が多い

### ③ 生活(住環境、安全・安心、余暇・文化、都市基盤・環境)

- ・ 人口あたりの新設住宅着工戸数が多く、住宅開発が進んでいる(人口増加につながる一方、 スプロール化の懸念がある)
- ・ 人口あたりの交通事故件数や交通事故死傷者数が少なく、安全なまちづくりが進んでいる
- ・ 人口あたりの図書館数や都市公園数が多く、子育て世帯が休日を過ごしやすい環境にある
- ・ 人口あたり小売事業所数・売場面積が少なく、市内での買い物は不便と言える

### (4) 産業・財政に関する指標

- ・ 京葉臨海部が立地しているため、製造業に関する指標(製造業事業所あたり製造品出荷額 等、第2次産業就業者比率の水準が高い
- ・ 財政力指数、実質公債費比率、将来負担比率など、財政の健全性に関する指標が良好。た だし、経常収支比率は高いため、財政の弾力性は低い

# (使用統計一覧)

# ①出産・子育て・教育に関連する指標

分 野		項目	使用統計					
	1	合計特殊出生率	千葉県:衛生統計年報(人口動態調査·2016年)					
	2	15-49歳女性人口1千人あたり出生数	千葉県:衛生統計年報(人口動態調査·2016年) 総務省:国勢調査(2015年10月1日)					
	3 自然増減率	自然増減率	総務省・住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数人口動態(2013~2016年度)					
出産・子育て	4	人口1千人あたり認可保育所定員	厚生労働省保育課調べ(2017年4月1日)※学校教育情報サイトGaccom「ガッコム」 総務省: 国勢調査(2015年10月1日)					
山座 丁月 (	5	認可保育所待機児童率	厚生労働省保育課調べ(2017年4月1日)※学校教育情報サイトGaccom「ガッコム」					
	6	25-39歳女性労働力率	総務省: 国勢調査(2015年10月1日)					
	7	15-49歳人口1千人あたり婚姻件数	千葉県:衛生統計年報(人口動態調査·2016年) 総務省:国勢調査(2015年10月1日)					
	8	年少人口比率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)					
	1	小学校児童1百人あたり教員数	千葉県:統計年鑑(2016年) ※千葉県「学校基本統計(学校基本調査結果報告書)」					
教 育	2	中学校生徒1百人あたり教員数	千葉県:統計年鑑(2016年) ※千葉県「学校基本統計(学校基本調査結果報告書)」					
<b>秋</b> 月	3	高校等進学率	千葉県:学校基本調査結果(2016年度)					
	4	大学等進学率	千葉県:学校基本調査結果(2016年度)					

# ②医療・高齢者福祉に関連する指標

分 野		項目	使用統計
	1	人口1万人あたり病院数	千葉県:統計年鑑(2015年) ※千葉県「衛生統計年報」厚生労働省「医療施設調査」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)
	2	人口1万人あたり病院病床数	千葉県:統計年鑑(2015年) ※千葉県「衛生統計年報」厚生労働省「医療施設調査」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)
	3	人口1万人あたり一般診療所数	千葉県:統計年鑑(2015年) ※千葉県「衛生統計年報」厚生労働省「医療施設調査」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)
医 療	4	人口1万人あたり診療所病床数	千葉県:統計年鑑(2015年) ※千葉県「衛生統計年報」厚生労働省「医療施設調査」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)
区 掠	5	人口1万人あたり医師数	千葉県:統計年鑑(2014年) ※千葉県「衛生統計年報」厚生労働省「医療施設調査」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)
	6	人口1万人あたり歯科医師数	千葉県:統計年鑑(2014年) ※千葉県「衛生統計年報」厚生労働省「医療施設調査」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)
	7	人口1万人あたり看護師数	千葉県:指標で知る千葉県(2014年) ※千葉県医療整備課調べ 総務省:国勢調査(2015年10月1日)
	8	人口1万人あたり薬剤師数	千葉県:統計年鑑(2014年) ※千葉県「衛生統計年報」厚生労働省「医療施設調査」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)
	1	老年人口比率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
	2	老年人口指数	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
	3	高齡夫婦世帯数比率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
高齢者福祉		高齢単身世帯数比率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
同断扫抽址		要介護(要支援)認定比率	千葉県:指標で知る千葉県(2016年4月) ※厚生労働省「介護保険事業状況報告月報」
	6	65歳以上人口1万人あたり介護老人保健 施設定員	千葉県:衛生統計年報(介護サービス施設・事業所調査・2016年) 総務省:国勢調査(2015年10月1日)
	7	65歳以上人口1万人あたり介護老人福祉 施設定員	千葉県:衛生統計年報(介護サービス施設・事業所調査・2016年) 総務省:国勢調査(2015年10月1日)
	8	<b>ム定員</b>	総務省: 都道府県・市区町村のすがた(2016年) 厚生労働省「社会福祉施設等調査」 総務省: 国勢調査(2015年10月1日)

※カッコ内の日付は、引用元データの基準年月日(参照文献の発行年月日とは必ずしも一致しない)

# ③生活(住環境、安全・安心、余暇・文化、都市基盤)に関連する指標

分 野		項目	使用統計								
	1	人口1千人あたり新設住宅着工戸数	千葉県:建築着工統計(2016年) 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
<i>什</i> 理 +	2	持ち家比率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
住 環 境	3	人口1千人あたり小売事業所数	千葉県:統計年鑑(2014年) ※千葉県「平成26年商業統計調査結果報告書」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
	4	人口1千人あたり小売事業売場面積	千葉県:統計年鑑(2014年) ※千葉県「平成26年商業統計調査結果報告書」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
	1	人口1千人あたり交通事故発生件数	千葉県:統計年鑑(2015年) ※千葉県警察本部「交通白書」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
安全・安心	2	人口1千人あたり交通事故死傷者数	千葉県:統計年鑑(2015年) ※千葉県警察本部「交通白書」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
女王·女心	3	人口1千人あたり出火件数	千葉県:統計年鑑(2015年) ※千葉県「消防防災年報」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
	4	人口1千人あたり刑法犯認知件数	千葉県:統計年鑑(2015年) ※千葉県警察本部「犯罪の概要」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
	1	人口1万人あたり公立社会体育施設数	千葉県:公立社会体育施設調査結果(2017年9月1日) 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
余暇·文化	2	人口1万人あたり公民館数	総務省:統計でみる市区町村のすがた(2011年) 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
	3	人口1万人あたり図書館数	総務省:統計でみる市区町村のすがた(2011年) 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
	1	人口1千人あたり都市公園数	千葉県:「みどりの現況値」(2016年) 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
	2	水道普及率	千葉県「水道統計調査」(2015年度)								
都市基盤• 環境	3	下水道普及率	公益社団法人日本下水道協会:全国市町村別下水道処理人口普及率(2016年3月)								
	4	人口1千人あたり年間ごみ総排出量	総務省:統計で見る市町村のすがた(2014年) ※環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								
	5	リサイクル率	総務省:統計で見る市町村のすがた(2014年) ※環境省「一般廃棄物処理事業実態調査」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)								

# ④産業・就業環境・財政に関連する指標

分 野	ř		項 目	使用統計
		1	人口1千人あたり事業所数	千葉県:統計年鑑(2014年) ※千葉県「平成26年商業統計調査結果報告書」 総務省:国勢調査(2015年10月1日)
		2	第1次産業事業所比率	総務省:経済センサス-基礎調査(2014年7月1日)
		3	第2次産業事業所比率	総務省:経済センサス-基礎調査(2014年7月1日)
産	業	4	第3次産業事業所比率	総務省:経済センサス-基礎調査(2014年7月1日)
<b>性</b>	未	5	販売農家数あたり農業産出額	農林水産省: 市町村別の農業産出額推計(2015年) 農林水産省: 農林業センサス(2015年)
		6	製造業事業所あたり製造品出荷額等	千葉県: 工業統計調査(2014年12月31日) 総務省: 経済センサス-活動調査(2016年6月1日)
		7	卸売業事業所あたり年間商品販売額	千葉県:商業統計調査(2014年7月1日)
		8	小売業事業所あたり年間商品販売額	千葉県:商業統計調査(2014年7月1日)
		1	生産年齢人口比率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
		2	労働力率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
		3	就業者率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
就業環	= <del>1</del> ±	4	第1次産業就業者比率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
八 未 环	<b>表</b> 現	5	第2次産業就業者比率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
		6	第3次産業就業者比率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
		7	女性就業者比率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
		8	高齢者就業者比率	総務省:国勢調査(2015年10月1日)
		1	財政力指数	総務省:地方財政状況調査(2016年度)
財	政	2	経常収支比率	総務省:地方財政状況調査(2016年度)
TA'	以	3	実質公債費比率	総務省:地方財政状況調査(2016年度)
			将来負担比率	総務省:地方財政状況調査(2016年度)

※カッコ内の日付は、引用元データの基準年月日(参照文献の発行年月日とは必ずしも一致しない)

# 第7章 現行計画の評価・検証

### 1. 調査概要

#### (1) 調査の目的

現行総合計画の計画期間における各施策分野の評価・検証を行い、次期総合計画策定にあたっての基礎資料とする。

### (2) 調査方法

各課が作成した施策評価検証シートを基に、ヒアリング調査を実施。施策評価検証シートでは、現行総合計画の施策の方向性や目標値等に対して、主に次の事項を検証した。

- ・ 達成できた(することが見込まれる)事項、その効果
- ・ 達成できなかった (できない、できることが見込めない) 事項、その原因・理由
- ・ 当該施策分野において今後対応すべき積み残した課題・新たに対応すべき事項(発生 した課題)
- ・ 当該施策分野の達成度(総括評価とその理由)

### 2. 調査結果のまとめ

### ① 総括評価の考え方

各施策分野について、後掲の施策評価検証シートに基づき、各施策分野の「施策の方向性」 についてどのような取り組みを行い、どのような効果が得られたかを定性面も含めて評価した。

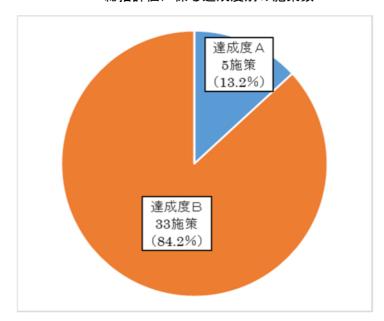
### 〇判断基準

施策評価検証シートに基づく検証結果を踏まえた総括評価を、次の A~D で判定した。

- A: (「施策の方向性」に掲げている) 目標を達成した(十分に達成できる見込みである)
- B: (「施策の方向性」に掲げている) 目標を概ね達成した(達成できる見込みである)
- C: (「施策の方向性」に掲げている) 目標をあまり達成できていない (やや未達成の見込みである)
- D: (「施策の方向性」に掲げている) 目標をほとんど達成できていない (達成には程遠い 見込みである)

# ② 結果

総括評価の結果(達成度ごとの割合と分野ごとの施策数)は次の通りであった。



総括評価に係る達成度別の施策数

(注)達成度 C、Dの施策はなし

総括評価に係る達成度別の施策数(分野ごと)

		総括評価	<b>西結果</b> (旅	5策数)	
	A	В	С	D	合計
市民生活	0	8	0	0	8
防犯・防災	0	3	0	0	3
保健・医療・福祉	2	5	0	0	7
学校教育・生涯学習	2	4	0	0	6
環境	0	2	0	0	2
産業振興	0	4	0	0	4
都市形成・都市基盤	1	5	0	0	6
行財政	0	2	0	0	2
合計	5	33	0	0	38

定性面を含めた総括評価では、全38施策のうち5施策がA、33施策がBとなり、多くの分野において一定の成果がみられる。

今後の課題として、①各施策分野のうち、進捗状況が悪い施策指標については引き続き改善を図ること(環境変化を踏まえて施策指標の妥当性についても再検討を要する)、②施策の達成度をより的確に測れる施策指標(市民満足度の活用等)を採用し、達成度を客観的かつ容易に判定できるようにすること、などが求められる。

※各施策分野の検証結果と総括評価の判定理由は、後掲の施策評価検証シートに記載 各施策の総括評価の一覧

章	節	施策	施策名	総括評価
		1	市民活動	В
		2	消費生活	В
	1	3	男女共同参画社会	В
1	'	4	情報化	В
'		5	国際化	В
		6	人権	В
	2	1	公共交通	В
		2	墓地・火葬場	В
	1	1	防災・国民保護	В
2	2	1	防犯・交通安全	В
	3	1	消防・救急・救助	В
	1	1	地域福祉	В
		1	保険	В
		2	ひとり親、低所得者福祉	Α
3	2	3	児童福祉	Α
		4	障害者福祉	В
		5	高齢者福祉	В
	3	В		
		1	幼児教育	В
	1	2	義務教育	Α
4		3	青少年健全育成	Α
-	2	1	生涯学習	В
		2	文化・芸術	В
	3	1	スポーツ・レクリエーション・体育	В
5	1	1	環境保全・美化	В
	2	1	廃棄物・リサイクル	В
	1	1	農林業	В
6	2	1	商工業	В
"	3	1	観光	В
	4	1	労働	В
	1	1	市街地形成	В
	'	2	公園・緑化	В
7	2	1	道路網	В
,		1	上水道	Α
	3	2	公共下水道	В
		3	住宅	В
8	1	1	財政運営	В
	2	1	行政運営	В

# (総括評価の判定基準)

- A:(「施策の方向性」に掲げている)目標を達成した(十分に達成できる見込みである)
- B:(「施策の方向性」に掲げている)目標を概ね達成した(達成できる見込みである)
- C:(「施策の方向性」に掲げている)目標をあまり達成できていない(やや未達成の見込みである)
- D:(「施策の方向性」に掲げている)目標をほとんど達成できていない(達成には程遠い見込みである)

# (1) 市民生活

章-	-節-施策	第1章-1節	-1 j	施策名	名 市民活動									
	本施策の 方向性	(1)コミュニティ活動の (2)市民参加によるま	2 3	集会所等 自治会の	施設の 加入促	整備へ( 進	の助成							
	施策の推進に より期待された 効果	自治会に加入する市る自主的な地域社会のまた、ボランティアや野を中心として、市民:	D形成が促 NPO等によ 主体によるま	進される。 る市民活 まちづくり	。 動が活 やサーL	発に行 <sup>っ</sup> ごスの提	われるこ 供が盛	とで、環 んになり	境や福 リ、さらに	祉、文化	七、安心	・安全な	どの分	
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		1104	
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 72.0	
現状	施策指標の	自治会加入率	%	64.5	62.6	62.2	61.9	61.9		60.3	59.1			
11人	達成状況 ※上段: 目標値	市内NPO法人の団体 数	団体	19	18	20 17	16	16	20 16	16	16		25	
		まちづくりに関心のある 市民の割合	%		53.3			46.7			62.5		65.0	
	下段: 実績値													
	これまで実施した主な事業													
	達成できた(見 込み)事項	自治会活動の拠点となる集会施設の建設・修繕、市内5地区の地域活性化の取組みへの補助、自治会加入を促進するためチラシ・マニュアルの作成や不動産業団体と協定を結ぶなどコミュニティ活動への支援を行った。協働事業提案制度の創設や市民活動情報サイト、まちづくり講座を開設し、市民活動を支援するための制度を整えた。さらに、協働のまちづくりを推進する上で基本となる「みんなが輝く協働のまちづくり条例」を制定し、地域のまちづくりを主体的に行う地域まちづくり協議会の組織化に取り組み、市民活動への支援を行った。												
	その効果	自治会等の活動を活動に対する支援が図ら 市民活動団体の担し り、市民活動団体等の	れた。 ハ手となる人	.材を育成	む、情幸	最の発信	で活動	の活性	化が図り					
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	自治会加入率の目標 は困難と見込まれる。 市内NPO法人の団付 り、実績値から達成は	本数は、当社	切目標値										
<b>検</b> 証	その原因・理由	住民の価値観・生活 いる。また、高齢化の NPO法人については 数は近年伸び悩む傾「	進行に伴い、 、会員の固	活動への	参加が	困難な	ケースも	増加して	ている。					
今後の 主な課題 (積み残し、新規) 自治会、NPO・ボランティア団体等の地域コミュニティでは、少子高齢化による参加者のが進行し、その活動を活性化するには、市民の積極的な参加と地域コミュニティの連携をこのため引き続き、地域コミュニティの情報発信や活動を支援し、市民が参加しやすい環がある。また、個々の地域コミュニティの活力が低下傾向にあり、相互の情報交換や連携で入り協議会の組織化を促進していく必要がある。											足進する 竟づくり1	必要が に取り組	ある。 む必要	
	総括評価	В	理由	域コミュ 動の活	ニティの 性化や	)活力は 旦い手育	・地域社 低下す。 育成に関 づくりに関	る傾向に する各種	こあるが 重取組 <i>8</i>	、条例を	制定し 責極的!	コミュニ <del>・</del> こ進めて	ティ活 おり、	

章-	 −節−施策	第1章-1節-2 施策名 消費生活												
	本施策の 方向性	(1)消費者利益の例 (2)消費者意識の例												
	施策の推進に より期待された 効果	・消費生活相談体制の充実により、実際に被害に遭ってしまった場合のトラブルに対し、必要な相談や情報提供を的確かつ迅速に行うことができる。 ・各種啓発活動により消費者の知識や判断力を高め、悪質な消費者問題の被害を未然に防ぐことが期待できる。												
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施			
現	佐竿七垣の	3日1示□ 消費者教室及び出前 座参加者人数		H22	H23	H24 200 347	H 25	H26 417	300 125	H28	H29 236	H30 440	H31 450	
状	施策指標の 達成状況													
	※上段:目標値 下段:実績値													
	これまで実施	消費生活相談・啓発	事業							I				
	した主な事業													
	達成できた(見 込み)事項	消費者利益の保護では、平成24年度に消費生活相談を行うための消費生活センターを開設した。また、消費生活相談員による適切な指導・助言等により問題の解決を図った。平成29年度より相談員2人/日を週1日から週2日へ増加させ、増加する相談への体制の強化を図った。 消費者意識の啓発では、年3~4回開催の消費者教室や出前講座による、消費生活に関する啓発活動を実施し、被害の未然防止に努めた。												
	その効果	ターの認知・利用度	消費生活相談については、消費生活相談員により、多くの案件を解決・処理することができた。消費生活センターの認知・利用度が増し相談件数は年々増加傾向にあることから、消費者被害の未然防止を担っている。消費者教室・出前講座については、被害に合っていない方が気軽に消費者被害の状況を学ぶ機会として情報提供を行うことができた。										る。消	
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	消費者教室参加人	、数は、平成	26年度4	17人を	ピークに	、減少的	頁向とな	っており	り目標達	成は難し	しい。		
<b>検</b> 証	その原因・理由	消費者教室参加人中ということもあり、7										日時が平	<b>F</b> 日日	
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	有資格者である相市センターとの広域 講師となる相談員 じて整える必要があ 象とした啓発に当た 要である。また、多く	化等の検討 が日々案件 る。また、近 り、福祉部局	により、相 処理に追ね 年被害が 号が行って	談員ので つれ、出 ある振り いる地域	確保を行 前講座  込め詐   単位で	デっていく 等への 欺への が の集い	ことも必 対応が国 対応とし 等を活月	要であ 対難とな て、特に ました、	る。 っており こ被害に きめ細や	、啓発体 遭いや <sup>*</sup> かな対	は制も必 すい高齢	要に応 含者を対	
	総括評価	В	理由	に実施	し、相談		ŧしい状え 強化や₹ vる。							

章-	-節-施策	第1章-1節	ī−3	施策名	男女共同参画社会										
	本施策の 方向性		(1)男女共同参画の意識づくり…①男女共同参画の意識づくり (2)男女共同参画の環境づくり…①職場、地域、家庭での共同参画を進める社会づくり ②心豊かな暮らしを支えるまちづくり												
	施策の推進に より期待された 効果	男女共同参画の意 どのあらゆる場におい										ѝ職場、҅҅	地域な		
		指標名	単位		期実施記			期実施			期実施		1104		
現	<b>*********</b>	男女が平等だと思う市民の割合	%	H22	H23 46.2	H24	H25	H26 43.8	H27	H28	H29 51.1	H30	H31 50.0		
状	施策指標の 達成状況	審議会等における女 性委員の割合	%	27.2	27.7	30 29.2	30 30.5	30.5	30 31.3	30 29.2	30.2	35	35		
	※上段:目標値 下段:実績値														
		男女共同参画推進事	業												
	これまで実施した主な事業														
	達成できた(見 込み)事項	男女共同参画に関するセミナー等の開催、情報誌の発行、中学校における出前講座などの啓発活動を継続して行うことで、子どもから大人まで幅広い世代における意識啓発を実施し、意識づくりに貢献した。 第3次男女共同参画計画に基づき各施策分野における取組みを全庁的に推進し、概ね達成できる見込みである。また、各種の啓発活動を実施することで、職場や家庭などにおける固定的・性的役割分担意識の改善を図り、男女共同参画の環境づくりに努めた。													
	その効果	性の就業への意識が	男女共同参画に関する意識は徐々に変わりつつあり、特に若い世代において、家庭での夫婦の協力体制性の就業への意識が高くなっており、意識づくりへの成果が出てきている。第3次男女共同参画計画の取組により、男女共同参画社会の実現に向けた環境づくりを総合的に進めた結果、共同参画の社会づくりに寄りことができた。										双組み		
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	男性の育児休業等	取得率が、	なかなか増	別して	いない。	,								
<b>検</b> 証	その原因・ 理由	職場や社会的通念同参画のための十分								飲く、また	:、職場(	こおける	男女共		
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	あらゆる分野でのなる不平等や固定観念 近年意識されるワービスの充実や、職場 推進、働き方改革等	のない、意 ーク・ライフ・ における制度	思決定に平 バランスに <sup>・</sup> <b></b> <b>を</b> 面での充	等に参 ついて 実、意	画でき は、理想 哉改革	る社会の と現実の などが必	D実現か D間のす 要な課	「求めら に離が大 題である	れる。 こきいた る。さらに	め、育児 こ、女性:	,介護等	・ サー		
	総括評価	В	理由	男女共同	第3次袖ケ浦市男女共同参画計画に基づき各施策を推進したことにより、 男女共同参画の意識づくりが図られ、男女が平等な立場で参画できる社会 D形成が進んでいる。										

章-	 −節−施策	第1章-19	節-4	施策名	名 情報化										
	本施策の 方向性	(1)地域情報化の (2)行政情報化の (3)情報化に係るノ (4)情報セキュリテ	推進…①行政 ②情: 、材の育成…	(手続オンデ報通信技術 ①情報化(	ライン化 析の活用 こ対応し	の推進 引による した教育	業務の で が れ 変 れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ れ	最適化							
	施策の推進に より期待された 効果	地域の情報化と行生活の利便性が大また、情報化を推上させることで、安/	幅に向上しま 進する地域・1	す。 す。 行政の人 <sup>‡</sup>	すを多数	育成す	るととも	に、情報							
		指標名	単位		期実施記			期実施			期実施				
現	施策指標の	インターネットを活用でいる市民の割合		H22	H23 59.1	H24	H25	H 26 65.9		H28	H 29 69.6	H30	H31 70.0		
状	達成状況														
	※上段:目標値 下段:実績値														
	これまで実施した主な事業	財務会計システムで 文書管理システムで 人事給与システムで 基幹システム管理 電子入札導入事業	初級パソコン講座 情報セキュリティ対策事業 住民票等のコンビニ交付												
	達成できた(見 込み)事項	民間事業者によるインターネット等通信インフラの整備等が進められるとともに、行政手続のオンライン化や行政の内部システム更新を進めることで、地域及び行政の情報化を進めることができた。 情報化を推進する人材育成として、市民向けに講座の実施、職員向けにはセキュリティ対策と合わせた研修等により、情報化に対応した教育を推進することができた。 情報セキュリティに関する物理的及び人的な対策を継続的に行うことで、情報セキュリティ対策の水準を持続的に向上させることができた。													
	その効果	地域情報基盤の動した。 また、情報化に対 会の実現に寄与した	応した人材の												
効	達成できな かった(見込め ない)事項														
果 • 検	その原因・理由														
証	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	行政情報化の推定利用した電子申請・において検討していまた、情報化に関応した情報セキュリ情報化に係る人材り情報化に対応したち上げる等の人材を	届出の導入を く必要がある する技術等は ティの構築、 けの育成では、 教育を推進す	を進めてい 。 は日々進歩 人材の育 、市民会館 けることはで	くほか、 している 成を継続 で 公民負	公的個 ることか してい。 館でので	人認証 ら、新た く必要が ち民向け	サービス な技術 ある。 パソコン	の多方等を利用 よ に講座で	面への記した情報	活用についます。	Oいても 進進、進 習する。	各事業歩に対		
各施策とも概ね計画通りに実施し、施策指標である「インターネ総括評価 B 理由 ている市民の割合」も増加しており、情報化による市民生活の利快適な情報社会の実現に向けて、一定の成果を得ることができた。										利便性					

章-	 −節−施策	第1章-1節	<b>第一</b> 5	施策名	国際化										
	本施策の 方向性	(1)国際化に対応し (2)国際交流活動の (3)国際化推進体制	D推進…①姉 ②地 訓の整備…①	妹都市等。 域における	との交流 国際交 ネットワ・	t 流の仮 ークづく	!進	の拡充							
	施策の推進に より期待された 効果	国際交流ボランテ 安心して生活できる 際化社会にふさわし	環境を整える	ことができ	る。また	-、国際	交流ボ	ランティ							
		指標名	単位		期実施計			期実施			期実施				
現	15 55 15 IT 0	外国人にとって暮らしや いと感じる市民の割合		H22	H23	H24	H25	H 26 28.3	H27	H28	H29 33.3	H30	H 31 30.0		
状	施策指標の 達成状況	国際ボランティア人数	٨	145	155	155	151	147	143	146	144		200		
	※上段: 目標値 下段: 実績値														
	これまで実施した主な事業	国際化推進事業													
	達成できた(見 込み)事項	支援するため、市ホ 語教室「きなさ」では 共同宣言を取り交れ	国際化基本方針を策定し本市の国際化推進に向けた基本的な考え方を示すとともに、在住外国人の生活。 支援するため、市ホームページや主要駅舎等案内標識の多言語化、市刊行物の外国語版を作成し、また日語教室「きなさ」では日本語学習のほか生活相談も実施した。平成28年度に姉妹都市への公式訪問を実施共同宣言を取り交わした。在住外国人との交流を図るため、国際交流協会で異文化交流等の各種交流イベンを開催したほか、協会の活動への助成を通じて、国際交流団体の育成とネットワークづくりを進めた。										-日本 ≷施し、		
	その効果	流の促進が図られた	外国人にも暮らしやすい、多文化共生のまちづくりが進められた。姉妹都市との今後の友好親善を確認 流の促進が図られた。また、市民の外国文化・習慣などへの理解を深めることができた。国際交流協会の 等を通じて、市民レベルでの国際交流の促進と人材の育成が図られた。												
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	国際ボランティアノ また、在住外国人 ことができなかった。	のニーズに対						)相談体	制は構築	築してお	らず、充	を実する		
· 検 証	その原因・理由	国際ボランティアは 相談体制について 「きなさ」の協力や干 な状況であったため	は、現状在信 葉県国際交	E外国人か	らの相詞	淡件数:	が少なた	いったこ	とから、	国際交流	t協会σ				
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	国際ボランティアに ク・パラリンピックで「 接する機会が増える 外国人にとっても暮	は、県内を会っ ことが予測さ	場とする競 れることや	技も予定 り、本市(	定され、 こおける	大会期 る外国人	間中及 、住民は	びその前 :増加し	前後には	、世界「	中の国σ	)人々と		
	国際ボランティア人数は目標値の達成が難しい状況であるが、施策の性に対し、着実に取組みを進めており、「外国人にとって暮らしやすいと」る市民の割合」が増加しており、多文化共生のまちづくりを進めることがた。										と感じ				

章-	一節一施策	第1章-1節	節-6 施策名 人権												
	本施策の 方向性	(1)人権教育・啓発(	(1)人権教育・啓発の総合的な推進…①人権教育 ②人権啓発												
	施策の推進に より期待された 効果	関係行政機関等に 啓発事業の実施によ 分自身の課題として	って、市民	の人権尊重	意識が	高まる	。そして	、憲法0	り理念に	基づき、	市民一				
		指標名	単位		朝実施記	十画	第2	期実施		第3	期実施	計画			
現	<b>大</b> な七年の	差別があると感じる下民の割合		H22	H23 36.7	H24	H25	H26 31.7		H28	H29 44.2	H30	H31 30(以下)		
状	施策指標の 達成状況	20111			00.7			01.7			77.2				
	※上段:目標値 下段:実績値														
		人権擁護事業													
	これまで実施 した主な事業	TIEDEMA, T. A.													
	達成できた(見 込み)事項	関係行政機関や人権擁護委員と連携し、市内全小学校での人権教室の開催、小中学校の人権集会への参加、小中学生の人権に関する作文・ポスターの作成依頼と展示、袖ヶ浦高校との協働により中学校で人権に関する演劇を実施するなど、若年期からの人権教育と人権啓発を図ることができた。 人権擁護委員による人権相談業務を定例相談として月9回、特設相談を年1回実施した。													
	児童・生徒に対して、若年期からより深く人権について印象づけ、考える機会を与えることで、人権 深めることができた。また、作文・ポスターの展示等によって、広く市民に人権に関する意識啓発が 相談の機会を提供することで、人権に関する市民の悩み事の解決に寄与した。														
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	差別があると感じる あった。	市民の割る	合は、平成3	31年度(	の目標	值30%	以下に	対し、2	9年度の	実績値	l\$44.	2%で		
· 検 証	その原因・理由	人権については、!! 待、最近ではインター 向にあった割合が平 的な事件等の影響を	-ネットによる 成29年度1	る人権侵害に上昇した理	なども課 里由につ	題にな いては	っている 、ケース	る。人権 くによっ	問題はて様々な	多岐にオ	たり、シ	年は個	氐下傾		
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	人権は短期的に効 るため、今後も人権す また、平成29年度 き若年期からの総合 る。	教育や人権 に中学校で	啓発、相談 の演劇を取	業務を組	継続して た人権	実施す 教室を新	る必要が	がある。 !施する	など充実	を図って	おり、	引き続		
	施策指標である「差別があると感じる市民の割合」は増加したが、人材室における新たな内容を取り入れた開催や中学校の人権集会への参加も増加しているほか、市内の高校とも協働で人権問題に関する取組みななど、人権教育や人権啓発についても積極的に推進している。											加回数			

章-	 −節−施策	第1章-2節	<b>-1</b>	施策名	3			1	公共3	を通			
	本施策の 方向性	(1)鉄道・バス輸送の (2)市内公共交通の			-			便性向.	Ŀ				
	施策の推進に より期待された 効果	鉄道輸送や高速バ も利便性の高い都市 やすい公共交通を実 さらに、市民の日常 弱者をはじめとする市	の実現が期 現する。 生活に必要	待される。 な路線バ	また、	駅舎など 寺し、新	ご施設の	バリア	フリー化	によって	、すべて	の人か	利用し
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		1124
現	施策指標の	駅の乗車数(袖ケ浦駅 長浦駅の合計)		10,294		H24 11,237 10,975	10,839	H26	11,800 10,883	10,961	H29	H 30	H31
状	達成状況	高速バス利用者数(E T乗車数)	3 人/年	551,433	570,936	630,162 587,398	583,719	596,408	611,848 597,182	583,486	620,000		630,000
	※上段:目標値	鉄道交通に満足する 市民の割合	%		45.1			47.9			50.1		60.0
	下段∶実績値	高速バス交通に満足 する市民の割合	%		64.0			62.6			68.6		70.0
		路線バス交通に満足 する市民の割合	%		26.3			28.1			23.0		40.0
	これまで実施 した主な事業	利用者ニーズに応じが 高速路線バス利便性		交通づくり	事業								
	達成できた(見 込み)事項	袖ケ浦BTに高速バス たことにより、利便性が あったルートに改善を図 循環バス「ガウラ号」の かったが、地域のニー	向上した。袖 図った。また、 Dあり方を見ī	ケ浦BTや 長浦駅舎 直し、デマ	東京ドイ及び袖グンド型乗	ツ村、相 r浦駅舎 合タクシ	の森工 を整備し 一の実	業団地に 、バリア 証運行に	路線バ フリー化 取り組ん	スの接続 を図った いだところ	を図り、 。 。 、本格導	利用ニー	-ズに
	その効果	高速バスの新規路 きた。また、駅舎の改 市民の日常生活に』 により、交通弱者をは	修により、す 必要な路線ノ	トベてのノ バスの維	しが利用 持を図る	しやするとともに	い施設と こ、地域	なった。 支え合し	、活動支				
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	横田駅のバリアフリ なっている路線があり				た。路線	バスに	おける利	用者が	減少傾	句となっ	ており、	減便と
· 検 証	その原因・理由	利用者数が3,000人 るが、横田駅について の増加を図るため、広 展により、路線バスの	利用者数か 報紙や回覧	が約200人 复板でのF	、/日とり R、乗り	なく、ノ	<b>バリアフ</b> !	ノ一化に	至ってし	いない。	路線バス	の利用	者数
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	多様な交通サービス 事業者、地域住民が 高齢者をはじめとす まちづくりや観光振! ある。	連携を図りた る市民の移	ょがら、持 動ニーズ	続可能 や地域:	な公共で	交通網σ 対応した	)構築を 公共交	図る必要	要がある ここのあ	。 り方を検	討する。	<b>.</b>
	総括評価	В	理由	袖ケ浦 ターミナ 交通が 市内な え合い	駅舎及で -ルへの 図られが 公共交通	び長浦駅 路線バ こ。 通の充実 爰事業と	R舎の改 スの接絡	(修、新 売などを ては、地	現高速/ 実施する	バス路線 ることに。 PO法人	、未達成 の誘致 より、利 が主体。 弱者の利	、袖ケ浦 用しやす となり、	がスい公共地域支

章-	一節一施	策	第1章-	2節	-2	施策律	3			墓	地・火	〈葬場	<u>.</u>		
	本施策( 方向性		(1)墓地公園の (2)火葬場の <sup>妻</sup>		② ·①火葬	墓地公園の		里							
	施策の推送 対期待さ 効果		地域住民との名	含意形成	뷫の下、⅓	火葬場の建	設と安足	€的な墓	地の供	給が期	待されま	ぎす。			
			指標名	, ]	単位	7	期実施			期実施			期実施		<b>□</b> 21
現	施策指標	ĒΦ	火葬場			ПZZ					<u>11127</u> 整備推:			ПЗО	ПЗТ
状	達成状況		墓地				※墓:	也需要に	こ不足す	ることの	ないよ	う対応し	ます。		
	※上段:目標	亜値													
	下段:実績														
			火葬場整備事	業											
	これまで写 した主な事		墓地公園管理	事業											
	達成できた 込み)事		墓地公園の割の確保を図ることでででの整備を決定しています。	とができ 講等につ 域4市( 津市火	きた。また いては、 の間で、 葬場整備	た需要に応 、共同整備I 「(仮称)木 帯運営事業	じた墓地 こよるス 更津市: 基本構想	の供給ケールス ケールス 火葬場園	をするこ リットが を備運営 する他、	とができ 大きい。 事業」	きた。 ことから。 こ関する	、共同で 覚書を約	整備する	る方向へ 各種協調	施策養を進
	その効	加果	墓地公園等の 火葬場の整備 の実施の結果、 費等の構成4市	帯等につ 、基本様	いては、 構想を具	、君津地域4 体化した基	キ 中共同 本計画を	整備に	向けて、 ることが	各種協	議及び、	環境影	響調査	等の各種	
効果	達成でき かった(見: ない)事	込め	市独自の火す	<b>幸場整</b> 備	を目指し	していたが、	市単独	の施設	整備はて	できなか	った。				
検証	その原 理由	_	地元同意が十 る方向へ施策3				た、共同	見整備に	よるスク	ァールメ	リットがこ	大きいこ	とから、	共同で	整備す
	今後の 主な課題 (積み残) 新規)	題 し、	墓地公園の惠地を活用した区骨堂などの永行 火葬場の整備 範囲及び負担記 要がある。	画の整 代供養墓 講等につ	備の検 をの需要 いては、	討が必要と が見込まれ 、平成33年	ー なる。ま しる。これ 度中の	た、単独 ルらを新か 新火葬 <sup>は</sup>	は世帯の こに発生 場の供用	増加等 した課題 開始を	により、 題として 目途に、	墓地の 、対応を 今後、	承継者7 検討す 地元対第	を在の発 る必要か を事業の	生と納 、ある。 事業
	総括評値	価	В		理由	全の確 独自施 の施設 目指し	保と安定 設の整 整備は	E的な墓 備を目指 できなか F) 木更活	基地の供 追してい; いったが.	給がでたものの たものの 、現在は	きた。火 )、地元[ は君津地	《葬場の 司意が一 域4市	テ <b>う</b> ことで 整備等 ト分得ら も同での ま同での	について れず、† 火葬場	は、市 単独 整備を

# (2) 防犯·防災

章-	-節-施策	第2章-1節	5 — 1   <u>1</u>	施策名	1			防災	(-国	民保訓	隻		
	本施策の 方向性	(1)災害に強い体制 織の体制強化⑤防災 (2)災害応急・復旧対 ④災害時応援協定の (3)災害予防対策・・ (4)国民保護対策・・	<ul><li>訓練の実施 対策・・・①災 対推進⑤関係・・・・・・①河</li></ul>	きまけ要す 機関との 可川の整	爰護者対 連携強 備②雨フ	対策の 化 k幹線の	整備②応 D整備③	急物資	等の確信	呆③防災			
	施策の推進に より期待された 効果	・災害等から市民の生・地域の防災力を高く								きれる。			
		指標名	単位		期実施			期実施	計画	第3	期実施	計画	
		1日1小口	= 世	H22	H23		H25	H26		H28	H29	H30	H31
現	施策指標の	自主防災組織の組織 数	組織	57	60	64 64	68	69	70 71	72	73		79
状	達成状況	自主防災組織の加力 世帯率	%	36.3	38.5	37.1 39.6	42.0	42.5	41.9 43.0	44.0	44.2		44.8
	※上段: 目標値												
	下段∶実績値												
		庁舎整備事業					地域防	災計画	の推進				
	これナズ中状	震災対策自主防災事	業				業務継	続計画	(BCP)	の策定			
	これまで実施 した主な事業	震災対策備蓄品管理	事業				防災行	政無線	(固定系	) デジタ	ル化事	業	
	ひた上が事未	災害時要援護者避難	技援対策				災害対	策コーラ	ディネータ	一養成	事業		
		防災訓練の実施						護計画					
	達成できた(見 込み)事項	地域防災計画の推進 (BCP)等の実施体制 及び庁舎整備基本設 災害時要援護者台帕 民間福祉施設14施設 より、81人のコーディ 奈良輪雨水ポンプ場 工事を実施した。武力 訓練を実施した。	に関する指針。計を実施した。 計を実施した。 その整備を進め と福祉避難所で ネーターを養成 ・奈良輪第一様	等の策定  、現在で の設置運  した。  非水区の  に  は  は  に  に  に  に  に  に  に  に  に  に	を行った は964 <i>)</i> 営に関す 雨水対策	。また、 、が登録 る協定 及び急	庁舎整備 しており を締結し 傾斜地崩	基本計 、市民会 た。また り壊危険	画に基づ :館・公民 、災害対 区域に指	き、既存 館5館を 策コーテ f定されて	新庁舎の 福祉避難 ディネータ こいる未習	の耐震補 性所として :一養成! 整備箇所	強設計で指定し事業に
	その効果	地域防災計画の推 づくりを推進できた。 消防団、災害対策・ 域社会の構築を推進	コーディネータ										
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	災害時要援護者登協力員に対して名簿 まっている。				-							
· 検 証	その原因・ 理由	災害時要援護者台 ているケースが多い。 登録は他人では承諾	自治会、民	生委員、	警察、消								
一	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	避難行動要支援者 者になり得る者の活 を決める必要がある。 災害時は県による らの援助の受入態勢 準用河川・普通河」 る。	動実態を把握 な援・受援の記 や役割分担な	して、地 調整が必 などの受	域に根え 要であ 援計画の	差した幅 り、その の策定を	i広い団 ための( をする必	体の中が 本制や役 要がある	から、地 设割を明 る。	域の実情確化して	青により	、避難3::-もに、7	を援者
	総括評価	В	理由	きた。ま 画におり 人の災 とができ	た、災 する支援 害対策 また。ま	書時要排 者等のコーディ と、災害	、基本記 爰護録者 3を記 3・本 3・本 3・本 3・本 3・本 3・本 3・本 3・本 3・本 3・本	録台帳 は211: を養成し 策として	の登録 名にとど ンて災害 、奈良	者は96 まってい に強い 倫雨水ホ	4名に求 vる状況 本制づく ペンプ場	けて、(( にあるた りを推進 ・奈良輪	固別計 が、81 するこ 第一

章-	-節-施策	第2章-29	<b>節</b> 一 1	<b>施策名</b>	1			防狐	. 交	通安全	<b>全</b>		
	本施策の 方向性	(1)防犯体制の充領 (2)交通安全の推済						施設等の	D整備				
	施策の推進に より期待された 効果	市民の防犯活動が が構築されます。ま 転車数の減少が期	た、市民の交流										
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		1104
	15 55 15 1 <del>7</del> 0	刑法犯認知件数	件	749	H23	700 660		H 26 572	H 27	570 462	560 481	H30	H 31 5 5 0以下
現状	施策指標の 達成状況	交通人身事故件数	件	206	189	200 227		133	157	165	130 179		180以下
	※上段:目標値 下段:実績値												
	これまで実施した主な事業	防犯対策運営事業 防犯灯設置管理事 交通安全対策事業 警察署設置要望事 市民生活安全パトロ	業										
	達成できた(見 込み)事項	防犯指導員や自3メラの設置を行った。 域の照度アップを図 交通安全協会や3の安全な交通環境・ や横断幕を設置し、 また、自転車放置	。防犯灯は、平  った。 交通安全母の会 を守る取組みを 交通事故防止	成17年 への支 進めた。 に努めた	度から <del>*</del> 援を行い さらに、 :。	平成24: ハ、交通 市外居	年度にた 安全教 住者へ(	かけて20 室及び配 の啓発の	W器具 啓発活動 Oため、	を32Wa hを実施	器具に玄 するとと	を換し、でもに、生	市内全 ∶活道路
	その効果	刑法犯認知件数が 交通安全教室や見より、交通事故の減また、放置自転車た。	啓発活動を実施 少につながった	し、交通 た。	iルール	の周知	を行った	ことやソ	`—ン30	の指定	区域を増	曽加する	
効果・	達成できな かった(見込め ない)事項	自主防犯パトロー 警察署設置についい。							舌動を行	うっ <i>たが</i> 。	、設置に	は至っ <sup>・</sup>	ていな
検証	その原因・理由	自主防犯パトロー 方、継続不可のたる 市の犯罪発生状況	か登録更新しな	い団体も	存在し	ているた	≥め。警察	察署の認	置につ	いては、			
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	自主防犯パトロー 中的に32W化したに警察署の設置にな 交通量の増加に任 衰えに伴う運転免割	防犯灯の耐用st ついては、引き線 半う通学路や住	手数等を 続き警察 宅街の3	考慮し、 署設置 を通安3	更新計 及び警察 全を確保	画を検言 察体制の するため	すする必 )充実な り、ゾーン	要があっ どにつし v30等の	る。 いて県に の検討ヤ	要望し	ていく。	
	総括評価	В	理由		施策指	標は大	ての各種 幅に改き れた。						

章-	 -節-施策	第2章-3節	<u>5</u> — 1	施策名	3			消防	• 救急	急•救.	助		
	本施策の 方向性 施策の推進に	(1)消防体制の充実 (2)救急・救助体制(	④ の充実・・・①:	消防水和 救急活動	可の確保 の高度	· :化、②i	負機材 <i>₫</i>	)整備					
	より期待された効果	市内の消防・救急・材の育成を進めること								支えられ	,ます。	きた、幅	広く人
		指標名	単位	第 1 H 22	期実施			期実施			期実施		H31
	佐笠七垣の	消防水利の充足率	%	89	90	91 91	91	91	92	91	91	1100	100
現	施策指標の 達成状況	通報から消防車到着 までの平均時間	分	9.8	9.2	9.7 11.4	9.5	10.7	10.1 9.6	10.4	11.0		8.0
状	※上段:目標値	通報から救急車到着 までの平均時間	分	7.5	7.6	7.4 7.7	7.5	8.4	7.4 8.3	8.3	8.3		6.5
	下段:実績値	事業所等の防火指導回数及び一 住宅の防火診断回数	般	166	232	180 136	159	137	250 187	163	165		300
		火災予防啓発事業						車両列					
	これまで実施 した主な事業	常備車両更新事勢 消防団詰所建設 消防力の充実・強 防火水槽築造・維	事業 :化	<u> </u>			長浦浦	防署記	川練塔	指令セ: 改修事 修事業		整備事	業 
	達成できた(見込み)事項	平成25年度に消防体 発足し、消防体制の充 始することができた。ネ 火災予防啓発は、火 活動は、機能別消防 した。 また、救急車の適正	実強化等につ 対防車両及び消 災予防運動週 町員制度や女性	いて検討 肖防団詰 間等の機 生消防団	した。25 所につい 会を捉え 員制度を	年度から ては、計 え実施す 導入する	あちば消り 画的に るとともし るとともに	方共同指 更新・建 こ、計画 、27年度	令センタ 替え等を 的に立 <i>入</i> には消し	ーにて指 行った。 、検査を写	育令業務 と施した。	の共同選	■用を開 消防団
	その効果	事業者が火災予防活動においては、処況 及び消防車両の更新向上を図ることができまた、応急手当・救	遇改善等を行 fなども進めた きた。	い、活動 ことによ	しやすし り、消防	・救急・	整備す 救助体	ることが制の充実	できた。 実強化 <i>た</i>	さらに、 がなされ	指令業 、市民の	務の共同	司運用
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	消防水利の充足率 火診断回数ともに、し に平成29年には422	いずれも目標数	数値に達	していた	い。消	防団員勢	数は、過					
· 検 証	その原因・理由	消防水利の充足率 車及び救急車到着ま 導回数等は、防火管 存在する。消防団員	での平均時間理者等の指導	間は、災 算の下、	害地点等消防職員	等により 員の立ち	、到着明白の	時間が異 要せずに	なる場 自ら企	合がある 画し訓練	。事業原を実施	所等の原 する事業	方火指
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	県が策定する消防・また、消防団についまた、消防団の重にされ、消防団の重り、本市の状況も例がれることから、対応が消防庁舎の集約移	ヽては、平成2 要性が改めて 外ではない。こ 、必要である。	25年12 示された のまま[	月に「消 こところで 団員が派	防団をであるが ずめし続	中核とし、近年》 、近年》 けた場	た地域限 消防団員 合、消防	方災力の 数は全 団活動	の充実強 :国的に に支障を	化に関う 見ても減	する法律 少傾向	』が制 にあ
	総括評価	В	理由	所の建 の確保	設及び 等一部	火災予覧 課題を残	方啓発事	業は計 の、計画	画どおり	消防車 川に実施 概ね計[	されてし	る。消	访団員

## (3) 保健・医療・福祉

章-	-節-施策	第3章-1館	5—1	施策名	1			ţ	也域名	畐祉			
	本施策の 方向性	(1)地域福祉の推進 (2)福祉環境の整備	・・・②社会 ・・・③ボラン	福祉協議 ンティアの ノて生活で	会、民会育成及	生委員・ び活動 ちづくり(	児童委 の支援 の推進		:の連携	の強化	充実		
	施策の推進に より期待された 効果	・地域の多様な福・地域ぐるみの福											
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		
				H22	H23		H25	H26			H29	H30	
現		一人暮らしの高齢者の 急通報システム設置割		56.2	59.7	62.0 57.6		58.5	62.0 56.9		47.7		68.0
状	施策指標の 達成状況	福祉ボランティア				1,280			1,280				1,280
	V 1 50. D 45./c			1,170	1,204	1, 101	1,202	1,277	1,010	1,020	1,000		
	※上段:目標値 下段:実績値												
		<u> </u>	///14.W.=				101. FT A	. A += +	14=* ^	T # 1 + 1	122 <del>1</del> 2 414		
		<ul><li>・身近な交流の場づ</li><li>・(仮称)ひらかわ健</li></ul>		東大震	<u></u>					活動支置 置•管理			
	これまで実施	・ボランティアセンタ·		2.金洲争2	₹		* 茶忌!	型ギ収ン <i>へ</i>	アム政	但"官理	争未		
	した主な事業	·地域福祉活動団体											
		•地域福祉計画策定	事業(Ⅱ期)										
	達成できた(見 込み)事項	地区社会福祉協議 行うことができた。ま 団体と連携協力し、 相談に対応している 災害時要援護者台	た、身近な交 地区懇談会を 。	流の場つ実施する	びりがせ ことがて	地域に広 ごきた。:	がってる 長浦地区	きている 区と平川	。なお、 地区に「	各地域 健康福	で活動し 祉支援	,ている 室」を開	様々な
	その効果	身近な交流の場できた。 また、要援護者の											
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	若年層のボランテ 活動団体との連携が なお、地区懇談会 住宅整備資金貸付 置率が見込みを下回	易力が始まった で地区ごとの †制度の利用。	こが、市内 困りごとに	i全域ま こついて	では及の解決	んでいた 策を見出	い。 出すまで	には至ら	らなかっ	<i>t</i> =。		
• 検 証	その原因・理由	若年層は就労して 委員・児童委員の活 住宅整備資金貸付 数は微増だが、ひと	動内容の地域 計制度は、金融	或での認知 独機関の個	知度が 氐金利ヤ	あまり高	くないこ く要件の	と。 問題が	ある。緊	急通報			
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	ボランティア自体の 民生委員・児童委 いため、民生委員・! 地域福祉を充実さ 住宅整備資金貸作	員の人材確保 児童委員の認 せるため、部門	くまれていて はいまた はいまま はいまま はいまま はいま はいま はいま はいま はい	、自治: める取り D活動で	会や地は J組みの なく横	或の活動 )検討が 断的な取	が団体の 必要で 双組みか	連携協 ある。 できる。	力が市に	内全域ま		
	総括評価	В	理由	も目標を	達成す 2区懇談	る見込 会を実	ティアリ- みである 施するこ いだ。	。各地	域で活動	加てい	る様々な	団体と	連携協

章-	 −節-施策	第3章-2節	<b>齐</b> —1	施策名	<b>4</b>				保险	<b>美</b>			
	本施策の 方向性	(1)国保財政運営の (2)介護保険制度の (3)国保・介護の広	充実・・・①介 ③介	↑護保険 ↑護保険	財政の修 事業計画	建全化、 画等の領	②実施( 6定、④	本制の動	整備、 、基盤の	確立	化		
	施策の推進に より期待された 効果	国民健康保険や 実現されることに 事業の実施や健 待されます。	よって、医療	・介護を	と必要と	_する†	5民の暮	事らしと	安心か	支えら	れます	。また	、保健
		指標名	単位	第 1	期実施	計画	第2	期実施	計画	第3	期実施	計画	
		担保石 	十二	H22	H23		H25	H26			H29	H30	
現	施策指標の	介護・支援が必要 高齢者の割合	ټ %	13.3	13.2	12.9 12.8		12.6	13.5 12.7	13.8	13.2		12.5
状	達成状況	介護保険利用者の 足度	尚 %	57.8			56.0						70.0
		特定健康診査の受	診 %	47.4		65.0				58.0	60.0		60.0
	※上段:目標値 下段:実績値	率		47.1	47.4	49.5 45.0		50.8	52.3	51.3 55.0	60.0		60.0
		特定保健指導の実 率	他 %	31.5	30.7	31.4		44.6	38.5				00.0
		国民健康保険税収	<b>纳</b> 0.	00		90.00			00.0				90.00
		率(現年分)	<sup>173</sup> %	86.56	87.35	87.67	88.19	88.95	89.23	90.74	92.68		
		特定健康診査等事	業・特定保健排	<b>旨導等事</b>	業		介護予	防・日常	生活支	援総合	事業		
	これまで実施	医療費適正化事業								進事業			
	した主な事業	介護保険事業計画等					介護保	険施設	等整備哥	事業			
		介護予防(二次予防 地域密着型サービス		±₩									
		事業計画に基づき			指道を	油上して		1 業を推	進する。	<u> </u>	医療費	通知や	<b>美</b> 類诵
	達成できた(見込み)事項	知等により医療費の 高齢者福祉計画・ 護、地域密着型特別 た、介護予防・日常 ス等、多様なサービ 制度や健康マイレ	介護保険事業  養護老人ホー 生活支援総合 スを開始した。	計画を第 -ムを整( 事業の創	構し、広 削設に対	域型特別 応し、野	別養護者 要支援者	そ人ホー 等に対	·ム整備 する緩和	•運営事 ロサ <i>ー</i> ビ	業者を	選定した	:。ま
	その効果	重症化予防対策や 要介護・要支援認 では、年齢や状態に 効果的な介護予防の	定者に対して、 より区別され	、利用者 ることなく	のニース	く いる高齢	たサービ 者を対象	えが受 とする	けられる ことが可	能となっ			
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	特定健康診査、保 広域型特別養護者 度開所予定となって の開所となった。	人ホームにつ	いて、討	画では	平成30	年度に	開所の	予定であ	っったが	—		
· 検 証	その原因・理由	特定健診の新規受 介護サービス施設 航したため。		-	_	-	結果、月	月地確保	その問題	などに。	り事業	者の選択	定が難
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	庁内横断的な連携 作っていくことに努力 高齢化の進行に付なかった小規模多機 らに検討する必要が 医療・介護を必要。 けて、各種取組みを	」することで、E い介護保険† 能型居宅介記 ある。 Lする市民の暮	医療費の ナービス和 養及び定 暮らしと安	適正化 利用者の 期巡回 心を支	を図って )増加か 随時対	いく必要 「見込ま 応型訪!	がある れ多様な 問介護者	。 はニーズ <b>重護に関</b>	に対応	するため 業者のG	と、整仮 を保につ	備でき いてさ
	総括評価	В	理由	より県内 きている 生じてい や地域	りでも高 る。介護 いるもの	い受診 保険に の、策算 サービス	下回った、実施率 ついては とした計	となって 、介護 <sup>+</sup> 画に基っ	おり、B ナービス ブき介護	医療費 <i>0</i> 施設整 予防・E	が 適正化 備に関し ま常生活	も概ねる 、一部 支援総	実施で 遅延が 合事業

章-	一節一施策	第3章-21	節-2	施策名	i		υŁ	≤り親	、低月	听得者	皆福祉	Ł	
	本施策の 方向性	(1)生活基盤と相談	談体制の充		・援護体 立の促進		充実						
	施策の推進に より期待された 効果	ひとり親家庭や個 社会の実現が期待		ごの生活基盤	の安定を	を図り、	誰もが何	建康で文	て化的な	最低限	度の生活	舌を保障	される
		指標名	単位	7	期実施計			期実施			期実施		
IΒ		生活保護率		H 22   ※生活	H23 保護制度								
現状	施策指標の	(1%=1/1,000=0.1%)	, %		5.8	5.5	5.3	5.3	5.5	5.6	5.6		
1/	達成状況												
	※上段:目標値 下段:実績値												
		ひとり親家庭等医療	療費助成事	<u> </u> 業									
	これまで実施	学習支援事業											
	した主な事業												
	達成できた(見込み)事項	各種相談体制を到 訓練給付金や高等 低所得者福祉に 支援のため、自立 連鎖の防止の観点	職業訓練の ついては、生 支援相談員	足進費による。 生活保護面接 を配置し、多	就労支援 相談員を 様な相談	等を実 を配置 とに対り	に施した し、体制	。  の強化	を図るこ	とができ	た。まか	≥、生活	困窮者
	その効果	経済的負担を軽減 と福祉の向上を図る 生活困窮者からの	ることができ	た。また、	生活保護	制度0	り実施体	制を強	化し、制	度を適正			
効果	達成できな かった(見込め ない)事項												
検証	その原因・ 理由												
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	自立のための支持 対して適切に情報 生活保護、生活 ら、継続的な相談3 学習支援事業に	提供する必見 日窮に関する を援体制を	要がある。 る相談に対応 構築するため	するため の人材を	)、相談 確保。	負には ける必要	広い視! がある。	野に専門	門的な知	識が必	要である	らことか
	総括評価	Α	理由	ことがで また、 努め、生 応し、さ	R庭等の- きた。 生活保護 : : : : : : : : : : : : :	養制度( 者に対 支援を	の実施はする相談	本制の強 淡支援に	化・充実	実により も、多様	ー 、制度の で複合	)適正な 的な相談	運用に

章-	- 節-施策	第3章-2節	i-3	施策名	;			J	見童礼	<b>富祉</b>			
	本施策の 方向性	(1)保育サービスの	④放 の推進・・・(	(課後児童	の健全 爰体制の	育成 D充実(	再掲)、	②社会 <sup>-</sup>	で支える	意識の	醸成	<b></b>	
	施策の推進に より期待された 効果	市民の保育ニーズ てができる地域社会 会環境の整備が期待	の実現と、子					-					
		指標名	単位		期実施		第 2 H 25	期実施			期実施	計画 H30	H31
現状	施策指標の	安心して子育てがで きると思う人の割合	%	1122	66.8	1124	1123	66.4	1121	1120	71.9		70.0
1),	達成状況	待機児童数(4 月1 日現在)	人	1	1	1	1	1	0	1	1		0
	※上段:目標値												
	下段∶実績値												
	これまで実施	多様なニーズに応 幼保連携推進事業	Ę		業		地域子	育て家庭		業・地域-		援拠点	事業
	した主な事業	私立保育園施設整 放課後児童クラブ 産前産後ヘルパー	支援事業				子育で	情報多	ポートセ 発信事: 助成事	業	事業		
	達成できた(見 込み)事項	民間保育施設の整認定こども園や病児後児童クラブの増設さでがうらこども館ができた。また、子ど	備支援等を行 保育など多様 を進めた。 D設置や子育	テい、保育 集な保育ニ 育て世代約	ーズに &合サ <sup>7</sup>	対応し <i>た</i> ペートセン	こ保育サンターの	ービス 開設等	を提供す	ることか	べきた	。加えて	、放課
	その効果	保育サービスの充実で世代に対する相談子育てできる環境が	支援体制の										
効果	達成できなかった(見込めない)事項	平川地区におけるは 討する必要が生じた。				討は、	平川地[	⊠におけ	ける幼児	教育と係	く うくりょう くいん こうしゅ かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	り方を再	<b>事度検</b>
· 検 証	その原因・理由	保育ニーズや国にる 査の結果、平川地区 一体のものとして検討	における幼児	見教育と保	育のあ								
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	袖ケ浦駅海側地区 要因等に伴う短期的 る幼児教育と保育の また、子育て環境の がある。	な保育需要のあり方につい	の増加と、 へての検討	長期的 が必要	な少子 である。	化への	対応がす	<b> ためられ</b>	る。なか	でも、ヨ	☑川地区	におけ
	総括評価	А	理由	待機児 て子育で 準待機! 心して子	てができ 見童数	る割合 は0人)。	は着実 。また、	こ伸びて 各事業1	さていて	る(平成 は概ね	30年4月 計画どま	らり実施し	の国基 し、安

章-	 -節-施策	第3章-2節	5-4	施策名	<b>1</b>			障	害者	福祉			
	本施策の 方向性	(1)生活支援の充実 (2)地域生活支援・ネ (3)障がいのある人 ションの浸透	t会参加 <i>0</i>	)充実· · · ①	移動サ	ービスの	の充実、	②就労	の促進、	<b>③交流</b>	機会の		ゼー
	施策の推進に より期待された 効果	生活支援、社会参加をおい、ノーマーは、障がいのある人に	ライゼーシ	ョンの社会が	が構築さ	れる。ま	また、人	々の意	識におい				-
		指標名	単位	ī — —	期実施			期実施			期実施		
現	大なお無の	車椅子の方や障がいのあるが が楽に出歩ける環境にあると 思う市民の割合	5	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H 29	H30	H31 20.0
状	施策指標の 達成状況	LIBOURNI LINE	※障害者	富祉計画(3	期1年)	により	章害福祉	サービス	を管理す	る。※			
	※上段:目標値												
	下段∶実績値												
		相談支援事業 重度心身障害者福祉	トタクシュー国	巨業									
	これまで実施 した主な事業	心身障害者(児)施設											
	した土は事未	コミュニケーション支持											
		生活ホーム運営助成		. LSI 、 △ 60.1=	1.4.7.	-n=w -+- 1	<b>ロナ</b> ない	Π±τ L≥ι	, <del>1= 1</del> 1 11	12-1	- 南D ハナン	18 44.79	r + 100
	達成できた(見 込み)事項	相談支援事業所を の充実を図ることがて 福祉タクシー利用券 支援など、社会参加 袖ケ浦駅舎及び長 にやさしい福祉のまた。	ごきた。 外の交付や の充実を図 浦駅舎等1	・、聴覚、言 図ることがで こおいて、移	語等に きた。 3動の円	章害のあ	る人に	対する	手話通訴	者等に	よるコミ	ュニケー	ション
	その効果	相談に基づき、適切の困難な在宅の重度 域生活における社会ションの社会の構築!	心身障害 参加の充	者児や、聴 実を図ること	覚等に などに。	章がい(	りある人	の意思	疎通支抗	爰を行い	、通院や	つ買物等	∮の地
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	施策指標の実績は ない。	、平成29年	<b></b>	で17.29	6と徐々	に上が・	っている	が、平原	<b>戊31年</b> 度	目標は	達成で	きてい
検証	その原因・理由	これまでの移動サー る方が楽に出歩ける 理解・浸透がまだ十分	ための環境	竟が整ってき	たこと	で徐々に							
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	相談支援について! なおかつ困難な相談 また、障がいのある たな法改正に対応す	にもより適 人もない。	切に対応で	きるよう てなく共	に体制 生する!	の強化 地域社会	を図る必 を構築	を要があ するため	る。 )、障害	* = = = 者差別角		
	総括評価	В	理由	となどに は達成 に関して	より、5 できてし て、袖ケ	E活支援 いないが 浦駅舎	愛の充実 、障がし	等適切 いのある 甫駅舎等	に遂行っ 人にやる まにおい	できてい	る。施策 祉のま <sup>‡</sup>	して給付 指標の らづくりの こ基づい	目標値 )推進

章-	- 節-施策	第3章-2節	5-5	施策名	3			高	齢者	福祉			
	本施策の 方向性	(1)在宅生活支援の (2)尊厳ある暮らしの (3)社会参加と生き	)支援・・・(	①認知症対 )充実・・・①	策の推 )生きが ②シルノ	進、②高 い対策( バー人を	。 影齢者虐	一運営支	援				
	施策の推進に より期待された 効果	・高齢化社会における。 ・在宅福祉の推進や											待され
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		
現	たなお無の	市の在宅福祉サービス知っている人の割合		H22 41.9	H23	H24	H 25	H26	H27	H 28 21.5	H29	H30	H31 45.0
状	施策指標の 達成状況	日頃の生活で生きがい 感じている人の割合	₹ %	70.8			69.8			79.5			80.0
	※上段:目標値	シニアクラブ会員数	人	1,146	1,073	1,165 1,084		963	1,100 908	840	766		1,250
	下段∶実績値	住んでいる地域が暮らしやすい 感じる市民の割合	<sup>と</sup> %		73.7			76.8					75.0
		シルバー人材センタ					世代間	支え合い	小家族す	泛援事業			
	これまで実施	高齢者紙おむつ等支 生きがい活動支援通											
	した主な事業	(仮称)ひらかわ地域		サブセンター	-整備事	業							
		認知症施策推進事業											
	達成できた(見 込み)事項	地域包括サブセンター 高齢者虐待に対してめ、事案に対して適切認知症サポーター養置など、認知症の方及シニアクラブやシルル歳体操に参加すること	は、関係機順 かつ迅速に 成講座など び家族の支 、一人材セン	関と密な連携対応すること 認知症に対 逐援体制など シターへの支	携を図る。 とができな する正し の充実 援を継続	とともに、 た。 い理解の を行った 読し経営	研修の の普及に 。 の安定(	受講等に 努めると とを図った	より相談ともに、	対応に対認知症初	]期集中	支援チー	ムの設
	その効果	地域包括サブセンタ また、各取組みにより 与することができた。 認知症の人及び家が 虐待が疑われる事案 シルバー人材センタ・	リ介護予防か を支える体 についても!	が図ることが 制を整備す 早期に把握	でき、い ることな し、対応	きいき百 どにより を行うこん	歳体操/ 、在宅生 とができ/	への参加 活の安心 こ。	によって	すること	ができた	0	りに寄
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	シニアクラブの会員	数及びクラ	ブ数が年々	マ減少し	ている。	また、シ	ノルバー	-人材セ	ンター会	:員数も)	咸少して	いる。
検証	その原因・理由	定年延長などの60 の会員に登録せず、						ニアクラ	ブの活動	かや、シ	ルバーノ	、材セン	ターへ
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	認知症の増加が見込や、高齢者虐待への別必要である。さらには、 高齢者単身世帯や高 や利用支援にも努めて 交通弱者となる高齢	5止、早期対 相談対応者 5齢夫婦世帯 いく必要が	応に向けた 首個々の資質 帯の増加が見 ある。	医療・介質の向上 見込まれ	護関係板が求めら、 地域で	機関との かれる。 の見守し	連携強化	などのた	本人及び 実、成年	家族へ( 後見制原	の支援の	充実が
	総括評価	В	理由	区にサ 充実や また、 予防重	ブセンタ 高齢者」 在宅福	ーを設置 虐待の! 祉サー! 転換につ	は目標で 置し、地域 早期対応 ごスへの いては	域でのホ によりホ 対応の	目談体制 権利擁護 みならす	を構築     支援に   、介護	できた。 繋がって 保険制度	認知症が ていた。 度におけ	を策の る介護

章-	- 節一施策	第3章-3館	<b>万</b> 一 1	施策名	3			<b></b>	₩ #	医療			
	本施策の 方向性	(1)健康づくりの推進 (2)予防・疾病対策の (3)医療体制の強化・	③健康づくり 推進・・・①母子 ③感染	リ活動の3 子保健対策 症対策の 医体制の	を援 策の推進 充実 充実、	、②成丿	、保健対	策の推進	<b>!</b> ,				
	施策の推進に より期待された 効果	健康づくりの施策化 また、予防・疾病ネ の高い保健・医療行	策の強化や原	広域的な				₹によっ <sup>-</sup>	て、市民	の健康・	や安心な	<u>ド</u> 支え、	利便性
		七冊々	光光	第 1	期実施	計画	第 2	期実施	計画	第3	期実施	計画	
		指標名	単位	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
現状	施策指標の	袖ケ浦健康づくり支援センター 設利用登録累計者数(市内)	-施 人	13,719	16,241	17,400 17,234		19,394	19,000 20,570	21,811	21,900		20,000
1/\	達成状況	予防接種受診率(成人 除く)	<sup>を</sup> %	95	91	95	77	74	95 82	80	81		99
		各種がん検診受診率	%			50.0			40.0	50.0			50.0
	※上段:目標値 下段:実績値		, ,	30.0	29.0	29.0	30.0	29.0	29.0	29.0	29.0		
	1 X. AIRIE												
		健康づくり支援センタ	<u> </u>    a一管理事業				特定不	好治療	費助成᠍	事業			
		夜間救急診療事業	<u> </u>						特別事				
	これまで実施	がん検診事業					健康増	進(食育	7)計画領	<b>東定事業</b>	ŧ		
	した主な事業	在宅当番医事業					特定健	康診査	等事業・	特定保	健指導等	等事業	
		予防接種事業											
	達成できた(見込み)事項	健康づくりの推進では 達成できる見込みである 各種健診や相談事業 医療体制の強化とした。	る。また、医師 業を実施し生活	i会や君津 習慣病の	単中央病  予防が	院、保健 図るとと <del>:</del>	所などの もに、予防	)関係機 5接種事	関と連携 業により	を図るこ 感染症 <i>0</i>	とができ )予防に	た。 努めた。	
	その効果	健康づくりの推進に ができた。予防・疾病 できた。また、市民が	対策の推進	により、生	生活習慣	病の早	期発見	・治療に	つなげ	られ、重	症化予	坊を図る	ことが
効	達成できな かった(見込め ない)事項	健康づくりの推進でた、口腔衛生分野のない。											
果・検証	その原因・理由	健康づくり支援セン 難である。また、口服 者の不在により市内	空衛生分野に	ついては	、歯科分	予野の推	進に不	可欠な	<b>歯科衛生</b>	と士が配	置され	ていない	
ВЩ	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	健康づくりの推進で機関による市民が主の推進では、実施体保健所管内での医療の強化を検討する必	体的に健康で 制の強化(歯 療体制の整備:		践する <i>t</i> との採用	こめの支 など、	援体制マンパワ	の構築が一の確保	が必要で 保)が必	である。 要である	また、予 る。市内	防・疾病 だけなく	対策 君津
	総括評価	В	理由	健康づに、法は 率は目 と比較し 市内の	くりの活 女正にも 標は達り 一受診率 の産婦ノ	用に寄 適切に 或できて は高い 、科は閉	ーを健身与することがない。 ものとなりにない。 ではない。 ではない。 ものとない。 ものとない。 ものとない。 はない。	とができ 防疾病 ものの、 っている ものの、	た。各科 対策は 受診しな る。 広域的を	重相談事図られて さすく取る	事業も実 いる。 <i>t</i> 組みを拡	施すると がん検診 な充し他	さも 受診 自治体

## (4) 学校教育·生涯学習

章-	-節-施策	第4章-1貿	ñ−1	施策名	i			¥	力児教	故育			
	本施策の 方向性	(1)生きる力の基礎(2)子育て支援体制	の整備・・	•	··②教 《体制 <i>0</i>	職員の )充実(	研修の3 ※再掲)						
	施策の推進に より期待された 効果	・幼児の発達段階に ・子育て環境を整備							-		きる。		
		指標名	単位	ī	期実施			期実施			期実施		1104
現		安心して子育てができと思う人の割合		H22		H24	H25		H27	H28	H29	H30	H31 70.0
状	施策指標の 達成状況	指導力向上のために、 修会に参加した教職員		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		71.9 100.0 100.0		100.0
	※上段:目標値	<u>割合</u>		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
	下段: 実績値												
		ᄮᄥᄝᅚᄷᅟᄮᅕᅚ	1. <b>*</b> 2. <b>†</b>	Щ.									
	これまで実施した主な事業	教職員研修・教育活幼児教育アクションス											
	達成できた(見込み)事項	平成22年度に「袖 立幼稚園・保育所共 り、一貫性のある幼! 教育・保育を一体的 図った。	通の幼児教 児教育に取	教育カリキュ スり組んだ。	ラムを急	を 定し、	市立及び	<b>が私立σ</b>	幼稚園	•保育所	fへ配付	すること	によ
	その効果	「袖ケ浦市幼児教育ができた。平成29年育の実践と小学校へりを持った子育てが	度に「袖ク	・浦市幼児教 な接続を推進	育カリ	キュラム	」を策定	し、幼科	隹園・保	育所にお	らける一	貫した約	加児教
効	達成できな かった(見込め ない)事項	今井幼稚園の耐震	化改修は	実施していた	にい。								
果・検証	その原因・理由	今井幼稚園は現敷 なお、昭和地区にな 化改修済みの中川名	おける幼児	教育機能は	認定こ	ども園か	担うこと	となり、	今井幼	稚園の	-	こついて	は耐震
HIII.	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	今井幼稚園と中川 のあり方等について また、将来的な幼れ 地区における幼児教	も検討する 推園教育無	必要がある 【償化の流れ	。 Lを見据	え、本市	たにおい	てもその					
	総括評価	В	理由	礎」が着	まに育 する情報	むこと <i>た</i> 提供を	行い、保	いるとと !護者の	もに、子 不安や	育て相	談窓口を	設置し	、子育

章-	一節一施策	第4章-19	前一2	施策名	3			THE	<b>轰務</b> 考	<b>教育</b>			
	本施策の 方向性	(1)生きる力を育む の推進、③基本的公 (2)社会の変化に できる児童生徒の配 (3)学校施設の整	生活習慣の確 対応する学校教育成、③思考中	立と体力 教育の推 中心の学:	の向上、 進・・・① 力の育原	④開か )教育環	れた学	校教育(	の推進	_			
	施策の推進に より期待された 効果	・子どもたちの「確か ・子どもたちの思い・ ・「開かれた学校づ・ ・施設整備により、」	やりの心や規 くり」の実現や	範意識の 、信頼さ	育成が れる学材	期待でき 教育が	期待で						
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		
				H22	H23		H25	H26			H29	H30	H31
現		授業がわかり、学校だしいと感じる児童・生		80.0	85.0	90.0		97.9	90.0 95.5		90.0		90.0
状	施策指標の	<u>の割合</u> 耐震化の完了した学校	* t/c	80.0	65.0	91.6 81.6		97.9	100.0		90.0		100.0
	達成状況	設の割合	<sup>K/IE</sup> %	78.9	78.9	81.6		94.7		100.0	100.0		100.0
		指導力向上のために、				100.0			100.0				100.0
	※上段:目標値	修会に参加した教職員 割合	<b>*</b> の %	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
	下段∶実績値												
		小中学校基礎学力	<del>L</del> 向上支援教員	配置事業	ŧ		小中学	校体験	活動推進	L 進事業			
	これナス中佐	小中学校特別支援					国際理	解教育	推進事業	¥			
	これまで実施 した主な事業	子どもを育む、学校	•家庭•地域連	携事業			教育相	談事業					
	ひた土みず未	小中学校読書教育								. 築·耐震			
		小中学校情報教育								一運営事			
	達成できた(見 込み)事項	各小中学校へので 育を推進できた。 教職員研修を充身 が身につき、社会の 学校施設の耐震	ミし、情報教育 )変化に対応で	や読書教 きる児童	対育、国 賃生徒が	際理解 育成で	教育を推 きた。	進する	ことにより	り、児童	生徒の		
	その効果	「生きる力」を育むた。また、「社会のすってある。 学校施設の再整備	変化に対応する	る学校教	育」を推	進したた	:め、開z	かれた学	校づく	りが進み	、学校の		
効 果	達成できな かった(見込め ない)事項	授業がわかり、学 ての児童・生徒がそ る必要がある。 武道場等の非構造	う感じられる	教育が望	ましいこ	とから、	引き続き						
· 検 証	その原因・理由	社会情勢の変化・ 教育の推進が求め 武道場等の改修こ	られる。					_		より一層	、一人-	一人に寄	り添う
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	平成32年度の新学 や、特別の教科道徳 児童生徒の増加に対 大規模改修未実施 がある。 時代の変化とともに	や外国語教育・応する教職員( 校におけるトイ)	への対応(体制の構造)	のための 築も必要 や冷房設	教職員である。 備の設証	研修の充 置等、時何	実を図る	必要がる	ある。ま <i>†</i> なした対策	≥、特別な	な支援を	要する
	総括評価	A	理由	施策! ども像す みは推 また、 計画的	指標の目 である、「 進できて 学校施 に実施・	標値は 夢をもな こいる。 設関係 できてお	t達成す た 心豊だ について り、児童 ば備が進	る見込 <i>を</i> いな たく は、耐 は、耐 を は、耐	かであり ましいう 悪化の選	、本市の 子ども」を 達成や非	育成す	るための 材の改作	)取組

章-	一節一施策	第4章-11	前一3	施策名	4			青少	午健	全育	成		
	本施策の 方向性	(1)青少年健全育原		①青少年仮 ・・②青少年 ・・③健全な	健全育	成事業	の推進						
	施策の推進に より期待された 効果	・青少年健全育成体 健やかに育成できる ・青少年の自主性、 される。	5社会環境か	が構築される	5.								
		指標名	単位		期実施記			期実施			期実施		1124
現状	施策指標の 達成状況	青少年が健やかに育っいると思う市民の割合		HZZ	<b>H23</b> 59.6	П 24	П25	65.3	HZ/	H Z8	H 29 69.5	Н30	H31 66.0
	※上段:目標値 下段:実績値												
	これまで実施した主な事業	放課後子ども教室引 わんぱくクエスト事事 地区住民会議支援	業										
	達成できた(見 込み)事項	青少年育成袖ケ洞 ことができた。また、 青少年の自立や忍 また、地区住民会 ンプの実施などを通	子ども達に 耐、協調性を 議と青少年	放課後安心 を養い、これ 相談員が連	して遊べ からの补 携し、夏	ヾる場所 曲ケ浦で 夏季・冬	斤を提供 庁を担う。 季の長	するとと 人材の7	:もに、自 育成を図	ま然体験 ることか	や社会 できた。	体験など	ごにより
	その効果	各取組みの推進に る心豊かな青少年の	–			で地域	成の大人	との交流	流が図∤	1、社会	の変化に	に自ら対	応でき
効果・	達成できな かった(見込め ない)事項												
· 検 証	その原因・理由												
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	地区住民会議や青ンティアによる安定し										文室の 週	営ポラ
	総括評価	А	理由	士が安々	主民会議 心して遊 が整えら	ぶ場を	提供する	ることに	より、青	少年が何	う身とも	に健やな	

章-	一節一施策	第4章-2	jī — 1	施策名	3			<u> </u>	上涯与	智			
	本施策の 方向性	(1)生涯学習推進体の促進、③生涯学習 (2)社会教育の充写 ④図書館活動の充写	習情報の収算 ミ・・・①家庭	集と提供シ 教育への	ステム <i>0</i> 支援、2	)充実、 )地域の	4社会	<b>教育関係</b>	団体活	動への	支援		:活動
	施策の推進に より期待された 効果	市及び関係団体に て積極的に学びあいれる。								-			
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		
		18.12.	+111	H22	H23		H25	H26		H28	H29		H31
現状	施策指標の	市民一人当たり図書貸数 身近に学習ができる場	Ш	10.5	10.9	11.2 10.6		9.6	11.5 9.4	9.0	8.6	10.2	12.0
	達成状況	機会があると思う市民割合			46.8			48.8			42.6		60.0
	※上段:目標値												
	下段∶実績値												
		生涯学習ボランティ	<del></del> ア促進事業				図書館	電子情報	最サービ	え推進	事業		
	これまで実施	家庭教育総合推進	事業				読書普	及活動	<b>推進事</b> 業	ŧ			
	した主な事業	生涯学習情報提供	システム					改修事		<b>_</b> .			
		市民三学大学講座	# 击 <del>**</del>					育施設品			策事業		
		公民館地域連携推					•	館外壁原			:	- 1 18	L 1.
	達成できた(見 込み)事項	各種ボランティアのまた、施設予約シス図ることができた。 公民館や図書館で保と施設の長寿命ん	テムを利用	し施設の予 b域の教育	約手続	の効率	化と利便	性の向	上により	り生涯学	習推進	体制の乳	整備を
	その効果	各種ボランティアの 学習機会を提供する 動へ発展し、社会教	ことができた	こ。社会教	育機関	での学習				_			
効果	達成できなかった(見込めない)事項	社会教育機関での には至っていない。	)学習が、市	民の自主	的な活動	かへと広	がりを見	しせたが	、自ら地	!域の課	題を解え	やする活	動まで
検証	その原因・ 理由	興味・関心の多様 る。また、生活上の えられる。											
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	社会教育機関での 成・発掘をしていく必		ら地域の記	果題を解	決する	舌動につ	ながる。	 よう、二-	一ズの振	り起こし	~ 人や人材	の育
	総括評価	В	理由	人材育 れた。 図書館	成にまて 多様化す	で至って る市民 ィア養原	習につい いないも の学習-	のの、ī ニーズに	†民の目 応えるが	自主的な ため、生	活動へ 涯学習	と広がり ボランテ	が見ら ィアや

章-	一節一施策	第4章-2節	<b>第一2</b>	施策名	3			文	(化・	芸術			
	本施策の 方向性	(1)文化・芸術活動 文化・芸術を支える。 (2)郷土の歴史と文 承活動の支援、④博	人材の育成 化の保存・継	承…①									
	施策の推進に より期待された 効果	・多くの市民が地域 が創り出される。 ・地域の文化財や伝 域社会の実現が期4	統文化が身			-							
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		1124
現	施策指標の	市美術展の入場者数				2,000	H 25 2,055		2,720	2,623	H 29 2,750 3,852	пзи	2,000
状	達成状況	郷土博物館の入館者数	7 人	31.205	30.330	30,000 30,996	27,769	31.417	30,000 36.120	33,811	32,500 34,460		33,000
	※上段:目標値	1 年間に芸術を鑑賞し 市民の割合	Æ %		46.9		,	49.7			49.3		55.0
	下段∶実績値	指定文化財の件数	件	33.0	33.0	36.0 33.0		35.0	37.0 36.0	37.0 36.0			42.0
					- 114			1.166===					
	これまで実施した主な事業	芸術活動普及事業· 民俗·芸能保護継承 文化財保護事業 山野貝塚保存活用 <sup>3</sup> 埋蔵文化財公開活	事業				展示更博学連郷土博	新推進 携事業 物館改					
	達成できた(見 込み)事項	袖ケ浦市美術展の える人材の育成を図 山野貝塚が市内衫 館では、展示の企画	]ることができた。 ]の国史跡指	た。 定となり、	市指定	文化財	として新	たに4件	‡の指定				
	その効果	袖ケ浦市美術展の 市指定文化財の新邦 また、市民学芸員 がるとともに、郷土愛	現指定や各種 の活動支援や	文化財の 協働事	O公開・ 業を進め	舌用によることで	にり、市 で、入館	えに広く 者増やt	周知する	ることがっ	できた。	_	
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	文化・芸術に市民: 施策指標の「1年間 ていない。										目標値	に達し
未 検 証	その原因・理由	現有事業における 事務の手続等に時間			加してい	ないた	め、また	、1件の	指定を	実施する	までの	調査研究	咒及び
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	市内文化財の調査 を実施し、指定文化 市民学芸員等のオ 文化庁の推進する 上で、文化財の保護	財として指定 ジランティアに。 歴史文化基ス	する必要 よる活動 体構想に	がある。 の充実を 基づき、	図るた地域に	めにも新 存在する	fたな人 文化財	材を確保 を歴史3	₹する必 環境も含	要がある めて総か	る。 合的に把	四握した
	総括評価	В	理由	みを推:援や美	進できて 術展を開 を達成し	いる。 見催する	人材の育 文化芸術 ことによ に対して	活動を り「市美	支援し、 術展・組	文化芸福 第土博物	術活動区 1館入館	団体の事 者数」に	業後こついて

章-	-節-施策	第4章-3節	-1	施策名	1	ス	ポー	ツ・レ	クリュ	ニーシ	ョン・	体育	
	本施策の 方向性	(1)スポーツ・レクリュ リエーション環境の整 (2)スポーツ・レクリュ (3)学校体育の推進	備 ニーション施	設の整備	…①社	会体育	施設の	改修、雪					
	施策の推進に より期待された 効果	・生涯にわたりスポー成が進む。 ・教科体育や運動部 や体力を身に付けた	舌動の指導	を通して、	規範意	識や「自	分の健	康は自治	分で守る				
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		
現	** ** ** ** *	総合型スポーツクラブの活動参加割合		H22 46.5	H23	H24 48.0 48.1	H25	H26 47.2	H27 50.0 48.7		H29 60.0	H30	H31 50.0
状	施策指標の 達成状況	身近にスポーツ・レクリエーションを行う場・機会があると思うで 民の割合			61.9			64.9			67.9		75.0
	※上段:目標値 下段:実績値	新体力テストの県平均を 上回る項目の割合	%	72.9	88.8	80.0 81.2	80.5	82.6	100.0 93.0		94.0		100.0
	1742. 天粮但												
		総合型地域スポーツ	      ラブ活性化	上事業			臨海ス	ポーツも	シターご	<b>收修事</b> 業	Ē		
	これまで実施 した主な事業	学校体育指導研修会 武道教育推進事業 広域スポーツ交流事 臨海スポーツセンター	事業										
	達成できた(見込み)事項	各総合型地域スポー 援を行い、スポーツ・し 平成29年度に市営 小中学校教員を対象 に努めた。	ンクリエーシ 野球場のト	ョン環境のイン学式化	)整備に とのバリ	努めた アフリー	。 -化など	の改修:	工事を実	『施した。			
	その効果	総合型地域スポーツ 市民を増加させること 教員の授業での指導 することができた。	ができた。										
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	施策指標である「身の県平均を上回る項」						きがある	と思う市	民の割	合」及び	「新体力	カテスト
・ 検 証	その原因・理由	若年層において、「」 あった。「新体カテス の体力向上が図られ	の県平均な	を上回る項									
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	総合型地域スポーツ 新たな活動(気軽に参 各施設の老朽化に 小学校低学年の体 もに外遊びの機会を多	<ul><li></li></ul>	動、親子 改修や修 、就学前の	で参加 <sup>-</sup> 繕が必 の運動習	できるイ 要な箇所 習慣が大	ベント等 fが出て 切であ	) の導力 きており るため、	、による )、対応	更なるP が必要で	R活動か である。	が必要で	きある。
	総括評価	В	理由	動や大 進する。 ポーツ・ また、	会・イベ ことにより レクリェ 小中学	ントを通 リ、スポ ニーション 校の教	じて地垣 一ツやレ ノの振興	ぱコミュニ ・クリエー が図ら いて指	ニティのジ ーションジ れた。 導力向.	)の、各々 舌性化さ 舌動に親 上に努め	地域住しむ市民	民の交民が増え	流を促え、ス

# (6) 環境

章-	一負	6 一施策	第5章-1節	ð <b>−</b> 1	施策名	3			環境	保全	:•美(	ե		
		本施策の 方向性	(1)地球環境にやさし ③自然・新エネルギー (2)自然環境の保全。 (3)環境保全対策 … (4)環境教育 …① (5)市民による環境美 促進 ③きれいなまち	-の利用促進 と活用 …①里 ・・①発生源の盟 環境教育、環境 後化活動の推進	型山や生 監視 ② 競学習の	態系の係 環境の監 推進 ②	全 ② E    視  環境活動	田園景観 動団体の	見の保全 )育成					
		策の推進に り期待された 効果	地球にやさしい都市 対する想いに応えると また、清掃活動の推 愛される街並みの創	こともに、持続で 生進、ポイ捨て	可能な循 防止の仮	環型社会 進などに	≹の実現 こよって、	が期待る	されます。	<b>,</b>				
現			指標名	単位		1期実施			期実施計 H26			期実施		H31
状			環境学習講座等への参加 者数	Д .	123		130			135 105	169	153	1100	150
		<b>建</b>	ポイ捨てごみ収集量	t	6.1	5.7	6.0 3.6		3.4	5.5 2.5	2.0	1.7		3.0
	>		省エネに取り組んでいる 市民の割合	3 %		91.5			87.1			88.3		95.0
			住宅用省エネルギー 地球温暖化対策・再生 自然環境保全事業 大気汚染監視機器整 まちの美化推進事業	生可能エネル-		事業		大気保 騒音振 一斉清	全対策事 全事業・ 動悪臭防 掃事業 ぱい運動	水質保全				
			平成20年度に開始して、再生可能エネルギー保存樹木・樹林の指環また、椎の森自然環境大気測定局全の常時もに、環境学習等の講座内市内一斉清掃及び臨した。ポイ捨て及びメびかけなど、広報啓発	一の利用などを を及び特定外来 竟保全緑地にお 監視や河川・海 基づく工場等へ 容や開催方法、 海地区清掃及 でのフン放置禁	促進し、 に生物(アンドリンの になな入手での な美化 で調手 が止着板の	二酸化炭 ライグマ) 2回の定 の定 を充 の を 変 の の の の の の の の の の の の の の の の の	素排出量の取ります。シティアは、発生し、発生しているといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるとい	量の削減を になり、活動により、市内により、市内に がある。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	を図った。 り、生態系 り里山の おける大き した。	の保全に 保全に多 気質及び	に努めた。	犬況を監っ	視・把握で	するとと 舌動を実
効		その効果	太陽光発電設備等の 然に触れ合う機会を増 た。環境学習等の開催 いに応えることができた 清掃活動の推進、ポー や自然環境の保全を推	やすことができ 回数及び参加 :。 (捨て防止の促	、継続的I 者数の増 進など、	こ環境監 加により、	現をする。 市民の野	ことや大気環境への	気汚染及で 理解が深	び水質汚められた	:るの防」 :ことから	上等、環境 、市民の	竟保全に 自然に対	寄与しける想
果 • 検	か	達成できな った(見込め ない)事項	施策指標である「省エ 保存樹木、保存樹林の 公共施設への再生可	の拡充はできな	かった。			は目標を	達成でき	なかった				
挺証		その原因・理由	宅地などの開発が進 公共施設への導入は							く導入は	困難であ	5る。		
	(	今後の 主な課題 積み残し、 新規)	地球温暖化を意識した め、費用対効果を踏まこ 環境保全緑地の維持 砂要となる。 工場の新規立地によ 続できるような体制を構 環境美化を推進し道証	えた「再生可能 保全については り、継続して大き 築する必要がる	エネルギ· は、高齢化 気環境を ある。	ー導入ガ 等により 監視する』	イドライン ボランティンタ	ノ」の見直 イアの確∫ ることから	しをする。 保ができな ら、今後、	必要があ よくなった コストを(	る。 :場合、維 氐減し、長	持管理ス	方法の再	検討が
		総括評価	В	理由	施策! できな! につい。 また、	指標であ かったが ては、目	る「省エ 、「環境 <sup>・</sup> 標を達成 本計画に	ネに取り 学習講座 なできる見 こおける名	組んでに  等へのを  記みでを    各施策を	いる市民 参加者数 ある。	の割合」	について ポイ捨て	には目標	集量」

章-	 −節−施策	第5章-2餌	<b>ħ</b> — 1	施策名	3		J	<b>廃棄</b> 物	<b>勿・</b> リ	サイク	7ル		
	本施策の 方向性 施策の推進に より期待された	(1)ごみ減量化とリサ (2)ごみの適正処理 (3)し尿の適正処理 (4)不法投棄の防止 ごみ減量化とリサー が期待できます。また	…①ごみ処理 …①し尿処理 …①市内パト ſクルを中心に	施設等の施設の通 加一ルの 循環型の	の整備 を を を を を を を を を を を を を を を を を を	②君津 持管理 ②廃棄物 会を形	地域広 <sup>は</sup> ②合併 物適正処 成するこ	域廃棄物 外理浄 上理の啓 とで、環	刎処理事 化槽の 発 環境にや	業の運	営 <u>賃</u> 質なま <sup>7</sup>	ちづくりに	
	効果	再生利用の高い環境	意識が育まれ		期実施	計画	第 2	2 期実施	計画	第 3	期実施語	計画	
		指標名	単位	H22				H26		H28			H31
	施策指標の	ごみ総排出量に対する サイクルの割合	<sup>IJ</sup> %	29.4	29.2	37.0 30.0		28.9	33.0 26.0	27.6	25.0	31.0	31.0
現状	達成状況	1人当たり1日のご み排出量	g/人/日	895	881	850 892		845	850 842	848	832	830	850
	※上段:目標値	資源ごみ回収量	t	2,501	2,400	4,248 2,434		2,611	3,000 2,469	2,306	2,205	-	3,000
	下段: 実績値	ごみ最終処分量	t	657	682	697 674	756	575	642 575	628	604	-1	642
		ごみ減量化推進事業	<u> </u>	<u> </u>			廃棄物	_ - 土砂タ	<b>大事業</b>				
	これまで実施	ごみ資源化推進事業						理施設:					
	した主な事業	生ごみ肥料化容器等		<b>戊事業</b>			合併処	理浄化	槽設置複	甫助事業	<u> </u>		
	した土な事未	粗大ごみ戸別収集処	1理事業										
	達成できた(見込み)事項	堆肥化の助成制度等に対して説明会等を料の改定を行うととも市内で発生したごようムにおいて可燃物た。 収集運搬された浄併浄化槽の設置はのお置など多様な監視	実施することに に事業者に変みを収集、クリの溶融処理や 化槽汚泥等に が制度について に法投棄・残土 に活動により、新	こより実施しています。 しょう マーン でいまり でいまい でいまい でん はいっち かい でん かい	施団体の ラシーへ ターへ 動切により ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	増加ににがまた。 間路をしかり 間路 地ののののののののののののののののののののののののののののののののののの	努めた。 により排 り るといい。 を 行 を 動 の 乗 大 大 大 で 不 で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	事業等は出路のは、一次のでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	ごみの源 の再理等を は飛灰な を定く では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	域量化に (化のPF 行い、( 正に最新 かを行うこ よるパト 等の抑止	ことができ ロールや ことができ	は、処理はたったった。	手数 -ンシス ができ た、合 メラの
**	その効果	持続可能な資源循 ぞれの役割の中でご					_						
効   果   •	達成できな かった(見込め <u>ない)事項</u>	ごみ総排出量に対 単独処理浄化槽使	用者に対する	設置替え	えが進ん	でいなし	ر۱°						
検	その原因・ 理由	新聞や雑誌等の電子設置替えの啓発は、消	化槽台帳未整	備のため	使用者の	の特定が	<b>できなし</b>	ため。					
証	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	自治会資源回収事業 回収の制度の在り方に 装プラスチックの回収 を図み処理施設を図み処理施 検討していく。(株処理 合併処理浄化槽設置 有件の転換にとにより を設置でいる状況にある 再生土等の埋立て がある。	こついて検討す 等は基礎調査導対してみ処理を 対してみ処理を は大ごみ処理を で設の事業との で で で で で で で で が と の に が と の に が と の に で と の に で き と の り り に で き き さ り り の り の り の り の ま ま ま ま し に る に る に る に る に る た る た る た る た る た る	る必ず、ない、おいまでであるが、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	あ議化へ期等のたのの間と補ったの必まそのの間と補ったの必要をある。	みのますは協助ない。特をいる。本意等応、議がは協助ないでは、では、では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	料の見までは りて、いまでは いて、いまでは いて、いまでは いた。 いたののが は いた。 は いた。 は のい。 は のい。 は のい。 は のい。 は のい。 は のい。 は のい。 は のい。 は のい。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい。	しや財産に施いませる。というないは、生産のではいませんではいません。これでは、いいいのでは、いいいのでは、いいいのでは、いいののでは、いいいののでは、いいののでは、いいののでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	日の見 助るの かあるがある。 からの からの からの からの からの からの がのの からの がのの がのの がのの がのの のの のの のの のの の	直し、資源 がある。 か率的なな となった 浄化された る量を上	物収集: 事業系ご 推持管理が、引き とでは は地域場合	方法や容 法の 更き、 処併: がありますが、 の がありますが、 の があり、 の がり、 の がり。 の	緊出 三期 三期 浄化を 単浄整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	総括評価	В	理由	標の達	指標であ 成は難! し、ごみ	しい状況	である	が、施策	の方向		–		

# (6) 産業振興

章-	一宜	<b>节一施策</b>	第6章-1	節一1	施策4	3				農林	業			
		本施策 <i>の</i> 方向性	(2)農業経営体の育 (3)高付加価値農業 芸課の促進と果樹振 (4)環境保全型農業 産環境の整備 ④遊 (5)農業集落排水の 経営 (6)林業の振興… (1)	成… ①営農 の実現… ① 興 ⑤農業関 の推進… ① 休農地の活序 整備… ①農 )森林の保全	・経営支援 が、田農業の 関連情報の 環境保全型 用 業集落排が ②治山事	体制の強 )振興 ② 是供 !農業技 《整備の 業の実施	i化 ② 原 新技術 新の導入 推進 ②	農業経営の の導入 と実現化 農業集落	の合理(( ③特産物 ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	と法人( 物の開発 業廃棄物 設の維持	比 ③後:・農産物 の適正が け管理 (	継者の育かれての対 が理とリー 3)農業集	f成 作進 ④! サイクル	施設園
	施より	策の推進に り期待された 効果	す。また、都市と農	村が共存す	るという地(	の利を活	かし、唐	と都 と都	市住民の	の交流の	建進によ	って心豊	豊かな市	されま  民文化
			指標名	単位										1104
現			古書所(ゆりの田)7	7+8	HZZ	H23		HZ5	H Z0			H 29	H 30	H31
	ь	佐生に描り	者数	人	323,988	325,042		308,728	314,107			325,000		,
				ū 0/			79.0			84.0				90.0
		~	化率(松川地区)	/0	77.5	79.0			82.9			87.0		
(5)		50.0		56.0										
(1) 農業生産基盤の登傷・・①後良農地の保全と効率的な利用(2用線水施設の登場と注入(3)高水的価値機業の資産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						160								
		施より 施達 ※ こし 達 か では でな	認定農業者数	人	122	122		127	135					100
					122	122	122	121	100	10-1	107	100		
(5) 農業集集排水の整備・・①扁菜集落排水整備の推進 ②農業集落排水施設の維持管理 ③農業集落排水の整備 (6) 林業の展興・・①森林の保全 ②治山事業の実施 (7) 市民とふれあう農業の推進・・①市民と高田の整備 ②交流型農業の推進 (3) 道先所の活用 施策の推進に より期待された す。また、都市と最村が共存するという地の利を活かし、農家と都市住民の交流促進によって心豊かな市														
(2) 農業経営体育成形・①常島・経営支援体制の強化・②農業経営の合電化と法人化・②後(3) 合作が価値属素の表現・①水田機能素の無別・②無素素物の開発・農産・養護の足趾上果樹展現・⑤無東間連情報の珍様、本施策の 方向性 (3) 農業株落体の整備・・①機能会型の素其体的導入と実現化・②農業農業物の適宜 症環境の整備・②機能会型の混形 (6) 農業水落体の整備・・①機能会型の素其体の事人と実現化・②農業農業物施図の維持管理 (6) 株業の振興・①歳林の保全・②治山事素の実施 (7) 市民とふれる力震者の推進・・①市民の量の整備・②定済型農業の推進(3) 連集本落体水の整備・・①赤木の発生・①市民の量の整備・②交流型農業の推進(3) 連売所の活形 (2) 株式の保全・企業体業の経営・生産基盤の強化により、都市近郊の農業地としての方成が期待されたす。 第十 期待された (7) 市民とあれる力震力を地で、①市民の量の登場 (2) 交流型農業の推進(3) 連売所の活形 (2) 株式の保全・企業体業の経営・生産基盤の強化により、都市近郊の農業地としての方成が期待されたす。 第 第 1 期実施計画 第 2 期 2 1 1 1 1 2 1 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1														
			事業											
											車業			
			し、全地区で供用が 盤を強化することがで 農地集積、6地区での 機械導入支援の補助 農家と都市住民との	開始となった。 ごきた。また、 ○人・農地プラ □金を交付した ○交流促進と	。農道・排水 ほ場整備に ランの作成す こ。 して、農村な	施設の 合わせが を援や農 な園での	を備をは と集積・負 業経営体 豊業体験	じめ、1地 集約化な。 本の法人 等事業や	区でほ <sup>り</sup> どにより 化の支援 豊畜産物	易整備が 、農業の 髪も行った 直売所の	完了し、 担い手で たほか、 の整備を	農林業のである認定	の経営・生 定農業者 の効率化の	生産基 等への のため、
		その効果	業にる農地の大規模 森林の適正管理(造 確立が図られた。 農畜産物直売所で	化など、作業 体、間伐、下	条件が向」 刈りなど)へ	こしたこと の補助を	により、 行い、	担い手等と株業の	への農 <sup>は</sup> 経営・生	也の集積 産基盤か	・集約化が強化され	に繋がたれ、農業	った。この 地として(	)ほか、 の地位
•		った(見込めな			平成31年原	麦末目標	値が90.0	%である	のに対し	<b>、見込∂</b>	<b>外率89.3</b> 9	%と目標	を達成す	<sup>-</sup> ること
				は供用開始が	いら約15年7	が経過し	ており、高	高齢化や	経済状況	兄の変化	に伴い、	水洗化罩	軽が伸び	1=<<
	(	主な課題 積み残し、	6次産業化について た農畜産物づくりを進 ていく必要がある。市 村地域の活性化を図	は、農畜産物 めていく必要 内生産された るとともに、均	物の生産・加 見がある。地 こ農畜産物? 也産地消をキ	1工・販売 域農業 <i>0</i> を、調理。 推進する	までを- )課題解 tたは加 必要があ	-体的に 決に向け エし、提 る。体験	行う取組 て、「人 供する「別 :農園支	みを支援 : 農地プ : 農家レス 爰事業に	髪すること ラン」の イ トラン 」を	により、 作成のた。 支援する	付加価値 めの支援 ることによ	を行っ り、農
		総括評価	В	理由	び率が 組みに	低いが、 ついては	認定農業 多岐に源	き者は着! きっている	実に増え 5が、概ね	ているり a推進で	t況であっ きている	る。農林: 状況であ	業に関す	る各取

章-	-節-施策	第6章-21	節-1	施策名	3				商工	業			
	本施策の 方向性	(1)商業の振興… ピングセンター等) (2)工業の振興… (3)中小企業支援	誘致の検討 ①企業設備拍	设資促進	②企業	誘致の							ショツ
	施策の推進に より期待された 効果	きめ細かな商業3 活力と魅力のある紀					)経済・	社会基盤	器としての	の商工第	美の振興	が促進	され、
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		
T		1011111	+122	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H 31
現状	施策指標の 達成状況	製造品出荷額等	億円		10,919	11,984	14,214	14,170	14,214	14,170			14,440
	※上段:目標値 下段:実績値												
		商店街活性化支援					創業支	援事業					
		企業等振興支援事							ン策定	事業			
	これまで実施	椎の森工業団地整	備事業							事業(雨:	水管整值	<b></b>	
	した主な事業	袖ケ浦椎の森工業	団地企業誘致	推進事業	ŧ		椎の森	工業団	地整備哥	事業(汚	水管整值	<b></b>	
		産業間連携促進事	•										
	達成できた(見込み)事項	商業の振興では、「 実施する、市民交流 工業の振興では、「 を行った。また、椎の 中小企業支援では により経営のサポー	イベント等に対し 新規立地や設備 森工業団地の 、人材や資金等	ンて補助金 報投資に対 整備による 乗の経営資	をの交付を して奨励 る新たな原	を行い、 d金の交 雇用の場	市内の個 付を開始 を創出す	店の魅:  し、企業   よことか	カを発信 の競争 2 べできた。	に努めた 力強化に	こ。 関する各	·種側面Ⅰ	的支援
	その効果	商業の振興では、付出料理の開発やそで工業の振興では、当下げについて要望活中小企業支援策を業者の増加につなが	がうらマルシェ 奨励金の交付に 動を行うことで、 推進することで	開催により より設備! 京葉臨海	」、本市 投資の増	業を市 加や移 一トの意	内外へ大 転防止に 競争力強	きくアピ つながる 化を図る	ールする るとともに ことがで	ことがて 、規制緩 きた。	きた。 和やエ	業用水料	金引き
効	達成できな かった(見込め ない)事項	商業の振興では、 れらを解決する有効 進まない。中小企業	な手段が見出せ	せない。エ	業の振興	では、対	也元雇用	に対する	奨励金				
果・検証	その原因・理由	商業の振興では、付応していることから、 工業の振興では、対確保が困難となっ 中小企業支援策の	個店の顧客離れ 本市のアクセス ており、地元雇	ιにつなか 性の良さな 用が進ん	がっている から、県タ でいない	。そうし; <b>卜への</b> 就 。	たことから業の流と	ら、個店を 出、また、	を継ぐ若 近隣市・	い世代も への大型	減少して!店の立	いる。	
HT	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	商業の振興では、 民に愛される環境づ 工業の振興では、 製造業の消費減少に 変化に伴い、企業が の拡大を図るため、 中小企業支援策の て検討することで、計	くりを進めていく 持に臨海コンビー よる統廃合もが 新たな先進分里 制度の見直しを 推進では、中小	とともに、 ナート地区 進み、計画 みに取り組 行う必要ない企業者と	後継者の について 的な設備 める環境 がある。 の意見る	確保に向 には、各1 情投資に むくりと を換の機	けた支援 企業とも 対する支 して、成一 会を設け	も検討し 操業後、 援体制 長分野を	ていく必 設備のを を確立す 誘導する	要がある だ朽化が る必要か 施策が	る。 進んでお がある。ま 必要であ	り、併せ た、産業 る。また	て石油 集構造の 、雇用
	総括評価	В	理由	商業に 商店会に 工業に 出荷額 中小企	こついてに こより市1 こついても も増加し	は産業振 内商業の ら企業の ている。 について	興ビジョ)魅力を勢新規立地は、市内	ンに基づ発信できた。 と、設備力	た。 投資を誘	導するこ	とができ	たほか、	製造品

章-	一節一施策	第6章-3	節-1	施策名	3				観光	<del>ኒ</del>			
	本施策の 方向性	(1)観光振興に向り (2)観光地としての											
	施策の推進に より期待された 効果	観光客数を増やるとなる観光業の成			)知名度	・ブラン	ドカの向	1上とと	もに、魅	力ある勧	見光地や	経済の	担い手
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		1104
18				H22	H23	H 24 1,450	H25	H26	H27 1,450		H29		H 31 1,800
現状	施策指標の 達成状況	年間観光入込数	千人	1,409	1,295	1,306	1,506	1,595	1,660	1,727	1,686		
	※上段:目標値 下段:実績値												
	ド权. 天根 世												
		観光振興支援事業	<u> </u>										
	これまで実施 した主な事業												
	達成できた(見 込み)事項	事務局として観光成、各種観光キャンスツアーや市民夏を通して、近隣市と観光写真コンクーン」を誕生させるな	レペーンへの参 まつりの開催 連携した観光 ・ルの開催や特	参加、観光 など、観光 PRにも取 寺産推奨品	協会ホー 情報の り組む 品の認定	ームペー 発信等! ことがで を行った	-ジの運 こ努めて きた。 こほか、	営、各科 いる。 a 平成23	重メディブ きた、君え	ア等への 津地域ム	観光情 中の観	報の提( 光連盟(	共、バ の活動
	その効果	市や観光協会に。 定時の目標値を大 観光写真コンクー か、メディア等に取	きく上回る状況・ルの開催など	兄となって	いる。 より、優	れた景	観や、新	たな特					
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	観光基本計画を 向性などを定めたれ 組んでいる。 フィルムコミッショ 積極的な受け入れ	曲ケ浦市産業 ンの受け入れ	振興ビジョ	ンを策算 よ、撮影	こし、目標の問合	標を達成せ等がる	するた。 あった場	めに必要	更となる	各種事業	きの推進	に取り
· 検 証	その原因・理由	本市は、有名な観野単独で計画を策 本市はフィルムコ は困難な状況とな	定するのは難 ミッションの受	しい状況に	こある。								
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	人口減少による均 組む必要がある。 趣味やレジャーの 掘・宣伝などに取り 東京オリンピック 国人旅行者への対	)多様化により 組む必要がな ・パラリンピック	リ、旅行者の ある。 クの開催な	のニース	の多様	化も進ん	んでいる	ため、引	き続き	新たな観	見光資源	の発
	総括評価	В	理由	入込客 いる。 袖ケi	数は当 前市産業	初の目標	fたな観: 票を上回 ジョンに ともに、;	ることがおいて、	できなが観光に	かったか 関するが	、着実に を策を位	で増加し 置付け	てきて 各種事

章-	一節一施策	第6章-43	節-1	施策名	3			労働	動			
	本施策の 方向性	(1)労働環境の充	実 … ①履	- 星用機会の確	霍保 ②従業貞	員の福祉(	の充実					
	施策の推進に より期待された 効果	雇用機会の創出す。	や労働環境	の改善によ	って、誰もが値	動きやすく	、また生	活しや	すい環境	節の向上	が期待る	されま
		指標名	単位	7 —	期実施計画		2期実施			期実施		1124
現状	施策指標の	完全失業率(市内)	%	6.4	H23 H2	4 H 25	H 26	H27	H 28	H29	H30	H31 3.0
1/	達成状況											
	※上段:目標値 下段:実績値											
		就労支援事業										
	これまで実施 した主な事業	雇用促進奨励金	·交付事業									
	達成できた(見込み)事項	就労支援として、 市内に住所を有る 用機会の確保に努 民間企業と連携し	する高齢者及 めた。	及び障がい者	☆を雇用する	業主に対	対し奨励	金を交付	けし、高齢		「障がい	者の雇
	その効果	各種セミナーの開 雇用促進奨励金 ハローワーク等の 繋がった。	の交付によ	り、市内の高	齢者の就業	機会を確	呆するこ	とができ	た。	-		雀保に
効	達成できな かった(見込め ない)事項	雇用促進奨励金 企業の新規立地							用が増え	てこなし	、状況に	ある。
果・検証	その原因・理由	雇用促進奨励金度となっているが、 進んでいるとは言う 地元雇用について	これが障が えず、障がし	い者雇用の な者雇用数か	実態に沿ぐれ 低いことも原	ないこと、 因の1つ。	また、╕ と考えら	事業主の れる。	障がい	者雇用(		
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	女性や子育て世ー調和を行うための一 臨海部をはじめと 者をマッチングさせ 就労、労働環境に みが必要となる。	-体的支援/ :する市内立 る取組みが	が必要となっ 地企業にお 必要となる。	てくる。 いて人材確保	が困難と	:なってし	いることだ	いら、採り	用希望企	*業と就	職希望
	総括評価	В	理由	連携した	立地企業の人 ながら、就労3 る仕事説明会	支援セミナ	や就!	職面接会	会等の開	催、民	間企業と	の連

## (7) 都市形成·都市基盤

章-	一節一施策	第7章-1節		施策名	-			市	街地	形成			
	本施策の 方向性	(1)都市計画の推進 (2)都市基盤の整備 (3)都市機能の整備	・・・生活拠 ・・・良好な ・・・地域特 ・・・袖ケ浦	点(駅周 景観の形 生等を活力 駅北側地	辺) のま が成 かした基 2区にお	ちづくり 盤整備 ける交通	の推進 と低未 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	しての者					
	施策の推進に より期待された 効果	秩序ある宅地開発とくの人々を惹きつける また、都市機能の整体	魅力ある都	市形成が	期待され	rる。							って、多
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		1104
				H22	H23	H 24	H25	H 26	H2/	H28	H29	H30	H31
現	施策指標の	市政に関する市民意識調査の 「市街地整備」の満足度	<b>点</b> (5点満点)		2.5			3.0			2.9		0.2
状	達成状況	地区計画策定箇所数	箇所						7				6
				4	5	7	7	8	190	8 190	190		190
	※上段:目標値	違反広告物除却活動  推進員の人数	人	108	184	189	190	190	184	183	184		130
	下段:実績値												
			-										
		景観まちづくり推進事											
	これまで実施	袖ケ浦駅海側土地区	画整理事業										
	した主な事業	長浦駅舎整備事業 袖ケ浦駅舎整備事業											
		(旧名)袖ケ浦駅北側		画整理伽	足進事業								
	達成できた(見込み)事項	市街化区域縁辺部の宅地開発が予測される地区を「農住調和地」と位置づけ、宅地開発事業指導要綱を改正し、宅地開発において周辺環境との調和を図った。また、景観まちづくりを推進するための各種施策により、良好な景観形成のための意識向上を図った。 袖ケ浦駅海側土地区画整理事業等により、交通拠点となる都市基盤整備を図った。 長浦駅及び袖ケ浦駅の駅舎改修が完了し、両駅周辺の都市機能が向上した。											
	その効果	宅地開発事業指導 また、景観に関する 袖ケ浦駅海側地区 長浦駅・袖ケ浦駅舎	取組みによ の利便性を	り景観に 舌かした基	対する意 基盤整備	識啓発	が図られて魅力を	nた。 る都市:	が形成る				
効	達成できな かった(見込め ない)事項	既成市街地内の基	盤整備及び	低未利用	地の活	用促進力	が図られ	ていなし	, <b>\</b> °				
果・検証										たが、『	関係地		
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	市街化区域縁辺の 的な課題が多く、宅地 ら、健全な土地利用の 既成市街地内の基 手法や地域住民が主	開発事業排 対制と誘導 と誘導	指導要綱( 算に関する 低未利用	こよる指 方針な 地の活	導だけ <sup>.</sup> どにより 用におい	では周辺  新たな;   ては、;	2環境と 現制誘導 高い整備	の調和を	を保つの 要となる。	に限界	があるこ	とか
市街化区域縁辺の市街化調整区域における宅地開発が進行し 課題が多いものの良好な住環境を確保できている。また、都市易計画的に推進できた。 長浦駅・袖ケ浦駅舎が整備できたことに加え、袖ケ浦駅海側地土地区画整理事業が概成し、生活しやすい利便性を活かした魅が形成されている。									5景観の  地区に	景観の形成を			

章-	- 節一施策	第7章-1節	i-2	施策名	<u>,                                    </u>			位	. 園 • 清	緑化			
	本施策の 方向性	(1)都市公園等の整 (2)公園・緑地の適」 (3)水と緑のネットワ	・・・・・・・ E管理・・・・・ ・・・・・ 一ク・・・・・・	・・都市景 ・安全で快 ・・公園遊	観に配 適かつ 具に起 し し し も も も も も も も も も も も も も も も も	慮したオ 有効に 因する事 B・河川 <sup>(2</sup>	-ープンス 活用され 事故防止 等の緑(	スペース る公園 のため( と推進等	の確保 の維持的 の安全点	管理 原検の徹			
	施策の推進に より期待された 効果	だれでも利用しやす に、街並みや施設の	い安全な公	・園の整備	によって	、市民	の憩い	の場とし	て公園を	利用が一		されると	ととも
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		1104
現		公園のバリアフリー化率		H 22		63.5 63.1	H 25 64.6		65.2		H 29 69.6	H30	H31 66.0
状	施策指標の 達成状況	公園がきちんと整備されていると感じる市民の		61.9	62.1	03.1	04.0	62.1	03.3	09.1	64.0 65.0		64.0
	※上段:目標値	<u>合</u>			02.1			02.1			00.0		
	下段:実績値												
	これまで実施した主な事業	公園・緑地維持管 都市公園整備事業 (旧名)袖ケ浦駅流	ŧ	市公園	<b>坠備事</b>	業							
	達成できた(見 込み)事項	総合公園、地区公 ケ浦駅海側地区に開 樹木の剪定等計画 点検により、安全で 公園・緑地・道路、	設した街区 的な維持管 や適に利用で	公園及び 理によりな きる施設	北口広り 方犯性か を提供	易におい 「向上し すること	ヽて、ユニ た。また ができた	-バーサ 、指定f :。	ルデザ <i>·</i> き理者に	インによ よる遊	る整備を	実施し	<i>t</i> =。
	その効果	公園等のバリアフル 民の憩いの場として、 公園・緑地・道路、	公園の利用	月が一層の	産進され	た。							り、市
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	地域の緑化推進の	ひとつである	5生垣奨励	前補助σ	件数が	減少して	こいる。					
検証	・									保なと、	市民の		
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	公園のバリアフリー 指定管理者による。 を得ない状況である。 市民のニーズが変 は維持管理費抑制の	点検が実施さ とから、今後 化し、外部か	され、不良 後は予算の ら園内が	個所が の平準( 見渡せ	明らかに とを踏ま る防犯性	こなる— えた改作 生の高い	方で、応 多、更新	急的な 計画の	修繕や 立案が』	撤去に。 必要であ	る。	
	総括評価	防犯性の向上を目的に樹木の伐採や剪定等を推進するとともに、新設した B 理由 神ケ浦海側地区の公園は開放感があり、幼児から小学生が楽しめる遊具を 配置するなどの整備を実施し、市民ニーズに対応できた。											

章-	- 節一施策	第7章-23	<b>市</b> 一1	施策名	3				道路	網					
	本施策の 方向性	(1)都市計画道路の (2)市道の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		·····à	直路網整 直路や相 あんしん 交通バリ	備計画	に基づく ・画的なだ リア内の ・基本構	安全・5 維持管5 事故対 想に基	g心な道 里 策や通 <sup>5</sup> づくバリ	ごづくりの 学路の歩 アフリー	推進 ジ道整備 化の推済				
	施策の推進に より期待された 効果	バリアフリー化・ユ ベての人々が快適 また、道路インフラ0	こ移動できる	まちづくり	の実現	が期待で	<b>できる</b> 。						含むす		
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施	_			
				H22	H23	H24 80.0	H25	H26	H27 80.0	H28	H29	H30	H31		
現状	施策指標の	都市計画道路の整備率	%	80.0	80.0	80.0	80.0	81.3	81.5	83.8	84.7		80.0		
	達成状況	市内の道路が整備されてい と思う市民の割合	<sup>16</sup> %		61.4			61.2			57.8		00.0		
	※上段:目標値														
	下段∶実績値														
		(都)高須箕和田線		<u> </u>			川原井								
	これまで実施	(都)高須箕和田線 (都)西内河高須線		袖延伸)				田線建設		チェンジョ	<b>数借</b> 促剂	生主業			
	した主な事業	(都)西内河根場線					国・県道			/ <b></b>		ニデベ			
		特定交通安全施設	特定交通安全施設等整備事業(袖ケ浦駅周辺地区) 橋梁長寿命化修繕事業												
	達成できた(見 込み)事項	袖ケ浦駅海側地区の整備に併せて高須箕和田線整備事業(JRアンダーパス)を推進することができた。 道路網整備計画に基づき計画的な道路整備を進めるとともに、道路橋の定期点検を実施した箇所につい は、その健全度を把握でき、延命化を推進することができた。 また、あんしん歩行エリア内(袖ケ浦駅周辺・長浦駅周辺)の事故対策及び歩道整備を推進するとともに、ハフリー基本構想に基づくバリアフリー化を推進することができた。 かずさインターチェンジ整備促進のため、国・県に対して要望活動を行った。										ハて			
	その効果	アンダーパスにより 橋梁定期点検によ また、あんしん歩行 動できるまちづくりの	り健全度を担 テエリア内及	理し、安 びバリアフ	全性の	高い道路	格環境が	構築で	きた。		-	々が快	適に移		
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	一部の道路整備でまた、道路に関する また、道路に関する かずさインターチェ	る市民満足度	ξが前回の	)数値を	下回った									
<b>検</b> 証	その原因・ 理由  国の交付金が新設から維持管理を重点配分される傾向にあり、工事計画の見直しが必要となった。 既成市街地内の道路整備や国県道の歩道整備等は市民ニーズに対応できていない。														
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	国の交付金が維持 る必要がある。また かずさインターチェ 次期道路網整備記	、限られた予 ンジや東京?	算内で市 第岸道路等	民二一ス 等の事業	ぐに応じ は化に向	た道路 <sup>雲</sup> けて近隣	整備を進 舞自治体	める必 と連携	要がある した要望	。 記話動を	継続して	にいく。		
	総括評価	施策指標である「都市計画道路の整備率」については、目標を達が難しいものの、着実に整備を進め安全で利便性の高い道路網の与している。 また、「市内の道路が整備されていると思う市民の割合」についてが上がっていない状況であるが、道路整備や道路管理を行うことに全性の高い道路環境が整えられている。													

章-	一節一施策	第7章-3節-1 施策名 上水道											
	本施策の 方向性	(1)安定した給水体 (2)安全性の確保・ (3)経営体質の強化		・・水質管	里の徹原	まによる	安全でを	安心な水	の供給	確保	<b>Ľ</b>		
	施策の推進に より期待された 効果	施設の計画的な改ほか、経営体質の強									ひな水の	供給が <sup>·</sup>	できる
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施		
		1日1示口	= 111	H22	H23		H25	H26		H28	H29	H30	
現状	施策指標の	経常収支比率	%	103.0	103.6	103.0	99.6	98.4	103.0 99.5	102.4	105.8		103.0
1人	達成状況	老朽管更新率	%			93.9		100.0	96.0				90.0
		(石綿セメント管)	,,,	91.5	93.3	93.8	94.5	95.2	95.6 91.8	87.1	88.4		04.0
	※上段:目標値	有収率	%	91.3	91.2	91.3	92.3	90.6	91.8	91.7	92.1		91.3
	下段:実績値			31.3	31.2	50	32.0	30.0	40	31.7	32.1		30
		漏水事故発生件数 	【 件	54	79	46	39	38	41	26	36		
		1. >+ == 1. 65 65 ±6 1+ =	÷ 44.										
		水道配水管等整備 水道施設改修事業	<b>手</b> 耒										
	これまで実施	パ塩池設は修事来 経営体質の強化											
	した主な事業	(旧名)水道老朽管	更新事業										
	達成できた(見込み)事項	老朽化した配水場 更新を行い、配水管 設備の適正な維持 適正な水道料金設 た基本協定を締結し	等の耐震化 管理や水質 対定の検討と	を図ること [検査等を 君津地域	で安定( 徹底する の水道	共給を確 ることで、 事業統合	『保した。 安全で 3広域化	。 安心な の検討	水の供給	合を確保	:した。		
	その効果	計画的な施設の改図ることができた。ま 効率的な運営によ	た、赤水苦	情等も無く	なり、オ	質結果	等も問題	題なく、	安全で多				
効果	達成できな かった(見込め ない)事項												
· 検 証	・     ・       ・<												
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	耐用年数を経過し 君津地域水道事業 適正な料金設定と紹	統合後、平	成41年度	の料金	統一を目							
	総括評価	А	理由	安定した給水体制の確立、安全性の確保については、計画的に取り組むとで一定の効果をあげている。また、経営体質の強化については、君津地域水道事業の統合広域化に関する基本協定を平成29年10月に締結したことが、平成31年4月の事業統合を目指しており、本施策は、今後、広域連合企業団(仮称)に承継される。									

章-	一節一施策	第7章-3	前一2   1	施策名	3	公共下水道								
	本施策の 方向性	(1)公共下水道の整 (2)水洗化率の向上 (3)経営基盤の強化	・・・効率的な ・・・既設公共 ・・・公共下水	は汚水処 も下水道 道への接	理の事 施設の 接続広報	業化検記 耐震補引 活動や	正による 歯対策等 貸付金額	下水道(ことる) 制度の3	の普及が 効率的な を援によ	な維持管 る水洗(	上率の向			
	施策の推進に より期待された 効果	公共下水道の整化 川などの公共用水均 また、水洗化率の原	或の水質が保	全される。	•		-						-	
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施			
		1日1示口	= 111	H22	H23		H25	H26		H28	H29	H30	H31	
現		下水道普及率 (処理区域人口/総人口)	%	67.2	67.3	67.3 67.1	67 E	67.2	67.4 67.1	66.9	67.2		68.0	
状	施策指標の 達成状況	水洗化率 (接続人口/処理区域人口)	%	95.0	95.3	95.1 95.8	96.0	96.3	96.2 96.4	96.4	96.6		96.6	
	※上段:目標値 下段:実績値													
		幹線管渠建設改良事業(袖	 ケ浦駅海側土地区画	整理事業に	係る汚水管	整備)	下水汚	泥リサイ	クル事	<u> </u>				
	これまで実施した主な事業	幹線管渠建設改良 幹線管渠建設改良 終末処理場改築更 終末処理場包括的	事業新事業	<b>備</b> )	(旧名)袖ケ浦駅北側公共下水道 (旧名)下水道総合地震対策整備事業									
	達成できた(見 込み)事項	公共下水道整備は平成29年度中に概成できた。また、「汚水適正処理構想」の改訂を行い効率的な事業化 証を行った。さらに、総合地震対策事業による管渠の耐震化と、包括的維持管理の導入により終末処理場の効 率的な管理へ移行した。 無利子貸付金支援の他、戸別訪問や公民館祭り等での公共下水道接続の啓発を行い、水洗化率の向上を 図った。 平成23年度に料金改定した他、経営状況を広報等で公表し、経営の健全化を図った。											易の効	
	その効果	公共下水道整備/ 証により、効率的な 水洗化率はわずが 図ることができた。	汚水処理の事	業化を図	ることだ	バできた								
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	下水道普及率は、	平成31年度 <i>0</i>	)目標68	.0%に対	む、67.	3%の見	込みと	なってい	いる。				
· 検	その原因・理由	下水道区域外(蔵よるため。	波中学校周辺	等)の開	発による	区域外	人口のナ	曽、下水	道区域	内(横田	地区)の	人口減	少等に	
証	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	既存の公共下水 策定し、施設の長妻 終末処理場は、「 する他、想定される 大型開発地区(海 意識の高まりや節っ を的確に行い、料金	評命化に向けた 東京湾流域別 処理能力不足 側・椎の森)の付 k機器等の普別	計画的な 下水道総 を解消す 供用開始 及により、	は維持管 合計画 るため により、 将来的	理が必 」の改成 の1系列 使用料 には使	要となる 定を見据  増設の 収入は 用料収。	。 え、更新 検討も行 今後一足	f や高度 テう必要 定の増か	処理化 がある。 Dが見込	に向け <i>†</i> めるが、	≃方向性 近年の	を検討 節水	
	総括評価	神ケ浦駅海側地区や椎の森工業団地などの整備の実施や、長寿命化画に基づき終末処理場の機械設備、電気設備の改修を実施し、施設ので 化を図ることにより、住環境における公衆衛生の向上などを図ることがでた。 また、公共下水道の料金改定を行い、経営の健全化を図ることができま												

章-	- 節一施策	第7章-3節	<b>т</b> −з	施策名	5				住日	<u> </u>					
	本施策の 方向性	(1)住環境の整備・ ・ ・ (2)住宅・宅地の供	••••耐震	改修促進言 【促進策に	計画に基 よる定化	づく住写 主化の推	宅の耐震 推進			主宅の供	結				
	施策の推進に より期待された 効果	誰もが安心して健 木造住宅の耐震』 で災害に強いまちつ	とを進めること	とにより、ブ									安全		
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施				
		1日1示口	十世	H22	H23		H25	H26		H28	H29	H30	_		
現		木造住宅の耐震化	率 %	79.6	79.7	80.0 79.8	79.9	85.9	90.0	86.8	87.3		90.0		
状	施策指標の 達成状況	防災拠点となる市有 建築物の耐震化率	%	74.1	78.3	79.8 85.0 79.3	79.9	84.3	100.0	88.0	67.3		100.0		
			_						93	88	88		80		
	※上段: 目標値 下段: 実績値	市営住宅戸数	戸	88	88	88	88	88	88	88	88				
		木造住宅耐震化促进	進事業			(旧名)地域住宅交付金事業(市営住宅)									
	これまで実施	市営住宅維持管理													
	した主な事業	住宅取得奨励金交付 空き家等対策事業	付事業												
		全さが寺刈水事来 (旧名)市営住宅整備事業													
	達成できた(見込み)事項	住宅の耐震化について、耐震工事を179件実施し、木造住宅の耐震化を推進した。また、住環境の悪化をするための空き家対策として、「袖ケ浦市空家等対策計画」を策定し、「袖ケ浦市空き家バンク制度」の運用始する等、連携強化を図った。 住宅・宅地の供給については、市営住宅で高齢者等に配慮した風呂の段差解消等を行い、安全安心な市宅の供給を図ったほか、住宅取得奨励金を交付して定住化を促進した。										用を開			
	その効果	組みを進め、空き家	木造住宅の耐震化率が向上し、安全で災害に強いまちづくりの形成が図られた。空家等対策計画により各取組みを進め、空き家等の適切な管理の促進が図られた。 市営住宅改修や住宅取得奨励金の交付により誰もが安心して健やかに暮らせる住環境の創出が進められた。												
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	現計画では木造付 災拠点において耐震 市営住宅の入居率 市営住宅戸数の目	寝化率100% ☑の目標を90	を目標とし 1%としてい	ているが、	、平成	28年度	末で889	%である	00	。市有廷	<b>皇築物の</b>	うち防		
<b>検</b> 証	その原因・理由	PRや戸別訪問など の風化及び高額とな 市内に県営住宅か 神納谷団地が住身	る耐震改修 、600戸あり、	費用が負 立地条件	担となり などかり	、工事(	の実施に 宅を希望	踏み切望する人	れない。 、が多い	ことが多 ため。					
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	耐震改修促進計画には、啓発方法の3 め創設した空き家がき家所有者へ個別の 民間や県営住宅で図る必要がある。	こ夫に努め、 いた制度につ の周知を図り	補助制度に ついては、 対応をして	内容の 物件登 いく必要	計を続	けていく ミ上げが )。	必要が 重要で	ある。空 あり、ホ	き家の <sup>を</sup> ームペー	有効活用 ージ等で	用を促進 の周知	するた 及び空		
	総括評価	В	理由	高額な工事費用等の問題で目標の耐震化率には届いていないが、住宅耐震化は進んでおり、また計画に基づき空き家に対する取組みを推進し、5 全性のある住宅地の形成が進められた。 市営住宅については、適正に修繕し入居募集を行い住宅困窮者の受け』 としての役割を果たしている。											

# (3) 行財政

章-	一節一施策	第8章-11	<b>節</b> 一 1	施策名	i			ļ	<b>才政</b> 道	営				
	本施策の 方向性	(1)財政計画・財政		全で自律 施事業の										
	施策の推進に より期待された 効果	諸財政指標を健全 る財政運営が期待		とともに、	良質な	市民サ	ービスを	維持す	ることで	、持続で	可能で市	ī民に信	頼され	
		指標名	単位		期実施			期実施			期実施			
		1618.0	+112	H22	H23	H 24 5.0	H25	H26	H27 5.0		H29	H30	H31 5.0以下	
現	+	実質公債費比率	%	3.4	2.5	2.4	1.8	1.4	1.0				5.0以下	
状	施策指標の 達成状況	経常収支比率	%			85.0			91.0				90.0以下	
	27777	柱市収文比率	/0	85.3	87.6	91.2	89.4	89.8	90.9	91.9				
	※上段:目標値													
	次上段: 日標但 下段: 実績値													
	これまで実施													
	した主な事業													
	達成できた(見込み)事項	歳入においては、 補助金等について! 者負担の適正化、 金)を推進し、新たっ	見直しを行った。 補助金・負担金	。併せて「 の見直し	持続可 を行い	「能な財 、物件費	政構造	確立のか	とめの集	中的取	組み」を	策定し、	受益	
	その効果		市民サービスを大きく低下させることなく財政運営を行うことができた。また、大型公共事業を行っても、将 責務が課題となることなく財政運営を行うことができた。											
効果	達成できな かった(見込め ない)事項	概ね財政指標にず財政の硬直化が		な水準を	保つこと	こができ	ているか	、経常	収支比差	率につい	いては、	目標を追	重成でき	
<b>検証</b>	その原因・ 社会保障経費や公共施設の老朽化等による維持補修費が増加していること。また、新規大型事業に伴う 理由 経費等が増加したことによる。										≟う管理			
	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	社会保障関係経費が増加するなど、る。一方、歳入ではら新たな財源の確保	歳出構造が変 外部経済環境	化してい により減	ることか	ら、さら	に経常	収支比	率が上昇	礼、財i	改の硬頂	重化が愚	悉念され	
	総括評価	В	理由	歳入面では使用料等の見直しを行うとともに、歳出面では補助金等のしや経常経費等の削減等を行ったことにより、概ね諸財政指標を健全なに保つことができた。										

章-	 −節−施策	第8章-2第	<b>前</b> — 1	施策名	3			1	<b>宁政</b> 道	重営					
	本施策の 方向性	方向性 (3)情報公開・パブリックコメント… ①行政の透明性向上 ②公正な行政・開かれた行政の推進 (4)組織の構築…①社会潮流や市民ニーズへの的確な対応 ②効率的かつ効果的な組織の構築 (5)人材(職員)育成… ①自律行動型職員の育成 ②時代や環境に対応する人材の育成													
現状	施策の推進に より期待された 効果	多方面から行政選ます。	営営の改革を	そ行うことに、	よって、	効果的•	効率的	に市民ニ	ニーズに	応える行	行政の実	ミ現が期	明待でき		
	施策指標の	指標名	単位		期実施			期実施			期実施		1104		
	達成状況			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 90.0		
	※上段:目標値 下段:実績値	「広報そでがうら」を んでいる市民の割合	- 55 %		78.4			79.4			77.6		90.0		
		市民と市長のふれる	 ういトーク		70.1		職員研			l	77.0				
	これまで実施	つがまちのようすがわかる予算説明会 行政経営計画の推進													
	した主な事業	ンティプロモーション推進事業 公共施設のあり方検討													
	達成できた(見込み)事項	行政評価では、総性や公平性の観点においては「袖ケ浦実現に向け、組織のることにより、行政のさらに、市政の見え上に努めた。	から行政経 市人材育成 )見直しや耶 )透明性向	営計画を策 :方針」の改 :黄数の適〕 :上を図ること	定して行 定等に E化にも ができ	す政改革 も取り組 努めた。	を行い、 はみ、職員 。また、「	財政的 の能力 情報公	」な効果 ウ向上や 開やパフ	を得るこ スリム <sup>-</sup> ブリックコ	とができ で効率的 メントを	た。組造な執行の対象の	織体制 体制の 運用す		
	その効果	効率的かつ効果的に行政運営を行うとともに、情報提供の公平性の確保や透明性の向上を図ることができた。													
	達成できな かった(見込め ない)事項	施策指標である「」	施策指標である「広報そでがうら」を読んでいる市民の割合について、目標を達成できていない。												
効果・	その原因・ 理由	若年層において、	「広報そでだ	がうら」が読:	まれてし	ないた	め。								
· 検 証	今後の 主な課題 (積み残し、 新規)	を行っていく必要がさらに、国は「働きの組織体制において員の心身の健康を行ても、その改善に取今後、「行政経営計画改定に当たり、また、広く広報紙等要がある。新しい取	質の高い公共サービスを継続的に提供するため、ICTや民間委託等の効率的な活用も検討する等の業務改革 行っていく必要がある。 さらに、国は「働き方改革」を主軸とした非正規雇用の待遇改善や長時間労働の是正等を推進しており、本市 )組織体制においても職員数の抑制や急速な世代交代による人材の確保、育成等の課題に向き合いつつ、職 他の心身の健康を保つための充実した安全衛生や、ワークライフバランスを意識した職場環境の整備等につい でも、その改善に取り組む必要がある。 今後、「行政経営計画(第7次行政改革大綱)」、「公共施設等総合管理計画」、「定員適正化計画」等の各種 計画改定に当たり、次期総合計画との関連性、整合性についても整理が必要である。 また、広く広報紙等を読んでいただくため、携帯アプリの活用や市内コンビニ等への配架等を充実させていく必 とがある。新しい取組みであるシティプロモーションについても、その推進が重要施策となっており、「観光」や 定住促進」などの施策とともに横断的な取組が必要となる。												
	総括評価 B 理由 施策指標は達成できていないものの、効率的かつ効果的に取組。 適切な行政運営を行うことができている。											取組みる	を行い、		

### 第8章 職員アンケート

### 1. 調査概要

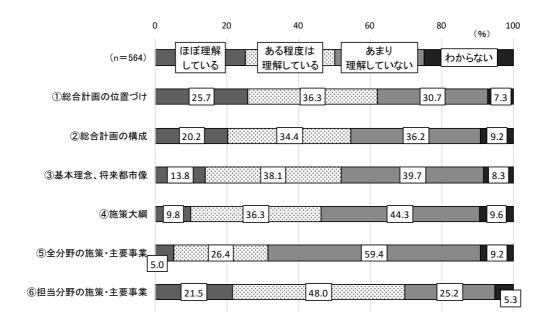
	本市のまちづくりに関する職員の意見・アイディアを把握し、平成32年度(202
調査目的	0年度)からスタートする次期総合計画の策定及び今後の市政運営の参考とすること
	を目的として、全職員を対象としたアンケート調査を実施するもの。
調査期間	平成29年10月5日(木)~10月19日(木)
調査対象	特別職を除く全職員
回収結果	対象者数:648人 有効回答数:564件 有効回答率:87%

### 2. 調査結果(概要)

#### (1) 総合計画の理解度(問2)

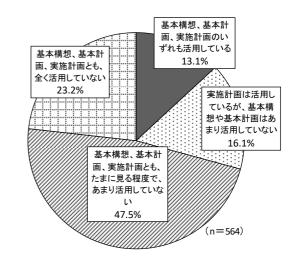
市の最上位計画であり、職員が理解しているべきである総合計画の内容についての職員の理解度(「ほぼ理解」+「ある程度理解」の比率)は、最も高い⑥担当分野の施策・主要事業で69.5%となっている。

職員全員で共有すべき全体概念である①総合計画の位置づけの理解度が 62.0%、③基本理念、 将来都市像が 51.9%に留まっていることから、新たな総合計画では、策定後にその内容を職員 が理解し、活用していく仕組みが必要である。



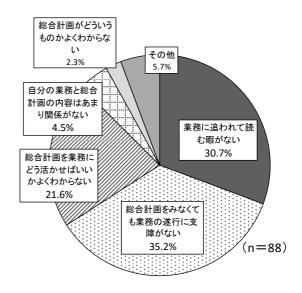
#### (2) 総合計画の活用度(問3)

「基本構想、基本計画、実施計画とも、たまに見る程度であまり活用していない」が47.5%と約半数を占めて最も多くなっており、「基本構想、基本計画、実施計画とも全く活用していない」の23.2%を加えると、7割以上が活用していない。



#### (活用していない理由:実施計画は活用している職員)

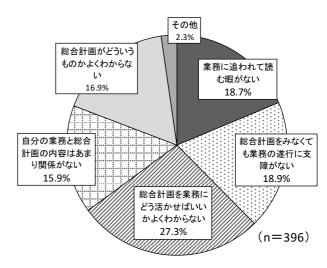
「総合計画をみなくても業務の遂行に支障がない」が 35.2%で最も多く、次いで「業務に追われて読む暇がない」が 30.7%で続いている。「総合計画を業務にどう生かせば良いかよく分からない (21.6%)」、「総合計画がどういうものか良くわからない (2.3%)」の理解不足による理由も23.9%と約4分の1を占めている。



### (活用していない理由:実施計画も含め活用していない職員)

「総合計画を業務にどう活かせば良いかよく分からない」が27.3%で最も多く、次いで「総合計画をみなくても業務の遂行に支障がない」が18.9%で続いている。

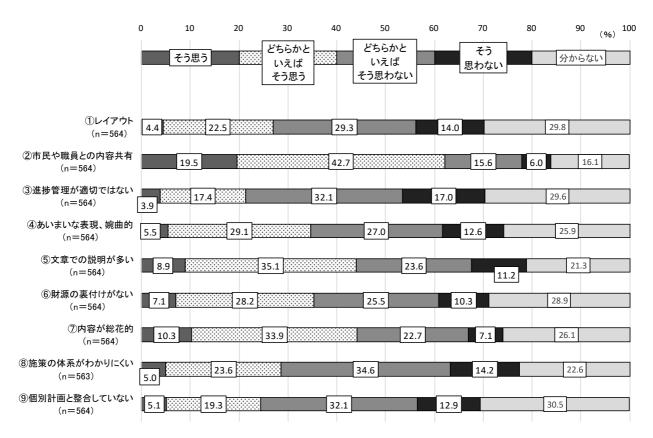
実施計画を活用している職員との比較では、「総合計画がどういうものかよくわからない」が 14.6%ポイント、「自分の業務と総合計画の内容は、あまり関係がないと思う」が 11.4%ポイント高くなっており、総合計画の有効性に対する認識の低さが活用度の低さにつながっている。



#### (3) 現在の総合計画についての評価(問4)

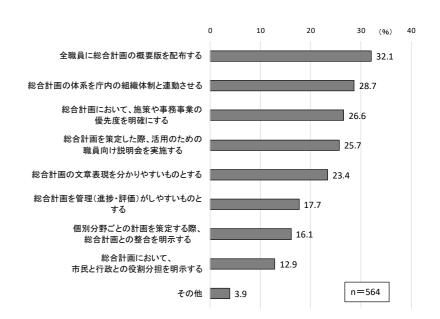
総合計画の評価を「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計でみると、「②市民や職員との内容共有が不十分ではないか」が 62.2%と最も多くなっている。次いで、「⑦内容が総花的 (44.2%)」、「⑤文章での説明が多い (44.0%)」の順となっている。

評価が高い項目では、「③進捗管理が適切ではない」が 21.3% で最も多くなっている(「そう思わない」も 17.0% で最も多い)。



#### (4) 総合計画の改善点(問5)

「全職員に総合計画の概要版を配布する」が32.1%で最も多く、次いで、「総合計画の体系を組織体制と連動させる(28.7%)」、「総合計画において、施策や事務事業の優先度を明確にする(26.6%)」、「総合計画を策定した際、活用のための職員向け説明会を実施する(25.7%)」の順となっている。



#### (6) 達成度と重要度(問6)

#### (達成度)

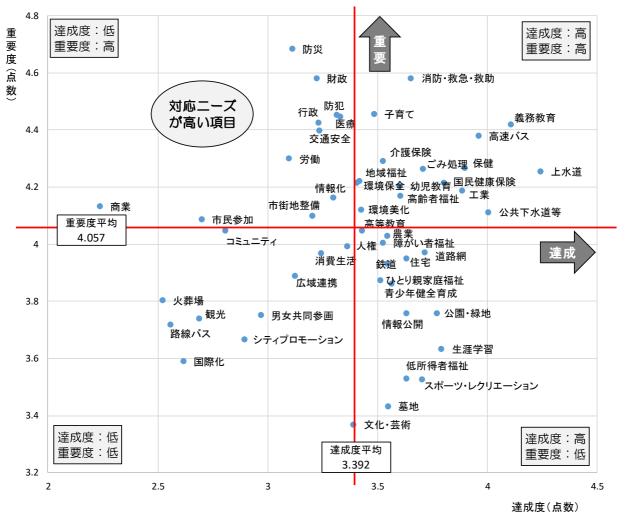
全 52 項目のうち、44 項目において達成されている(「十分達成されている」と「ある程度達成されている」の合計)が不十分である(「やや不十分である」と「不十分である」の合計)を上回っている。達成割合が最も多い項目は、「高速バス」の 80.5%となっており、次いで「上水道(79.4%)」、「義務教育(73.9%)」、「公共下水道(69.0%)」の順となっている。一方、不十分が多い項目は、「商業」の 55.3%が最も多く、次いで、「路線バス(45.6%)」、「観光(39.9%)」、「火葬場(39.4%)」、「市民参加(32.4%)」の順となっている。

#### (重要度)

全 52 項目すべてで、重要である(「重要である」と「やや重要」の合計)が重要ではない(「あまり重要ではない」と「重要ではない」の合計)を上回っている。重要であるが最も多い項目は、「防犯」の 93.9%となっており、次いで「消防・救急・救助(91.6%)」、「財政(89.8%)」、「医療(88.8%)」、「防犯(88.3%)」の順となっている。一方、重要ではないが多い項目は、「文化・芸術」の 18.3%が最も多く、次いで、「シティプロモーション(15.2%)」、「スポーツ・レクリエーション(14.6%)」、「観光(13.5%)」、「国際化(13.3%)」の順となっている。

#### (対応ニーズ)

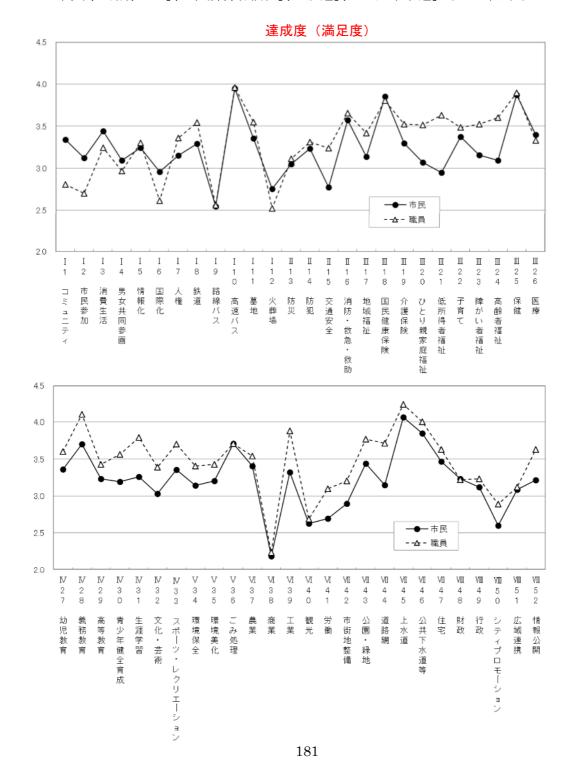
達成度と重要度を点数化し、その相関関係をみると、達成度が低く、重要度が高い項目(対応ニーズが高い項目)は、商業、防災、市民参加、財政、労働などとなっている。



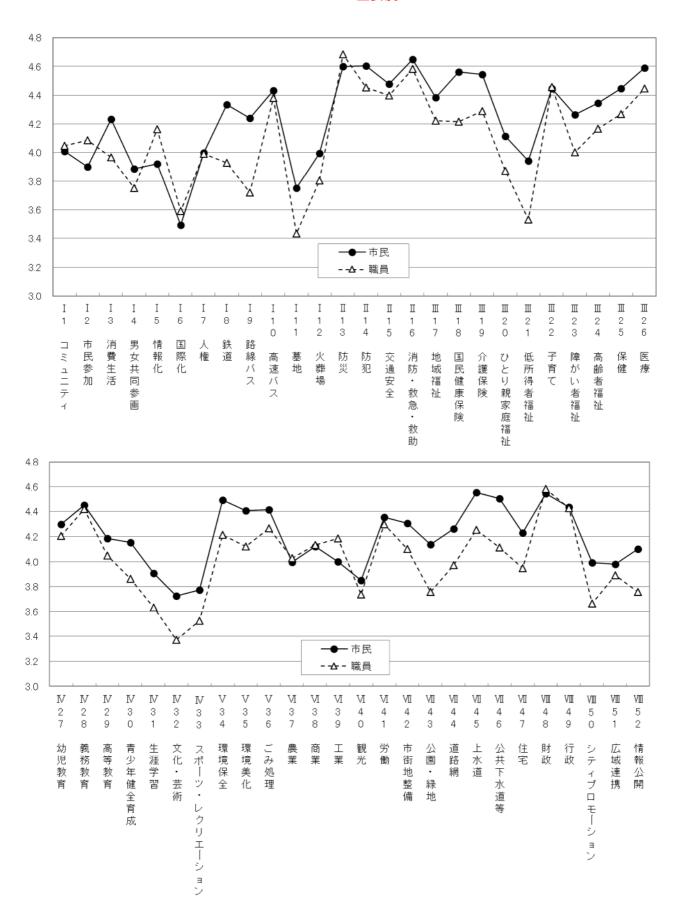
#### (市民との比較)

達成度と重要度をまちづくりアンケートにおける市民の回答と比較すると、達成度(市民では満足度)の平均値では、職員(3.39)が市民(3.22)を上回っている(2.52) 項目のうち 42 項目で職員の方が高い)。重要度の平均値では、市民(4.22)が職員(4.06)を上回っている(2.52) 項目のうち 42 項目で市民の方が高い)。

達成度(満足度)をみると、「I市民生活」分野を除いた 7 分野で職員の方が高くなっている。項目別では、「低所得者福祉」、「道路網」、「工業」などが市民に比べ高く、「コミュニティ」、「市民参加」、「国際化」、「火葬場」などが低くなっている。重要度では「VI産業振興」分野を除く7 分野で市民の方が高くなっている。項目別では「情報化」、「市民参加」、「工業」などが市民に比べ高く、「路線バス」、「低所得者福祉」、「鉄道」、「公共下水道」などが低くなっている。



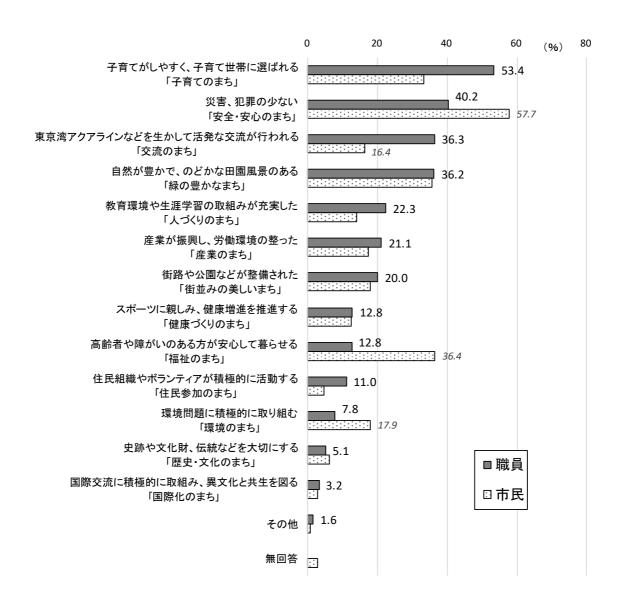
### 重要度



#### (6) 本市の将来像(問7)

本市の将来像では、子育てがしやすく、子育て世帯に選ばれる「子育てのまち」が 53.4%で 最も多く、次いで、災害、犯罪の少ない「安全・安心のまち (40.2%)」、東京湾アクアライン などを生かして活発な交流が行われる「交流のまち (36.3%)」、自然が豊かなで、のどかな田 園風景のある「緑の豊かなまち (36.2%)」の順となっている。

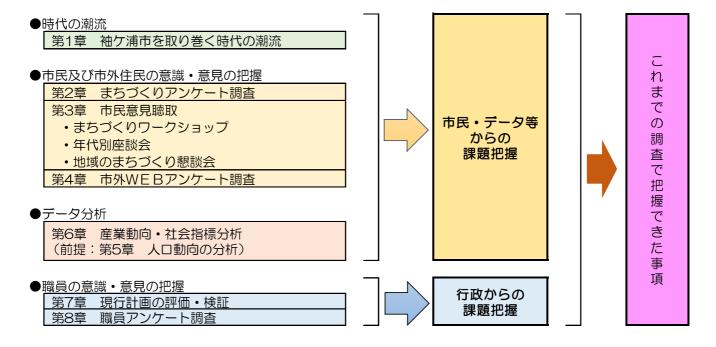
まちづくりアンケートとの比較では、市民に比べ、「子育てのまち」が 20.0%ポイント、「交流のまち」が 19.9%ポイント多くなっている。一方で、「福祉のまち」が  $\Delta 23.6\%$ 、市民では最も多かった「安全・安心のまち」が  $\Delta 17.5\%$ ポイント、「環境のまち」が  $\Delta 10.1\%$ ポイント少なくなっている。



### 第9章 これまでの調査で把握できた事項

これまで行った基礎調査の各種データ、市民や行政から提示された本市の魅力や課題、提案等を踏まえ、本市において今後特に対応が求められる項目を分野別に整理した。

#### 基礎調査の全体像(再掲)



### (1) 市民生活

<u>袖ケ</u>	浦市基礎調	查総括	表(分野別・各調査別結	果概要)						T				
			「まちづくりアンケー からわかるこ		市民・市外住民の意識・意見 「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		フークショップ」 な内容	「市外WEBアン ケート調査」から わかること	時代の潮流 「袖ケ浦市を取り巻く時 代の潮流」からいえること		現行総合計画の評価・検証  各課へのシート・ヒアリング調査からわかること	職員	の意識・意見 アンケートから わかること	
分野	施策項目	ニーズ の 経	設問・対応 満足度・重要度(平均値と の比較を事象A~Dで記 載。Aは重点改善項目)	■普段の暮らしや感じ ていること	●魅力 ▲課題 ◆提案	第1回 ●魅力 ▲課題	第2回 第3回 各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し	市外住民のニーズ が高い項目 ○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する 項目	○外部環境の変化 による影響 ⇒求められる方向	統計データ・県内他 自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)  ●達成できたこと  ▲達成できなかった事項  ◆今後の主な課題(積み残し、新規)	市民 比較 (市民満足) 足達成 (東)	課題の提示	これまでの調査で 把握できた事項
	コミュニティ・協働	比較)	「コミュニティ」 事象【D】 (満足度高・重要度低) 「市民参加」 事象【C】 (満足度低・重要度低)	最も数値が上がっており、60歳以上では非常に関心が高いが、40歳代、10・20歳代でまちづくり活動の関心が低い ▼市民と行政とのまちづくりで市に期待する取組み	▲子どもを通じた近所づきあいが減少(平岡) ▲少子化でコミュニティ、ボランティアの担い手不足(昭和)④⑥ ▲交流の場がない(昭和)②③ ▲人口滅による自治会活動の停滞(根形)① ▲自治会未加入者の増加(根形、昭	活動している ●地域間のつながりが強い ●都内に比べて、人が優しく暮らしてすい ▲近隣・他世代交流の場が少ない2	・市外勤務者の意 識向上①⑥ ・若者が地域に関	_	○地域コミュニティの機能低下懸念 ・人口減少や価値観の多様化に伴う地域三ュニティの希薄化・高齢活活不足・地域活動への支援強化②④⑤ ○まちづくり・地域活動に関心をもつ様民(企業の定年退職者など)の増加→活動のきっかけ・受け		●コミュニティ活動への各種支援(集会施設の建設・修繕、自治会加入を促進するためチラシ・マニュアル作成等)(1-1-1) ●「袖ケ浦市みんなが輝く協働のまちづくり条例」の施行(1-1-1) ●協働事業提案制度の創設(1-1-1) ●市民活動を支援するため市民活動情報サイトやまちづくり講座の開設(1-1-1) ▲自治会の加入率が低下傾向(1-1-1)① ▲市内NPO法人の団体数が伸び悩んでいる(1-1-1)④ ◆少子高齢化による参加者の減少や会員の固定化(1-1-1)① ◆地域まちづくり協議会の組織化(1-1-1)⑤	1	〇市民参加の対 応ニーズは3番 目に高い	①自治会への加入など地域コミュニティ活動への参加促進の啓発 ②集会所等の地域活動の場の 確常報共有、マッチングの促進 ④市内NPO法人の団体数の 増加支援 ⑤地域まちづくり協議会の組織 化 ⑥地域人材の育成
市民生活	公共交通	-	「鉄道」 事象【B】 (満足度高・重要度高) 「路線(A)重点改善項目 (満足度低・重要度高) 「高速バス」 事象【B】 (満足度高・重要度高)	■鉄道交通 満足の割合がやや改善、平岡地区が低く地域差が大きい ■路線パス 満足度が低く経年でも低下、地域差が大きい (根形地区で低い)① ②	(長浦)  ●高速バスが便利(根形、昭和) ▲路線バス等公共交通が不便(全5地区)①② ▲高齢者の足の確保(根形)①②⑤ ▲自家用車が生活に必須(中川・富岡、根形、昭和)①②⑤ ▲将来の久留里線の維持(中川・富	スが良い ●交通網が整備されている ▲市内の交通の個が悪く車がないと 生活しづらい①② ◆袖ケ浦BTへのアクセス・施設改善 ●	<ul><li>●公共交通の充実 (高速バスの活 用、施設間の移動 手段確保、路線バスの増加等)①②</li></ul>		皿づくり①③  ○高齢化に伴う独居高齢者、高齢者世帯の増加懸念(孤独死、老老介護の発生) →公共交通の維持・確保(交通弱者対策)①② ⑤、地域の支え合い体制の維持⑥		●長浦駅舎及び袖ケ浦駅舎の整備(1-2-1) ●袖ケ浦BTへの自販機型コンピニやWi-Fi設備の導入(1-2-1) ●高速バスの新規路線(東京線)を誘致(1-2-1) ●神ケ浦BTや東京ドイツ村、椎の森工業団地への路線バスの接続(1-2-1) ●地域支え合い活動支援事業の平川いきいきサポートの立ち上げ(1-2-1) ▲横田駅のバリアフリー化が未済(1-2-1)④ ▲路線バスにおける利用者が減少傾向にあり、減便となっている路線がある(1-2-1)① ◆交通サービスに関する情報提供・利用促進策の充実(1-2-1)⑤ ◆高齢者をはじめとする市民の移動ニーズや地域特性に対応したあり方の検討(1-2-1)② ◆まちづくりや観光振興との施策の連動(1-2-1)⑥	1	<ul> <li>○路線バスの達成度が3番目に低い(2.56)</li> <li>○鉄道で市民満足度との乖離が生じている(▲ 0.25)</li> </ul>	①買い物弱者を意識した路線バス網の維持・充実 ②路線パスに代わる交通手段の整備自治体との連携による高速パス路線の充実 ④駅のパリアフリー化の促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	その他市民生活	-	「消費生活」 事象【B】 (満足度高・重要度高) 「男女共同参事象【C】 (満足度低・重要度低) 「清足度低・重要度低) 「人権」 事象【D】 (満足度低・重要度低) 「基地」 事象【D】 (満足度高・重要度低) 「墓地」 事象【D】 (満程度低・重要度低) 「基準人」 事象【D】 (満程度低・重要度低) 「基準人」 「本葉人」 (満足度低・重要度低) 「本葉人」 (満足度低・重要度低) 「本葉人」 (満足度低・重要度低) 「本葉人」	■男女共同参画(男女平等) 経年で改善しているが、40歳代、長浦地区でやや低い ■情報化 65歳以上のインターネット活用は半となった。 ■国際化 「外国人でしている。 ■人権 「年齢、性別、障がい、随籍等にいうる。 ●人権 「年齢、等によいうとなっている。 ●人権 「年齢、性別、に対ける答が44.2%とや多く、経年では最も悪化している	▲火葬場が市内にない(長浦)④	●墓地が多い ▲火葬場ができる と良い	_	_	<ul> <li>○グローバル化に伴う 外国人居住者 増加の 可能性</li> <li>⇒多文化共生の推進①</li> <li>○ライフスタイルの多様化</li> <li>⇒男女共同参画やワーク・ライフ・パランスの推進①</li> </ul>		●消費生活センターの開設と相談体制の強化(1-1-2) ●消費生活に関する啓発活動の実施(1-1-2) ●男女共同参画に関する意識啓発(1-1-3) ●若年期からの人権教育と人権啓発(1-1-6) ●墓地公園の適切な管理と需要に応じた供給(1-2-2) ●君津地域4市の間での「(仮称)木更津市火葬場整備運営事業」に関する覚書の締結(1-2-2) ▲消費者教室の参加人数が減少傾向(1-1-2)③ ▲男性の育児休業等取得率が低い(1-1-3)① ▲在住外国人に対する相談体制の不足(1-1-5)③ ◆消費生活相談員の有資格者が確保困難(1-1-2)③ ◆譲り込め詐欺への対応(1-1-2)③ ◆審議会等の女性員の割合向上(1-1-3)① ◆育児・介護サービスの充実と職場の制度充実・意識改革(1-1-3)② ◆国際ボランティアの高齢化が進行している(1-1-5)⑤ ◆子どもだけでなく一般成人も対象にした人権意識の啓発(1-1-6)① ◆墓地の残り区画数が少ないため新たな整備の検討(1-2-2)④ ◆君津地域4市間での「(仮称)木更津市火葬場整備運営事業」に係る協議(1-2-2)④	_	○火葬場の満足 度は2番目に低 い(2.52) ○国際化の達成 度は4番目に低 い(2.61)	①多文化共生、男女共同参画、ワーク・ライフ・パランス、国際化の推進、人権意識の啓発。②事業所(職場)と連携した市民生活支援。③市民生活に係る相談体制の充実。④備を対し、大都は、大材の育成(再掲)

<sup>※ 「</sup>市民・市外住民の意識・意見」~「職員の意識・意見」の欄にある番号は、「これまでの調査で把握できた事項」における番号に対応している。

## (2) 防犯・防災

157	710 11 02 11		den 114 2	長(分野別・各調査別結	7K 176 5 7	市民・市外住民の意識・意見	_			時代の潮流	データ分析	現行総合計画の評価・検証	職員	の意識・意見	
				「まちづくりアンケー からわかるこ		「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		7ークショップ」 な内容 -		「袖ケ浦市を取り巻く時 代の潮流」からいえるこ と		各課へのシート・ヒアリング調査からわかること		アンケートからわかること	
分 野	施策項目	1	ニーズ 度の	設問·対応	ニーズ		第1回	第2回 第3回	市外住民のニーズが高い項目		統計データ・県内他	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)	市民比較		これまでの調査で 把握できた事項
		ź	経年 比較 (H26 年との 比較)	満足度・重要度(平均値との比較を事象A~Dで記載。Aは重点改善項目) 【平均(3.223)・(4.218)】	■普段の暮らしや感じ ていること ▼その他設問	●魅力 ▲課題 ◆提案	●魅力 ▲課題 ◆提案	各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し た項目	○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する 項目	○外部環境の変化 による影響 ⇒求められる方向	自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	●達成できたこと ▲達成できなかった事項 ◆今後の主な課題(積み残し、新規)	(市民満足度/職員達成度)	課題の提示	
	防災・ 国民保証	•	•	「防災」 事 <b>象[A]<mark>重点改善項目</mark> (満足度低·重要</b> 度高)	▼災害への備えで市 に期待すること 市による非常食や医 薬品などの備蓄、防災 情報の提供、避難場 所・経路の確保の対応 ニーズが高い①②	▲水害対策(平岡)② ◆防災意識の向上(長浦)②③	●災害が少ない : ▲小櫃川の氾濫が 懸念される② ▲斜面の安全性確保② ▲防波堤の劣化懸	●防災対策の強化 (防災への取組 み、災害用備品の 常備啓発、コミュニ ケーションの場の 設置等①②③	_	_	_	●防災に関する各種マニュアル作成(2-1-1) ●業務継続計画(BCP)等の実施体制に関する指針等の策定(2-1-1) ●庁舎の耐震補強設計及び庁舎整備基本設計の実施(2-1-1) ●災害時要援護者台帳の整備及び災害対策コーディネーターの養成(2-1-1) ●奈良輪雨水ポンプ場・奈良輪第一排水区の雨水対策及び急傾斜地崩壊危険区域に指定されている未整備箇所の対策工事の実施(2-1-1) ●全国瞬時警報システム及び緊急情報ネットワークシステムの運用(2-1-1) ● 全国瞬時警報システム及び緊急情報ネットワークシステムの運用(2-1-1) ● 災害時の要援護者数に対し、支援登録者数が不足している(2-1-1)③ ●災害時の救援体制の県との役割分担の明確化(2-1-1)② ●準用河川・普通河川等における計画的・予防的な維持管理及び河川構造物等の延命化(2-1-1)②	<b>→</b>	〇防災の対応 ニーズは2番目 に高い(重要度 が最も高い)	①防災備蓄の充実 ②防災情報の提供、防災体制 → の強化、河川・斜面等危険個 所への対応 ③共助・自助による防災力の 向上
防犯・防災	防犯· 交通安全	È	Ŷ	「防犯」 事象[B] (満足度高·重要度高) 「交通安全」 事象[A]重点改善項目 (満足度低·重要度高)	▼防犯対策で市に期待すること 街路灯・防犯灯の設置、パトロール強化、 防犯カメラ設置の対応 ニーズが強いい①② ④	▲防犯灯が少ない(中川・富岡、根形、長浦)② ▲警察署がない(平岡、昭和) ◆街灯のLED化(中川・富岡)② ◆通学路の交通安全対策(根形)③ ⑤	●治安が良い ●安全パトロール が心強い ▲街灯が少ない② ▲警察署がない	防犯対策の強化 (防犯カメラの設 置、防犯灯の増 )設、空き家対策等) ①②④	_	_	●交通事故件数、交 通事故死傷者数の 少なさ	●防犯 防犯指導員や自主防犯パトロール隊への支援(2-2-1) ●市民生活安全パトロール委託の実施(2-2-1) ●街頭防犯カメラの設置(2-2-1) ●防犯灯の照度アップ(2-2-1) ●交通安全協会や交通安全母の会への支援(2-2-1) ●市外居住者への啓発活動(2-2-1) ●自転車放置禁止区域の定期的な巡回と放置自転車の撤去(2-2-1) ●自転車放置禁止区域の定期的な巡回と放置自転車の撤去(2-2-1) ● 自転車放置禁止区域の定期的な巡回と放置自転車の撤去(2-2-1) ● 首監修犯組織数が目標未達(2-2-1)① ▲警察署設置を要望しているが実現に至っていない(2-2-1) ◆防犯灯の更新計画の検討(2-2-1)② ◆ゾーン30の検討(2-2-1)③⑤ ◆高齢者の運転免許証の返納に関する取組みの検討(2-2-1) ⑤	•	○交通安全で市 民満足度との乖 離が生じている (▲0.46)	①子どもの見守りポランティア の充実 ②防犯灯の計画的な更新 ③通学歩道の確保(道路網再 母)(CTを活用した防犯体制の 強化 ⑤交通安全の推進
	その他 防犯・防!	Œ	-	「消防・救急・救助」 事象[B <b>]</b> (満足度高・重要度高)	▼将来都市像 「安全・安心のまち」 が将来像で最も多い	_	_	_	_	○安全・安心志向の高 まり(防災意識、防犯意 識) ⇒危機管理体制の充実 (消防・救急等)①②	_	●消防体制充実のための各種委員会の発足と検討(2-3-1) ●消防車両及び消防団詰所の計画的な更新・建替え(2-3-1) ●火災予防啓発活動の実施(2-3-1) ●消防団活動の推進(2-3-1) ●救急車の適正利用の啓発と救命講習の実施(2-3-1) ●対防水利の充足率、消防車及び救急車到着までの平均時間、事業所等の防火指導回数及び一般住宅の防火診断回数が目標数値に達していない(2-3-1)①② ●消防団員数が減少傾向(2-3-1)① ●庁舎の集約移転に伴う訓練場所の整備検討(2-3-1)①② ●消防の広域化等に関する推進計画(県策定)を踏まえ、今後の消防のあり方の検討(2-3-1)①		_	⇒ ①消防体制の充実 ②教急·教助体制の充実

### (3) 保健・医療・福祉

<u>◇袖ク</u>	浦市基礎	<u>青</u> 套総打	括表	₹(分野別·各調査別結	果概要)					T		I			
						市民・市外住民の意識・意見			「市外WEBアン	時代の潮流「袖ケ浦市を取り巻く時	データ分析	現行総合計画の評価・検証		の意識・意見	
				「まちづくりアンケー からわかるこ。		「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		ノークショップ」 な内容 		代の潮流」からいえること		各課へのシート・ヒアリング調査からわかること		アンケートから わかること 	
分野	施策項目	二一.	の L	設問·対応	ニーズ		第1回	第2回 第3回	市外住民のニーズ・が高い項目		統計データ・県内他	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)	市民比較		これまでの調査で 把握できた事項
		経 <sup>年</sup> 比東 (H2 年と 比較	較 26 cの	満足度・重要度(平均値との比較を事象A〜Dで記載。Aは重点改善項目) 【平均(3.223)・(4.218)】	■普段の暮らしや感じ ていること ▼その他設問	●魅力 ▲課題 ◆提案	●魅力 ▲課題 ◆提案	各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し た項目	○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する 項目	○外部環境の変化 による影響 ⇒求められる方向	自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	<ul><li>●達成できたこと</li><li>▲達成できなかった事項</li><li>◆今後の主な課題(積み残し、新規)</li></ul>	(市民満足度/職員達成度)	課題の提示	
	地域福祉	<b>\$</b>	,	<sup>-</sup> 地域福祉」 事象【A】 <mark>重点改善項目</mark> (満足度低・重要度高)	▼地域福祉への参加 希望 地域福祉への参加 希望は14.5%①	◆いきいきサポートの活用(平岡)②	_	_	_	_	●老年人口比率の 低さ ●要介護(要支援) 認定比率の低さ ▲高齢化の進行	●ボランティアやボランティアリーダーの育成・支援(3-1-1) ▲若年層のボランティア登録が少ない(3-1-1)(① ▲民生委員・児童委員の人材確保(3-1-1)(⑤) ▲住宅整備資金貸付制度の利用低迷(3-1-1) ◆部門ごとでの活動ではなく、市民協働も含めた横断的な取組みができるよう検討を要する(3-1-1)(④)	1	○市民満足度と の乖離が生じて いる(▲0.28)	①地域福祉活動への参加促進 ②NPO等との連携による地域 福祉の充実 ③パリアフリー化の推進 ④庁内横断的な取組みの推進 ⑤地域人材の育成(再掲)
保健・医療・福祉	子育て	•		予育で」 事象【B】 (満足度高・重要度高) ひとり親家庭福祉」 事象【C】 (満足度低・重要度低)	■子育で環境 全体でみると、「安心して子育てできる環境 にある」との回と答が 70%以上に上っている。ただし、50歳代、30歳代、平岡地区などでは同回との割合が低い③ ▼子育てしやすいまちになるため、市に期待すること 、給付の充実、保の居場所づくり、給付の充実、どのニーズが高い②③④	●子育て施策が充実(平岡) ▲若い人が少ない(昭和) ◆金銭的な支援が必要(平岡)② ◆子育て世代、若年層を呼び込む施 等(昭和)①②③④	●子育てがしやすい ●学童・託児所がある ●をでがうら子ども 館がある ▲親子で楽しめる 憩の場が少ない①	の充実① ・地産地消を生かした食育の推進 ・教育での自然の活用 ・子育て世帯向けのサービスの充実	〇自治体に期待する支援策は「医療費助成(48.1%・1位)」②、「教育環境の充実」(27.5%・2位)③⑤、「保育料助成」(27.0%・3位)②などが上位	_	15-49歳女性人口あたり出生数、自然増	●民間保育施設の整備支援(3-2-3) ●認定こども園、病児保育、放課後児童クラブ等の提供(3-2-3) ●そでがうらこども館の設置や子育て世代総合サポートセンターの開設(3-2-3) ●子ども医療費対象の引き上げ(中学3年生まで)(3-2-3) ⑤ 幼稚園・保育所からの子育て情報の提供(4-1-1) ◆袖ケ浦駅海側区画整理等に伴う短期的な保育需要増加と、長期的な少子化への対応(3-2-3)④ ◆少子化が進行する平川地区での幼児教育と保育のあり方についての検討(3-2-3)④ ◆母子保健や学校教育、地域などとの連携強化(3-2-3)⑤		○市民満足度と の乖離が生じて いる(▲0.11)	①親子で楽しめる場の整備・充実 ②子育ての経済的負担の軽減 (医療費・保育料等) ③切れ目のない子育で支援 (ネウボラ等) ④需要に応じた保育サービス の提供・学校教育・地域と の連携強化 ⑥子育てに関する情報提供の 充実
	高齢者福祉	ı î		「高齢者福祉」 事象【A】 <mark>重点改善項目</mark> (満足度低・重要度高)	▼高齢者にとって住み やすいまちになるため 市に期待すること 買い物支援、移動手 段確保、在宅福祉 サービスの充実といっ た意見が多い②⑤	和)②④ ◆高齢者のタクシー利用補助(中川・ 富岡)⑩ ◆高齢者の見守り体制の構築(根 ※ 四和 長波)②④	●高齢者福祉施設 が多い ▲お年寄の生活補 助が必要	・人と人とのつなが りの強化(世代間 交流の機者が楽しく 運動できる場で。 整備) 名を意力を表 手交通(空) 3(4) ・高交通(全) できるの できる場でもスの みを動手であるの 移動目士の移動バス) (10)	_	まり ⇒医療・高齢者福祉の 充実、地域包括ケア体制の構築・充実®	年人口指数、高齢単 身世帯数比率の低さ ●要介護(要支援) 認定率の低さ ▲65歳人口あたり有 料老人ホーム定員	●地域包括サブセンターの開設(3-2-5) ●「いきいき百歳体操」を地域住民主体で開催(3-2-5) ●認知症に対する理解普及と認知症の方及び家族の支援体制 の充実(3-2-5)  ▲シニアクラブやシルバー人材センターの会員数及びクラブ数が 減少傾向(3-2-5)② ◆健康づくりや地域づくりにおける庁内横断的な連携体制の構築 (2-2-2)⑥(7) ◆小規模多機能型居宅介護及び定期巡回・随時対応型訪問看 護に関する事業者の確保(3-2-2)⑤(8) ◆地域包括ケアシステムの深化・推進(3-2-2)⑧ ◆認知症の家族の支援(3-2-2)⑨ ◆高齢者虐待への防止、早期対応に向けた医療・介護関係機関との連携強化などの本人及び家族への支援の充実(3-2-2)⑨ ◆認知症患者に対応するための医療・介護関係機関との連携強化(3-2-5)⑧	1	○高齢者福祉は 市民満足度との 乖離が5番目に 大きい(▲0.51)	①高齢者入所施設(有料老人ホーム等)の充実 ②高齢者を支えるボランティア等の高齢者を支えるボランティア等の高齢度が活動できる場・機会の推進の機構を提表が強いの充実。 ⑥をは、一般を表現をできる場が、 ⑥をは、一般を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を

						市民・市外住民の意識・意見				時代の潮流	データ分析	現行総合計画の評価・検証	職員	の意識・意見	
				「まちづくりアンケー からわかるこ		「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		7ークショップ」 な内容	「市外WEBアン ケート調査」から わかること	「袖ケ浦市を取り巻く時代の潮流」からいえること	「産業動向・社会指		職員	アンケートからわかること	
分野	施	策項目	ニーズ度の	設問·対応	ニーズ	2.74	第1回	第2回 第3回	市外住民のニーズが高い項目		統計データ・県内他	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)	市民比較		これまでの調査で 把握できた事項
			経年 比較 (H26 年との 比較)	満足度・重要度(平均値との比較を事象A~Dで記載。Aは重点改善項目) 【平均(3.223)・(4.218)】	■普段の暮らしや感じ ていること ▼その他設問	●魅力 ▲課題 ◆提案	●魅力 ▲課題 ◆提案	各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し た項目	○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する 項目	○外部環境の変化 による影響 ⇒求められる方向	自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	<ul><li>●達成できたこと</li><li>▲達成できなかった事項</li><li>◆今後の主な課題(積み残し、新規)</li></ul>	(市民満 足度/職 員達成 度)	課題の提示	
保健・医療・	1/ <b>4</b> 11	ù·医療	Ŷ	「保健」 事象【B】 (満足度高・重要度高) 「医療」 事象【B】 (満足度高・重要度高)		▲総合病院、産婦人科がない(根形)② ◆病院の集約化・市中心部への誘致◆総合病院の誘致◆スポーツ振興による扶助費の削減③ ◆若い人のガウランドの利用③④◆ガウランドとテニス場などの一体的整備③	●ガウランドがある ▲大病院がない ▲ガウランドへ行きづらい③	●市内医療サービスの充実(病院間の連携、巡回医療、病院の紹介資料作成等)・病院へのアクセス改善(病院間の移動用バスの運行等)	_	○高齢化に伴う医療・ 福祉・介護ニーズの高 まり ⇒医療・高齢者福祉の 充実、地域包括ケア体 制の構築・充実①	病床数の多さ ▲病院数の少なさ	●医師会や君津中央病院、保健所などの関係機関との連携(3-3-1) ●各種健診や相談事業の実施(3-3-1) ●予防接種事業による感染症の予防(3-3-1) ●一次、二次、三次の救急医療体制の確保や看護職養成等の医療環境の整備(3-3-1) ▲推進:健康づくり支援センターにおける事業の効果に関する十分な検証(3-3-1) ▲口腔衛生分野の計画的な推進とマンパワーの確保(3-3-1) ▲市内唯一の産婦人科が閉院し、市内で産婦人科の医療を受けられない(3-3-1)⇒市内だけでなく君津保健所管内での医療体制の整備(3-3-1)② ◆健康づくりセンターの修繕も含めた運営方法の検討(3-3-1)③ ◆市民が主体的に健康づくりを実践するための支援体制構築(3-3-1)④	<b>→</b>		①在宅医療体制の充実 ②周辺自治体と連携した医療 体制の整備 ③既存施設を活用した健康づ くりの推進 ④市民の主体的な健康づくり の促進
· 福祉	その	他保健・寮・福祉	-	「国民健康保険」 事象[B] (満足度高・重要度高) 「介護保険」 事象[B] (満足度高・重要度高) 「低所得者福祉」 事象[C] (満足度低・重要度低) 「障がい者福祉」 事象[A]重点改善項目 (満足度低・重要度高)	■バリアフリー 車椅子や障がい者 が安心して出歩けると 考える市民の割合が 低い(いいえ:80.2%) (5)	_	◆ガウランドへの アクセス改善④	_	_	_	_	●保険運営の適正化の推進(3-2-1) ●学習支援事業の実施(3-2-2) ●障がい者への相談支援事業所の開設、社会参加の支援等(3-2-4) ▲ひとり親・低所得者に対する支援対象者への情報提供(3-2-2) ② ▲生活保護、生活困窮に関する相談に対応するための人材確保(3-2-2)③ ◆障がい者への相談支援体制の強化③ ◆健康づくり支援センターの維持管理・修繕も含めた運営方法の検討(3-3-1) ◆陸衛生分野の実施体制の強化(3-3-1)	_	○低所得者福祉 は市民満足度と の乖離が最も大 きい(▲0.68)	①医療・福祉人材の確保 ②市民への情報提供の充実 ③福祉相談体制の充実 → ④拠点間の二次交通の確保 (再掲) ⑤パリアフリー化の推進(再掲)

# 《4》 学校教育·生涯学習

				市民・市外住民の意識・意見			•	時代の潮流	データ分析	現行総合計画の評価・検証	職員	の意識・意見	
		「まちづくりアンケー からわかるこ		「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		フークショップ」 な内容	「市外WEBアン ケート調査」から わかること	「袖ケ浦市を取り巻く時 代の潮流」からいえるこ と		各課へのシート・ヒアリング調査からわかること		アンケートからわかること	
施策項目	ニーズ 度の	: : 設問·対応	ニーズ		第1回	第2回 第3回	市外住民のニーズ が高い項目		統計データ・県内他	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)	市民比較		これまでの調査で 把握できた事項
	経年 比較 (H26 年との 比較)		■普段の暮らしや感じ ていること ▼その他設問	●魅力 ▲課題 ◆提案	●魅力 ▲課題 ◆提案	各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し た項目	○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する	○外部環境の変化 による影響 ⇒求められる方向	制計)一分・宗内心 自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	◆今後の主な課題(積み残し、新規)	比較 (市民満 足度/職 員達成 度)	課題の提示	
学校教育	<b>*</b>	「幼児教育」 事象【B】 (満足度高·重要度高) 「義務教育」 事象【B】 (満足度高·重要度高) 「高等教育」 事象【D】 (満足度高·重要度低) 「青少居の・重要度低) 「青少居の・重要度低) 「青少居の・重要度低) 「青少居の・重要度低)	■青少年健全育成「地域のすり年が健やかに育りますがは、でしているとなれば、でも10~40歳代、昭和地区で高い ▼将本グくりやや離は、の数でも別の本さりは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	●他市に比べ教育環境が良い(長浦)  ▲子どもが減少し学校がなくなる懸念がある(平岡) ▲専門学校や大学があると良い(長浦) ◆PTAとの連携(平岡)② ◆専門学校や大学の誘致(長浦)	●学校と保護者、地域住民の連携が良い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・学校教育の元美 (1)③ ・施設の活用(教育 学習施設、図書館 など)④	する支援策として、 「教育環境(学校教育・塾等)の充実」	○情報端末の普及に対する学校現場での対応 の必要性、情報格差へ の対応 ⇒情報教育の充実	▲小学生児童あたり 教員数の少なさ	●市独自のカリキュラム作成による特色性・一貫性のある幼児教育を実施(4-1-1) ●幼稚園・保育所での相談体制整備(4-1-1) ●各小中学校への市単独の職員配置や体験活動の充実(生きる力を育む学校教育)(4-1-2) ●教職員研修の充実(4-1-2) ●教施設の耐震化を推進することにより、老朽化しつつある学校施設の再整備が進んだ(4-1-2) ●地区住民会議と青少年相談員の連携によるパトロール等の実施(4-1-3) ◆今井幼稚園と中川幼稚園を円滑に統合するための諸問題への対応(4-1-1) ◆字井幼稚園跡地の今後のあり方の検討(4-1-1) ◆平川地区における幼児教育と保育のあり方の検討(4-1-1) ◆平川地区における幼児教育と保育のあり方の検討(4-1-1) ◆主体的・対話的で深い学びの実現に向けたさらなる授業改善(4-1-2)① ◆特別な支援を要する児童生徒の増加に対応する職員体制の構築(4-1-2) ◆学校のトイレ改修や冷房設備の設置等、時代のニーズに対応した対策の検討(4-1-2)④ ◆ポランティア人材の確保(4-1-3)⑤	•	○市民満足度と の乖離が生じて いる(義務教育 ▲0.41、高等教育 ▲0.20)	①教職員の指導力向上と授 内容の充実 ②地域・家庭との連携強化 ⇒ 3相談体制の充実 ④学校施設の整備 ⑤ポランティア人材の確保
生涯学習・スポーツ	•	「生涯学習」 事象【D】 (満足度高・重要度低) 「文化・芸術」 事象【C】 (満足度低・重要度低) 「スポーツ・レクリエーション」 事象【D】 (満足度高・重要度低)	■年代に応じた学習機会や場がある(いいえ:54.0%) ■生涯学習「年代場があるりは「いいえ」が54.0%に上り、経年でも場があるりは「いいえ」が54.0%に上り、経年でも悪化している。 50歳、10・2高い ■芸術鑑賞機会は30歳代、20高い ■芸術鑑賞機会は30歳代、60歳、第一ツ・レクリエーションー、34、34、4、60歳で高い ■スポーツ・サークリエーションに、60歳代、地区でも60歳代、地区でも60歳代、地区が高い・1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	<ul><li>●地域の歴史、文化の存在(昭和)</li><li>▲文化・娯楽施設の不足(昭和)</li></ul>	●図書館が多い。 ●図書館が充実 ●公民代表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	・スポーツ施設の 活用① ・充実したコミュニ ティ・イベント	_	_	●図書館数の多さ	●青少年育成袖ケ浦市民会議と青少年相談員の活動支援(4-1-3) ●自然体験や社会体験などの事業の推進(4-1-3) ●施設の予約手続の効率化と利便性の向上(4-2-1) ●市内スポーツクラブの支援とスポーツ施設の改修工事(4-3-1) ◆地区住民会議や青少年相談員など、若い世代のボランティア 活動への参加促進(4-1-3)① ◆放課後子ども教室の運営人材確保(4-1-3)① ◆わんぱくクエストの安全な支援体制の検討(4-1-3) ◆地域の各種団体や関係機関と連携・協力(4-2-1) ◆公民館活動等の取組の見直し(4-2-1) ◆公民館活動等の取組の見直し(4-2-1)② ◆総合型地域スポーツクラブにおけるクラブ間連携の強化と更なるPR活動(4-3-1)② ◆幼稚園や保育園の年代からの児童の体力向上(4-3-1)② ●対野貝塚など新たな市指定文化財の指定(4-2-2)② ◆文化・芸術に市民が触れる機会の創出(4-2-2)⑤ ◆文化・芸術活動を担う人材の育成・支援(4-2-2)⑤ ◆重要な市内文化財の指定文化財の指定(4-2-2)⑤	•	〇生涯学習は市 民満足度との乖 離が4番目に大 きい(▲0.53)	①市民の多様なスキルを活した生涯学習の推進 ②公会議員、社会効活用 ②がランティア人材の確保 ④学校教育や地域活動との 携 ⑤郷土の歴史・伝統の継承 活用

# (5) 環境

					市民・市外住民の意識・意見				時代の潮流	データ分析	現行総合計画の評価・検証	職員	の意識・意見	
			「まちづくりアンケー からわかるこ		「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		<i>1ー</i> クショップ」 な内容	「市外WEBアン ケート調査」から わかること	「袖ケ浦市を取り巻く時代の潮流」からいえること		各課へのシート・ヒアリング調査からわかること	1010	アンケートから わかること	
} F	施策項目	ニーズ 度の	設問•対応	ニーズ		第1回	第2回 第3回	市外住民のニーズ が高い項目		統計データ・県内他	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)	市民比較		これまでの調査で 把握できた事項
		経年 比較 (H26 年との 比較)	満足度・重要度(平均値と の比較を事象A~Dで記 載。Aは重点改善項目) 【平均(3.223)・(4.218)】	■普段の暮らしや感じていること ▼その他設問	●魅力 ▲課題 ◆提案	●魅力 ▲課題 ◆提案	各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し た項目	○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する	○外部環境の変化 による影響 ⇒求められる方向	自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	● 達成できたこと  ▲ 達成できなかった事項  ◆今後の主な課題(積み残し、新規)	(市民満 足度/職 員達成 度)	課題の提示	
교육 노마진	環境保全·環境美化	-	「環境保全」 事象[A]重点改善項目 (満足度低・重要度高) 「環境美化」 事象[A]重点改善項目 (満足度低・重要度高)	地区などでやや低く なっている ▼参加したい地域活	●豊かな自然景観(中川・富岡、根形、平岡、長浦) ●住みやすい自然環境(昭和、長浦) ▲管理不全な森林(長浦) ▲公衆トイレの不足(長浦) ◆広域農道の美化(根形)③④ ◆山林の保護(昭和)	_	・自然の活用 ・ゴミ対策・環境保 全①②③④		○環境問題の深刻化に 伴う環境意識の高まり ⇒情報提供による啓発 ①、具体的な取組みへ の支援の拡充	_	●太陽光発電システム等再生可能エネルギーの利用促進(5-1-1) ●保存樹木・樹林の指定及び特定外来生物(アライグマ)の駆除 実施(5-1-1) ●市民や企業との連携による清掃活動の実施(5-1-1) ▲保存樹木、保存樹林の拡充が進んでいない(5-1-1) ▲公共施設への再生可能エネルギーは未導入(5-1-1) ◆公共施設での再生可能エネルギー利用の促進(5-1-1)② ◆大気環境監視の低コスト化(5-1-1) ◆市外からの来訪者に対する環境美化の啓発活動(5-1-1)③	1	○市民満足度と の乖離が生じて いる(環境保全 ▲0.26、環境美 化▲0.22)	①環境保全に関する啓乳の強化 ②再生可能エネルギー系 ③ 市民による環境美化活 促進 ④市外来訪者への環境が 啓発活動推進
	その他環境	-	「ごみ処理」 事象【B】 (満足度高・重要度高)	▼生活環境を守るために市に期待する取組み ポイ捨て、不法投棄 を防止する取組みを強化すべきが38.0%、廃棄物の減量、リサイク ルが33.1%、有害物質 の対策が33.1%となっている①	●ゴミ処理がしやすい(平岡)	●ゴミが出しやす い	_	_	_	●リサイクル率の高 さ	●ごみの減量化と適正処理(5-2-1) ●産業廃棄物の不法投棄や無許可埋立て等の抑止(5-2-1) ▲事業系ごみの排出削減が進展していない⇒事業者に対する排出指導や再資源化のPRの徹底(5-2-1)① ◆自治会資源回収事業と団体回収事業の在り方の検討(5-2-1)① ◆ごみ処理施設及び粗大ごみ処理施設の老朽化への対応(5-2-1)① ◆単独処理浄化槽設置者の合併処理浄化槽への転換推進(5-2-1)① ◆再生土等の埋立て等の規制検討(5-2-1)①	_	_	⇒ ①廃棄物の減量・リサイ オ害物質対策の推進

# (6) 産業振興

			表(分野別·各調査別結		市民・市外住民の意識・意見				時代の潮流	データ分析	現行総合計画の評価・検証	職員	の意識・意見	
			「まちづくりアンケー からわかるこ		「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		フークショップ 」 な内容	「市外WEBアン ケート調査」から わかること	「袖ケ浦市を取り巻く時 代の潮流」からいえるこ と		各課へのシート・ヒアリング調査からわかること		アンケートからわかること	
施多	策項目	ニーズ 度の	設問•対応	ニーズ		第1回	第2回 第3回	市外住民のニーズ -が高い項目		統計データ・県内他	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)	市民比較		これまでの調査で 把握できた事項
		経年 比較 (H26 年との 比較)	満足度・重要度(平均値との比較を事象A~Dで記載。Aは重点改善項目) 【平均(3.223)・(4.218)】	■普段の暮らしや感じ ていること ▼その他設問	●魅力 ▲課題 ◆提案	●魅力 ▲課題 ◆提案	各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し た項目	○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する	<ul><li>○外部環境の変化 による影響</li><li>⇒求められる方向</li></ul>	自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	●達成できたこと ▲達成できなかった事項 ◆今後の主な課題(積み残し、新規)	(市民満足度/職員達成度)	課題の提示	
A	農業	r	「農業」 事象[D] (満足度高・重要度低)	42.8%と取も高く、駅を拠点とした商業集積の形成が40.9%、ついるで、際海コンビナート	### ### ### ### ### ### ### ##########	●展歯座物の販売 ルートが充実して いる	・商業や観光との 連携(農家レストラン、市内の上で地食店で地元食 材使用・販売)②	_	○安全·安心志向の高まり(食の安全·安心確保) ⇒地産地消の推進、食育の充実⑤	進んでいる) ●経営耕地面積が	●地域の農地保全活動に対する支援(6-1-1) ●圃場整備と農地の集積・集約化、認定農業者等への農地集積(6-1-1) ●人・農地プランの作成支援や農業経営体の法人化の支援(6-1-1) ●農村公園での農業体験事業や農畜産物直売所の整備(6-1-1)  ▲松川地区の水洗化率が目標未達(6-1-1)① ◆6次産業化の推進 ◆「人・農地プラン」の作成支援(6-1-1)① ◆「農家レストラン」の整備支援(6-1-1)③ ◆収穫体験が可能な農園の整備支援(6-1-1)②③	•	○市民満足度と の乖離が生じて いる(▲0.13)	①担い手確保と農地利売の取4年(人・農地プラ 作成・推進等) ②農畜産物のブランド化 産業化・異業種連携の指 ③農家と都市住民との交進 ④有害鳥獣対策の推進 ⑤食育、地産地消の推進
Ħ	商業	•	「商業」 事象【C】 (満足度低・重要度低)	42.8%と最も高く、駅を 拠点とした商業集積の 形成が40.9%、つい	和、長浦)①② ◆買い物難民対策(中川・富岡)①② ◆商業環境の改善[宅配、増床など]	▲長浦駅前にコン ビニがない②③ ▲若者が集まる場 所が少ない②③	t t ・買い物環境の向事業 の強化、大型店業の強度の 地元商店の連携の誘致)①②③ ●市内施設の充実 (民間カフェや駅の オープンルーム等)	<del></del>	_		●商工会や各地区商店会が実施する市民交流イベント等の支援 ▲大型店やコンビニの台頭により地元商店の経営環境が悪化 (6-2-1)④ ▲地元商店の後継者問題が顕著(6-2-1)④	→	〇商業の対応 ニーズが最も高 い(達成度が最も 低い)	①買い物弱者対策 ②民間事業者との連携仮 ③駅周辺への商業集積 ④地元商店街の活性化3
=	工業	Ŷ	「工業」 事象【D】 (満足度高・重要度低)	▼産業発展の方向性 (産業全体に関する設 問) 多様な産業分野の 連携・交流促進が 42.8%と最も高く、駅を 拠点とした商業集積の 形成が40.9%、つい で、臨海コンビナート の持続的発展が30% となっている①②	◆先端企業、新産業の誘致(昭和)② ◆女性就業者の増加(昭和)	●工業地帯がある ●椎の森工業団地への企業進出 ●大企業が多い		_	○企業活動のグローバ ル化(新興国企業の台 頭による競争激化) ⇒地元企業の支援①	の多さ ●第2次産業就業者	●京葉臨海コンビナートの競争力強化を推進(設備投資助成や規制緩和要望、工業用水料金引き下げ要望活動等) ●椎の森工業団地の整備による新たな雇用の場の創出 ◆設備老朽化や需要滅少に直面する臨海コンビナート地区の計画的な設備投資に対する支援体制の確立(6-2-1)① ◆産業構造の変化に伴う成長分野への誘導(6-2-1)②	•	○工業は市民満 足度との乖離が 3番目に大きい (▲0.56)	→ ①企業設備投資促進 ②企業誘致の推進

					市民・市外住民の意識・意見				時代の潮流	データ分析	現行総合計画の評価・検証	職員	の意識・意見	
			「まちづくりアンケー からわかるこ		「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		7ークショップ」 な内容	「市外WEBアン ケート調査」から わかること	「袖ケ浦市を取り巻く時 代の潮流」からいえるこ と		各課へのシート・ヒアリング調査からわかること		アンケートから わかること	
分野	施策項目	ニーズ度の	設問·対応	ニーズ		第1回	第2回 第3回	市外住民のニーズ・が高い項目		統計データ・県内他	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)	市民比較		これまでの調査で 把握できた事項
		経年 比較 (H26 年との 比較)	満足度・重要度(平均値と の比較を事象A~Dで記 載。Aは重点改善項目) 【平均(3.223)・(4.218)】	■普段の暮らしや感じ ていること ▼その他設問	●魅力 ▲課題 ◆提案	●魅力 ▲課題 ◆提案	各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し た項目	○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する	○外部環境の変化 による影響 ⇒求められる方向	自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	●達成できたこと  ▲達成できなかった事項  ◆今後の主な課題(積み残し、新規)	(市民満 足度/職 員達成 度)	課題の提示	
産業振興	観光	⇒	「観光」 事象【C】 (満足度低·重要度低)	問) 多様な産業分野の 連携・交流促進が	●袖ケ浦公園は観光客が来る(根形) ●東京ドイツ村の集客力、イルミネーションがある(平岡) ●氣志團万博など、若者を呼び込むイベントがある(昭和) ●東京ドイツ村がある(長浦) ◆自然を活かした周遊ルートの確立(根形、平岡) ◆人が集まれるレジャー施設の整備(根形) ●東京ドイツ村との連携強化(平岡)(2) ●貸農園による観光振興(平岡)③	椎の森、コルフストーはルーストーはルース・イ・美オールース・イ・美オールース・イ・美オールース・イ・大・アース・イ・大・アース・イ・大・アース・イ・大・アース・イ・大・アース・イ・アース	アクセス向上 ●イベントの充実 ・市外からの観光 客への対応(民高速 バス降り場の近く のカーシェアリング 施設や駐車場、 ・PR強化④	■本市への訪問問題 「おいった」では、「は、「は、」が、「は、「は、「は、」が、「は、」が、「は、」、「は、」、「	_	●東京ドイツ村の集客力の高さ ▲東京ドイツ村以外の観光資の知名 使の低さ ▲家族連れやグルウ ルつさ	の観光情報寺) (6-3-1)   ● 近咪市上市堆  た細光DD (6-2-1)	<b>→</b>	_	①新たな観光資源の発掘や既存観光資源のブラッシュアップ②広域連携による回遊性の向上や民間事業者との連携強化③農業など他産業との連携強化。(4) SNSなどでの市民による情報発信。(5) 観光面での国際対応力の強化
	労働(雇用)	Ŷ	「労働(雇用)」 事象【A】 <mark>重点改善項目</mark> (満足度低・重要度高)	_	▲地元に若い人の働き口が必要(中川・富岡)①③ ▲高齢者が働ける場所が必要(中川・富岡)①② ▲働き口が少なく若い人が流出(根形)①③ ◆福祉施設や働く場所の確保(中川・富岡)①②③ ◆働き口の確保(根形)①③ ◆労働環境の整備(根形) ◆子どもや若い人が近くに住めるような就業環境(平岡)①②③ ◆転出した人達が戻ってこられる「しごと」づくり(長浦)①②③	▲地元求人が少ない3 ▲老人や主婦の再雇用先になるような事業所が必要②	_	_	○生産年齢人口の減少 による労働供給力の低 下懸念 ⇒女性や高齢者など の雇用機会確保の必要 性②	●就業者率の高さ	●ハローワークや他自治体、民間企業等と連携した就労支援(6-4-1) ● 高齢者及び障がい者の雇用機会の確保(事業主への働きかけ)(6-4-1) ▲地元雇用に対する奨励金が活用されておらず、地元雇用が進まない(6-2-1)③ ◆子育て支援や介護支援等、仕事と生活の調和を行うための一体的な支援(6-4-1) ◆臨海部をはじめとする市内立地企業の人材確保支援(6-4-1) ③	1	○労働の対応 ニーズは5番目 に高い ○市民満足度と の乖離が生じて いる(▲0.40)	①企業誘致による雇用の場の 確保 ②女性や高齢者を含めた就業 機会の創出支援 ③地元企業とのマッチング事業
	その他 産業振興	-	_	_	_	_	_	_	_		●中小企業への融資制度斡旋(6-2-1) ●創業支援策の充実により新規創業者の増加(6-2-1) ▲中小企業支援策の推進では、支援策が融資制度のみ(6-2-1)	_	_	<ul><li>①市内中小企業者が必要とする支援策の検討・強化</li></ul>

### (7) 都市形成・都市基盤

>袖ケ 	浦市基礎調	<b>配総括</b> ₹	長(分野別・各調査別結	<b>「果概要</b> )	市民・市外住民の意識・意見				時代の潮流	データ分析	現行総合計画の評価・検証	職員	の意識・意見	
			「まちづくりアンケー からわかるこ		「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		フークショップ」 な内容	「市外WEBアン ケート調査」から わかること	「袖ケ浦市を取り巻く時代の潮流」からいえること	「産業動向・社会指	各課へのシート・ヒアリング調査からわかること	職員	アンケートからわかること	
分野	施策項目	ニーズ度の	設問·対応	5ニーズ		第1回	第2回 第3回	市外住民のニーズ		統計データ・県内他	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)	市民比較		これまでの調査で 把握できた事項
		経年 比較 (H26 年との 比較)	満足度・重要度(平均値との比較を事象A~Dで記載。Aは重点改善項目) 【平均(3.223)・(4.218)】	■普段の暮らしや感じ ていること ▼その他設問	●魅力 ▲課題 ◆提案	●魅力 ▲課題 ◆提案	各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し た項目	○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する 項目	○外部環境の変化 による影響 ⇒求められる方向	自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	●達成できたこと ▲達成できなかった事項 ◆今後の主な課題(積み残し、新規)	(市民満足度/職員達成度)	課題の提示	
	市街地整備	1	「市街地整備」 事象【A】 <mark>重点改善項目</mark> (満足度低・重要度高)	▼市の土地利用方針について 生活道路などの整備 を進めることが最も市機 能集積が2番目に高 い① ▼将来都市像について 「街並みの美しいま ち」は5番目	▲駅前が寂しい(昭和)① ▲未利用地がある(昭和)② ▲旧市街地の整備(昭和)② ▲駅周辺に駐車場が少なく使い勝手が悪い(長浦)① ▲長浦駅前渋滞の常態化(長浦)② ◆駅周辺の商業施設、保育施設の整備(根形)① ◆駅北口の開発、商業施設の早期誘致に昭和)① ◆各地区の位置づけ、役割の明確化(昭和)①③ ◆駅を中心としたまちづくり(長浦)① ◆小規模開発の抑制(団を地整備(中川・富岡)③④ ◆未利用地を活用した住宅地整備(中川・富岡)③④	●駅が利用しやすくなった。●駅の開発が進んでいいがきれい。●破景がきれい。●な景間辺に店店が少ない① ▲住宅のミニ開発による維持コストの増大・金川・東大・のバランスをとる。	商業環境の整備 (商業利便性の向 上、商業施設の誘致)、市街地の集 約①			数の多さ(旺盛な住 宅需要) ▲急速な宅地開発・	●袖ケ浦駅海側土地区画整理事業等による都市基盤整備(7-1-	1	○市民満足度と の乖離が生じて いる(▲0.30)	①駅周辺への都市機能集積 ②生活道路の整備 (歩道・狭隘道路整備、渋滞 級の低未利用地の利活用 ④都市計画に基づく適正な宅 地開発
都市形成・都市基盤	公園・緑地	Ŷ	「公園・緑地」 事象[D] (満足度高・重要度低)	■公園について 公園がきちんと管理されているは65.0%で 経年で改善しているが。平岡地区、昭和地区で公園がきちんと管理されていると感じる割合が低い①	▲ 本の周整体による流流は十(平層)	●公園が多い ●公園が整備されている ▲車で行ける公園が少ない	. 公園の利活用(海 浜公園の活用、イ ベントの開催)②	_	I	<ul><li>●都市公園数の多</li><li>さ</li></ul>	●公園のパリアフリー化やユニバーサルデザインによる整備(7-1-2) ●樹木や遊具等の適正な維持管理(7-1-2) ●公園・緑地・道路等の緑化による良好な都市景観の保全(77-1-2) ▲公園のパリアフリー化が遅れている(7-1-2)① ◆予算の平準化を踏まえた公園設備の改修・更新計画の立案(7-1-2)①	•	○市民満足度と の乖離が生じて いる(▲0.33)	①計画的な公園設備の改修・ 更新及びパリアフリー化 ②公園・緑地を活用した交流 人口確保(観光分野との連携 等)
	道路網	÷	「道路網」 事象【A <mark>】重点改善項目</mark> (満足度低・重要度高)	平岡地区で低くなっている ■道路整備について道路が整備されていると思う5.8%で終年では悪化。中川・富岡、平岡、根形地区で道路が整備されている道路が整備されている	▲東京ドイツ村の渋滞(中川・富岡)② ▲道が狭い(根形、昭和、長浦)② ▲林道整備(平岡)③ ▲バリアフリー化(昭和、長浦)② ▲内陸部と臨海部の接続が悪い(長浦)③ ▲道路管理が不十分(長浦)② ◆歩道整備(根形、平岡、昭和、長	ている ▲歩道整備② ▲通学路が狭い② ▲ドイツ村の渋滞	道路整備の充実 (旧道の整備、歩 道の整備、カーブミ ラーの設置)②③		_		●高須箕和田線整備事業(JRアンダーパス)の推進(7-2-1) ●計画的な道路整備と道路橋の定期点検を実施(7-2-1) ●あんしん歩行エリア内(袖ケ浦駅周辺・長浦駅周辺)の事故対策及び歩道整備の推進(7-2-1) ●パリアフリー化の推進(7-2-1) ◆一部の道路整備で当初完成に遅れが生じた(7-2-1) ◆国の交付金の方針(維持管理や防災安全へのシフト)を踏まえた整備手法を再検討(7-2-1)③ ◆かずさインターチェンジや東京湾岸道路等の整備促進(7-2-1)		○道路網は市民 満足度との乖離 が2番目に大きい (▲0.57)	①かずさインターチェンジや東京湾岸道路等の整備促進②生活道路の整備【再掲】  ⇒ (歩道・狭隘道路整備、渋滞緩和、パリアフリー) ③必要性の高い道路の重点的・効率的な整備

Г						市民・市外住民の意識・意見				時代の潮流	データ分析	現行総合計画の評価・検証	職員	の意識・意見	
				「まちづくりアンケー  からわかること		「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		ークショップ」 な内容	「市外WEBアン ケート調査」から わかること	「袖ケ浦市を取り巻く時 代の潮流」からいえるこ と		各課へのシート・ヒアリング調査からわかること		アンケートからっかること	
分里	施策項	頁目	ニーズ 度の	設問•対応-	ニーズ		第1回	第2回 第3回	市外住民のニーズ が高い項目		統計データ・県内他	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)	市民比較		これまでの調査で 把握できた事項
			経年 比較 (H26 年との 比較)		<ul><li>■普段の暮らしや感じていること</li><li>▼その他設問</li></ul>	●魅力 ▲課題 ◆提案	●魅力 ▲課題 ◆提案	各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し た項目	○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する 項目	<ul><li>○外部環境の変化 による影響</li><li>⇒求められる方向</li></ul>	自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	●達成できたこと	(市民満足度/職員達成度)	課題の提示	
者市形成・	ī Š	k道		「上水道」 事象【B】 (満足度高·重要度高) 「公共下水道等」 事象【B】 (満足度高·重要度高)				_	_	_	_	●上水道における設備の適正な維持管理や水質検査等の徹底 (7-3-1) ●上水道における君津地域の水道事業統合・広域化(7-3-1) ●下水道における管渠の耐震化や水洗化率の向上(7-3-2) ▲下水道普及率が目標未達(7-3-2) ◆上水道における耐震性の低いダクタイル鋳鉄管の耐震化(7-3-1)① ◆上水道における広域化後の適正な料金設定と経営基盤強化(7-3-1)② ◆下水道における広域化後の適正な料金設定と経営基盤強化(7-3-1)② ◆下水道における既存公共下水道施設の老朽化対策(7-3-2)① ◆下水道における将来的な使用料収入の減少を踏まえた経営状況の把握と定期的な料金検討(7-3-2)②	1	○市民満足度と の乖離が生じて いる(上水道▲ 0.17、公共下水 道等▲0.16)	①上下水道サービスの安定供 齢の継続 ②上下水道事業の健全経営
者市基盤	ī	<b>E</b>	<b>\$</b>	「住宅」 事象[B】 (満足度高・重要度高)	_		●地価が安い ▲空き家が多い②	_		○人口減少に伴う空き 家等の増加懸念 ⇒マッチングの推進②		●市営住宅での高齢者等に配慮した風呂の段差解消(7-3-3) ●住宅取得奨励金の交付による定住化促進(7-3-3) ▲木造住宅の耐震化及び試遊建築物の耐震化の目標が未達	•	○市民満足度と の乖離が生じて いる(▲0.16)	①木造住宅の耐震化の推進 ②空き家の適切な維持管理・ ⇒ 活用促進 ③市営住宅の適切な維持管理 と長寿命化
	その他都成・都市		,	_	_	◆各地区の位置づけ・役割の明確化 (昭和)①	●ライフラインがよ 〈整備されている	_	_	_	_	_	_	_	①都市基盤形成における各地 域の位置づけ・方向性の明確 化

# (8) 行財政・その他

<u>◇袖ク</u>	浦市書	<b>基礎調査</b>	総括	長(分野別・各調査別結	果概要)										
						市民・市外住民の意識・意見			「市外WEBアン	時代の潮流 「袖ケ浦市を取り巻く時	データ分析	現行総合計画の評価・検証		の意識・意見	
				「まちづくりアンケー からわかるこ		「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		ノークショップ」 な内容 -		代の潮流」からいえること		各課へのシート・ヒアリング調査からわかること	10.00	アンケートからわかること	
分野	施策	<b>東項目</b>	ニーズ度の	設問·対応	ニーズ	<b>₽</b> mt ↓	第1回	第2回 第3回	市外住民のニーズ・が高い項目		統計データ・県内他	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)	市民比較		これまでの調査で 把握できた事項
			経年 比較 (H26 年との 比較)	満足度・重要度(平均値との比較を事象A〜Dで記載。Aは重点改善項目) 【平均(3.223)・(4.218)】	■普段の暮らしや感じ ていること ▼その他設問	●魅力 ▲課題 ◆提案	●魅力 ▲課題 ◆提案	各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し た項目	○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する 項目	○外部環境の変化 による影響 ⇒求められる方向	自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	<ul><li>●達成できたこと</li><li>▲達成できなかった事項</li><li>◆今後の主な課題(積み残し、新規)</li></ul>	(市民満足度/職員達成度)	課題の提示	
	財政	文運営	î	「財政」 事象[B] (満足度高·重要度高)	_	_	●税収が多く、財 政が健全である ●千葉県の中でも お金持ちである	_	_	に伴う担税力の低下懸念 ⇒歳入増・歳出減の取組み強化、公共施設の適正配置・管理による	・公債費比率、将来負担比率の良好さ ●一人当たり地方 税、同市町村民税法	◆社会保障関係経費及び公共施設の老朽化等に伴う維持補修 費の増加などによる経常収支比率の上昇し、財政が硬直化する	'	○財政の対応 ニーズは4番目 に高い(重要度 が3番目)	①人口減少に伴う担税力の低下に即した適正な財政運営 (不要不急の事業見直し・公共施設の適正配置) ②歳入における新たな財源検討
行	行政	<b>文運営</b>	Ŷ	「行政」 事象【A】 <mark>重点改善項目</mark> (満足度低・重要度高) 「情報公開」 事象【C】 (満足度低・重要度低)	由として、個人の意見 の反映されにくい、市	●広く開かれた行政で住みやすい ▲現状評価と行政としての方向性の 明示が必要(昭和)④ ◆地域からのニーズの汲み上げ(長 浦)①	●話し合いの場が 設けられていて、 考えを言うことができる ▲新たな事業の取 組みが必要 ▲ 投票率が低い ▲ 市民が億から脱し きれていない	_	_	○情報化に伴う行政 サービスへの迅速化・ 高度化ニーズの高まり ①② ⇒行政サービスの情報 化への対応 ○地方創生・地方分権 による自治体の経営責 任の増大 ⇒地域資源・特性を生 かした「選ばれるまちづ くり」の推進④	_	●行政評価や行政改革への取組み(8-2-1) ●公共施設の再編整備や施設管理の向上を目的とした指定管理者制度の活用等(8-2-1) ●職員の能力向上やスリムで効率的な執行体制の実現に向けた取組み(8-2-1) ●市政に関する各種情報発信(8-2-1) ◆職員の心身の健康を保つための充実した安全衛生やワークライフバランスを意識した職場環境の整備等(8-2-1) ◆行政改革の手法や取組内容の見直し(8-2-1)④ ◆ICTや民間委託等の効率的な活用など、積極的な業務改革の推進(8-2-1)③⑤		○市民満足度と の乖離が生じて いる(▲0.11)	①市民ニーズを反映した政策 立案・運営・見直し ②新庁舎建設を契機とした住 民サービスの向上 ③民間事業者、NPO等との連 携強化 ④行政評価・行政改革・業務効 率化の推進 ⑤ICTの更なる活用
財政		ティ ーション	-	「シティプロモーション」 事象【C】 (満足度低・重要度低)	_	◆袖ケ浦市の魅力創出、知名度向上 (平岡、昭和)①	▲「袖ケ浦市とい えば」というものが 思いつかない①②		■本市の認知度は 「周辺3市」で約8 割、「千葉県」で3 割強、「東京都・神奈川県・埼玉小② 「は2割前後①② ■観光資源ドイブ県の認知度は「東京ド茉葉 外では概ね1場、 外では概ね1場未満と低位①②	_	_	◆観光や定住促進などの施策との連動した横断的なシティプロモーションの推進(8-2-1)②	1	○市民満足度と の乖離が生じて いる(▲0.29)	①地域資源の魅力発信の強化 ②観光、移住・定住など目的に 応じた横断的なシティプロモー ションの推進
	広場	<b>支連携</b>	-	「広域連携」 事象【C】 (満足度低・重要度低)	_	◆君津4市など広域的な視点による 計画立案・推進(中川・富岡)①	_	_	_	_	_	_	<b>⇒</b>	_	①他自治体との広域的な視点 による政策推進
	その他	也行財政	_	_	▼市政情報の取得方 法は年齢で異なる	_	◆Wi-Fiを充実させるべき ◆市民会館のレストランスペースを有効活用すべき ◆袖ケ浦港を開発すべき	_	_	_	_	_	_	_	⇒

					 市民・市外住民の意識・意見				時代の潮流	データ分析	現行総合計画の評価・検証	職員	の意識・意見	
			「まちづくりアンケー からわかるこ		「地域のまちづくり懇談会」で 集約された意見の主な内容		ークショップ」 な内容	「市外WEBアン ケート調査」から わかること	「袖ケ浦市を取り巻く時代の潮流」からいえること	「産業動向・社会指	各課へのシート・ヒアリング調査からわかること	職員フ	アンケートから っかること	
分野	施策項目	ニーズ度の	設問·対応	ニーズ		第1回	第2回 第3回	市外住民のニーズ が高い項目		統計データ・県内他	各分野の主な達成できたこと・課題(章・節番号)	市民比較		これまでの調査で 把握できた事項
		経年 比較 (H26 年との 比較)	満足度・重要度(平均値と の比較を事象A~Dで記載。Aは重点改善項目) 【平均(3.223)・(4.218)】	■普段の暮らしや感じ ていること ▼その他設問	●魅力 ▲課題 ◆提案	●魅力 ▲課題 ◆提案	各施策の方向性 ●は第3回で具体 的な手法を検討し た項目	○移住・定住 に関する項目 ■観光に関する		自治体との比較 ●強み ▲弱み・課題	●達成できたこと  ▲達成できなかった事項  ◆今後の主な課題(積み残し、新規)	(市民満足度/職員達成度)	課題の提示	
その他	全体に 関わる事項	-	_	_	▲地区内でも人口増加と少于高齢化の差がある(昭和)① ▲市街地に若い人が出ていく(中川・	●人口が増えている ●人口に対して公 共施設が多い ▲若い人が少ない	_	_	_	_	_	_	_	①少子高齢化への対応(移住・ 定住促進、若者の流出防止) ②市の銀状と将来を踏まえた 持続的かつ魅力的なまちづくり の推進

### 基礎調査報告書

平成30年5月

袖ケ浦市

発 行 袖ケ浦市企画財政部企画課

住 所 袖ケ浦市坂戸市場1番地1

電 話 0438-62-2327